

次期大津市子ども・若者支援計画
策定のためのアンケート調査
結果報告書

令和6年3月
大 津 市

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 配布・回収結果	1
4. 回答者と母集団の年齢	2
5. 報告書の見方	3
II 調査結果①《子ども・子育て支援ニーズ》	4
1. 子どもと世帯の状況について	4
2. 子どものふだんの様子について	17
3. 子育てに対する考え方や悩みなどについて	28
4. 子どもの定期的な教育・保育事業の利用について	47
5. 子どもの土曜等や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用について	65
6. 子どもの病気等の際の対応について	68
7. 子どもの不定期な教育・保育事業や一時預かり等の利用について	72
8. 子どもの放課後等の預かり事業の利用について	77
9. 地域における子育て支援について	88
III 調査結果②《若者の生活実態や考え・支援のニーズ》	94
1. 自身と家族のことについて	94
2. ふだんの生活について	97
3. これまでの経験や考え方について	108
4. 就労について	121
5. 家族や周囲との関わりについて	128
6. 困難に直面した経験と支援について	135
IV 調査結果③《子ども・若者の意見表明》	142
1. 子どもの意見を尊重することについて	142
2. 若者の意見反映・社会参加について	145
V 調査結果④《子どもを産み育てる環境》	153
1. 育児休業や短時間勤務制度等、職場の両立支援制度について	153
2. 子どもを持つことについて	165
3. 大津市の子ども・若者支援施策の満足度と重要度について	169
VI 調査結果⑤《自由記載》	181
1. 未就学児童保護者用調査	181
2. 小学生児童保護者用調査	184
3. 若者用調査	187
VII 調査結果のまとめと考察	189
1. 共働き家庭の更なる増加を踏まえた仕事と子育ての両立支援ニーズ	189
2. 子どもを産み育てることに対する支援ニーズ	190
3. 就学前教育・保育施設利用の潜在的なニーズ	190
4. 地域における子育て支援サービスのニーズ	191
5. 相談窓口や情報提供のニーズ	191
6. ひきこもりなどの困難な経験を乗り越えるための支援ニーズ	192
7. 「こどもまんなか社会」実現に向けた子ども・若者の意見反映ニーズ	193
資料編	194
1. 調査票	194
2. 用語集	220

I 調査の概要

1. 調査の目的

本市における子育て支援の充実及び子ども・若者の健全育成や社会的自立を支援するための具体的な計画である「大津市子ども・若者支援計画」の次期計画（令和7年度から令和11年度まで）の策定にあたり、子育て世帯や子ども・若者の生活実態、支援事業に関するニーズ等を把握することを目的に実施した。

なお、未就学児童保護者用調査、小学生児童保護者用調査の結果は、子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）に基づく教育・保育の提供体制及び地域子育て支援事業の「量の見込み」（需要量）の算出及びその確保方策（供給量）の検討に活用する。

2. 調査概要

	未就学児童保護者用調査	小学生児童保護者用調査	若者用調査
調査地域	大津市全域		
調査対象	市内在住の未就学児童（0～5歳）の保護者	市内在住の小学校低学年（6～8歳）の保護者	市内在住の15～39歳の市民
抽出数	5,000人	3,000人	2,000人
抽出方法	住民基本台帳（令和5年4月1日時点）から無作為抽出		
調査方法	郵送配布－郵送・WEB（併用）回収		
調査期間	令和5年11月20日（月）～令和5年12月15日（金） （調査期間内にお礼状兼督促状を1回送付）		

3. 配布・回収結果

単位：件

単位：人

	配布数	不達数	有 効 配布数	有効回収数		有 効 回収率	
				郵送回答	WEB 回答		
未就学児童 保護者	5,000	10	4,990	2,539	1,376	1,163	50.9%
小学生児童 保護者	3,000	3	2,997	1,610	839	771	53.7%
若者	2,000	16	1,984	508	247	261	25.6%

※集計については、「有効回収数」分を反映。調査期間以降に返信いただいた調査票については、自由回答設問のみに反映。

4. 回答者と母集団の年齢

	年齢	母集団（住民基本台帳） 令和5年4月1日時点の年齢		本調査 令和5年4月1日時点の年齢	
未就学児童 保護者用調査	0歳児	2,383人	14.9%	429人	16.9%
	1歳児	2,526人	15.8%	427人	16.8%
	2歳児	2,546人	15.9%	388人	15.3%
	3歳児	2,708人	16.9%	395人	15.6%
	4歳児	2,935人	18.3%	457人	18.0%
	5歳児	2,923人	18.2%	372人	14.7%
	不明・無回答	—	—	71人	2.8%
	合計	16,021人	100.0%	2,539人	100.0%
小学生児童 保護者用調査	1年生	3,081人	32.7%	522人	32.4%
	2年生	3,197人	34.0%	562人	34.9%
	3年生	3,135人	33.3%	513人	31.9%
	不明・無回答	—	—	13人	0.8%
	合計	9,413人	100.0%	1,610人	100.0%
若者用調査	15～19歳	16,824人	19.5%	78人	15.4%
	20～24歳	16,925人	19.7%	68人	13.4%
	25～29歳	15,701人	18.2%	66人	13.0%
	30～34歳	17,120人	19.9%	116人	22.8%
	35～39歳	19,507人	22.7%	178人	35.0%
	不明・無回答	—	—	2人	0.4%
	合計	86,077人	100.0%	508人	100.0%

5. 報告書の見方

- グラフおよび表のn数（number of case）、「回答者数」は、有効標本数（集計対象者総数）を表す。
- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してある。
- 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出している。このため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。
- 年齢別、学年別、家庭類型別等のクロス集計表については、無回答やその他を除いて、1番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。なお、割合が同じ回答が複数ある場合は、3項目以上に網掛けをしている場合がある。
- 「前回調査」は「次期大津市子ども・子育て支援事業計画 第2次大津市次世代育成支援行動計画 大津市子ども・若者プラン策定のためのアンケート調査結果報告書」（平成31年3月）、「前々回調査」は「大津市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査報告書」（平成26年3月）を資料としている。
- 居住区域別集計では、「大津市子ども・若者支援計画」において、子ども・子育て支援法第61条に基づき、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件や施設の整備状況等を勘案して教育・保育提供区域を定めていることから、本報告書では居住学区（小学校区）を同計画で設定している教育・保育提供区域で整理して分析を行っている。

《教育・保育提供区域》

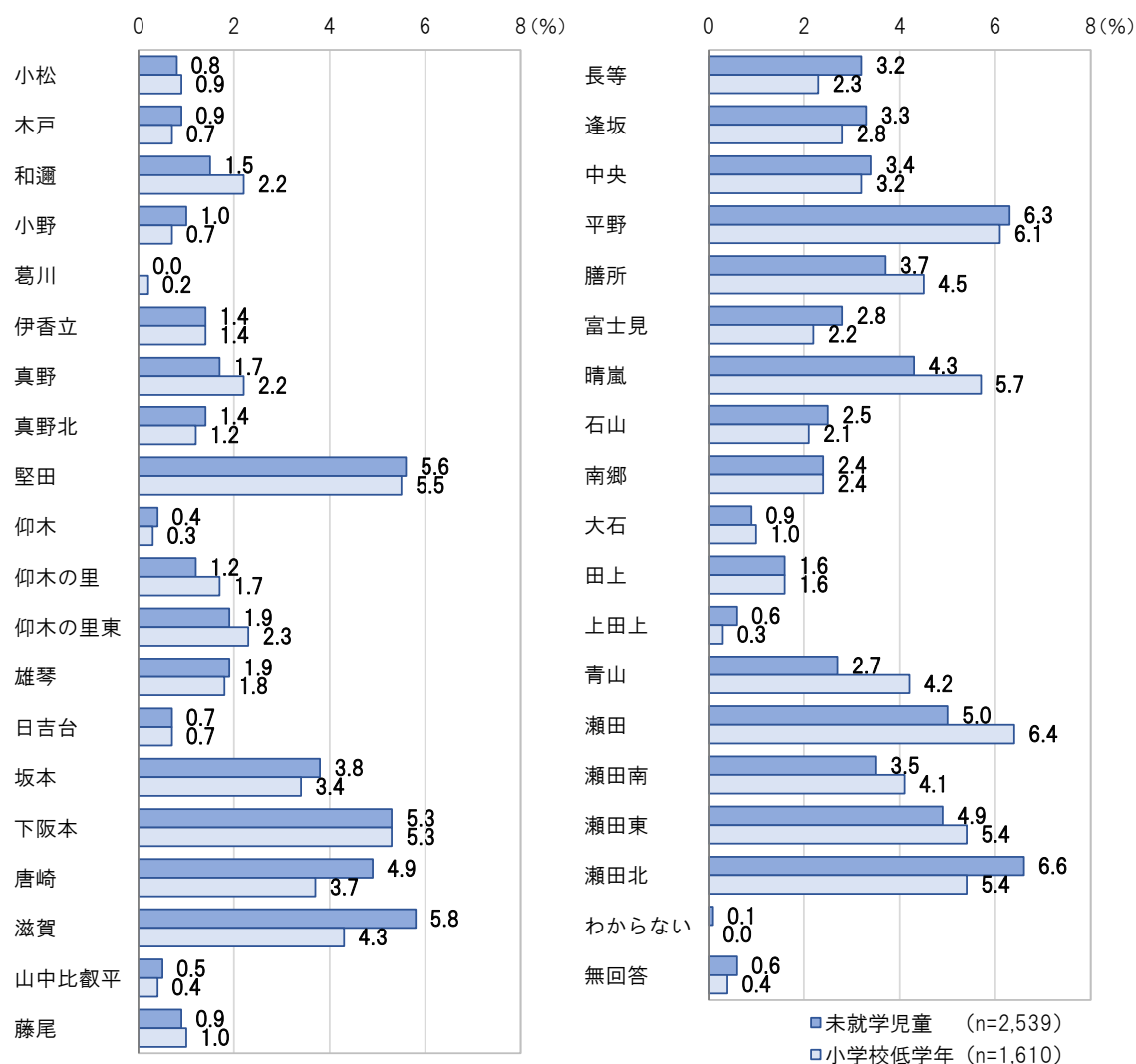
区域名	該当小学校区
志 賀	小松・木戸・和邇・小野
北 部	葛川・伊香立・真野・真野北・堅田・仰木・仰木の里・仰木の里東
中北部	雄琴・日吉台・坂本・下阪本・唐崎
中 部	滋賀・山中比叡平・藤尾・長等・逢坂・中央
中南部	平野・膳所・晴嵐・富士見
南 部	石山・南郷・大石・田上
東 部	上田上・青山・瀬田・瀬田南・瀬田東・瀬田北

Ⅱ 調査結果①《子ども・子育て支援ニーズ》

1. 子どもと世帯の状況について

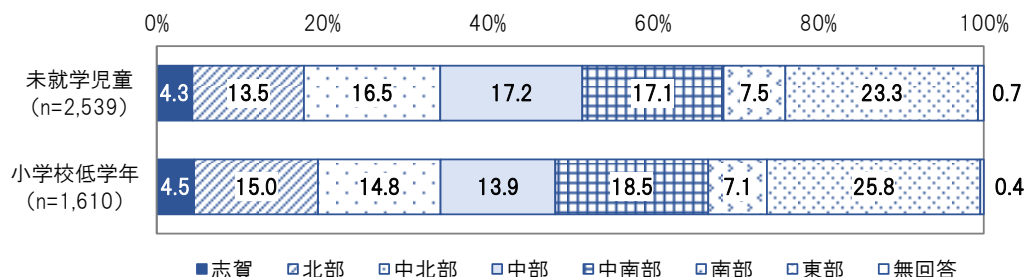
(1) 居住学区（小学校区）【未就学・小学生／問1 単数回答】

○居住学区についてみると、「瀬田北」が未就学児童で6.6%、「瀬田」が小学校低学年で6.4%と最も高くなっている。



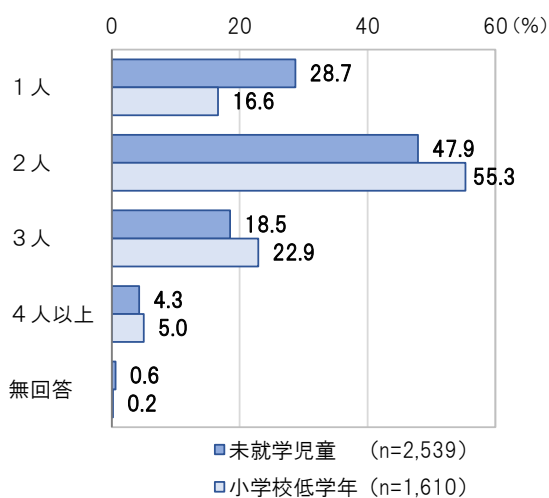
《居住区域（教育・保育提供区域）集計》

○居住区域をみると、「東部」が未就学児童で23.3%、小学校低学年で25.8%と最も高く、次いで、未就学児童で「中部」が17.2%、小学校低学年で「中南部」が18.5%となっている。



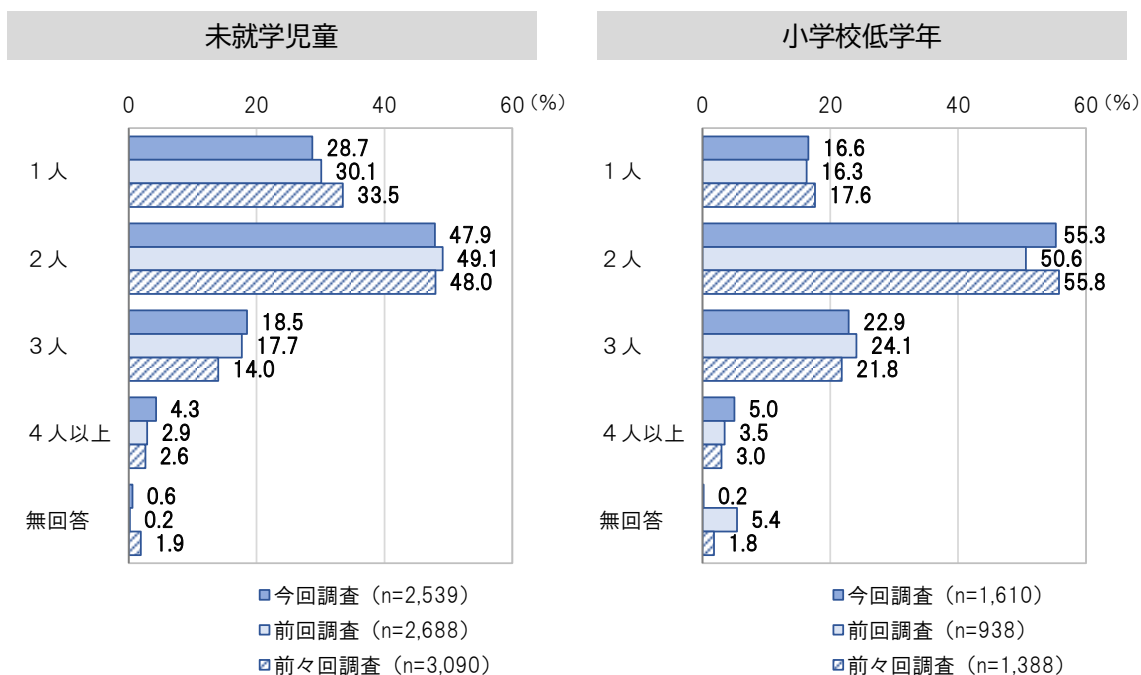
(2) きょうだいの人数【未就学・小学生／問2① 数量回答】

○きょうだいの人数は、「2人」が未就学児童で47.9%、小学校低学年で55.3%と最も高く、次いで、未就学児童で「1人」が28.7%、小学校低学年で「3人」が22.9%となっている。



《経年比較》

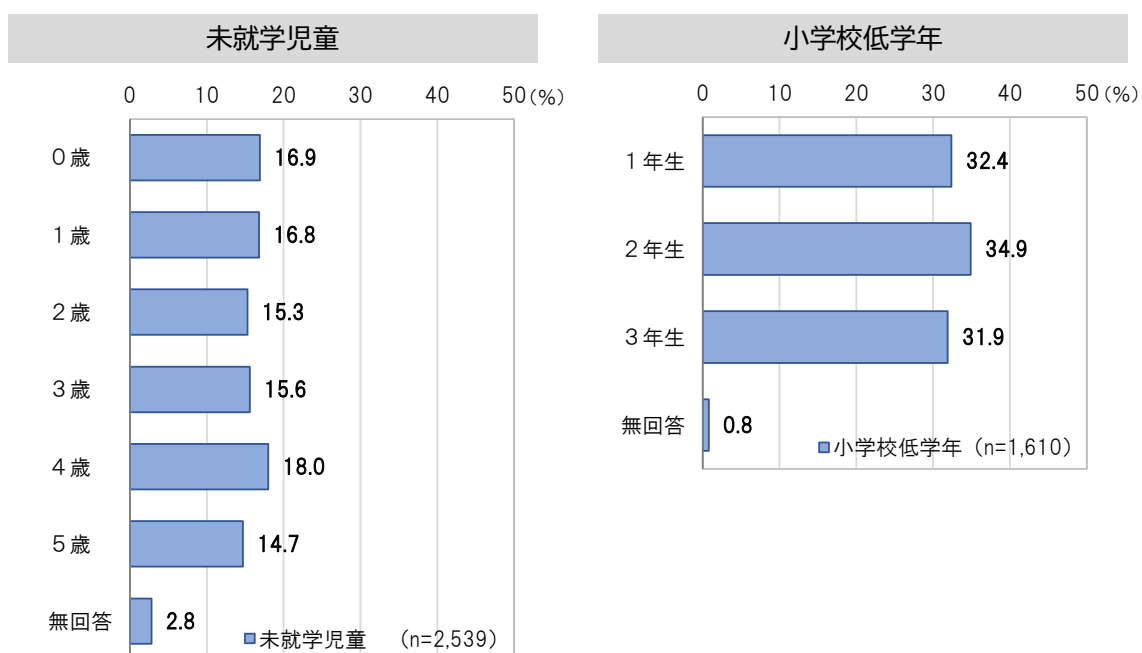
○経年比較をみると、未就学児童、小学校低学年で前回調査、今回調査ともに「2人」が最も高くなっている。また、前々回調査以降、未就学児童では『3人以上』、小学校低学年では「4人以上」が増加傾向にある。



(3) 対象の子どもの年齢と学年（令和5年4月1日現在）【未就学・小学生／問2② 数量回答】

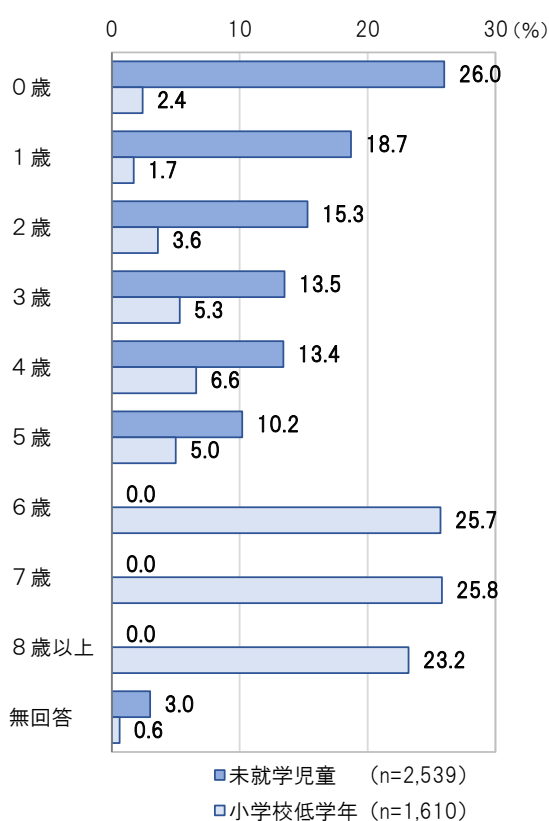
○未就学児童の年齢は、「4歳」が18.0%、「0歳」が16.9%、「1歳」が16.8%となっている。

○小学生の学年は、「2年生」が34.9%、「1年生」が32.4%、「3年生」が31.9%となっている。



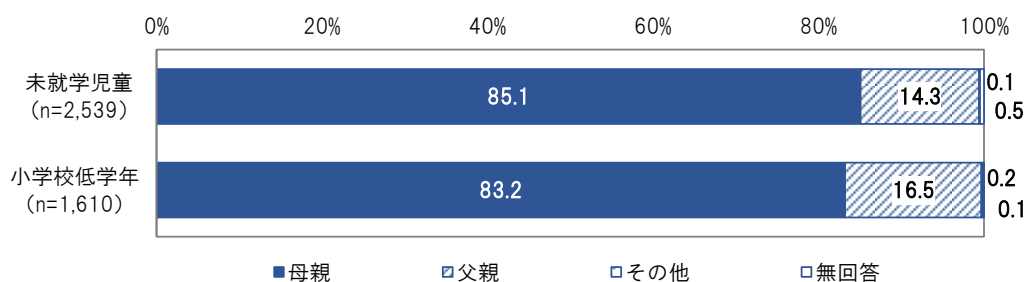
(4) 末子の年齢（令和5年4月1日現在）【未就学・小学生／問2③ 数量回答】

○末子の年齢は、未就学児童では「0歳」が26.0%と最も高く、次いで「1歳」が18.7%、「2歳」が15.3%と続いている。小学校低学年では「6歳」から「8歳以上」がともに2割を超えている。



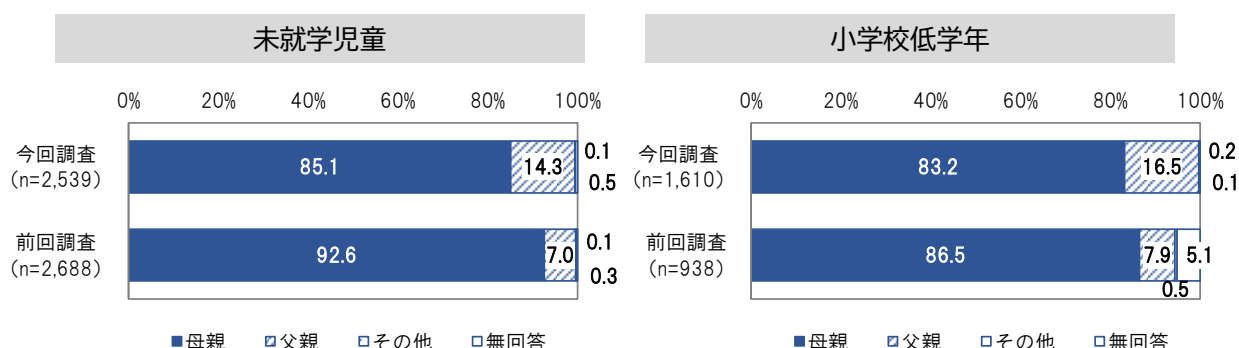
(5) 回答者の続柄【未就学・小学生／問3 単数回答】

○回答者の続柄は、「母親」が未就学児童で85.1%、小学校低学年で83.2%と最も高くなっている。



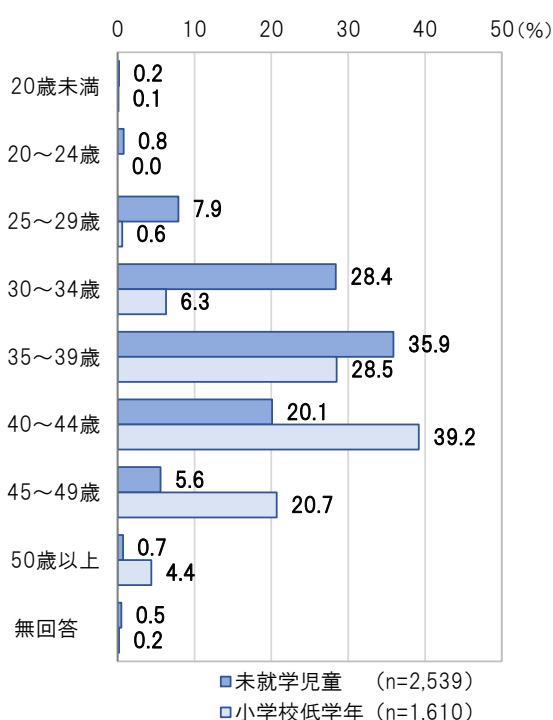
《経年比較》

○経年比較をみると、未就学児童・小学校低学年ともに、前回調査に比べて「父親」が高くなっている。



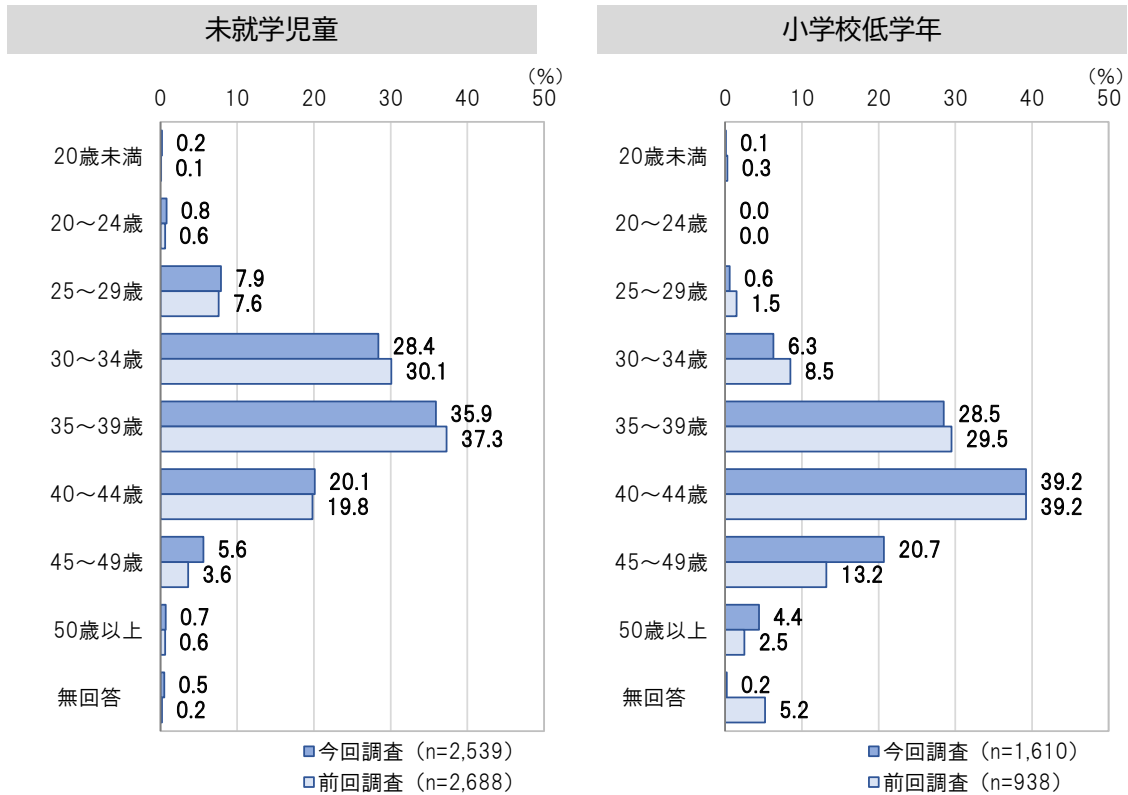
(6) 回答者の年齢（令和5年4月1日現在）【未就学・小学生／問4 単数回答】

○回答者の年齢は、未就学児童では「35～39歳」が35.9%と最も高く、次いで「30～34歳」が28.4%となっている。小学校低学年では「40～44歳」が39.2%と最も高く、次いで「35～39歳」が28.5%となっている。



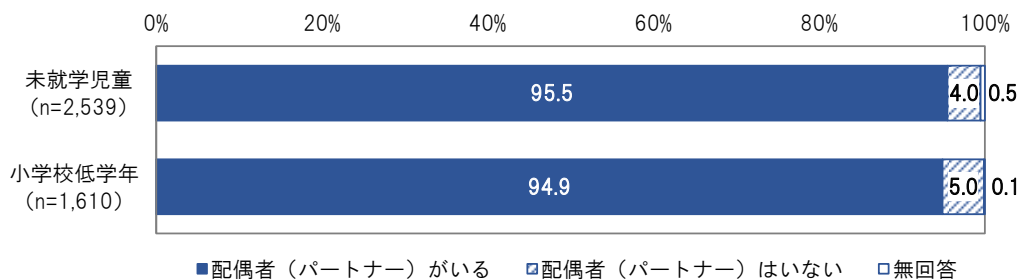
《経年比較》

○経年比較をみると、未就学児童・小学校低学年ともに、前回調査に比べて『45歳以上』が高くなっており、特に小学校低学年では約10ポイント増加している。



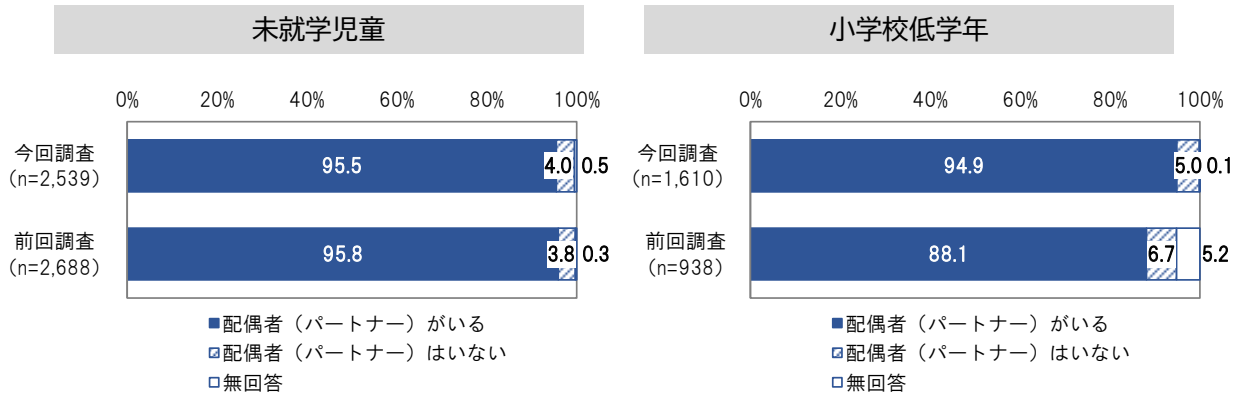
(7) 回答者の配偶関係の有無【未就学・小学生／問5 単数回答】

○回答者の配偶関係の有無は、「配偶者（パートナー）がいる」が未就学児童で95.5%、小学校低学年で94.9%となっている。



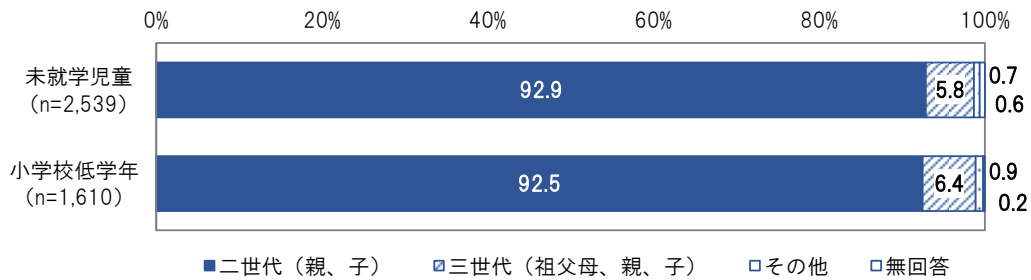
《経年比較》

○経年比較をみると、小学校低学年では「配偶者（パートナー）がいる」が6.8ポイント増加している。



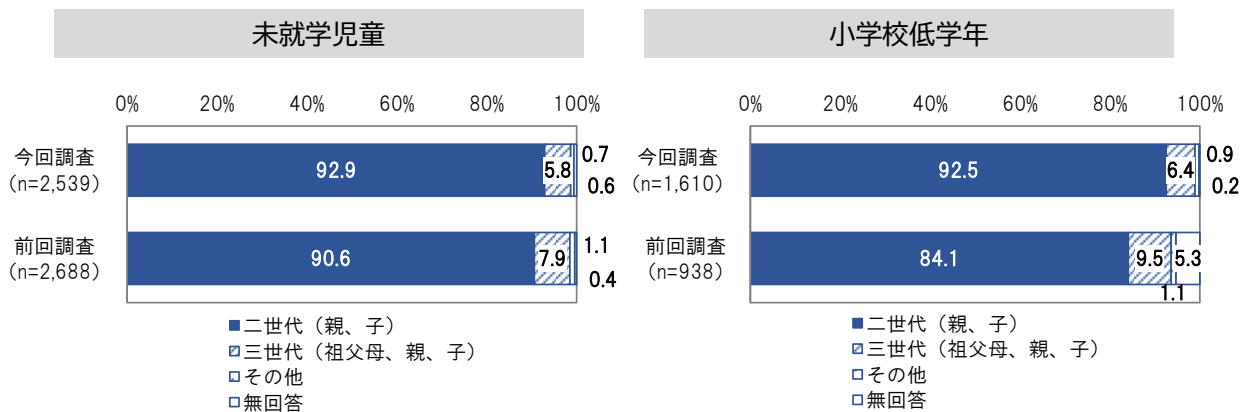
（８）世帯構成【未就学・小学生／問６ 単数回答】

○回答者の世帯構成は、「二世帯（親、子）」が未就学児童で92.9%、小学校低学年で92.5%となっている。



《経年比較》

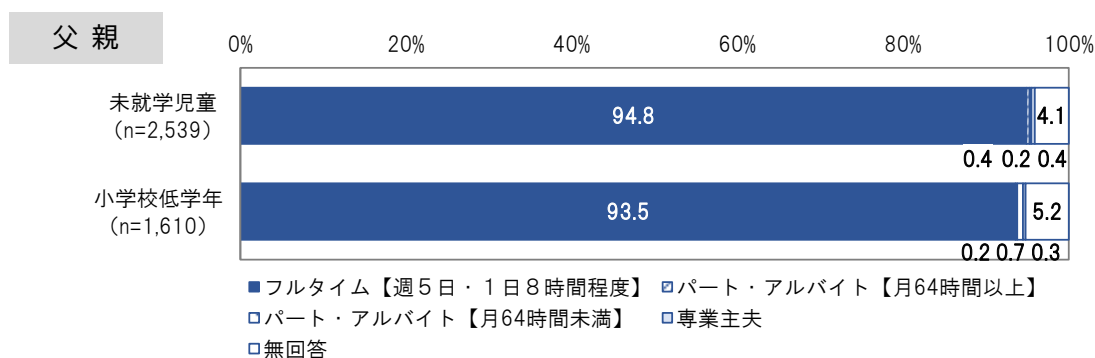
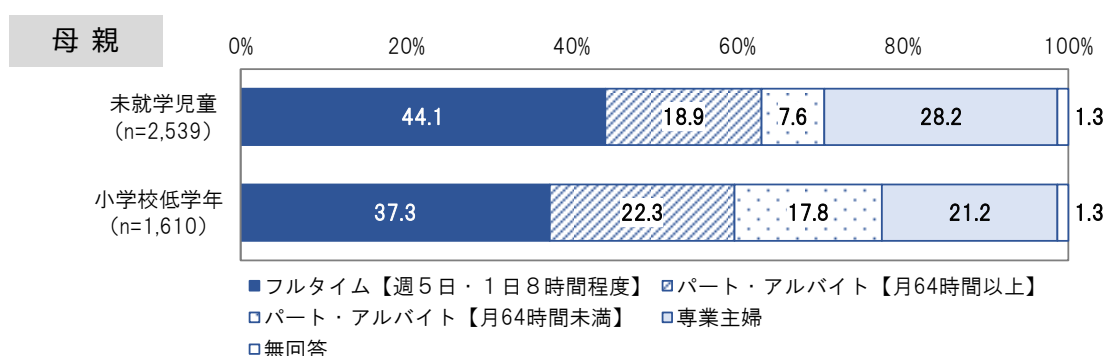
○経年比較をみると、未就学児童・小学校低学年ともに、前回調査に比べて「二世帯（親、子）」が高く、「三世帯（祖父母、親、子）」が低くなっている。



（９－１）保護者の現在の就労状況【未就学・小学生／問７ 単数回答】

○保護者の現在の就労状況は、母親では「フルタイム【週５日・１日８時間程度】」が未就学児童で44.1%、小学校低学年で37.3%と最も高く、次いで未就学児童では「専業主婦」（28.2%）、小学校低学年では「パート・アルバイト【月64時間以上】」（22.3%）となっている。

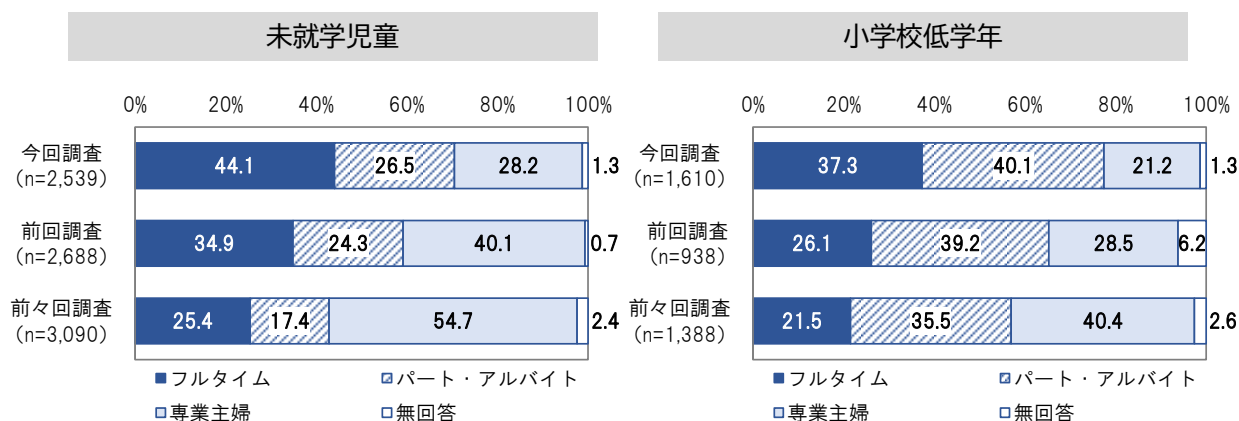
○父親では、「フルタイム【週５日・１日８時間程度】」が未就学児童で94.8%、小学校低学年で93.5%と最も高くなっている。



《経年比較：母親》

○母親の就労状況の経年比較をみると、未就学児童・小学校低学年ともに、前々回調査、前回調査と「フルタイム」が高くなっている。

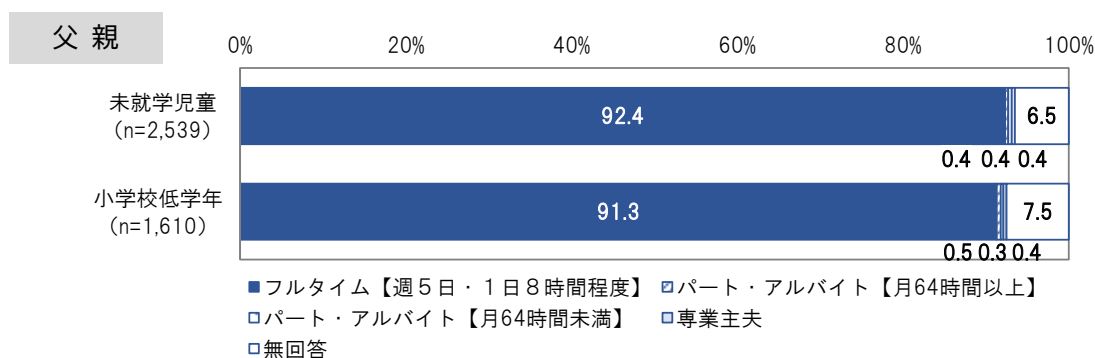
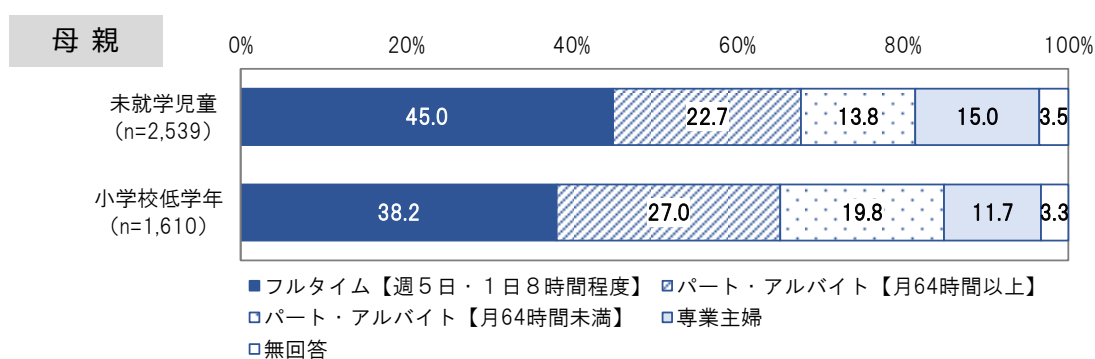
○「フルタイム」と「パート・アルバイト」を合わせた就労している母親は、前々回調査では未就学児童は４割程度、前回調査では未就学児童・小学校低学年ともに６割程度となっていたのに対し、今回調査では未就学児童で約７割、小学校低学年では約８割を占めている。



(9-2) 保護者の就労状況の1年後の希望【未就学・小学生／問7 単数回答】

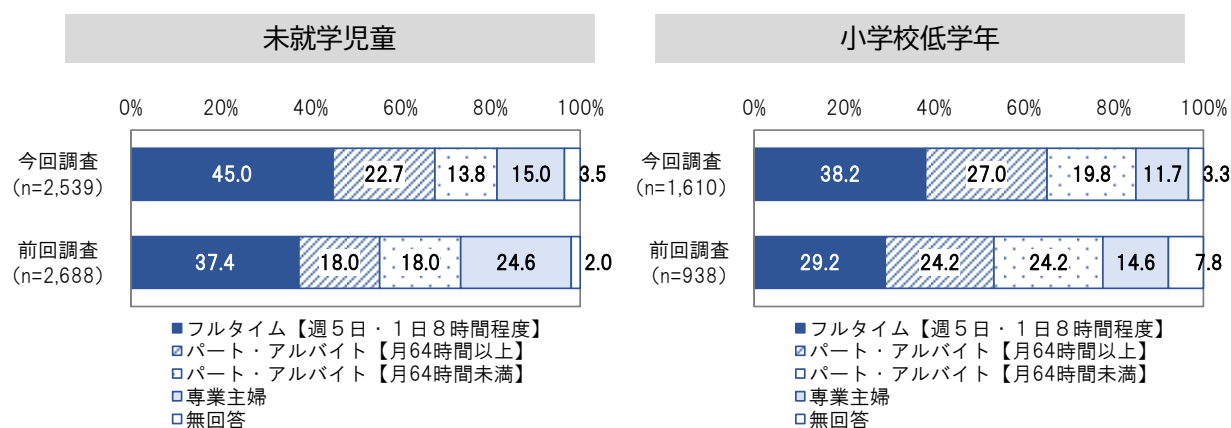
○保護者の就労状況の1年後の希望は、母親では「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」が未就学児童で45.0%、小学校低学年で38.2%と最も高く、次いで「パート・アルバイト【月64時間以上】」となっている。

○父親では、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」が未就学児童で92.4%、小学校低学年で91.3%と最も高くなっている。



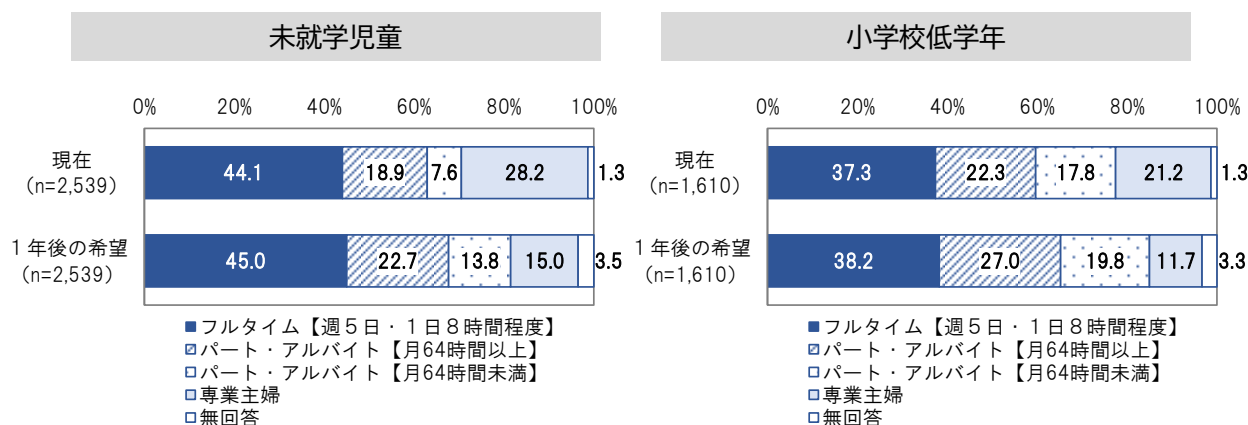
《経年比較：母親》

○母親の就労状況の1年後の希望の経年比較をみると、未就学児童・小学校低学年ともに、前回調査に比べて「フルタイム」や「パート・アルバイト【月64時間以上】」が高くなっており、長時間の就労を望む母親が多くなっている。



《現在と1年後の希望の比較：母親》

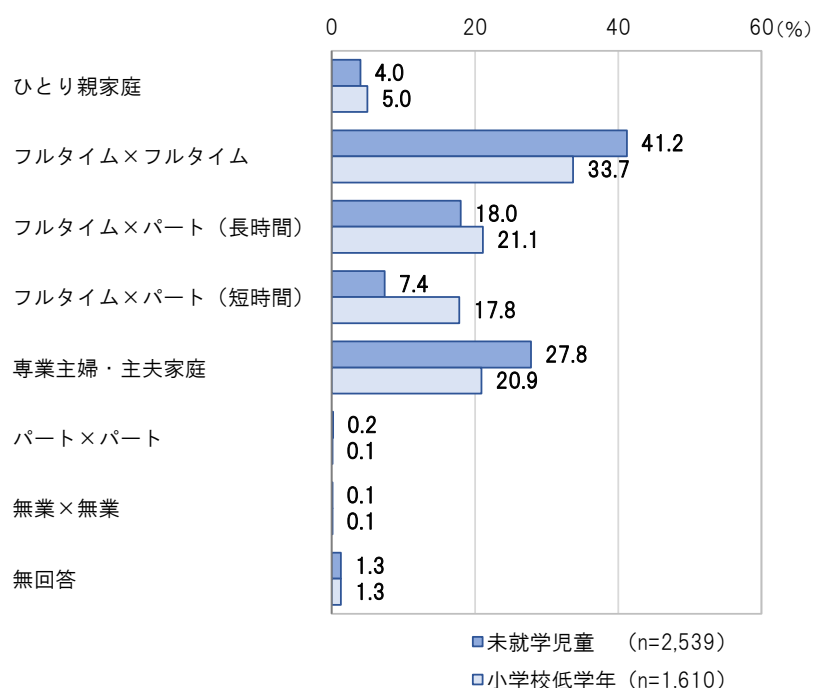
○母親の現在の就労状況と1年後の希望を比較すると、未就学児童・小学校低学年ともに、現在より「専業主婦」が10ポイント程度低くなっており、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」や「パート・アルバイト【月64時間以上】」、「パート・アルバイト【月64時間未満】」が高くなっている。



《家庭類型》

○（7）回答者の配偶関係の有無、および（9-1）保護者の現在の就労状況より、家庭類型を区分すると、未就学児童・小学校低学年ともに「フルタイム×フルタイム」が最も高く、次いで、未就学児童では「専業主婦・主夫家庭」、小学校低学年では「フルタイム×パート（長時間）」となっている。

○小学校低学年では、長時間と短時間を合わせた『フルタイム×パート』が、未就学児童に比べて10ポイント以上高くなっている。

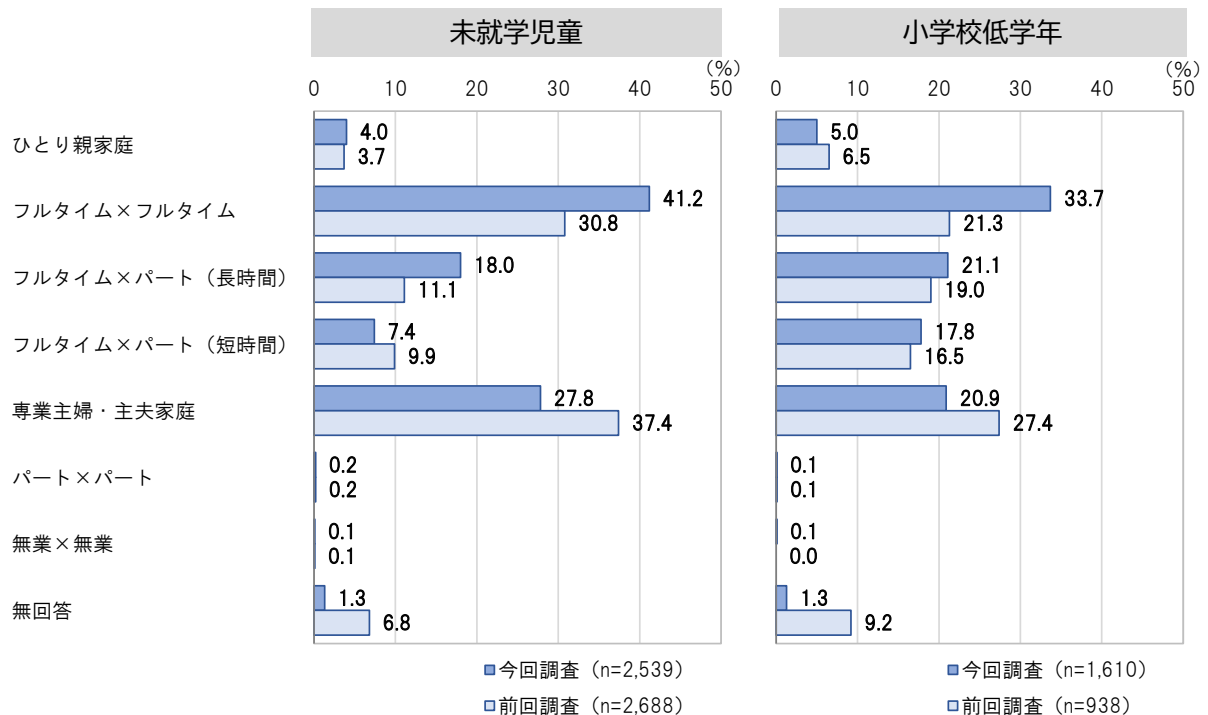


【参考】家庭類型区分の考え方

父親 \ 母親			問 9 - 1			問 7	
			フルタイム	パート・アルバイト		専業主婦	配偶者が いない
				月 64 時間 以上	月 64 時間 未満		
問 9 - 1	フルタイム		フルタイム × フルタイム	フルタイム × パート(長)	フルタイム × パート(短)	専業主婦・ 主夫家庭	
	パート・ アルバイト	月 64 時間 以上	フルタイム × パート(長)	パート×パート			
		月 64 時間 未満	フルタイム × パート(短)				
	専業主夫		専業主婦・主夫家庭			無業×無業	
問 7	配偶者がいない		ひとり親家庭				

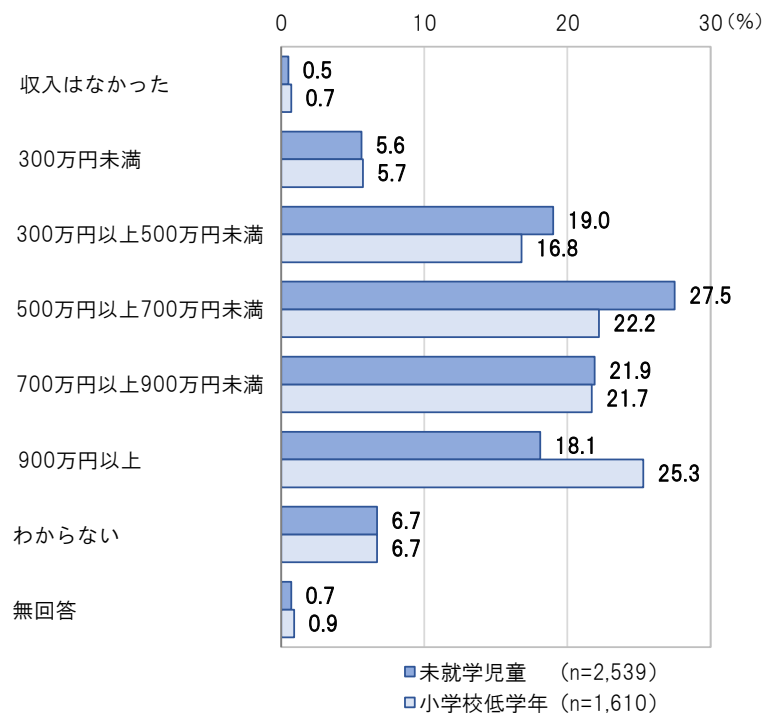
《経年比較》

○経年比較をみると、未就学児童・小学校低学年ともに、前回調査に比べて「専業主婦・主夫家庭」が低く、「フルタイム×フルタイム」が高くなっている。また、未就学児童では「フルタイム×パート（長時間）」が高くなっており、勤務時間の長い共働き家庭が増加していることがわかる。



(10) 世帯の年間総収入（税金等を天引きされる前の金額）【未就学・小学生／問8 単数回答】

○世帯の年間総収入は、未就学児童では「500 万円以上 700 万円未満」が 27.5%と最も高く、次いで「700 万円以上 900 万円未満」が 21.9%となっている。小学校低学年では「900 万円以上」が 25.3%と最も高く、次いで「500 万円以上 700 万円未満」が 22.2%となっている。



《家庭類型別比較》

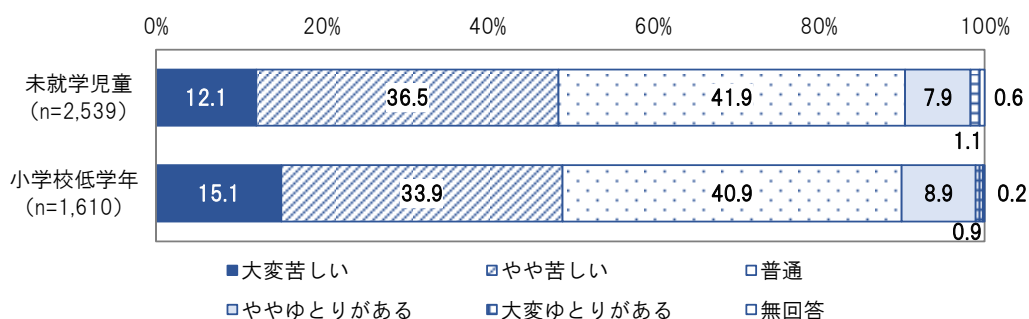
○家庭類型別についてみると、未就学児童・小学校低学年ともに、[ひとり親家庭]では「300 万円未満」が最も高くなっている。また、[フルタイム×フルタイム][フルタイム×パート（長時間）][フルタイム×パート（短時間）]の順に、総収入の区分が減少する傾向がみられる。

		回答者数（人）	収入はなかった	300万円未満	500万円未満	300万円以上	700万円未満	500万円以上	900万円未満	700万円以上	900万円以上	わからない	無回答
未就学児童	ひとり親家庭	101	5.9	47.5	21.8	9.9	4.0	2.0	8.9	-			
	フルタイム×フルタイム	1,047	0.2	2.7	11.7	24.8	27.0	29.1	4.3	0.2			
	フルタイム×パート（長時間）	458	-	5.0	26.4	30.6	21.6	9.2	7.0	0.2			
	フルタイム×パート（短時間）	188	-	5.9	29.3	34.0	17.6	5.3	6.9	1.1			
	専業主婦・主夫家庭	705	0.6	3.7	22.0	30.8	19.0	13.9	9.8	0.3			
小学校低学年	ひとり親家庭	80	11.3	53.8	20.0	6.3	2.5	3.8	2.5	-			
	フルタイム×フルタイム	543	-	2.0	9.0	15.1	24.3	44.2	4.1	1.3			
	フルタイム×パート（長時間）	340	0.3	3.5	20.3	29.4	25.3	14.7	6.2	0.3			
	フルタイム×パート（短時間）	287	-	3.8	24.0	29.3	18.1	14.3	10.1	0.3			
	専業主婦・主夫家庭	336	0.3	3.0	18.8	24.7	22.3	21.1	9.2	0.6			

※1 番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

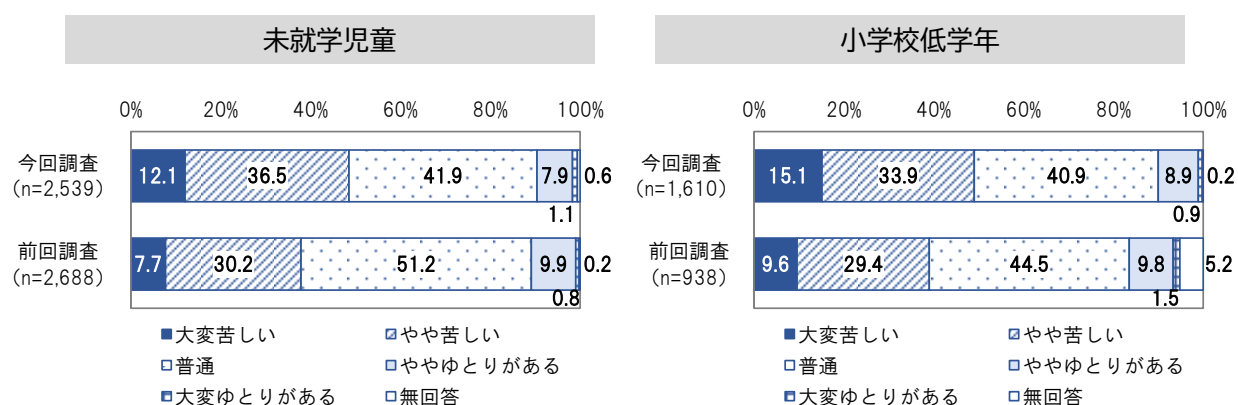
(11) 世帯の経済的な暮らし向き【未就学・小学生／問9 単数回答】

○世帯の経済的な暮らし向きは、「普通」が未就学児童で41.9%、小学校低学年で40.9%と最も高く、次いで「やや苦しい」が未就学児童で36.5%、小学校低学年で33.9%となっている。



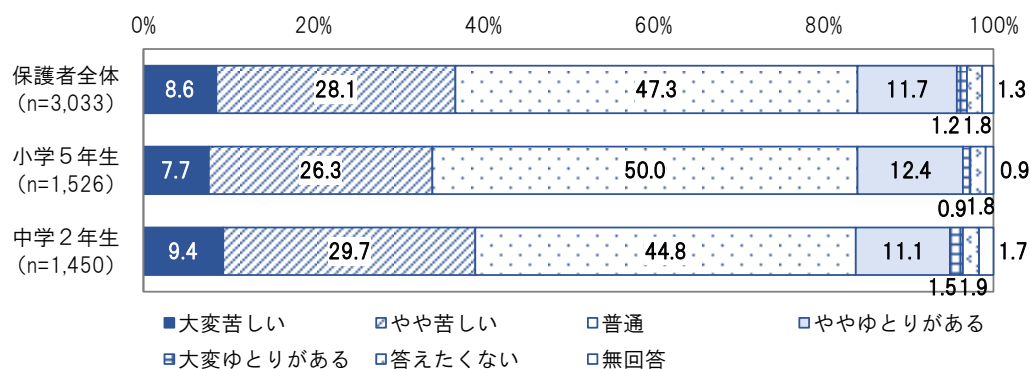
《経年比較》

○経年比較をみると、未就学児童・小学校低学年ともに、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた暮らし向きが『苦しい』と回答した割合が10ポイント以上上回っている。



【参考】「子どもの生活実態調査」（令和5年9月実施）より

○小学5年生・中学2年生の保護者を対象とした「子どもの生活実態調査」の調査結果と比較すると、『苦しい』が高くなっており、「普通」が低くなっている。



《世帯の年間総収入別比較》

○世帯の年間総収入別についてみると、未就学児童・小学校低学年ともに「700 万円以上 900 万円未満」以上では経済的な暮らし向きが「普通」、「300 万円以上 500 万円未満」[500 万円以上 700 万円未満]では経済的な暮らし向きが「やや苦しい」、[300 万円未満]では経済的な暮らし向きが「大変苦しい」が最も高くなっている。

(%)

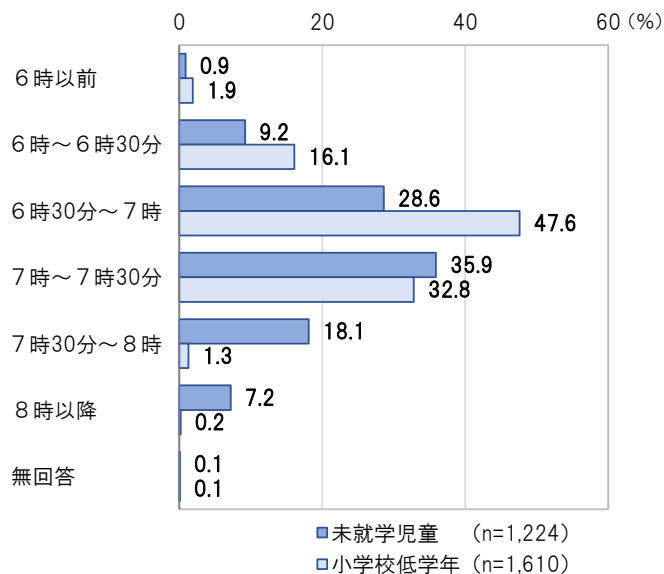
		回答者数 (人)	大変 苦しい	やや 苦しい	普通	やや ゆとり がある	大変 ゆとり がある	無 回 答
未 就 学 児 童	収入はなかった	12	25.0	41.7	16.7	16.7	-	-
	300万円未満	141	46.1	36.2	17.0	0.7	-	-
	300万円以上500万円未満	482	19.5	53.1	26.8	0.4	0.2	-
	500万円以上700万円未満	698	11.7	43.3	41.3	3.4	0.1	0.1
	700万円以上900万円未満	557	6.1	31.6	55.1	6.6	0.4	0.2
	900万円以上	460	1.7	15.2	51.1	27.2	4.8	-
小 学 校 低 学 年	収入はなかった	11	27.3	36.4	36.4	-	-	-
	300万円未満	92	51.1	33.7	15.2	-	-	-
	300万円以上500万円未満	270	27.0	45.9	25.9	1.1	-	-
	500万円以上700万円未満	358	18.2	44.4	35.5	1.7	0.3	-
	700万円以上900万円未満	349	8.0	32.4	48.1	10.6	0.9	-
	900万円以上	408	3.2	16.2	54.7	23.3	2.7	-

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

2. 子どものふだんの様子について

(1) 起床時刻【未就学（3歳以上）・小学生／問10① 数量回答】

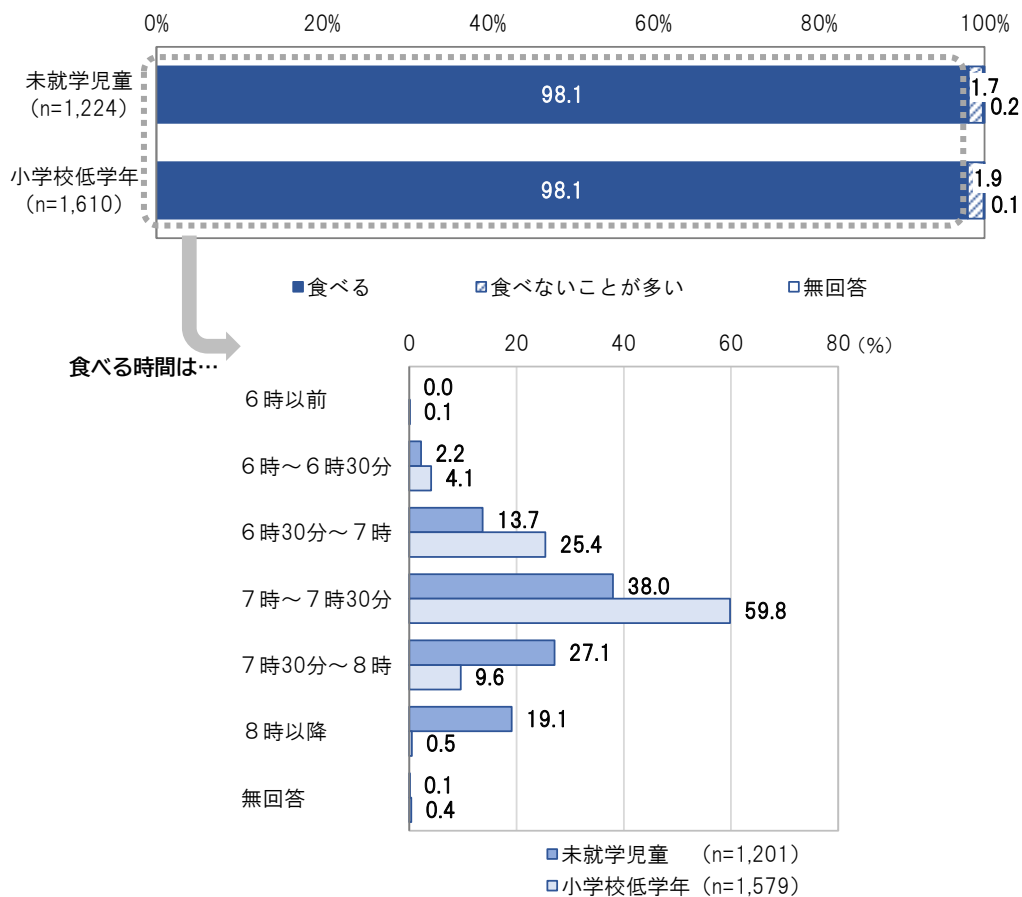
○起床時刻は、未就学児童では「7時～7時30分」が35.9%と最も高く、次いで「6時30分～7時」が28.6%、小学校低学年では「6時30分～7時」が47.6%と最も高く、次いで「7時～7時30分」が32.8%となっている。



(2) 朝食の摂取状況【未就学（3歳以上）・小学生／問10② 単数回答・数量回答】

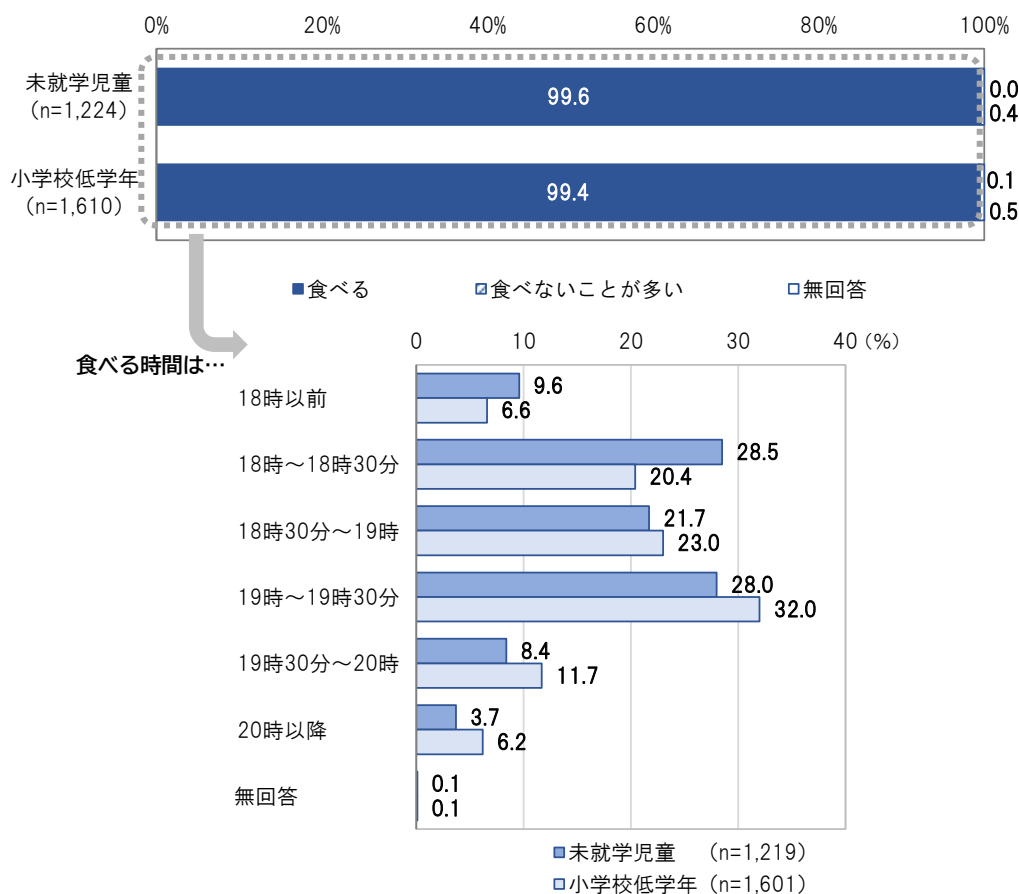
○朝食の摂取状況は、「食べる」が未就学児童・小学校低学年ともに98.1%となっている。

○食べる時刻では、未就学児童・小学校低学年ともに「7時～7時30分」が最も高くなっている。



(3) 夕食の摂取状況【未就学（3歳以上）・小学生／問10③ 単数回答・数量回答】

○夕食の摂取状況は、「食べる」が未就学児童で99.6%、小学校低学年で99.4%と最も高くなっている。食べる時刻では、未就学児童では「18時～18時30分」や「19時～19時30分」、小学校低学年では「19時～19時30分」が高くなっている。



《家庭類型別比較》

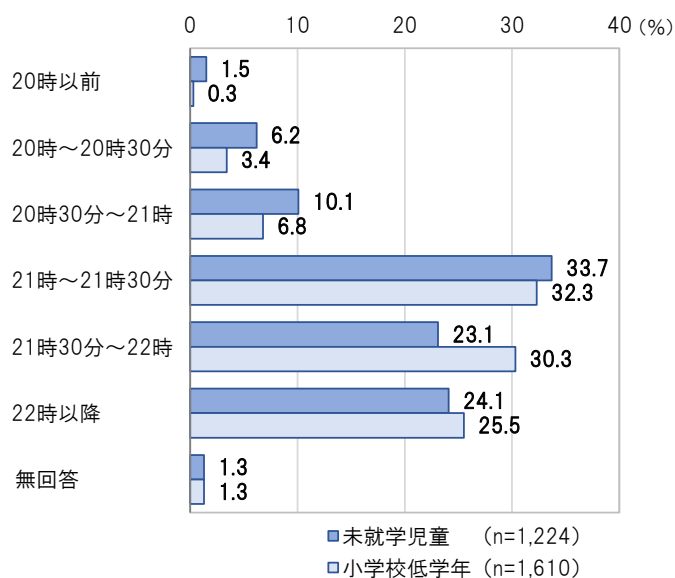
○家庭類型別にみると、未就学児童・小学校低学年ともに、[ひとり親家庭][フルタイム×フルタイム]で、他の家族類型に比べてやや遅くなっている。

		(人) 回答者数	16時以前	16時台	17時台	18時台	19時台	20時以降	無回答
未就学児童	ひとり親家庭	60	-	-	5.0	53.3	36.7	5.0	-
	フルタイム×フルタイム	468	-	-	4.3	44.7	44.0	6.8	0.2
	フルタイム×パート（長）	266	0.4	0.4	10.9	53.4	32.0	3.0	-
	フルタイム×パート（短）	116	-	-	6.9	65.5	25.9	1.7	-
	専業主婦・主夫家庭	294	-	0.3	17.7	49.7	32.3	-	-
小学校低学年	ひとり親家庭	80	1.3	-	10.0	42.5	42.5	3.8	-
	フルタイム×フルタイム	541	0.2	-	2.8	34.4	52.7	10.0	-
	フルタイム×パート（長）	338	-	-	6.8	45.3	42.0	5.9	-
	フルタイム×パート（短）	285	0.4	0.7	5.3	50.9	38.2	4.2	0.4
	専業主婦・主夫家庭	333	-	0.6	10.5	49.8	36.3	2.7	-

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(4) 就寝時刻【未就学（3歳以上）・小学生／問10④ 数量回答】

○就寝時刻は、「21時～21時30分」が未就学児童で33.7%、小学校低学年で32.3%と最も高く、次いで、未就学児童では「22時以降」、小学校低学年では「21時30分～22時」となっている。



《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、未就学児童・小学校低学年ともに、おおむね「フルタイム×フルタイム」や「フルタイム×パート（長）」などの保護者の就労時間が長くなるほど、「20時台」が低く、「22時以降」が高くなり、就寝時刻が遅くなる傾向がみられる。

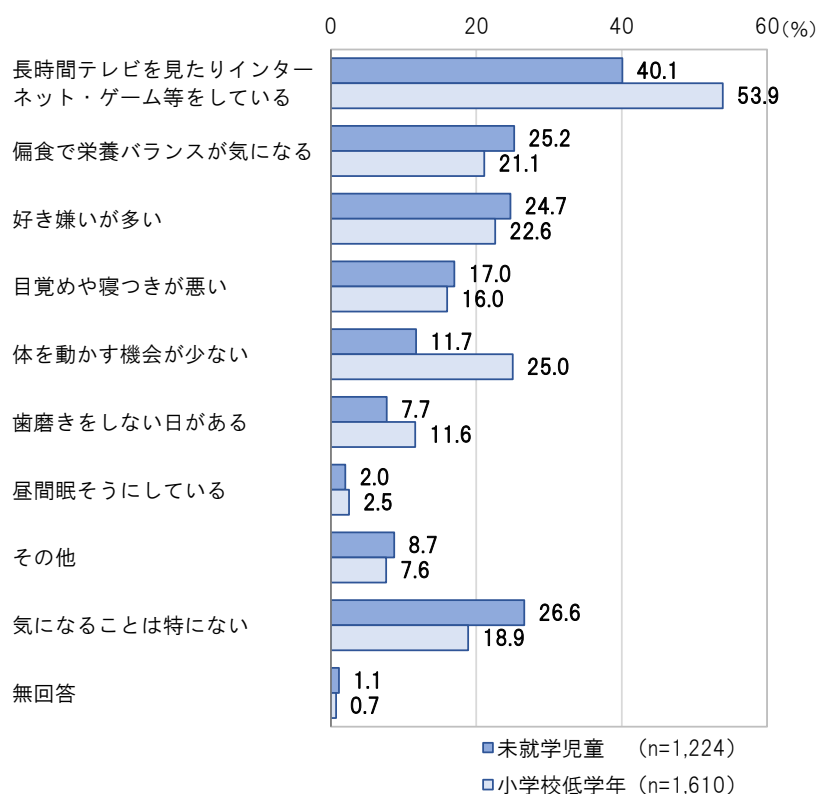
			(%)					
		回答者数 (人)	18時 以前	18時 台	19時 台	20時 台	21時 台	22時 以降
未就学児童	ひとり親家庭	60	-	-	-	6.7	51.7	40.0
	フルタイム×フルタイム	470	-	0.2	0.2	10.4	59.8	28.3
	フルタイム×パート（長）	268	0.4	-	1.5	19.0	56.7	19.8
	フルタイム×パート（短）	116	-	-	0.9	16.4	59.5	23.3
	専業主婦・主夫家庭	295	-	-	3.4	25.1	52.5	18.0
小学校低学年	ひとり親家庭	80	-	-	-	5.0	65.0	30.0
	フルタイム×フルタイム	543	-	-	-	6.1	60.6	31.9
	フルタイム×パート（長）	340	-	-	0.3	10.0	66.8	22.4
	フルタイム×パート（短）	287	0.7	-	0.3	13.2	60.3	23.3
	専業主婦・主夫家庭	336	-	-	0.3	14.9	64.9	18.5

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（５）ふだんの生活習慣で気になっていること【未就学（３歳以上）・小学生／問11 複数回答】

○ふだんの生活習慣で気になっていることは、「長時間テレビを見たりインターネット・ゲーム等をしている」が未就学児童で40.1%、小学校低学年で53.9%と最も高く、次いで未就学児童では「偏食で栄養バランスが気になる」(25.2%)、小学校低学年では「体を動かす機会が少ない」(25.0%)となっている。

○その他の意見では、未就学児童、小学校低学年ともに「寝るのが遅い」や「痛癢がある」といった回答が多くみられ、他では未就学児童では「ご飯を食べる量が少ない」や「ご飯を食べるのが遅い」「夜泣きが多い」、小学校低学年では「肥満傾向」や「体力がない（運動不足）」「忘れ物が多い」などの回答がみられた。



《年齢・学年別比較》

○年齢・学年別にみると、年齢・学年が上がるにつれて「長時間テレビを見たりインターネット・ゲーム等をしている」や「体を動かす機会が少ない」、年齢・学年が下がるにつれて「目覚めや寝つきが悪い」が高くなる傾向がみられる。

(%)

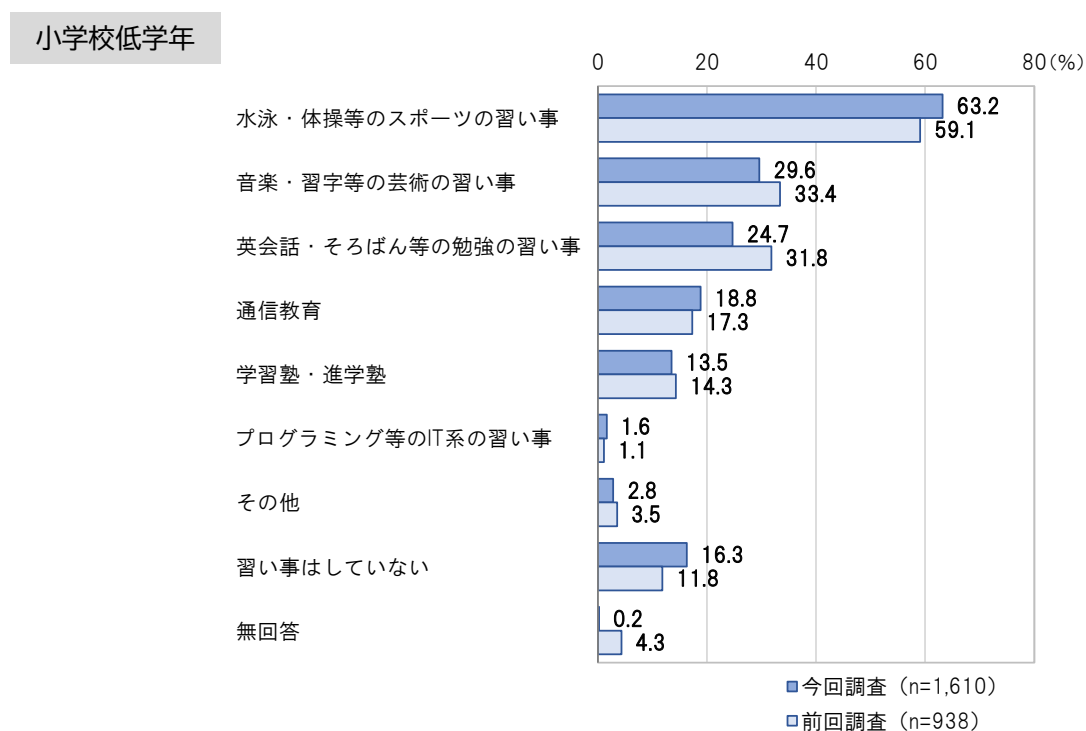
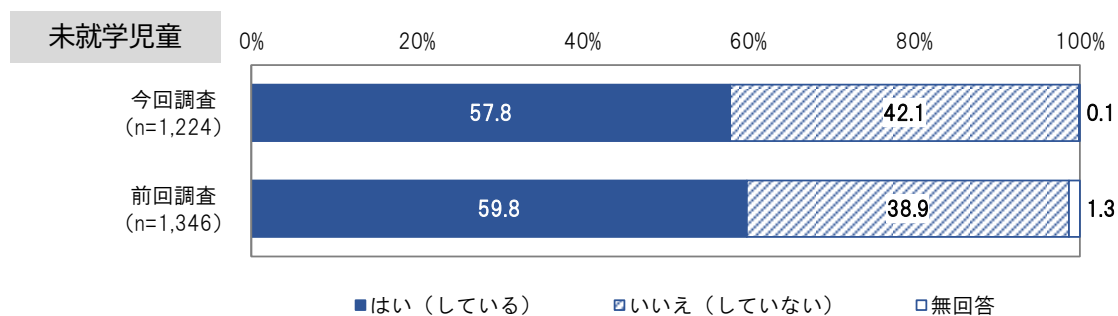
		回答者数(人)	長時間テレビを見たりインターネット・ゲーム等をしている	偏食で栄養バランスが気になる	好き嫌が多い	目覚めや寝つきが悪い	体を動かす機会が少ない	歯磨きをしない日がある	昼間眠そうにしている	その他	気になることは特にない	無回答
年齢別	3歳	395	31.9	26.6	22.3	18.7	9.6	6.6	1.8	9.4	29.4	1.3
	4歳	457	42.9	25.4	27.8	17.9	11.2	7.2	2.6	7.9	25.6	0.9
	5歳	372	45.4	23.4	23.4	14.0	14.5	9.4	1.6	9.1	24.7	1.1
学年別	1年生	522	50.4	23.0	24.1	16.3	22.6	10.0	2.3	7.9	18.4	1.1
	2年生	562	52.0	19.0	21.9	15.8	24.2	13.0	2.7	6.6	21.5	0.4
	3年生	513	59.3	21.4	22.0	15.4	27.5	11.7	2.5	8.4	17.0	0.6

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(6) 習い事の状況【未就学（3歳以上）／問12 単数回答、小学生／問12 複数回答】

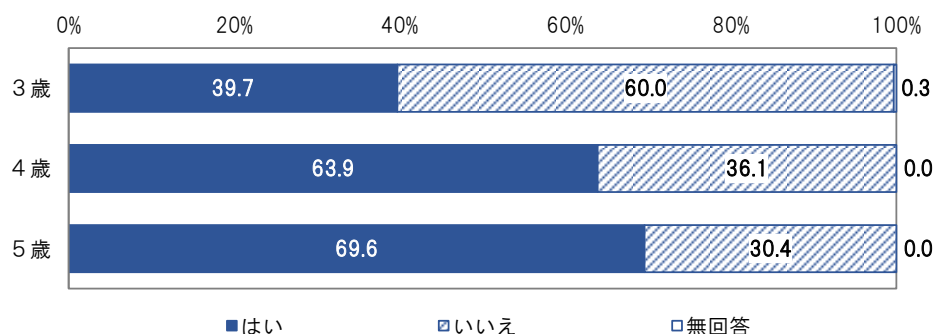
○未就学児童の習い事の状況は、「はい（している）」が57.8%となっている。前回調査と比較すると、やや減少している。

○小学校低学年では、「水泳・体操等のスポーツの習い事」が63.2%と最も高く、次いで「音楽・習字等の芸術の習い事」（29.6%）、「英会話・そろばん等の勉強の習い事」（24.7%）となっている。前回調査と比較すると、「水泳・体操等のスポーツの習い事」や「通信教育」がやや高くなっている。



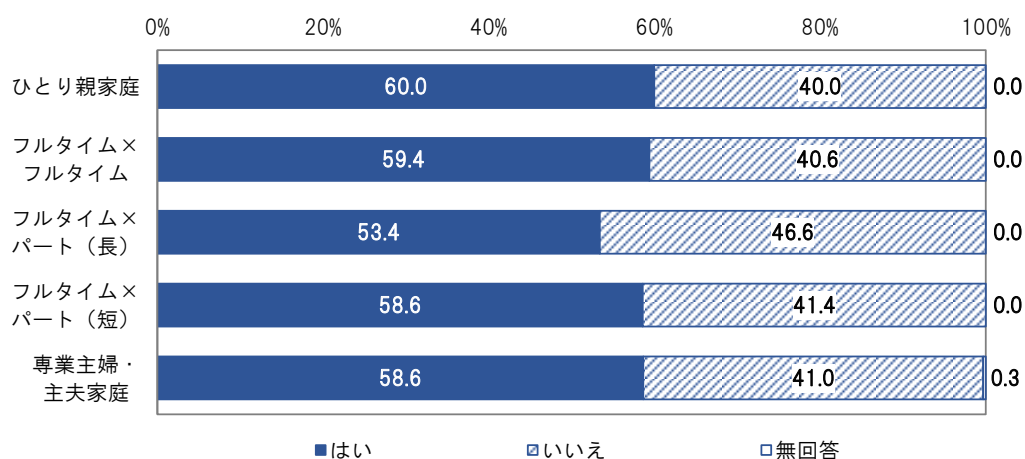
《年齢別比較：未就学児童》

○年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「はい（している）」が高くなっており、[5歳]では約7割の児童が習い事をしている。



《家庭類型別比較：未就学児童》

○家庭類型別にみると、[フルタイム×パート（長）]では「はい（している）」が53.4%と、その他の家庭類型に比べてやや低くなっている。



《学年別・家庭類型別比較：小学校低学年》

○学年別にみると、学年が上がるにつれて「音楽・習字等の芸術の習い事」や「英会話・そろばん等の勉強の習い事」、「学習塾・進学塾」が高くなる傾向がみられる。

○家庭類型別にみると、[ひとり親家庭]では「習い事はしていない」が3割を超え、その他の家庭類型に比べて高くなっている。

(%)

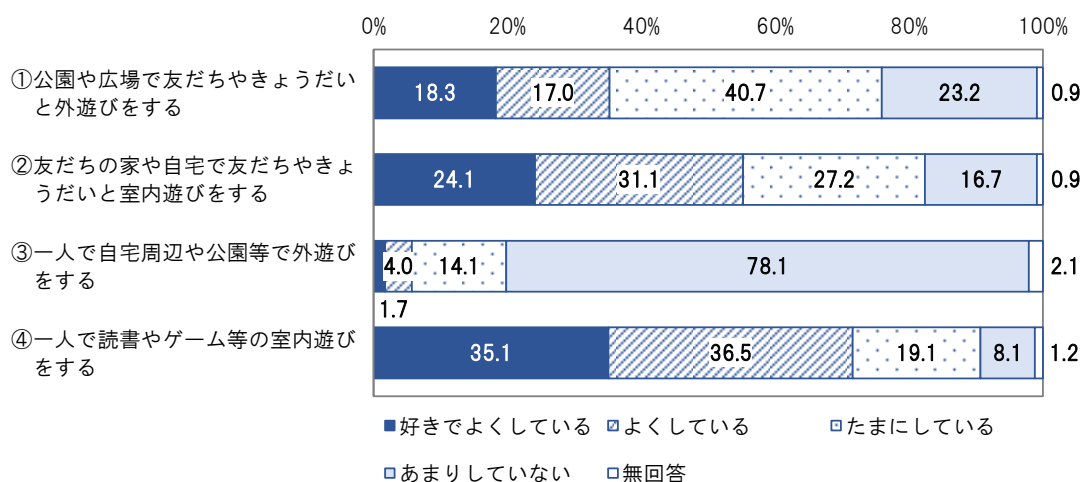
		回答者数 (人)	水泳・体操等のスポーツ の習い事	音楽・習字等の芸術の習 い事	英会話・そろばん等の勉 強の習い事	通信教育	学習塾・進学塾	プログラミング等のIT 系の習い事	その他	習い事はしていない	無回答
学年別	1年生	522	60.2	24.5	20.3	20.3	9.4	0.6	1.9	19.5	-
	2年生	562	64.8	31.7	26.0	19.0	13.0	2.3	4.3	14.4	0.2
	3年生	513	64.5	32.4	27.9	17.2	18.5	1.9	2.1	14.8	0.6
家庭類型別	ひとり親家庭	80	51.3	16.3	13.8	12.5	2.5	2.5	6.3	31.3	-
	フルタイム×フルタイム	543	67.2	32.0	26.2	21.2	14.9	1.8	2.8	14.0	0.4
	フルタイム×パート（長）	340	65.9	27.1	25.0	19.7	12.9	1.5	2.1	13.8	-
	フルタイム×パート（短）	287	62.7	26.8	24.0	15.7	15.0	2.1	1.7	16.4	0.7
	専業主婦・主夫家庭	336	57.1	34.2	26.2	19.3	13.7	0.9	3.3	18.5	-

※1番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(7) 放課後や休日によくしていること【小学生／問 13 単数回答】

○放課後や休日によくしていることは、「好きでよくしている」と「よくしている」を合わせた『よくしている』の割合をみると、“④一人で読書やゲーム等の室内遊びをする”が71.6%と最も高く、次いで“②友だちの家や自宅で友だちやきょうだいと室内遊びをする”が55.2%となっている。

○一方で、「あまりしていない」の割合をみると、“③一人で自宅周辺や公園等で外遊びをする”が78.1%と最も高くなっている。



《学年別比較》

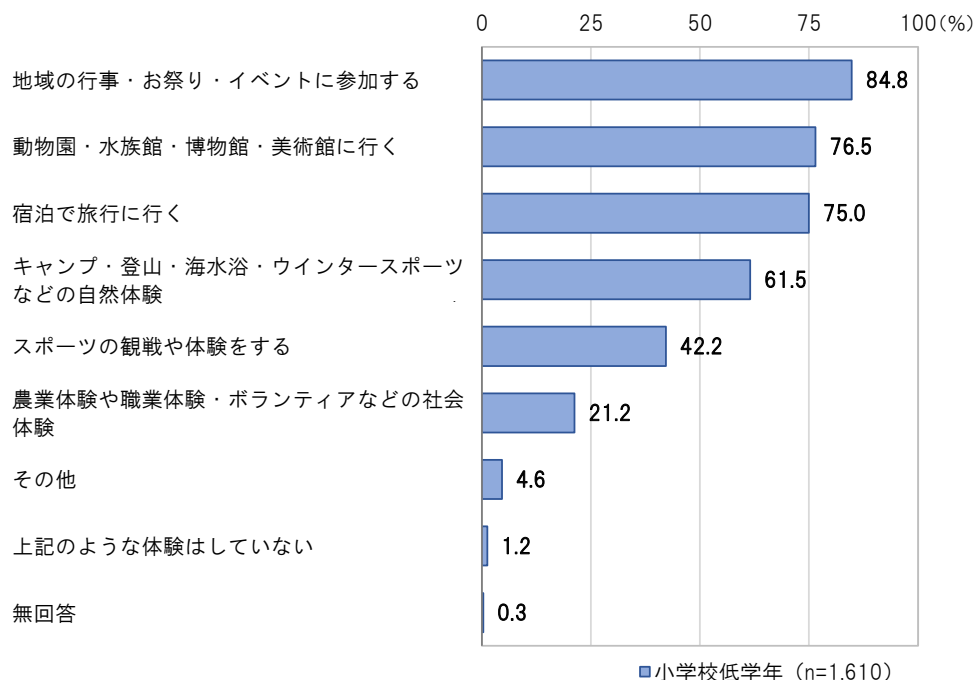
○学年別にみると、学年が上がるにつれて“④一人で読書やゲーム等の室内遊びをする”が高くなる傾向がみられる。

		(%)					
		回答者数 (人)	好きでよくしている	よくしている	たまにしている	あまりしていない	無回答
①公園や広場で友だちやきょうだいと外遊びをする	1 年生	522	19.9	16.1	41.0	22.4	0.6
	2 年生	562	19.8	18.9	40.4	19.8	1.2
	3 年生	513	14.8	16.2	40.4	27.9	0.8
②友だちの家や自宅で友だちやきょうだいと室内遊びをする	1 年生	522	25.3	28.7	25.9	19.3	0.8
	2 年生	562	25.6	33.8	24.4	15.5	0.7
	3 年生	513	21.2	30.4	31.4	15.8	1.2
③一人で自宅周辺や公園等で外遊びをする	1 年生	522	2.5	4.0	13.8	78.2	1.5
	2 年生	562	1.4	5.2	14.6	76.2	2.7
	3 年生	513	1.2	2.7	14.0	79.9	2.1
④一人で読書やゲーム等の室内遊びをする	1 年生	522	30.5	34.7	23.9	10.0	1.0
	2 年生	562	35.4	38.4	18.0	7.3	0.9
	3 年生	513	39.4	36.6	15.4	6.6	1.9

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(8) 学校以外での体験【小学生／問 14 複数回答】

○学校以外での体験は、「地域の行事・お祭り・イベントに参加する」が 84.8%と最も高く、次いで「動物園・水族館・博物館・美術館に行く」(76.5%)、「宿泊で旅行に行く」(75.0%)となっている。



《学年別比較》

○学年別にみると、学年が上がるにつれて「動物園・水族館・博物館・美術館に行く」が低くなる傾向がみられる。

		(%)									
		回答者数（人）	地域の行事・お祭り・イベントに参加する	動物園・水族館・博物館・美術館に行く	宿泊で旅行に行く	キャンプ・登山・海水浴・ウインタースポーツなどの自然体験	スポーツの観戦や体験をする	農業体験や職業体験・ボランティアなどの社会体験	その他	上記のような体験はしていない	無回答
学年別	1年生	522	84.9	81.2	74.7	59.0	38.1	19.7	4.2	0.8	0.2
	2年生	562	87.9	77.0	76.9	63.5	46.3	24.2	5.2	1.2	0.2
	3年生	513	81.7	71.0	73.3	61.8	42.1	19.5	4.5	1.8	0.6

※1 番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、[ひとり親家庭]では「地域の行事・お祭り・イベントに参加する」や「スポーツの観戦や体験をする」、「農業体験や職業体験・ボランティアなどの社会体験」が、その他の家庭類型に比べてやや低くなっている。

(%)

		回答者数 (人)	地域の行事・お祭り・イベントに参加する	動物園・水族館・博物館・美術館に行く	宿泊で旅行に行く	キャンプ・登山・海水浴・ウインタースポーツなどの自然体験	スポーツの観戦や体験をする	農業体験や職業体験・ボランティアなどの社会体験	その他	上記のような体験はしていない	無回答
家庭類型別	ひとり親家庭	80	78.8	73.8	72.5	61.3	32.5	12.5	7.5	1.3	-
	フルタイム×フルタイム	543	86.2	79.6	78.5	61.5	44.0	21.5	3.9	1.5	0.6
	フルタイム×パート（長）	340	86.2	72.9	71.8	60.6	46.8	22.9	2.9	0.9	-
	フルタイム×パート（短）	287	84.7	71.1	71.1	63.4	42.2	19.9	5.2	2.1	0.7
	専業主婦・主夫家庭	336	82.7	81.0	76.5	61.6	38.1	22.3	6.0	0.3	-

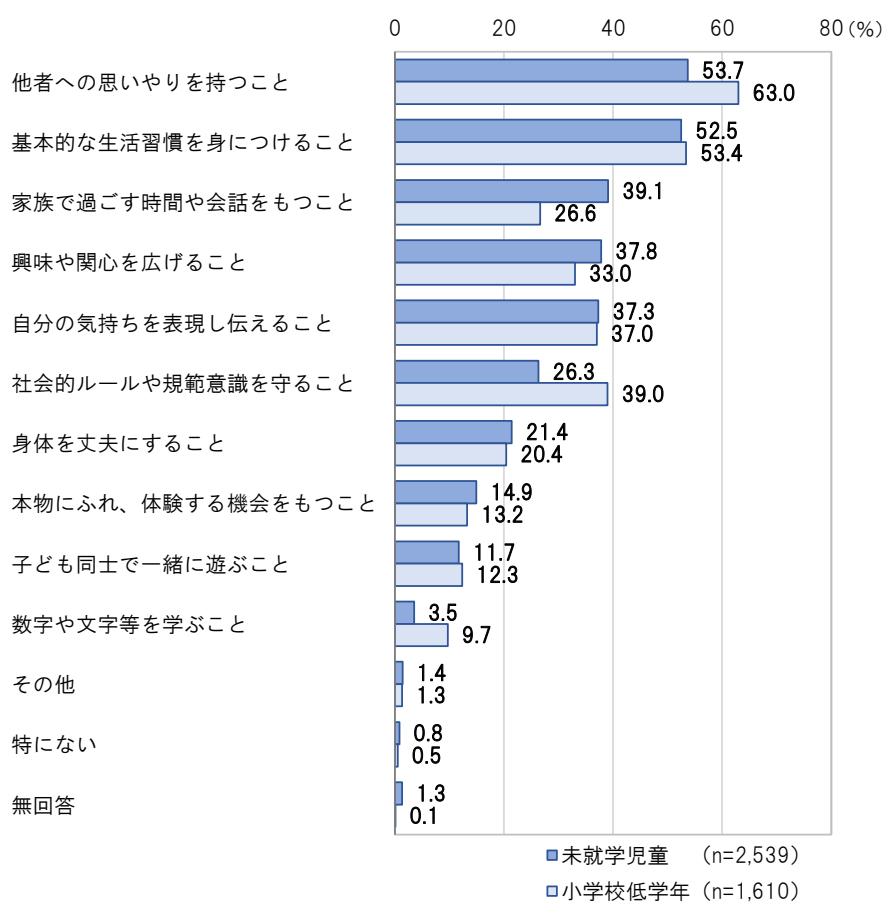
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

3. 子育てに対する考え方や悩みなどについて

(1) 子育てにおいて大切にしていること【未就学／問13 複数回答、小学生／問15 複数回答】

○子育てにおいて大切にしていることは、「他者への思いやりを持つこと」が未就学児童で53.7%、小学校低学年で63.0%と最も高く、次いで「基本的な生活習慣を身につけること」（未就学児童：52.5%、小学校低学年：53.4%）となっている。

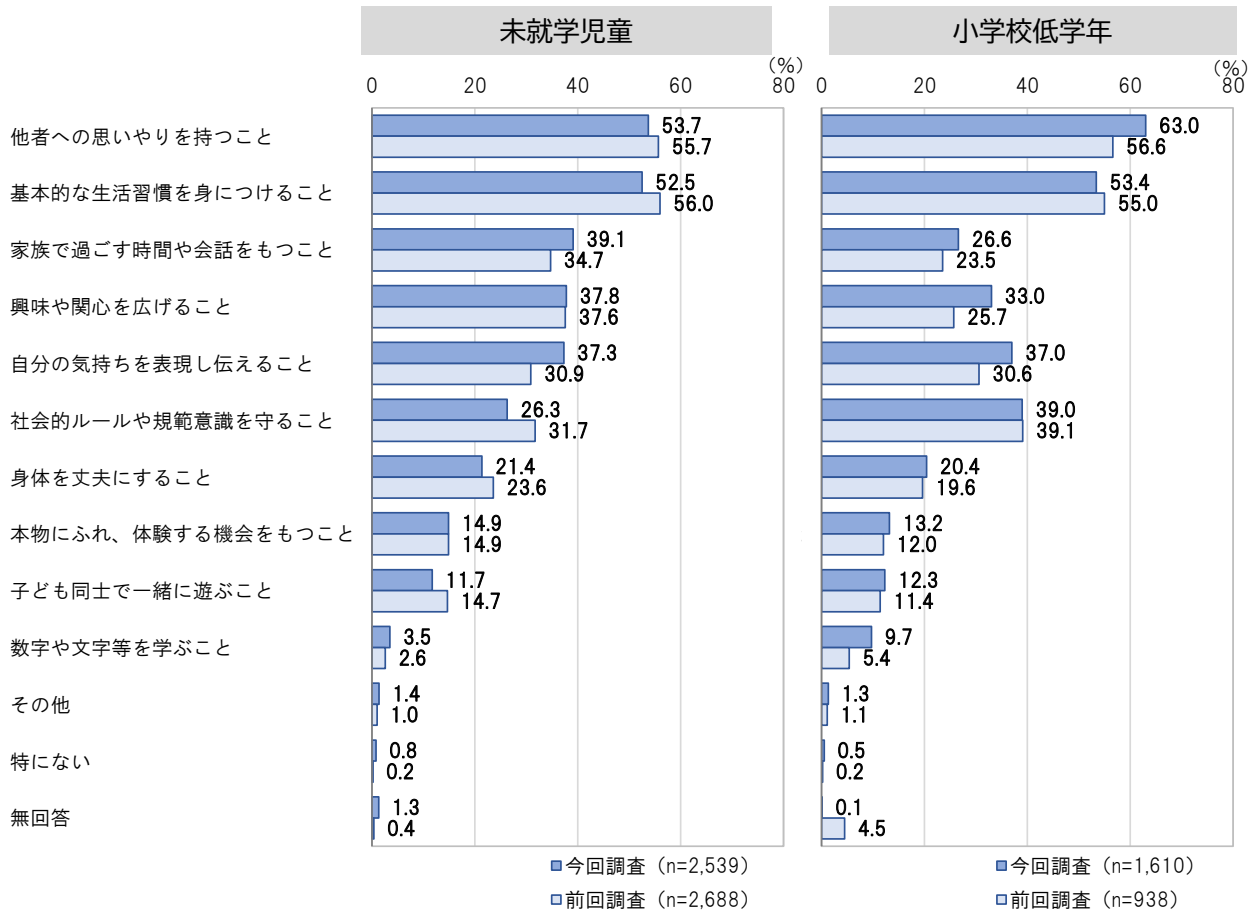
○未就学児童では「家族で過ごす時間や会話をもつこと」や「興味や関心を広げること」が小学校低学年に比べて高く、小学校低学年では「他者への思いやりを持つこと」や「社会的ルールや規範意識を守ること」が未就学児童に比べて高くなっている。



《経年比較》

○経年比較をみると、未就学児童・小学校低学年ともに、前回調査に比べて「家族で過ごす時間や会話をもつこと」や「自分の気持ちを表現し伝えること」が高くなっている。

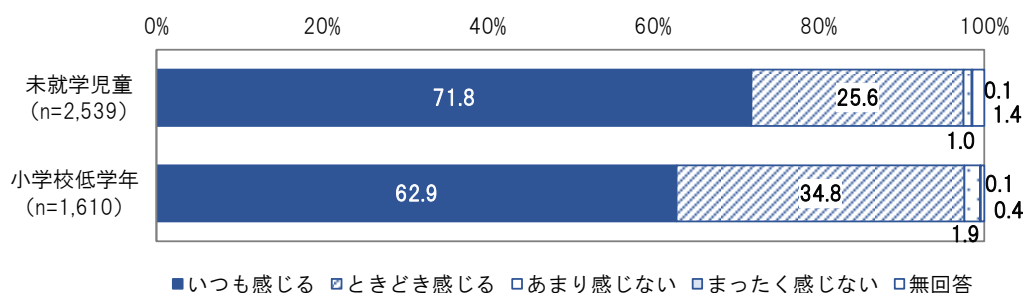
○また、小学校低学年では「他者への思いやりを持つこと」や「興味や関心を広げること」などでも大きく増加している。



(2) 子育てに対して感じていること【未就学／問 14 単数回答、小学生／問 16 単数回答】

① 子どもと過ごす楽しさや幸福感

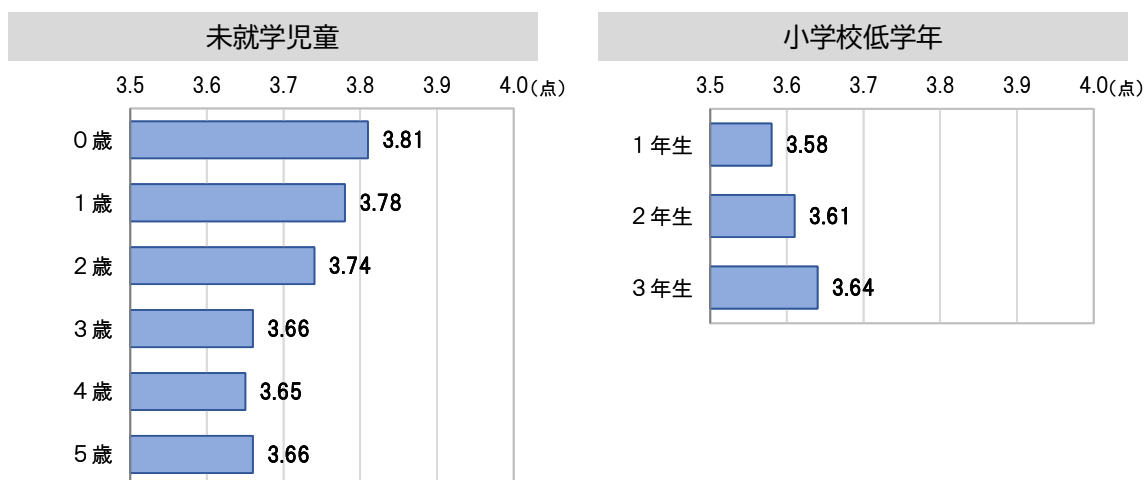
○子どもと過ごす楽しさや幸福感は、「いつも感じる」が未就学児童で 71.8%、小学校低学年で 62.9%と最も高く、次いで「ときどき感じる」が未就学児童で 25.6%、小学校低学年で 34.8%となっている。



《年齢・学年別比較（点数化）》

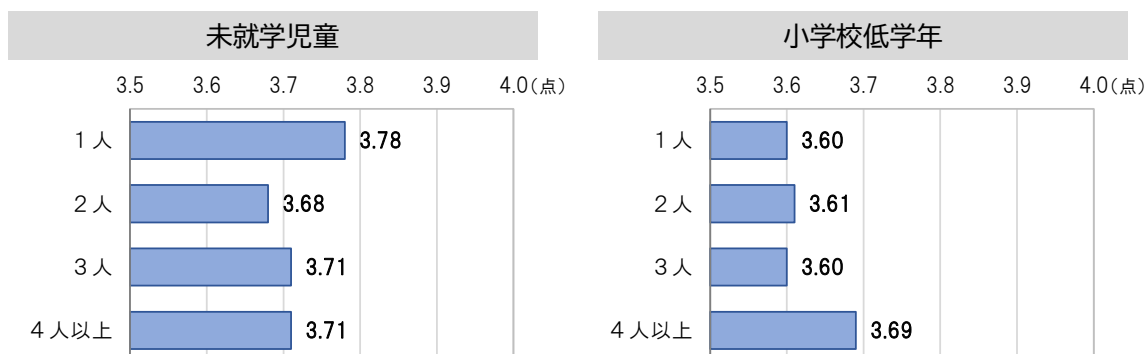
※点数化に際しては…「いつも感じる」を4点、「ときどき感じる」を3点、「あまり感じない」を2点、「まったく感じない」を1点とした各属性の合計点を、不明・無回答を除いた回答者数で除し、平均点を算出している。（以下、同様）

○年齢・学年別にみると、未就学児童では〔5歳〕を除いて年齢が下がるにつれて点数が高く（幸福感が高く）、小学校低学年では、学年が上がるにつれて点数が高く（幸福感が高く）になっている。



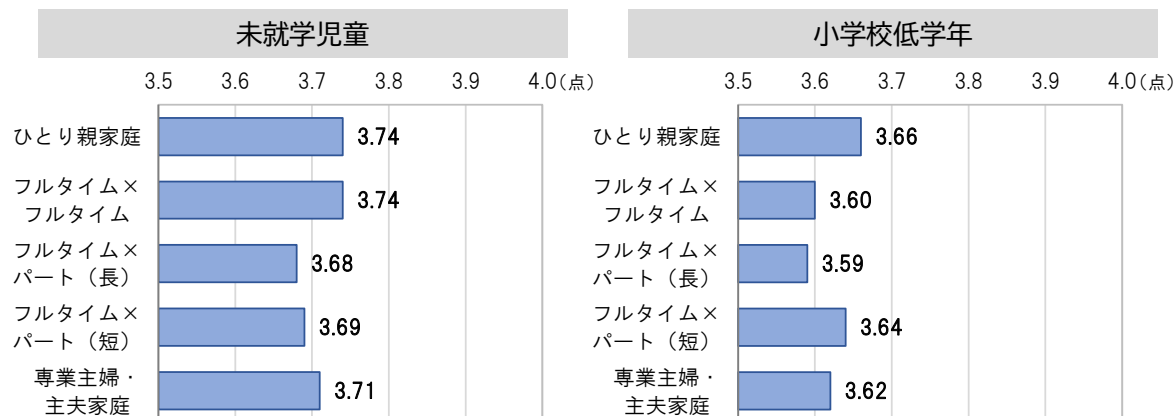
《子どもの人数別比較（点数化）》

○子どもの人数別にみると、未就学児童では〔1人〕で最も点数が高く（幸福感が高く）、小学校低学年では〔4人以上〕で最も点数が高く（幸福感が高く）になっている。



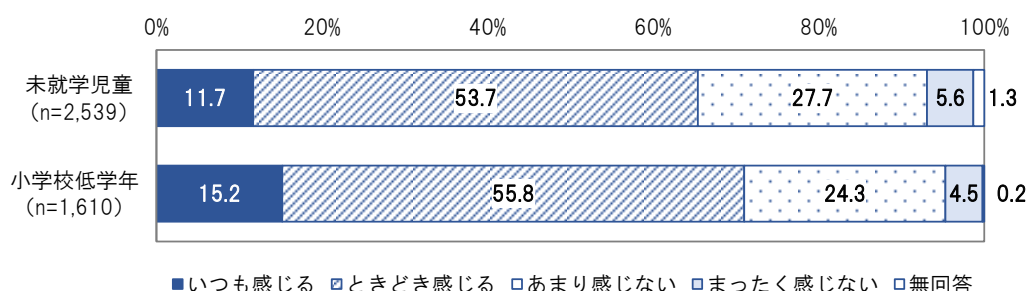
《家庭類型別比較（点数化）》

○家庭類型別にみると、未就学児童では〔ひとり親家庭〕〔フルタイム×フルタイム〕で最も点数が高く（幸福感が高く）、小学校低学年では〔ひとり親家庭〕で最も点数が高く（幸福感が高く）なっている。



② 子どもの成長や接し方の不安感

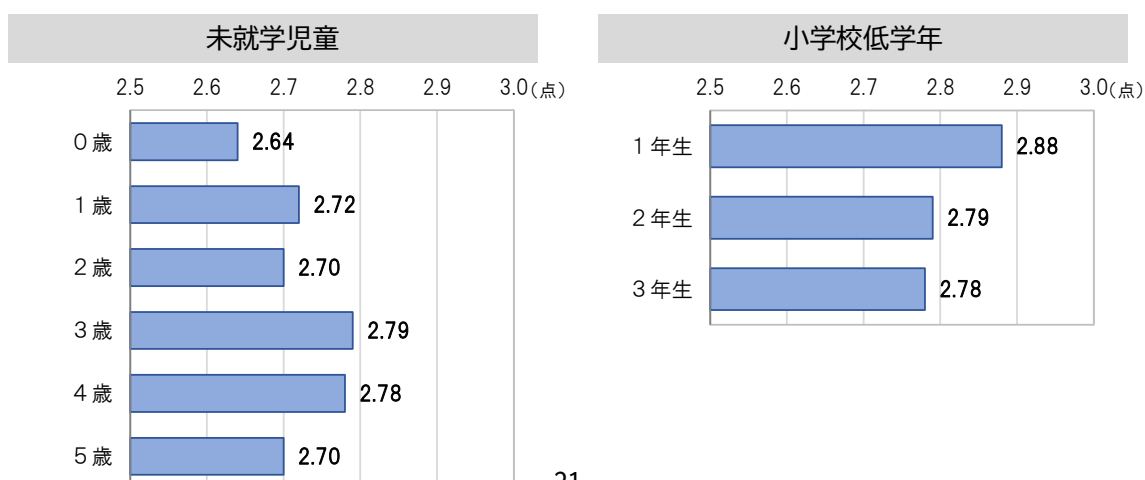
○子どもの成長や接し方の不安感は、「ときどき感じる」が未就学児童で 53.7%、小学校低学年で 55.8%と最も高く、「いつも感じる」と合わせた『感じる』が未就学児童では6割以上、小学校低学年では約7割となっている。



《年齢・学年別比較（点数化）》

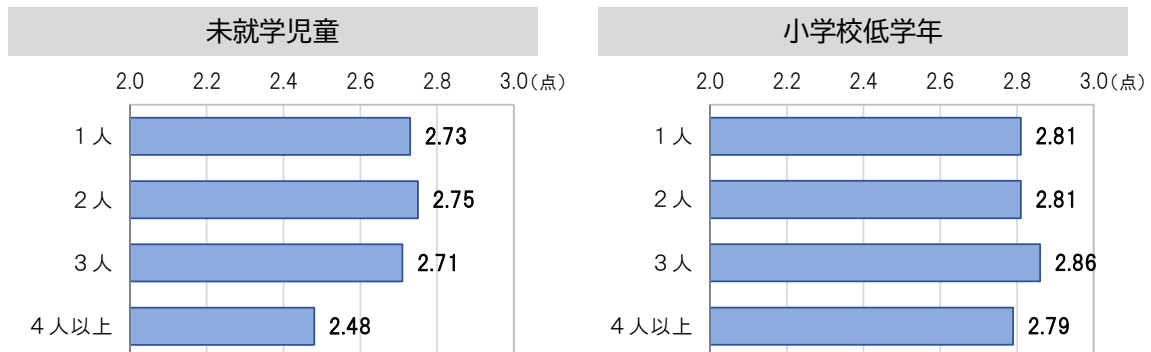
※点数化に際しては…「いつも感じる」を4点、「ときどき感じる」を3点、「あまり感じない」を2点、「まったく感じない」を1点とした各属性の合計点を、不明・無回答を除いた回答者数で除し、平均点を算出している。（以下、同様）

○年齢・学年別にみると、未就学児童では年齢による相関はみられないが、小学校低学年では、学年が上がるにつれ点数が低く（不安感が少なく）なっている。



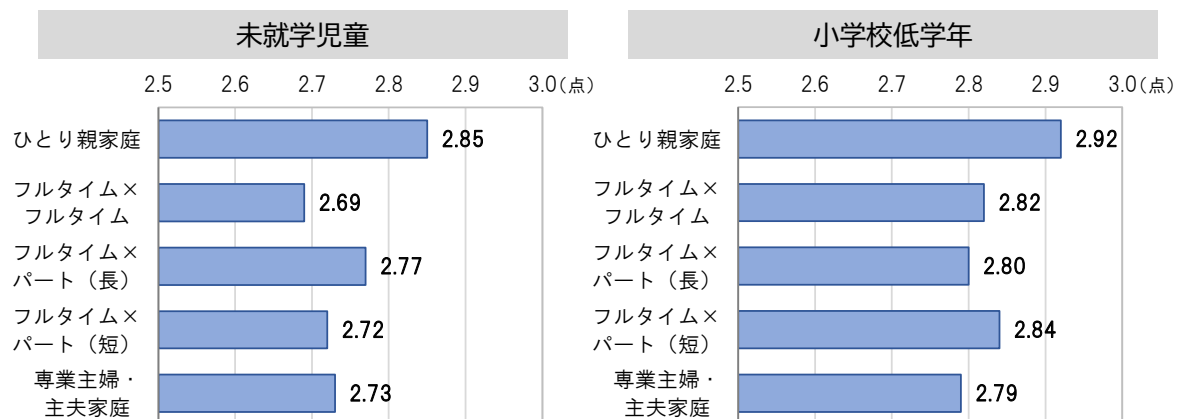
《子どもの人数別比較（点数化）》

○子どもの人数別にみると、未就学児童・小学校低学年ともに、[4人以上]で最も点数が低く（不安感が少なく）なっている。



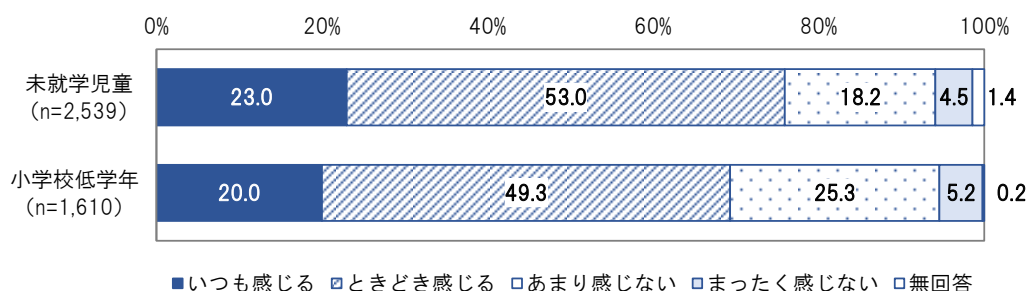
《家庭類型別比較（点数化）》

○家庭類型別にみると、未就学児童・小学校低学年ともに[ひとり親家庭]で最も点数が高く（不安感が多く）なっている。



③ 体力的な負担感

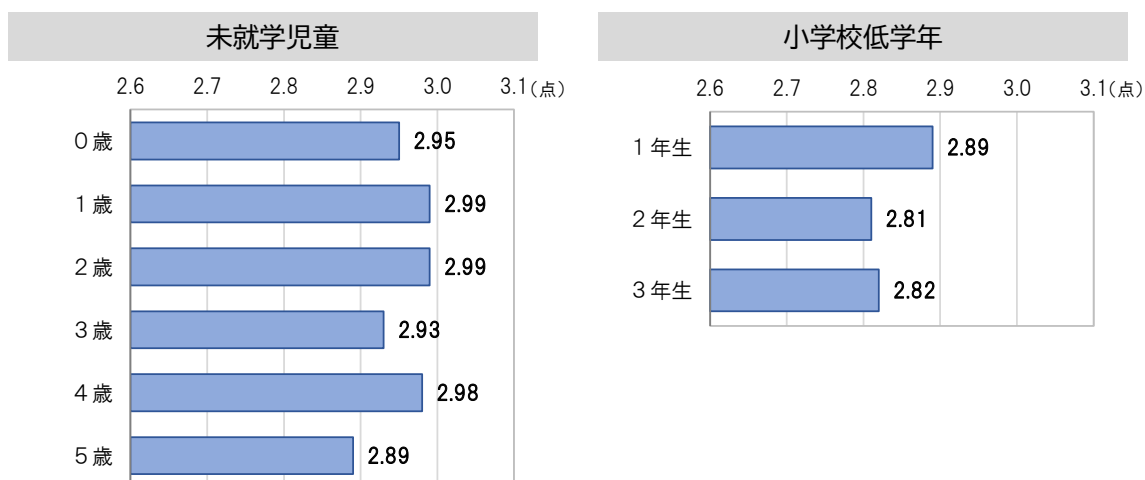
○体力的な負担感は、「ときどき感じる」が未就学児童で53.0%、小学校低学年で49.3%と最も高く、「いつも感じる」と合わせた『感じる』が未就学児童では7割以上、小学校低学年では約7割となっている。



《年齢・学年別比較（点数化）》

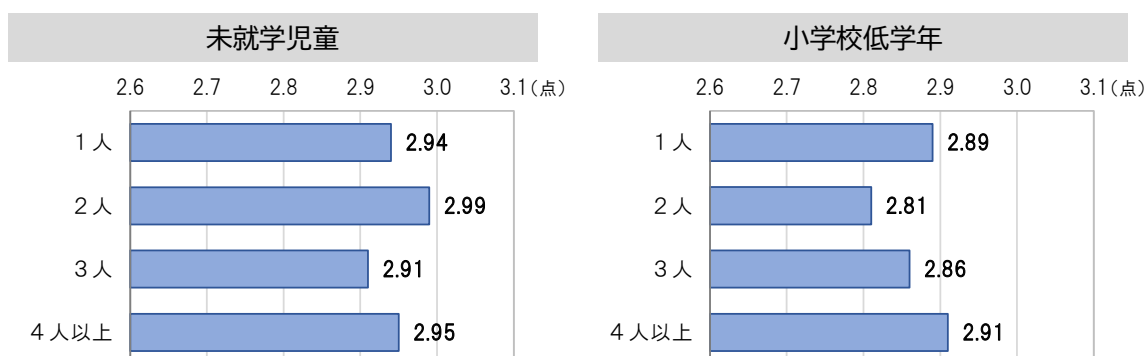
※点数化に際しては…「いつも感じる」を4点、「ときどき感じる」を3点、「あまり感じない」を2点、「まったく感じない」を1点とした各属性の合計点を、不明・無回答を除いた回答者数で除し、平均点を算出している。（以下、同様）

○年齢・学年別にみると、未就学児童ではすべての年齢で2.9～3.0点と高く、年齢による相関はみられないが、小学校低学年では、[1年生]で最も点数が高く（負担感が多く）なっている。



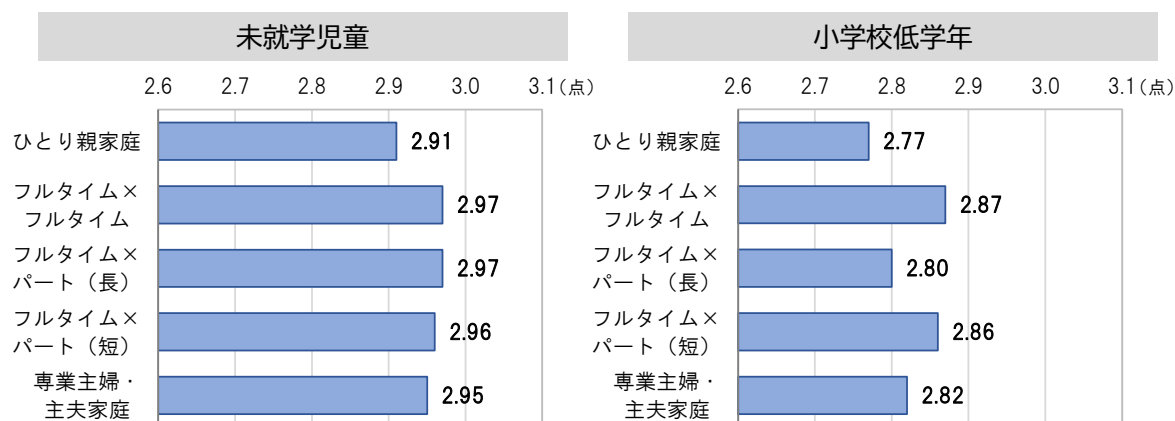
《子どもの人数別比較（点数化）》

○子どもの人数別にみると、未就学児童・小学校低学年ともに子どもの人数による相関はみられない。



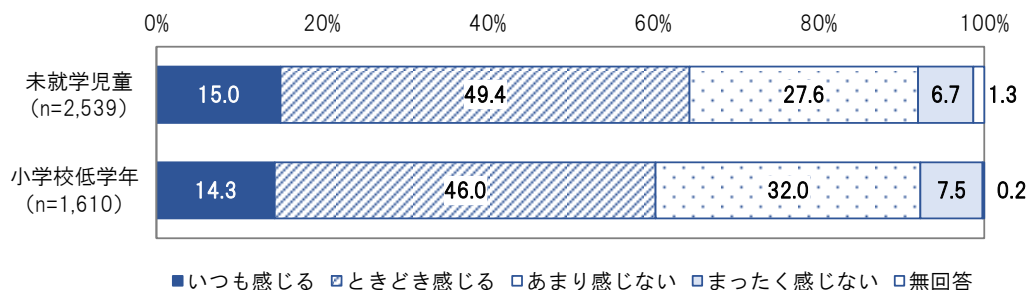
《家庭類型別比較（点数化）》

○家庭類型別にみると、未就学児童・小学校低学年ともに[ひとり親家庭]で最も点数が低く（負担感が少なく）なっている。



④ 精神的な負担感

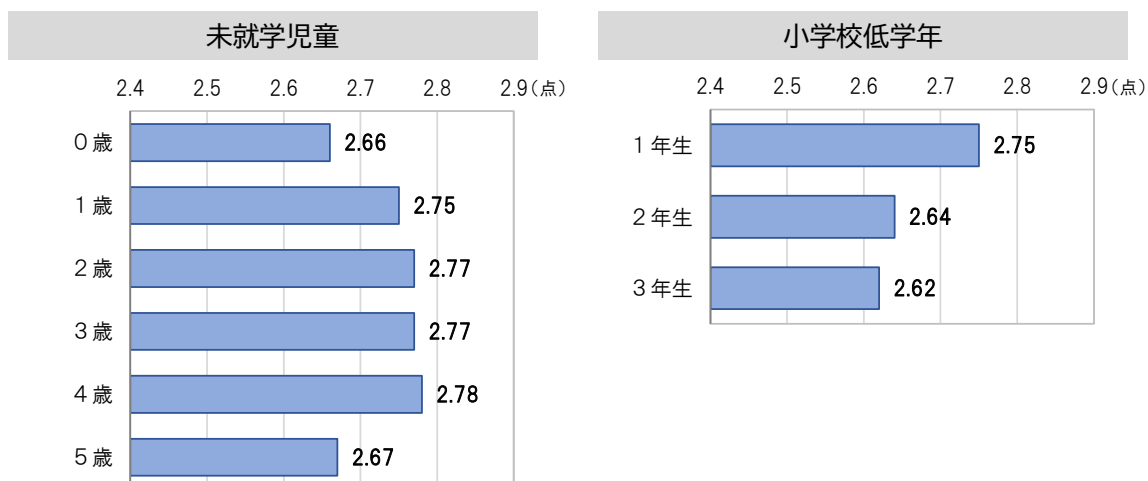
○精神的な負担感は、「ときどき感じる」が未就学児童で 49.4%、小学校低学年で 46.0%と最も高く、「いつも感じる」と合わせた『感じる』が未就学児童で 6 割以上、小学校低学年では約 6 割となっている。



《年齢・学年別比較（点数化）》

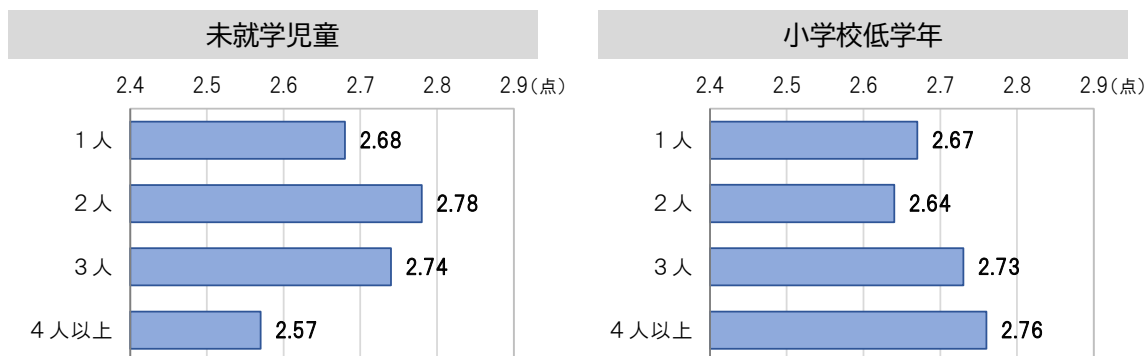
※点数化に際しては…「いつも感じる」を 4 点、「ときどき感じる」を 3 点、「あまり感じない」を 2 点、「まったく感じない」を 1 点とした各属性の合計点を、不明・無回答を除いた回答者数で除し、平均点を算出している。（以下、同様）

○年齢・学年別にみると、未就学児童では〔1 歳〕から〔4 歳〕で 2.7～2.8 点と高く、小学校低学年では、学年が上がるにつれ点数が低く（負担感が少なく）なっている。



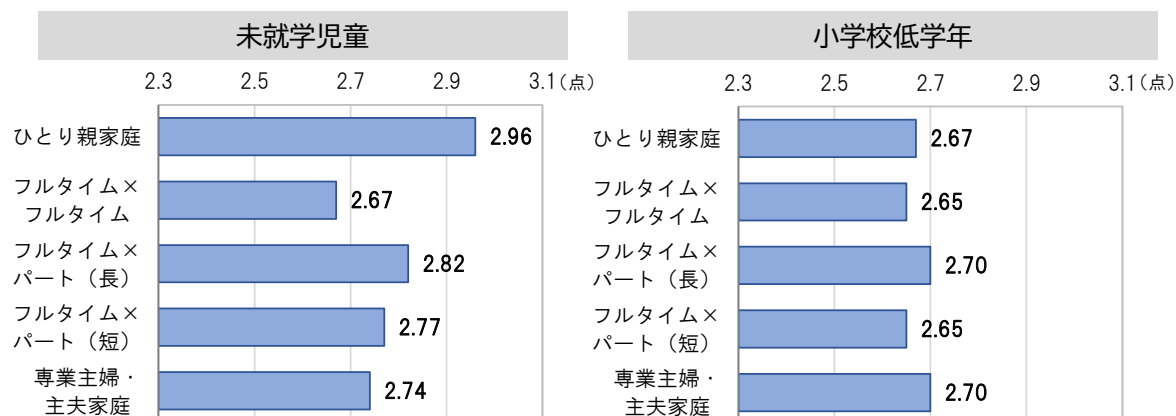
《子どもの人数別比較（点数化）》

○子どもの人数別にみると、未就学児童では〔2 人〕、小学校低学年では〔4 人以上〕で最も点数が高く（負担感が高く）なっている。



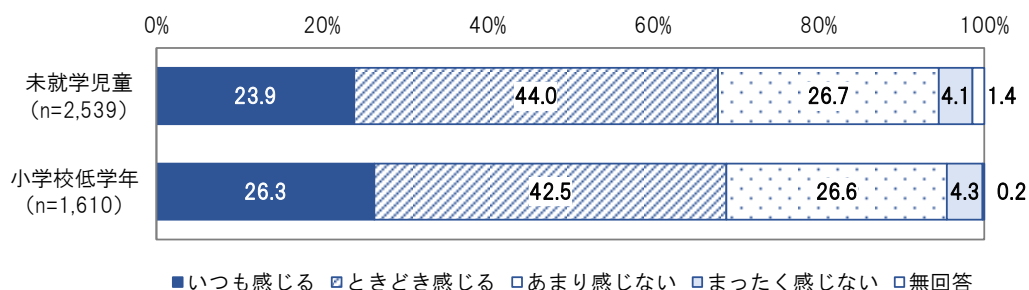
《家庭類型別比較（点数化）》

○家庭類型別にみると、未就学児童では〔ひとり親家庭〕で最も点数が高く（負担感が高く）、〔フルタイム×フルタイム〕で最も点数が低く（負担感が低く）なっているのに対し、小学校低学年ではすべての家族類型で同程度となっている。



⑤ 経済的な負担感

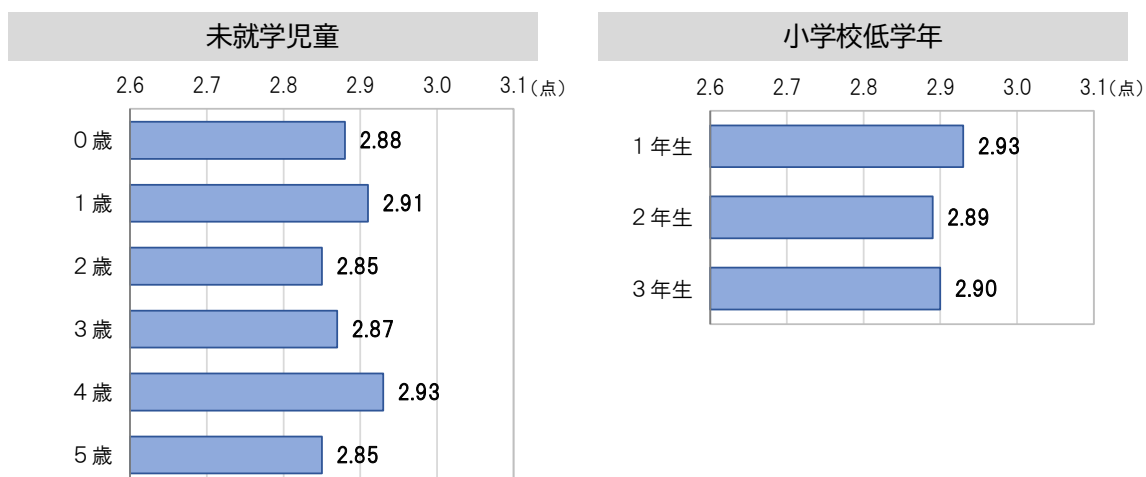
○経済的な負担感は、「ときどき感じる」が未就学児童で44.0%、小学校低学年で42.5%と最も高く、「いつも感じる」と合わせた『感じる』が未就学児童・小学校低学年ともに7割近くとなっており、大きな差異はみられない。



《年齢・学年別比較（点数化）》

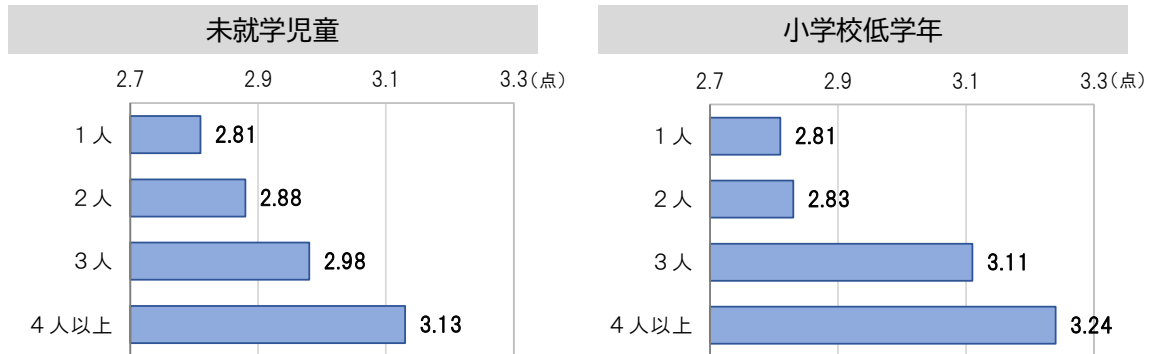
※点数化に際しては…「いつも感じる」を4点、「ときどき感じる」を3点、「あまり感じない」を2点、「まったく感じない」を1点とした各属性の合計点を、不明・無回答を除いた回答者数で除し、平均点を算出している。（以下、同様）

○年齢・学年別にみると、未就学児童・小学校低学年ともに年齢・学年別での相関はみられない。



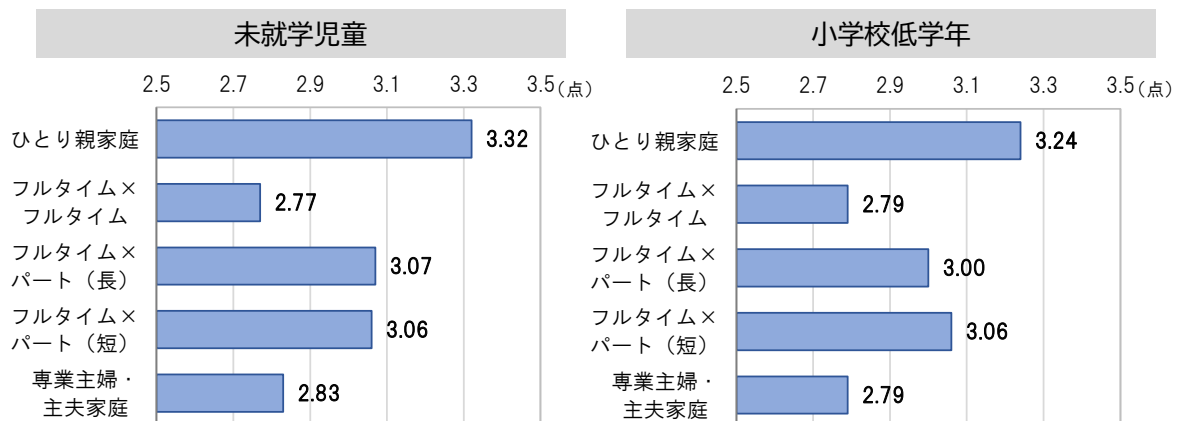
《子どもの人数別比較（点数化）》

○子どもの人数別にみると、未就学児童・小学校低学年ともに、子どもの人数が多くなるにつれて点数が高く（負担感が高く）なっており、未就学児童では〔4人以上〕、小学校低学年では〔3人〕および〔4人以上〕で3点以上の点数となっている。



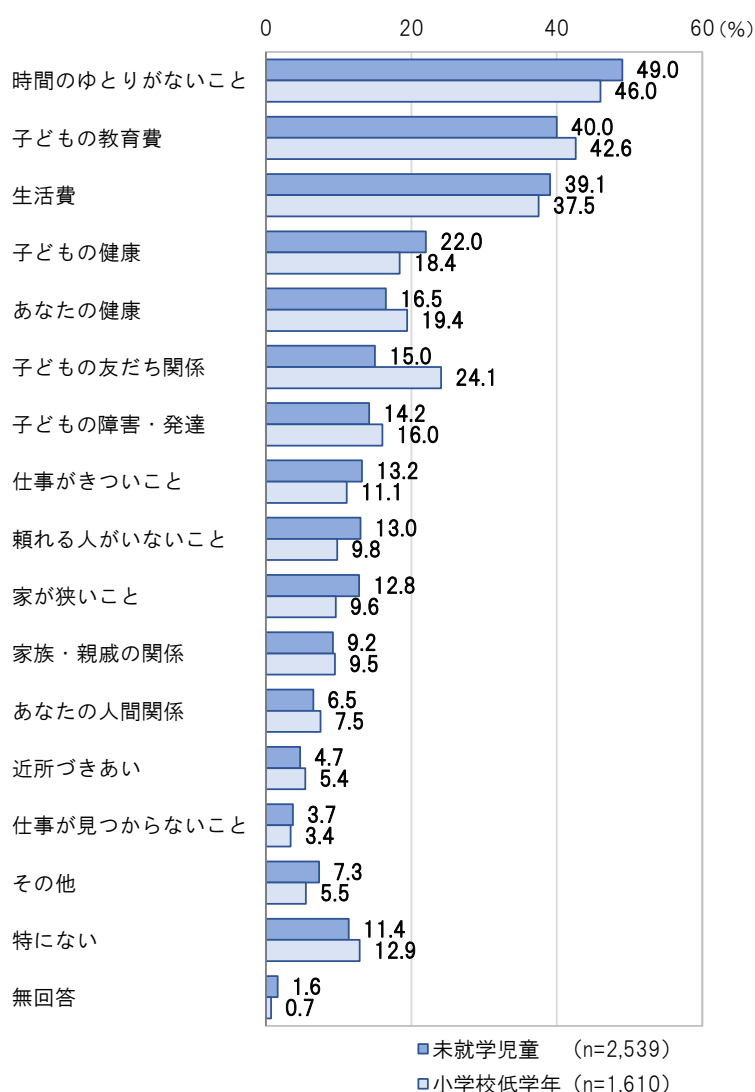
《家庭類型別比較（点数化）》

○家庭類型別にみると、未就学児童・小学校低学年ともに〔ひとり親家庭〕で最も点数が高く（負担感が高く）、〔フルタイム×フルタイム〕〔専業主婦・主夫家庭〕で点数が低く（負担感が低く）なっている。



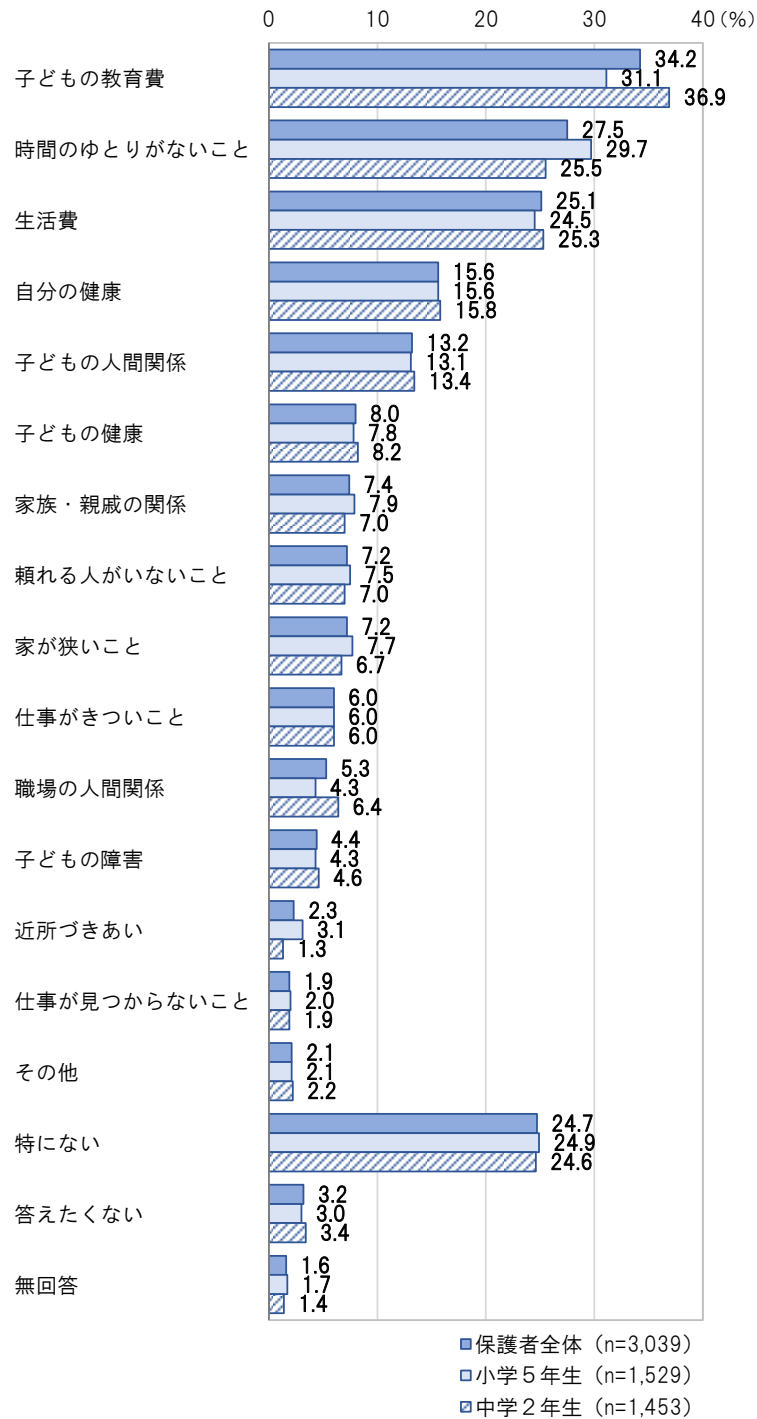
(3) 日常的に困っていること【未就学／問 15 複数回答、小学生／問 17 複数回答】

- 日常的に困っていることは、「時間のゆとりがないこと」が未就学児童で 49.0%、小学校低学年で 46.0%と最も高く、次いで「子どもの教育費」（未就学児童：40.0%、小学校低学年：42.6%）、「生活費」（未就学児童：39.1%、小学校低学年：37.5%）となっている。
- 小学校低学年では、「子どもの友だち関係」が未就学児童に比べて 10 ポイント近く高くなっている。
- その他の意見では、未就学児童、小学校低学年ともに「仕事や家事と育児の両立」や「一人で育児を担っていること（ワンオペ育児）」といった回答が多くみられ、他では未就学児童では「遊ぶ場所が少ない」や「上の子どもへの対応（きつくあたってしまう）」「保育園に入所できないこと」、小学校低学年では「子どもの放課後の居場所」や「学校への行きしぶり」「家族の健康」などの回答がみられた。



【参考】「子どもの生活実態調査」（令和5年9月実施）より

○小学5年生・中学2年生の保護者を対象とした「子どもの生活実態調査」の調査結果と比較すると、上位3項目の「時間のゆとりがないこと」と「子どもの教育費」、「生活費」は同様であるものの、子どもの年代が低いほど「子どもの健康」や「時間のゆとりがないこと」が高くなる傾向がみられ、子どもの年代が高くなるにつれて「子どもの教育費」や「子どもの人間関係（友だち関係）」が高くなる傾向がみられる。



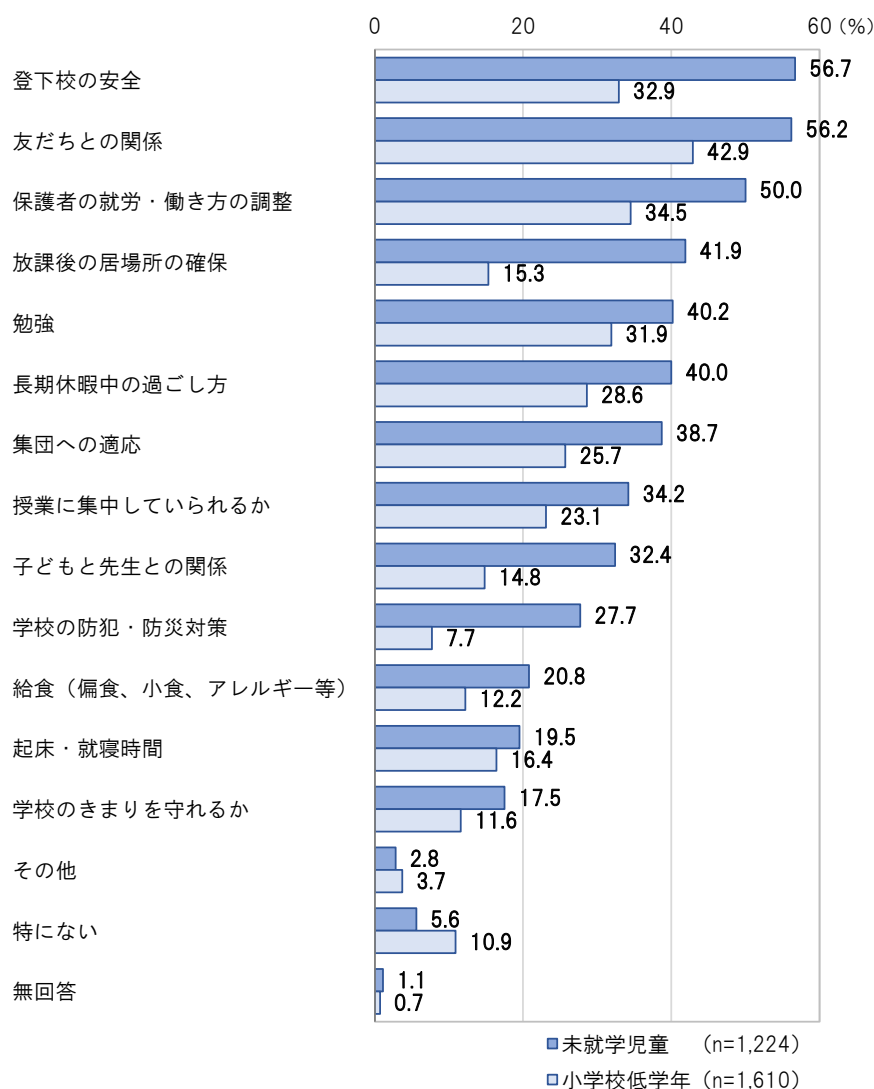
(4) 就学後の生活で子ども自身や保護者の適応・対応が難しかったこと（不安なこと）

【未就学（3歳以上）／問 27 複数回答、小学生／問 18 複数回答】

○未就学児童の子どもの就学で不安なことは、「登下校の安全」が 56.7%と最も高く、次いで「友だちとの関係」(56.2%)、「保護者の就労・働き方の調整」(50.0%)、「放課後の居場所の確保」(41.9%)となっている。

○小学校低学年の子ども自身や保護者の適応・対応が難しかったことは、「友だちとの関係」が 42.9%と最も高く、次いで「保護者の就労・働き方の調整」(34.5%)、「登下校の安全」(32.9%)、「勉強」(31.9%)となっている。

○未就学児童の不安と小学校低学年での実際に困ったことを比較すると、「登下校の安全」や「放課後の居場所の確保」、「学校の防犯・防災対策」などの安全面に対する項目で 20 ポイント以上の差がみられる。



《学年別・子どもの人数別比較：小学校低学年》

○学年別にみると、学年が上がるにつれて「長期休暇の過ごし方」が高くなり、学年が下がるにつれて「登下校の安全」や「集団への適応」、「授業に集中していただけるか」、「給食（偏食、小食、アレルギー等）」、「学校のきまりを守れるか」などが高くなる傾向がみられる。

○子どもの人数別にみると、子どもの人数が少なくなるにつれて「登下校の安全」や「集団への適応」、「放課後の居場所の確保」が高くなり、子どもの人数が多くなるにつれて「長期休暇中の過ごし方」が高くなる傾向がみられる。

(%)

		回答者数（人）	友だちとの関係	保護者の就労・働き方の調整	登下校の安全	勉強	長期休暇中の過ごし方	集団への適応	授業に集中していただけるか	起床・就寝時間
学年別	1年生	522	42.5	36.2	40.2	29.1	25.3	32.6	25.3	18.4
	2年生	562	44.8	31.7	32.0	33.6	26.7	24.6	23.3	14.8
	3年生	513	40.5	36.1	25.9	32.4	33.7	19.3	20.5	16.0
子どもの人数	1人	267	49.4	33.0	42.3	29.6	23.6	34.1	29.6	17.2
	2人	891	44.2	34.9	31.4	31.8	28.1	25.4	22.1	17.2
	3人	368	36.1	35.3	31.5	35.1	32.9	22.8	20.7	16.0
	4人以上	80	40.0	31.3	25.0	27.5	32.5	15.0	25.0	7.5

(つづき)		回答者数（人）	放課後の居場所の確保	子どもと先生との関係	給食（偏食、小食、アレルギー等）	学校のきまりを守れるか	学校の防犯・防災対策	その他	特にない	無回答
学年別	1年生	522	15.3	14.4	14.6	13.6	7.7	3.1	7.9	1.0
	2年生	562	12.8	15.5	11.2	12.1	7.5	3.7	12.3	0.7
	3年生	513	17.7	14.0	11.1	8.4	8.0	4.3	12.7	0.6
子どもの人数	1人	267	17.2	17.6	18.4	15.4	7.1	4.9	8.6	0.7
	2人	891	16.2	14.5	11.1	11.2	8.2	3.6	10.5	1.0
	3人	368	12.8	13.6	12.8	9.8	6.5	2.7	12.0	0.3
	4人以上	80	11.3	15.0	2.5	11.3	10.0	5.0	16.3	-

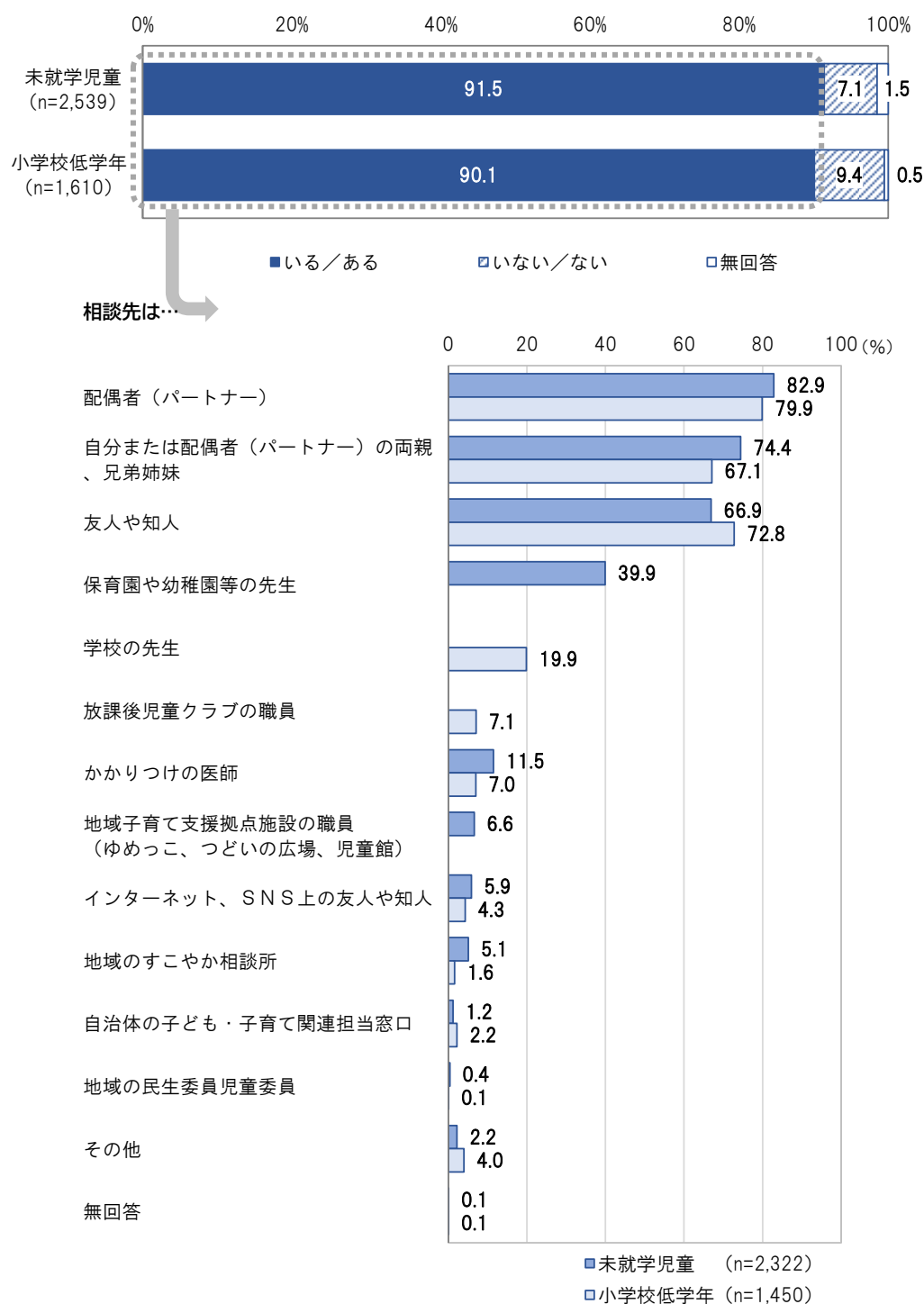
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(5) 子育てをする上で気軽に相談できる人や場所

【未就学／問16 単数回答、問16-1 複数回答 小学生／問19 単数回答、問19-1 複数回答】

○子育てをする上で気軽に相談できる人や場所の有無は、「いる／ある」が未就学児童で91.5%、小学校低学年で90.1%となっている。

○また、相談先がある人の具体的な相談先では、未就学児童・小学校低学年ともに「配偶者（パートナー）」や「自分または配偶者（パートナー）の両親、兄弟姉妹」、「友人や知人」が上位項目となっており、身近な家族や友人に相談する人が多い傾向となっている。また、未就学児童では「保育園や幼稚園等の先生」が約4割、小学校低学年では「学校の先生」が約2割となっている。



《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、小学校低学年では「友人や知人」が「自分または配偶者（パートナー）の両親、兄弟姉妹」に比べて高くなっている。また、未就学児童では「専業主婦・主夫家庭」で「地域子育て支援拠点施設の職員」がその他の家庭類型に比べて高くなっている。

(%)

		回答者数（人）	配偶者（パートナー）	自分または配偶者（パートナー）の両親、兄弟姉妹	友人や知人	保育園や幼稚園等の先生	学校の先生	放課後児童クラブの職員	かかりつけの医師
未就学児童	ひとり親家庭	87	4.6	71.3	69.0	40.2			3.4
	フルタイム×フルタイム	962	88.9	75.7	64.8	43.1			11.6
	フルタイム×パート（長）	428	81.8	71.3	68.0	47.4			13.8
	フルタイム×パート（短）	171	85.4	73.1	74.9	39.2			9.9
	専業主婦・主夫家庭	637	85.2	74.9	67.2	29.7			11.1
小学校低学年	ひとり親家庭	72	-	58.3	73.6		19.4	9.7	9.7
	フルタイム×フルタイム	484	82.2	66.3	65.9		18.2	12.0	5.8
	フルタイム×パート（長）	309	85.8	68.9	76.1		20.7	9.7	5.8
	フルタイム×パート（短）	264	83.3	67.0	79.2		23.9	1.5	8.0
	専業主婦・主夫家庭	301	86.0	69.4	74.4		19.3	1.3	8.6

	(つづき)	回答者数（人）	地域子育て支援拠点施設の職員（ゆめっこ、つどいの広場、児童館）	インターネット、SNS上の友人や知人	地域のすこやか相談所	自治体の子ども・子育て関連担当窓口	地域の民生委員児童委員	その他	無回答
未就学児童	ひとり親家庭	87	2.3	3.4	5.7	1.1	-	1.1	-
	フルタイム×フルタイム	962	6.8	6.5	5.1	0.4	0.1	3.1	0.1
	フルタイム×パート（長）	428	2.3	5.6	1.6	1.4	0.7	1.4	-
	フルタイム×パート（短）	171	6.4	4.7	3.5	2.3	-	1.2	-
	専業主婦・主夫家庭	637	10.0	5.3	7.8	1.7	0.8	1.6	0.3
小学校低学年	ひとり親家庭	72		4.2	-	6.9	-	5.6	-
	フルタイム×フルタイム	484		4.3	0.4	2.1	-	4.3	0.2
	フルタイム×パート（長）	309		4.2	2.6	1.9	-	2.9	-
	フルタイム×パート（短）	264		4.2	1.1	2.7	-	4.2	-
	専業主婦・主夫家庭	301		4.3	3.3	1.3	0.7	3.3	-

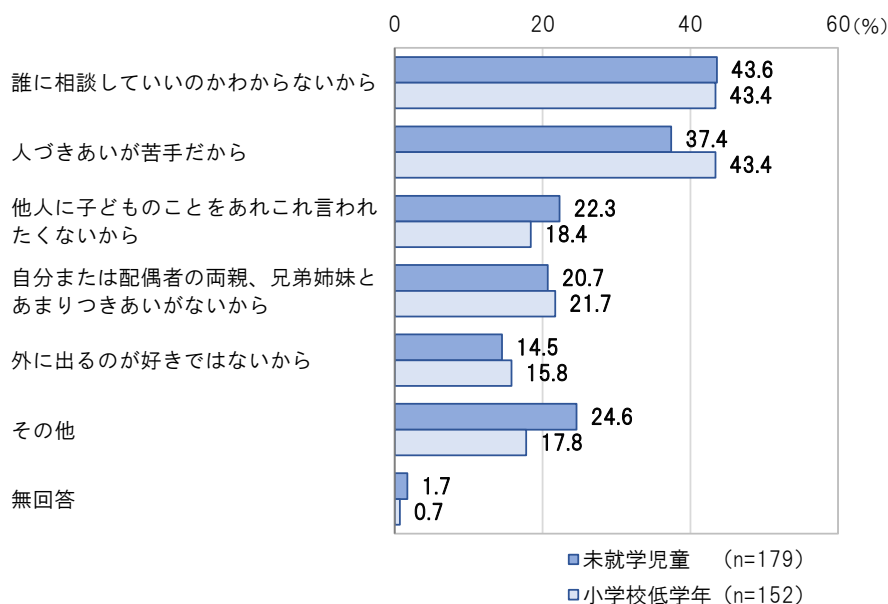
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（５－１）相談先がない（相談しない）理由【未就学／問 16-2 複数回答 小学生／問 19-2 複数回答】

※（５）で「いない／ない」と回答した人のみ

○相談先がない（相談しない）理由は、未就学児童では「誰に相談していいのかわからないから」が43.6%と最も高く、小学校低学年では「誰に相談していいのかわからないから」と「人づきあいが苦手だから」がともに43.4%と最も高くなっている。

○その他の意見では、未就学児童、小学校低学年ともに「仕事等で忙しくて時間がない」の回答が多く、「自分で調べる」「相談しても仕方ない」などの回答もみられた。



《家庭類型別比較》

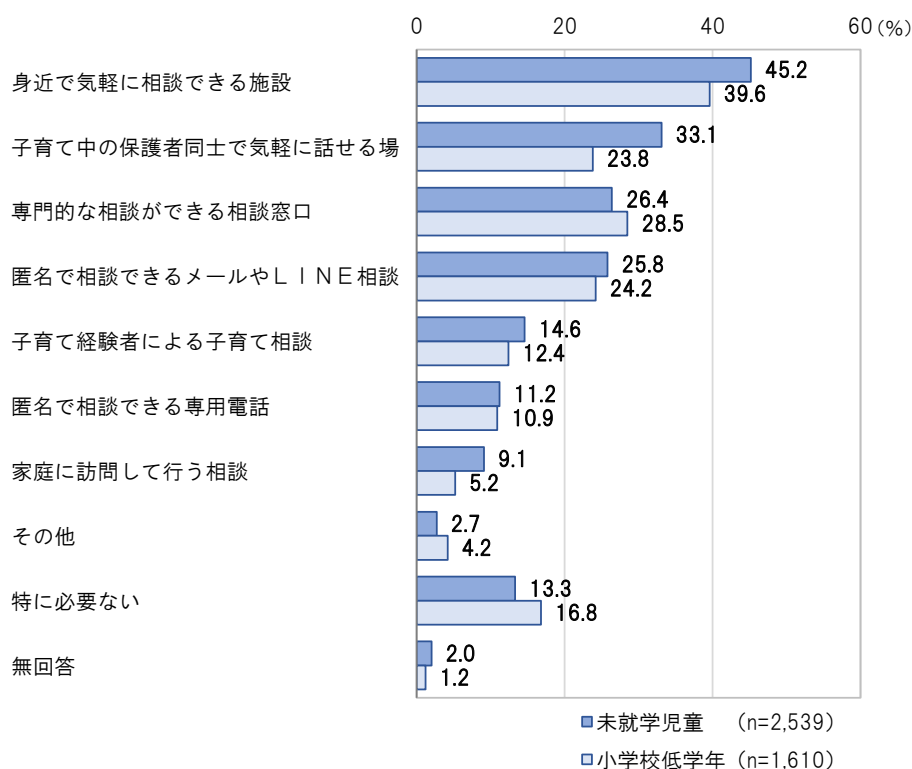
○家庭類型別にみると、未就学児童の「ひとり親家庭」では「誰に相談していいのかわからないから」がその他の家庭類型に比べて高くなっている。

		回答者数（人）	誰に相談していいのかわからないから	人づきあいが苦手だから	他人に子どものことをあれこれ言われたくないから	自分または配偶者の両親、兄弟姉妹とあまりつきあいがいいから	外に出るのが好きではないから	その他	無回答
未就学児童	ひとり親家庭	14	57.1	28.6	35.7	21.4	14.3	21.4	－
	フルタイム×フルタイム	73	46.6	38.4	23.3	21.9	11.0	24.7	1.4
	フルタイム×パート（長）	23	34.8	39.1	21.7	13.0	26.1	21.7	8.7
	フルタイム×パート（短）	13	46.2	53.8	23.1	23.1	15.4	38.5	－
	専業主婦・主夫家庭	55	40.0	34.5	18.2	20.0	14.5	23.6	－
小学校低学年	ひとり親家庭	6	50.0	33.3	－	33.3	16.7	50.0	－
	フルタイム×フルタイム	57	45.6	36.8	15.8	10.5	14.0	17.5	1.8
	フルタイム×パート（長）	30	53.3	40.0	13.3	23.3	13.3	23.3	－
	フルタイム×パート（短）	22	36.4	36.4	27.3	31.8	9.1	13.6	－
	専業主婦・主夫家庭	33	33.3	63.6	24.2	33.3	24.2	12.1	－

※1 番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

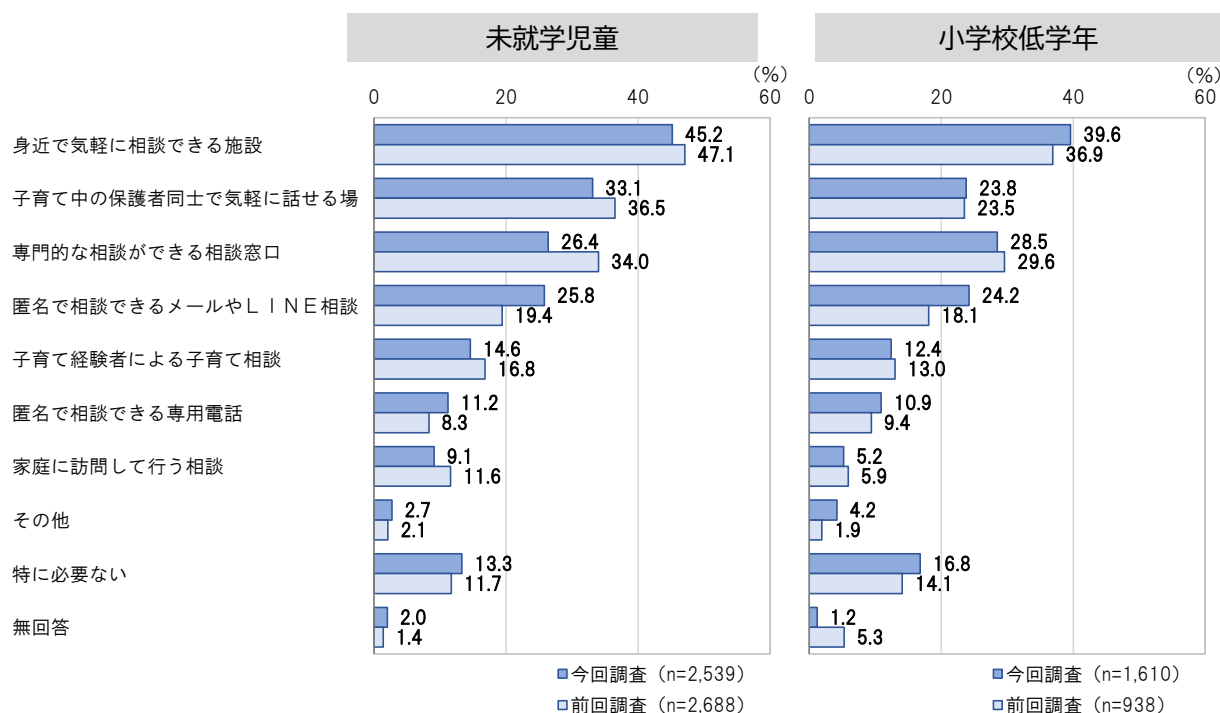
(6) あれば良い(良かった)と思う相談先【未就学／問 17 複数回答 小学生／問 20 複数回答】

○あれば良い(良かった)と思う相談先は、「身近で気軽に相談できる施設」が未就学児童で 45.2%、小学校低学年で 39.6%と最も高く、次いで未就学児童では「子育て中の保護者同士で気軽に話せる場」(33.1%)、小学校低学年では「専門的な相談ができる相談窓口」(28.5%)となっている。



《経年比較》

○経年比較をみると、未就学児童・小学校低学年ともに、前回調査に比べて「匿名で相談できるメールやLINE相談」や「匿名で相談できる専用電話」が高くなっている。



《年齢・学年別比較》

○年齢・学年別にみると、[0歳]では「匿名で相談できるメールやLINE相談」や「家庭に訪問して行う相談」が他の年齢に比べて高くなっている。

(%)

		回答者数 (人)	身近で気軽に相談できる施設	子育て中の保護者同士で気軽に話せる場	専門的な相談ができる相談窓口	匿名で相談できるメールやLINE相談	子育て経験者による子育て相談	匿名で相談できる専用電話	家庭に訪問して行う相談	その他	特に必要ない	無回答
年齢別	0歳	429	48.3	34.0	27.5	32.2	15.9	10.7	13.8	2.1	9.8	2.8
	1歳	427	51.5	39.1	26.2	26.0	15.9	11.0	9.6	1.9	10.3	4.2
	2歳	388	45.6	35.6	25.0	20.6	16.5	12.4	8.0	2.8	12.6	1.8
	3歳	395	42.3	31.4	25.8	26.3	13.7	8.9	9.6	4.1	12.7	0.5
	4歳	457	43.1	30.2	26.7	25.8	11.6	11.8	8.1	2.4	17.9	0.4
	5歳	372	41.4	28.5	27.7	23.4	14.2	12.1	6.5	3.8	15.1	1.9
学年別	1年生	522	41.6	23.9	30.8	24.9	10.9	12.3	5.9	4.2	17.0	0.2
	2年生	562	37.5	23.3	26.9	23.5	13.9	9.8	5.7	4.1	16.7	1.4
	3年生	513	39.6	24.4	27.9	24.2	12.3	10.7	3.7	4.1	16.6	2.1

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《相談できる人等の有無別比較》

○相談できる人等の有無別にみると、[相談できる人等がない／ない]人では「専門的な相談ができる相談窓口」や「匿名で相談できるメールやLINE相談」、「匿名で相談できる専用電話」、「家庭に訪問して行う相談」などで、[相談できる人等がいる／ある]人に比べて高い割合となっている。

(%)

		回答者数 (人)	身近で気軽に相談できる施設	子育て中の保護者同士で気軽に話せる場	専門的な相談ができる相談窓口	匿名で相談できるメールやLINE相談	子育て経験者による子育て相談	匿名で相談できる専用電話	家庭に訪問して行う相談	その他	特に必要ない	無回答
未就学	いる／ある	2322	46.3	34.2	26.1	26.0	15.1	11.2	8.9	2.7	13.2	0.8
	いない／ない	179	38.5	24.6	34.1	26.3	10.6	12.3	14.0	3.4	17.9	0.6
小学生	いる／ある	1450	40.3	25.2	28.4	23.6	13.0	10.6	4.8	3.7	16.6	1.0
	いない／ない	152	34.2	11.2	28.9	31.6	6.6	13.8	9.2	8.6	19.1	1.3

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、小学校低学年の〔フルタイム×フルタイム〕〔フルタイム×パート（長）〕では、その他の家庭類型に比べて「身近で気軽に相談できる施設」や「専門的な相談ができる相談窓口」がやや低く、「匿名で相談できるメールやLINE相談」がやや高くなっている。

(%)

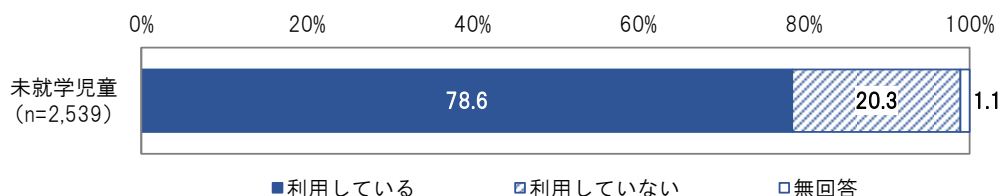
		回答者数（人）	身近で気軽に相談できる施設	子育て中の保護者同士で気軽に話せる場	専門的な相談ができる相談窓口	匿名で相談できるメールやLINE相談	子育て経験者による子育て相談	匿名で相談できる専用電話	家庭に訪問して行う相談	その他	特に必要ない	無回答
未就学児童	ひとり親家庭	101	38.6	28.7	26.7	23.8	13.9	11.9	9.9	5.0	14.9	-
	フルタイム×フルタイム	1,047	45.4	33.1	27.3	25.1	13.8	10.8	8.8	3.2	13.0	1.5
	フルタイム×パート（長）	458	42.8	32.8	22.1	23.8	16.8	12.9	9.4	1.5	12.9	2.0
	フルタイム×パート（短）	188	44.1	29.8	27.1	27.1	13.3	9.0	5.9	4.3	12.2	2.1
	専業主婦・主夫家庭	705	47.5	34.5	27.9	27.9	14.3	11.6	10.4	2.1	14.3	2.7
小学校低学年	ひとり親家庭	80	40.0	11.3	30.0	23.8	12.5	7.5	3.8	6.3	20.0	1.3
	フルタイム×フルタイム	543	38.1	23.8	26.7	25.0	12.5	11.0	4.8	5.3	17.7	1.1
	フルタイム×パート（長）	340	38.2	25.6	28.5	25.0	10.9	8.8	5.3	3.8	17.9	0.6
	フルタイム×パート（短）	287	44.6	22.3	30.3	24.0	12.9	14.3	4.5	2.8	13.6	2.1
	専業主婦・主夫家庭	336	40.2	27.4	30.1	21.1	13.7	10.7	6.3	3.3	16.1	0.9

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

4. 子どもの定期的な教育・保育事業の利用について

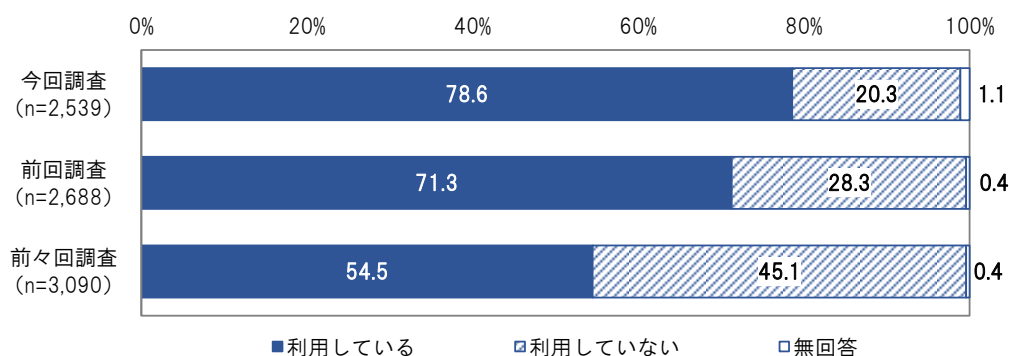
(1) 現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無【未就学／問 18 単数回答】

○現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無は、「利用している」が 78.6%、「利用していない」が 20.3%となっている。



《経年比較》

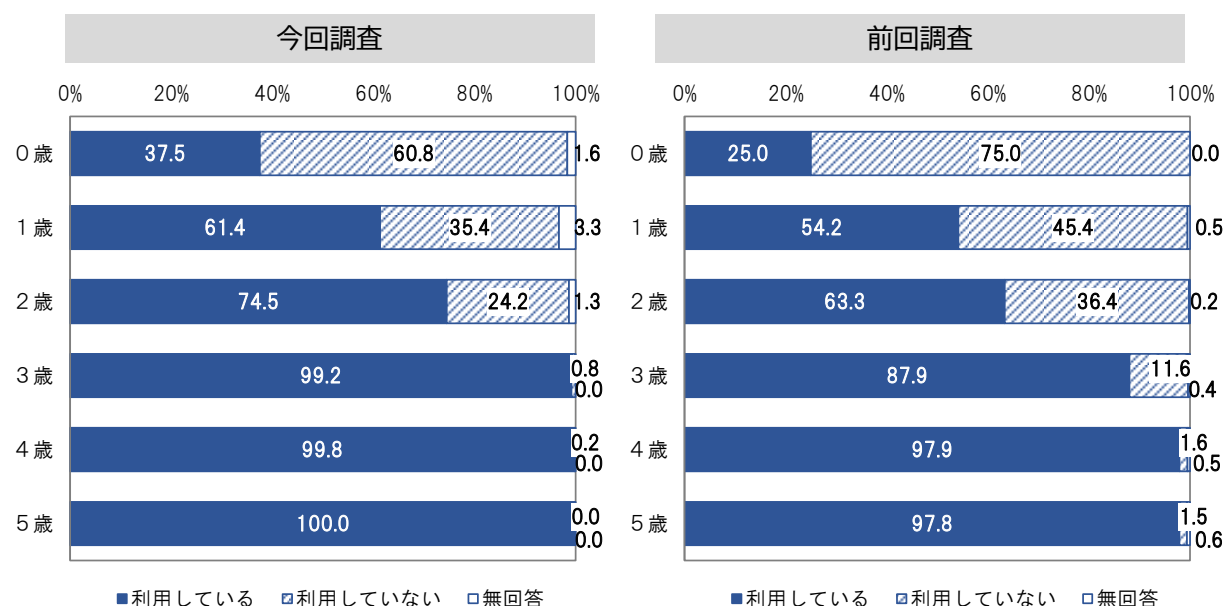
○経年比較をみると、前々回調査以降、「利用している」が高くなっており、前々回調査に比べて 20 ポイント以上、前回調査に比べて 5 ポイント以上高くなっている。



《年齢別比較：経年比較》

○年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「利用している」が高くなっており、3 歳以上ではほぼ全員が利用をしている。

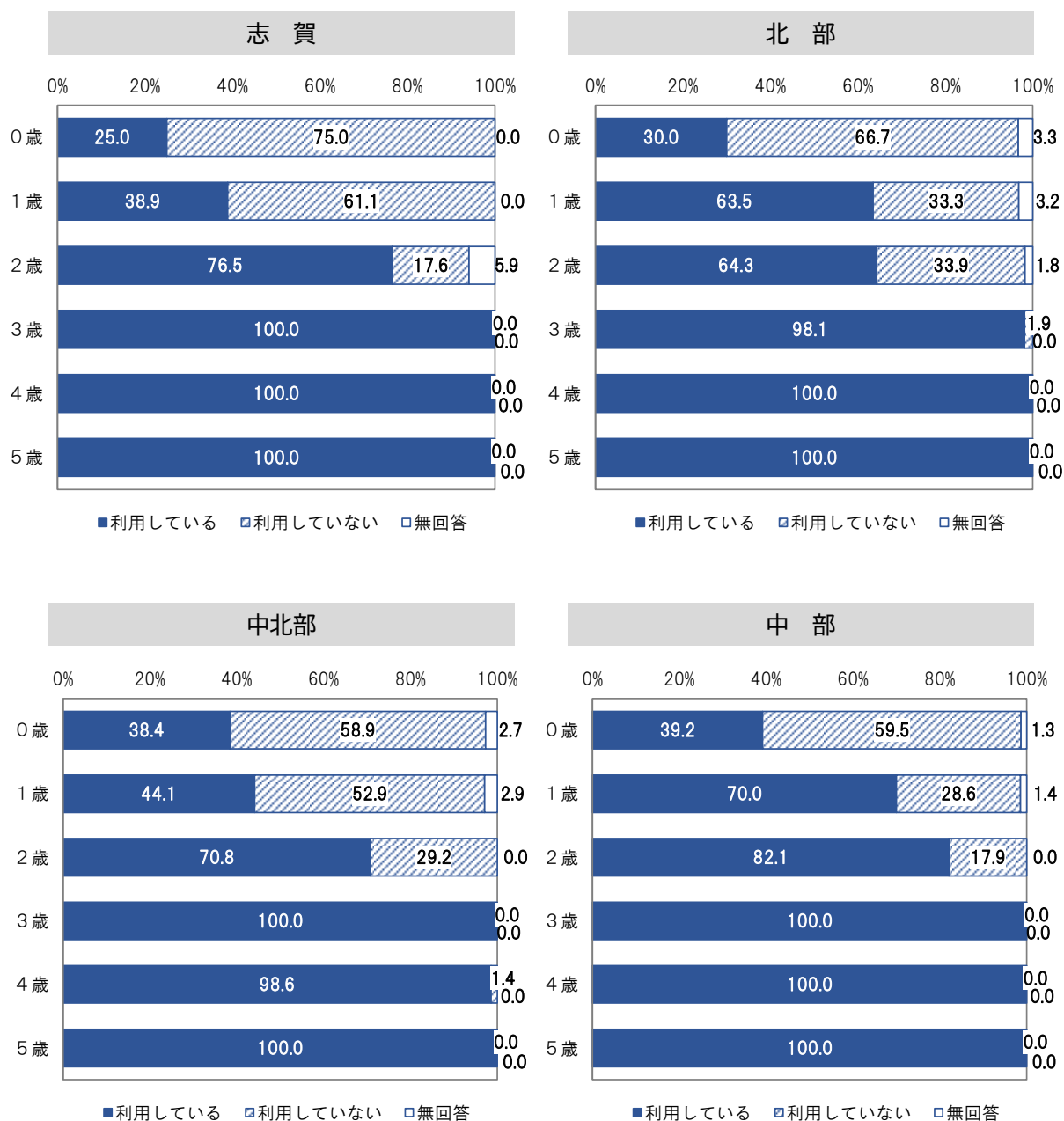
○また、年齢別に経年比較をみると、すべての年代で前回調査に比べて「利用している」が高くなっており、特に〔0 歳〕で 10 ポイント以上増加している。

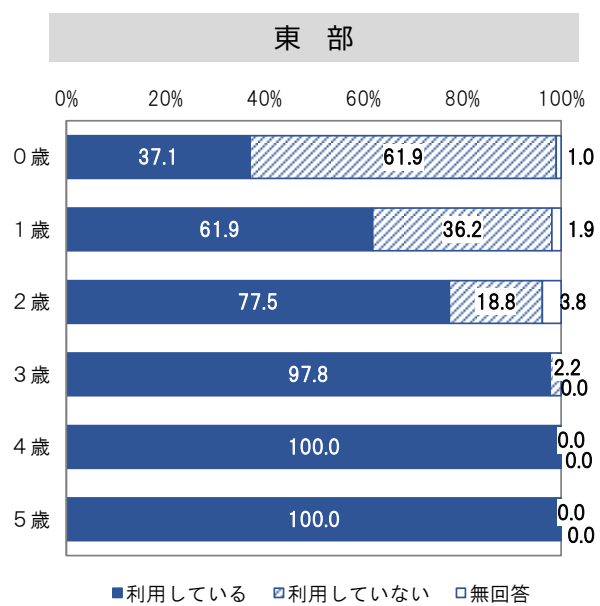
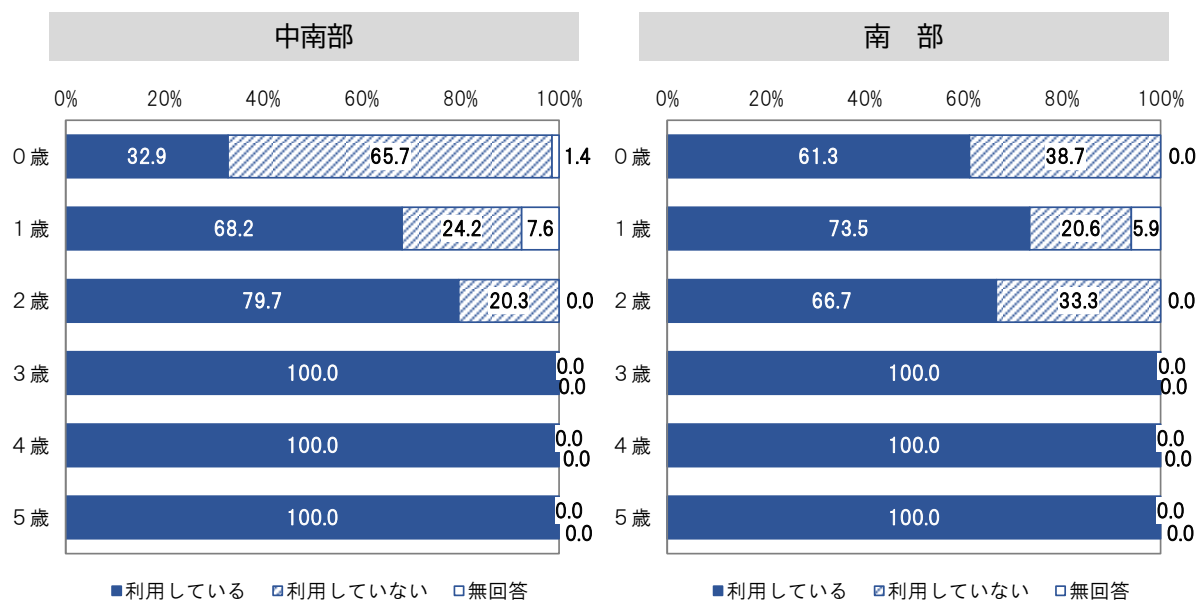


《年齢別比較：居住区域別比較》

○年齢別の利用状況を居住区域別にみると、〔0歳〕の利用は南部で6割を超えて最も高く、志賀では3割未満と最も低くなっている。

○また、志賀と中北部では〔1歳〕の利用が半数未満となっており、6割を超えているその他の地区に比べて低くなっている。

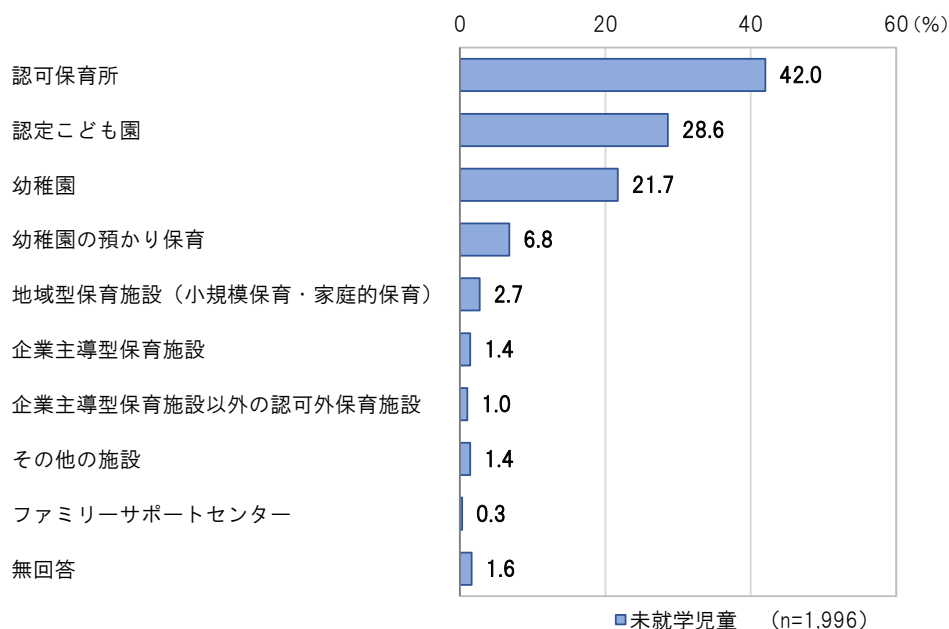




(1-1) 平日に定期的に利用している教育・保育事業【未就学／問 18-1 複数回答】

※(1)で「利用している」と回答した人のみ

○平日に定期的に利用している教育・保育事業は、「認可保育所」が42.0%と最も高く、次いで「認定こども園」(28.6%)、「幼稚園」(21.7%)となっている。



《年齢別比較》

○年齢別にみると、すべての年齢で「認可保育所」が最も高く、次いで、[0歳]から[2歳]と[4歳]では「認定こども園」、[3歳]および[5歳]では「幼稚園」となっている。

		(%)										
		回答者数 (人)	認可保育所	認定こども園	幼稚園	幼稚園の預かり保育	地域型保育施設 (小規模保育・家庭的保育)	企業主導型保育施設	企業主導型保育施設以外の認可外保育施設	その他の施設	ファミリーサポートセンター	無回答
年齢別	0歳	161	50.9	32.3	5.0	-	5.6	1.9	0.6	3.7	1.9	0.6
	1歳	262	52.7	27.9	2.7	1.5	8.8	2.7	1.1	2.3	-	1.9
	2歳	289	49.8	25.3	9.0	0.7	6.6	2.8	1.4	4.2	-	2.4
	3歳	392	39.8	27.8	28.8	7.1	0.5	1.0	1.3	0.5	-	1.0
	4歳	456	35.3	30.9	29.2	11.4	0.2	0.7	0.9	0.2	0.2	2.6
	5歳	372	36.6	27.2	34.4	11.3	-	0.5	0.5	0.3	0.3	0.8

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(1-2) 平日に定期的に利用している教育・保育事業の利用状況【未就学／問 18-1 数量回答】

※(1)で「利用している」と回答した人のみ

① 1週あたりの利用日数

○1週あたりの利用日数では、[幼稚園の預かり保育][ファミリーサポートセンター]で「1日」が高く、それ以外の事業では「5日」が最も高くなっている。

(%)

		回答者数 (人)	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答
教育・保育事業別	認可保育所	839	0.6	0.6	0.5	2.1	90.8	5.2	-	0.1
	幼稚園	434	3.0	1.2	0.7	0.5	94.0	0.2	0.2	0.2
	幼稚園の預かり保育	136	30.9	16.2	11.8	16.9	19.9	0.7	-	3.7
	認定こども園	570	1.4	0.2	0.7	1.9	93.2	2.5	-	0.2
	地域型保育施設	54	1.9	1.9	1.9	1.9	85.2	3.7	-	3.7
	企業主導型保育施設	28	-	-	-	10.7	78.6	10.7	-	-
	認可外保育施設	20	-	10.0	5.0	15.0	70.0	-	-	-
	その他の施設	28	10.7	14.3	7.1	10.7	50.0	7.1	-	-
	ファミリーサポートセンター	5	80.0	20.0	-	-	-	-	-	-

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

② 1日あたりの利用時間

○1日あたりの利用時間では、[認可保育所][認定こども園][地域型保育施設]では「10時間以上」が高く、[幼稚園][その他の施設]では「5時間」、[幼稚園の預かり保育][ファミリーサポートセンター]では「2時間」、それ以外の事業では「8時間」が最も高くなっている。

(%)

		回答者数 (人)	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間以上	無回答
教育・保育事業別	認可保育所	839	-	-	-	0.4	0.4	1.8	13.8	22.8	24.9	35.2	0.8
	幼稚園	434	1.8	2.1	0.7	4.8	76.3	7.1	3.0	2.3	-	0.2	1.6
	幼稚園の預かり保育	136	10.3	49.3	26.5	2.9	2.9	-	0.7	2.9	1.5	-	2.9
	認定こども園	570	-	0.4	-	1.2	2.5	6.3	11.6	22.6	22.8	31.1	1.6
	地域型保育施設	54	-	1.9	-	1.9	1.9	1.9	14.8	25.9	22.2	25.9	3.7
	企業主導型保育施設	28	-	-	-	-	-	3.6	10.7	32.1	21.4	25.0	7.1
	認可外保育施設	20	-	-	-	10.0	10.0	-	25.0	45.0	10.0	-	-
	その他の施設	28	3.6	3.6	7.1	-	53.6	7.1	-	14.3	3.6	7.1	-
	ファミリーサポートセンター	5	-	80.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

③ 利用開始時刻

○利用開始時刻では、ほとんどの事業で「8時台」「9時台」が高く、[幼稚園の預かり保育]では「13時以降」、[その他の施設][ファミリーサポートセンター]では「10時台」が高くなっている。

			(%)									
		回答者数 (人)	6時以前	6時台	7時台	8時台	9時台	10時台	11時台	12時台	13時以降	無回答
教育・保育事業別	認可保育所	839	-	-	16.1	48.4	34.1	0.2	-	-	0.1	1.1
	幼稚園	434	-	-	-	2.3	91.9	3.2	-	-	0.2	2.3
	幼稚園の預かり保育	136	3.7	-	-	1.5	6.6	-	-	2.2	83.1	2.9
	認定こども園	570	-	-	14.7	49.5	34.6	0.2	-	-	0.2	0.9
	地域型保育施設	54	-	-	14.8	50.0	27.8	1.9	-	-	1.9	3.7
	企業主導型保育施設	28	-	-	-	64.3	35.7	-	-	-	-	-
	認可外保育施設	20	-	-	-	20.0	75.0	5.0	-	-	-	-
	その他の施設	28	-	-	-	21.4	10.7	64.3	-	-	3.6	-
	ファミリーサポートセンター	5	-	-	-	-	-	60.0	-	-	40.0	-

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

④ 利用終了時刻

○利用終了時刻では、ほとんどの事業で「16時台」から「18時台」が高く、[幼稚園]では「14時台」、[その他の施設]では「15時台」、[ファミリーサポートセンター]では「14時以前」が高くなっている。

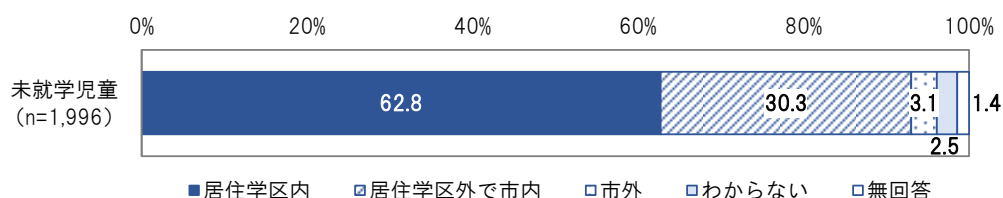
			(%)									
		回答者数 (人)	14時以前	14時台	15時台	16時台	17時台	18時台	19時台	20時台	21時以降	無回答
教育・保育事業別	認可保育所	839	4.6	0.2	1.2	20.3	32.7	35.9	3.8	0.1	-	1.2
	幼稚園	434	9.2	80.0	3.9	1.8	2.3	0.5	-	-	-	2.3
	幼稚園の預かり保育	136	5.1	2.2	8.1	47.8	30.9	2.9	-	-	-	2.9
	認定こども園	570	7.0	2.6	6.1	20.0	31.8	28.6	2.8	-	-	1.1
	地域型保育施設	54	1.9	-	5.6	31.5	33.3	22.2	1.9	-	-	3.7
	企業主導型保育施設	28	3.6	-	3.6	17.9	42.9	28.6	3.6	-	-	-
	認可外保育施設	20	20.0	10.0	-	30.0	40.0	-	-	-	-	-
	その他の施設	28	10.7	7.1	53.6	10.7	10.7	7.1	-	-	-	-
	ファミリーサポートセンター	5	60.0	-	-	-	-	-	-	20.0	20.0	-

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(1-3) 主に利用している施設等がある学区【未就学／問 18-2 単数回答】

※(1)で「利用している」と回答した人のみ

○主に利用している施設等がある学区は、「居住学区内」が62.8%と最も高く、次いで「居住学区外で市内」が30.3%となっている。



《教育・保育事業別、居住区域別比較》

○教育・保育事業別にみると、[企業主導型保育施設][認可外保育施設][その他の施設]では「居住学区外で市内」が最も高く、それ以外の事業では「居住学区内」での利用が最も高くなっている。

○居住区域別にみると、[志賀][南部]では「居住学区外で市内」がともに4割程度を占め、その他の区域に比べて高くなっている。

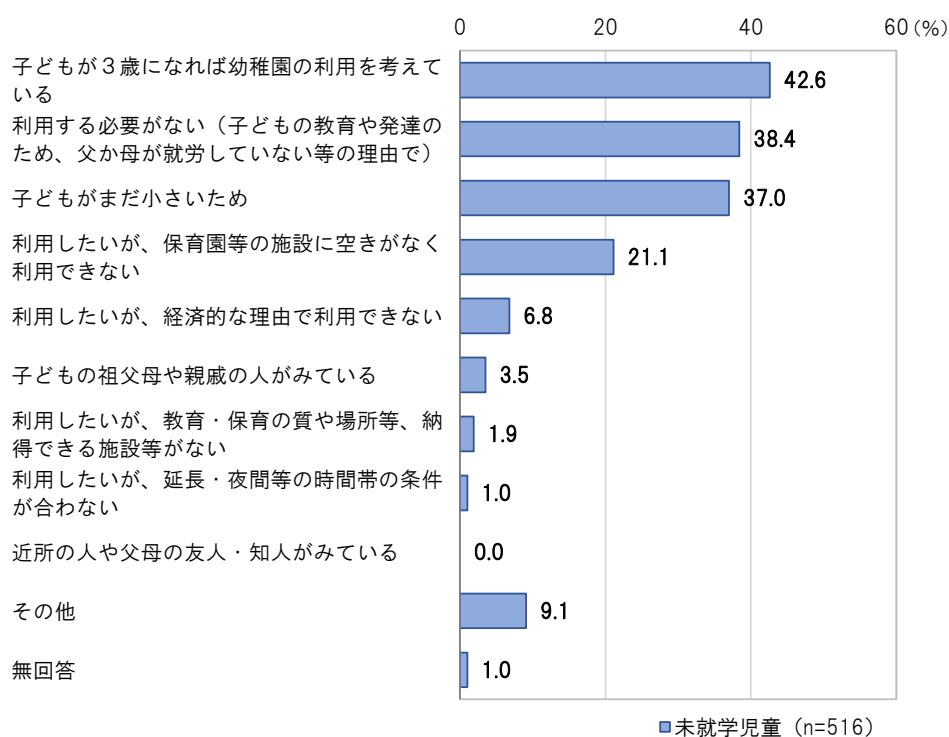
		回答者数 (人)	居住学区内	居住学区外で市内	市外	わからない	無回答
教育・保育事業別	認可保育所	839	63.1	33.4	0.1	2.5	1.0
	幼稚園	434	73.0	15.2	8.8	1.6	1.4
	幼稚園の預かり保育	136	74.3	11.0	7.4	4.4	2.9
	認定こども園	570	61.4	33.9	1.1	2.5	1.2
	地域型保育施設	54	55.6	38.9	-	1.9	3.7
	企業主導型保育施設	28	25.0	46.4	28.6	-	-
	認可外保育施設	20	20.0	70.0	5.0	5.0	-
	その他の施設	28	28.6	35.7	17.9	17.9	-
	ファミリーサポートセンター	5	40.0	20.0	20.0	20.0	-
居住区域別	志賀	81	56.8	39.5	-	3.7	-
	北部	258	60.1	33.7	1.2	2.7	2.3
	中北部	312	58.3	34.9	4.5	1.6	0.6
	中部	354	63.6	26.3	6.2	2.8	1.1
	中南部	352	66.2	31.0	1.4	1.1	0.3
	南部	159	50.9	41.5	1.9	3.8	1.9
	東部	470	69.1	22.3	3.2	3.0	2.3

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(1-4) 平日に定期的に教育・保育事業を利用していない理由【未就学／問 18-3 複数回答】

※(1)で「利用していない」と回答した人のみ

- 平日に定期的に教育・保育事業を利用していない理由は、「子どもが3歳になれば幼稚園の利用を考えている」が42.6%と最も高く、次いで「利用する必要がある(子どもの教育や発達のため、父か母が就労していない等の理由で)」(38.4%)、「子どもがまだ小さいため」(37.0%)となっている。
- その他の意見では、「申請中(結果待ち)」や「育休中」などの回答が多く、他では「利用できるならしたいが、3歳未満は保育料が高い」「子どもに医療的ケアが必要で利用できない」などの回答もみられた。



《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、[ひとり親家庭][フルタイム×パート（長）]では「利用したいが、保育園等の施設に空きがなく利用できない」が高くなっている。

(%)

		回答者数（人）	子どもが3歳になれば幼稚園の利用を考えている	利用する必要がない	子どもがまだ小さいため	利用したいが、保育園等の施設に空きがなく利用できない	利用したいが、経済的な理由で利用できない	利用したいが、祖父母や親戚の人がみている	利用したいが、教育・保育の質や場所等、納得できる施設等がない	利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない	近所の人や父母の友人・知人がみている	その他
家庭類型別	ひとり親家庭	8	25.0	25.0	25.0	50.0	12.5	12.5	12.5	12.5	-	25.0
	フルタイム×フルタイム	153	7.8	30.1	39.2	28.1	0.7	2.6	2.0	0.7	-	16.3
	フルタイム×パート（長）	23	13.0	21.7	34.8	39.1	4.3	13.0	-	8.7	-	8.7
	フルタイム×パート（短）	28	57.1	35.7	17.9	21.4	10.7	14.3	3.6	-	-	3.6
	専業主婦・主夫家庭	297	61.6	45.1	38.0	14.8	9.4	2.0	1.3	0.3	-	5.7

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《教育・保育提供区域（7ブロック）別比較》

○教育・保育提供区域（7ブロック）別にみると、[志賀][中北部][中部][中南部]では「利用したいが、保育園等の施設に空きがなく利用できない」が高くなっている。

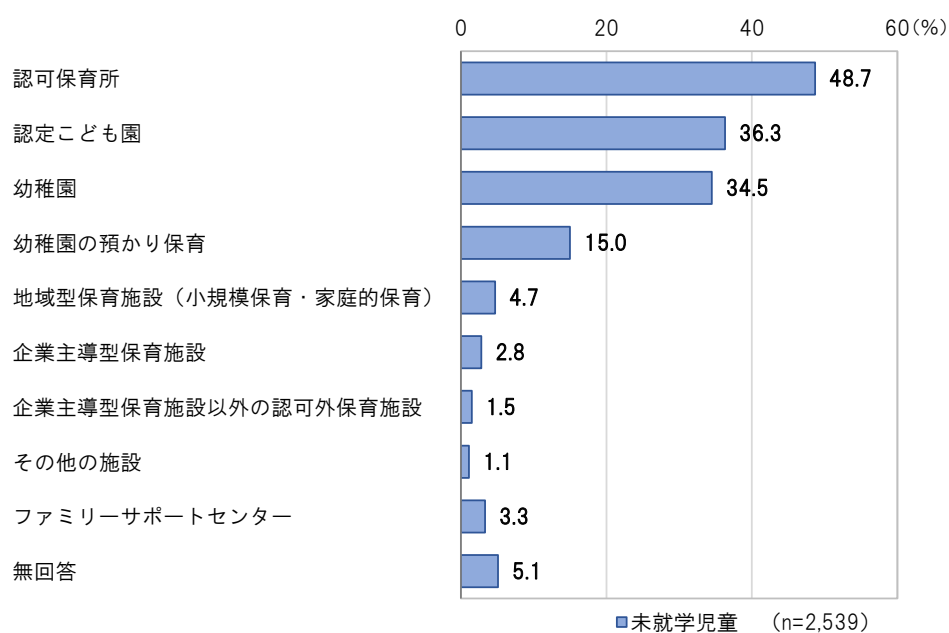
(%)

		回答者数（人）	子どもが3歳になれば幼稚園の利用を考えている	利用する必要がない	子どもがまだ小さいため	利用したいが、保育園等の施設に空きがなく利用できない	利用したいが、経済的な理由で利用できない	利用したいが、祖父母や親戚の人がみている	利用したいが、教育・保育の質や場所等、納得できる施設等がない	利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない	近所の人や父母の友人・知人がみている	その他
教育・保育提供区域別	志賀	26	38.5	30.8	38.5	26.9	3.8	3.8	3.8	-	-	11.5
	北 部	81	46.9	35.8	39.5	16.0	11.1	4.9	1.2	-	-	12.3
	中北部	103	45.6	38.8	32.0	25.2	6.8	5.8	-	1.9	-	8.7
	中 部	80	43.8	40.0	32.5	23.8	2.5	1.3	-	2.5	-	8.8
	中南部	76	36.8	42.1	40.8	21.1	6.6	2.6	3.9	-	-	7.9
	南 部	29	51.7	27.6	41.4	13.8	13.8	3.4	-	-	-	-
	東 部	115	37.4	40.9	38.3	18.3	6.1	2.6	3.5	0.9	-	9.6

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

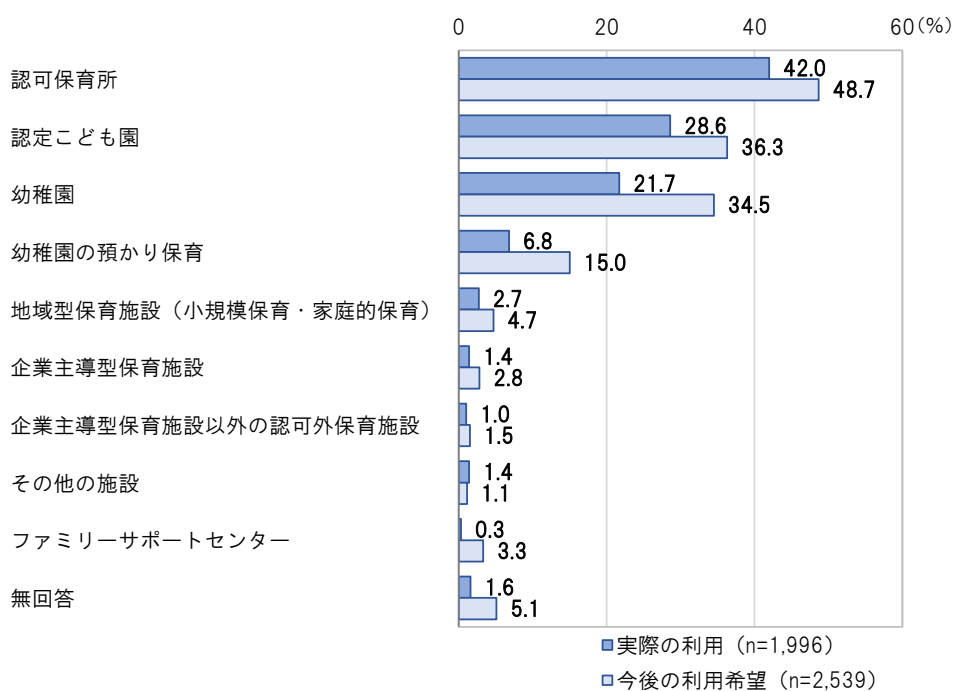
（２）平日に定期的に利用したい教育・保育事業【未就学／問 19 複数回答】

○平日に定期的に利用したい教育・保育事業は、「認可保育所」が 48.7%と最も高く、次いで「認定こども園」(36.3%)、「幼稚園」(34.5%)となっている。



《実際の利用と希望の比較》

○(1-1)利用している教育・保育事業と比較すると、すべての事業で利用意向が高くなっており、特に「認可保育所」、「認定こども園」、「幼稚園」、「幼稚園の預かり保育」では希望が実際の利用を大きく上回っている。



《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、[ひとり親家庭][フルタイム×フルタイム][フルタイム×パート（長）]では「認可保育所」が最も高く、次いで「認定こども園」となっている。[フルタイム×パート（短）][専業主婦・主夫家庭]では「幼稚園」が最も高くなっている。

(%)

		回答者数（人）	認可保育所	認定こども園	幼稚園	幼稚園の預かり保育	地域型保育施設（小規模保育・家庭的保育）	企業主導型保育施設	企業主導型保育施設以外の認可外保育施設	その他の施設	ファミリーサポートセンター	無回答
家庭類型別	ひとり親家庭	101	53.5	33.7	27.7	10.9	3.0	-	1.0	-	1.0	5.9
	フルタイム×フルタイム	1,047	65.5	41.8	12.3	4.1	3.8	3.3	1.1	0.8	3.2	5.0
	フルタイム×パート（長）	458	49.3	38.0	28.2	13.8	4.4	2.0	0.7	0.9	2.6	6.1
	フルタイム×パート（短）	188	39.9	26.1	48.9	19.7	5.3	1.6	2.1	0.5	5.3	6.4
	専業主婦・主夫家庭	705	25.0	30.5	68.2	30.6	6.5	3.4	2.6	2.1	3.7	4.1

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《年齢別比較》

○年齢別にみると、[0歳]から[4歳]では「認可保育所」が最も高く、[5歳]では「幼稚園」が最も高くなっている。また、「認可保育所」については、年齢が下がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

(%)

		回答者数（人）	認可保育所	認定こども園	幼稚園	幼稚園の預かり保育	地域型保育施設（小規模保育・家庭的保育）	企業主導型保育施設	企業主導型保育施設以外の認可外保育施設	その他の施設	ファミリーサポートセンター	無回答
年齢別	0歳	429	63.4	43.4	29.6	11.7	9.8	4.9	1.9	2.1	5.8	4.9
	1歳	427	54.8	41.9	34.4	13.1	9.4	5.2	2.6	1.2	4.7	5.9
	2歳	388	50.0	36.3	33.5	12.6	3.6	1.8	1.3	1.8	2.1	4.6
	3歳	395	42.8	31.6	33.2	14.2	2.3	1.5	1.3	0.8	2.3	5.8
	4歳	457	41.1	35.4	33.9	17.9	1.8	2.2	1.3	0.4	2.6	3.9
	5歳	372	40.1	28.2	42.7	19.6	1.6	0.8	0.3	0.5	1.9	5.9

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《現在利用している教育・保育事業別比較》

○現在利用している教育・保育事業別にみると、現在利用している事業の継続利用を望む人が多い一方で、[地域型保育施設][企業主導型保育施設]を現在利用している人では「認可保育所」の利用希望が高い結果となっている。

(%)

今後の利用希望		回答者数 (人)	認可保育所	認定こども園	幼稚園	幼稚園の預かり保育	地域型保育施設	企業主導型保育施設	認可外保育施設	その他の施設	ファミリーサポートセンター	無回答
利用している教育・保育事業別	認可保育所	839	91.9	8.7	11.4	1.8	1.5	0.6	0.2	0.6	3.3	5.2
	認定こども園	570	16.7	90.7	11.9	4.6	2.1	1.9	0.4	－	2.6	4.9
	幼稚園	434	7.8	10.1	91.2	47.2	2.8	1.2	0.5	1.2	2.3	2.5
	幼稚園の預かり保育	136	9.6	11.8	91.9	75.7	2.9	－	－	1.5	2.9	0.7
	地域型保育施設	54	61.1	48.1	24.1	3.7	50.0	1.9	－	－	－	5.6
	企業主導型保育施設	28	46.4	28.6	17.9	10.7	3.6	53.6	3.6	－	－	7.1
	認可外保育施設	20	20.0	20.0	25.0	10.0	5.0	－	75.0	5.0	－	－
	その他の施設	28	32.1	35.7	42.9	25.0	3.6	3.6	3.6	42.9	7.1	7.1
	ファミリーサポートセンター	5	60.0	80.0	40.0	40.0	40.0	20.0	20.0	－	100.0	－

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2-1) 平日に定期的に利用したい教育・保育事業【未就学／問19 数量回答】

① 利用希望開始年齢

○利用希望開始年齢は、[幼稚園][幼稚園の預かり保育]では「3歳から」が最も高く、それ以外の事業では「0歳から」が最も高くなっている。

(%)

		回答者数 (人)	0歳から	1歳から	2歳から	3歳から	4歳から	5歳から	無回答
教育・保育事業別	認可保育所	1,237	34.2	31.0	10.6	12.9	1.9	2.5	6.8
	幼稚園	876	1.4	1.1	14.0	57.3	2.9	0.6	22.7
	幼稚園の預かり保育	381	2.6	3.9	22.6	58.0	3.9	1.0	7.9
	認定こども園	922	29.9	26.4	12.9	20.8	2.6	1.8	5.5
	地域型保育施設	120	40.8	34.2	15.0	5.8	-	-	4.2
	企業主導型保育施設	71	38.0	23.9	18.3	11.3	1.4	-	7.0
	認可外保育施設	38	34.2	26.3	10.5	21.1	-	-	7.9
	その他の施設	29	37.9	24.1	13.8	6.9	-	-	17.2
	ファミリーサポートセンター	83	55.4	16.9	8.4	12.0	-	2.4	4.8

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

② 利用希望終了年齢

○利用希望終了年齢は、すべての事業で「5歳まで」が最も高くなっている。また、[地域型保育施設]では「2歳まで」や「3歳まで」、[その他の施設]では「3歳まで」が2割を超えており、その他の事業に比べて高くなっている。

(%)

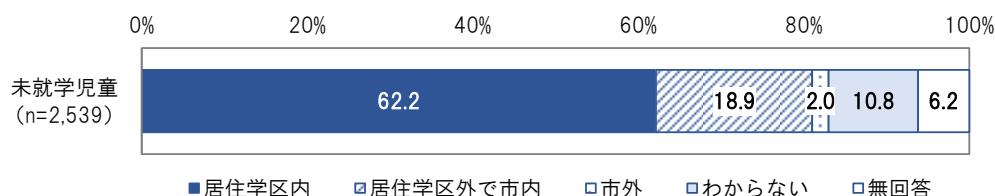
		回答者数 (人)	0歳まで	1歳まで	2歳まで	3歳まで	4歳まで	5歳まで	無回答
教育・保育事業別	認可保育所	1,237	0.2	0.1	0.5	2.0	0.1	82.9	14.3
	幼稚園	876	-	-	-	0.7	0.2	67.7	31.4
	幼稚園の預かり保育	381	-	0.3	0.3	2.9	-	79.8	16.8
	認定こども園	922	-	0.1	-	1.1	0.1	85.5	13.2
	地域型保育施設	120	-	1.7	25.0	24.2	-	42.5	6.7
	企業主導型保育施設	71	-	-	1.4	9.9	1.4	71.8	15.5
	認可外保育施設	38	-	-	2.6	2.6	2.6	76.3	15.8
	その他の施設	29	-	-	3.4	20.7	3.4	41.4	31.0
	ファミリーサポートセンター	83	1.2	2.4	-	6.0	1.2	75.9	13.3

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2-2) 今後利用したい施設等がある学区【未就学／問 19-2 単数回答】

※(2)でいずれかの教育・保育事業を回答した人のみ

○今後利用したい施設等がある学区は、「居住学区内」が62.2%と最も高く、次いで「居住学区外で市内」が18.9%となっている。



《希望する教育・保育事業別、居住区域別比較》

○希望する教育・保育事業別にみると、すべての事業で「居住学区内」が最も高くなっている。

○また、[認可外保育施設]では「居住学区外で市内」が、その他の事業に比べてやや高くなっている。

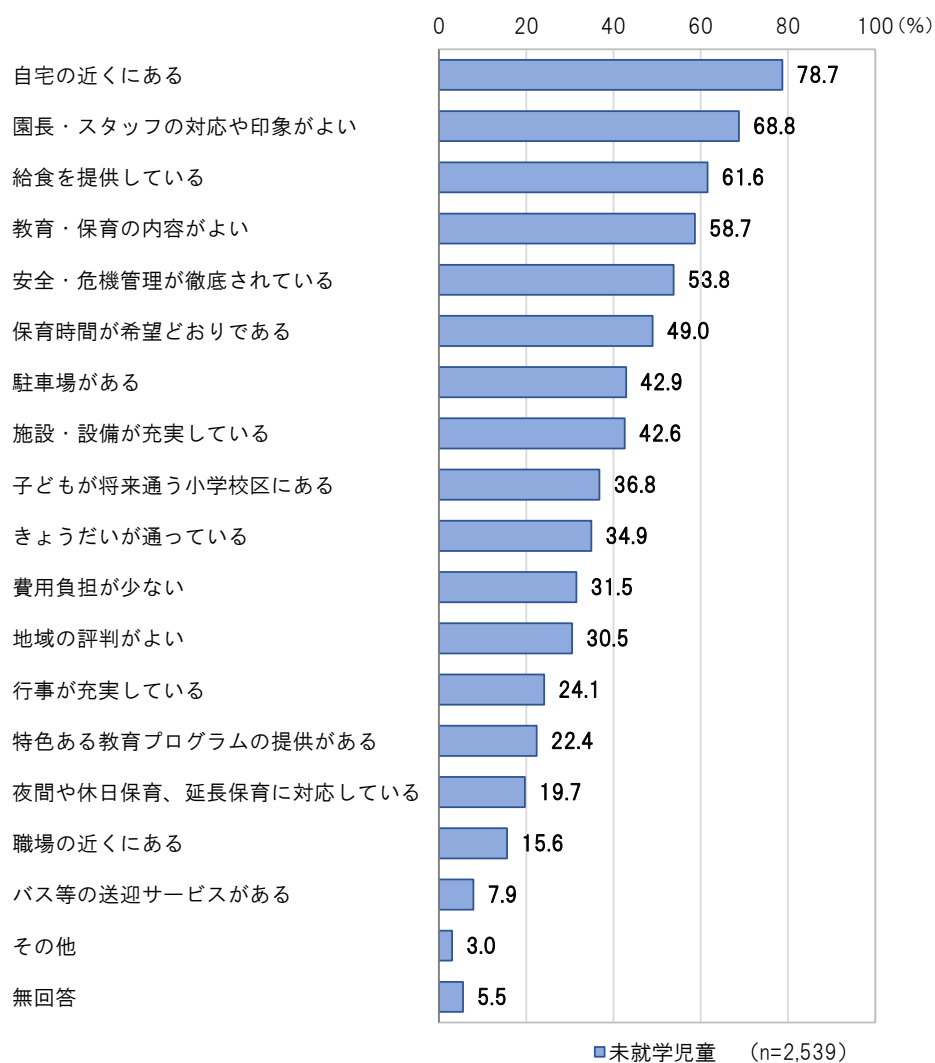
○居住区域別にみると、[志賀][南部]では「居住学区外で市内」がともに3割近くを占め、その他の区域に比べて高くなっている。

		(%)					
		回答者数 (人)	居住学区内	居住学区外で市内	市外	わからない	無回答
希望する教育・保育事業別	認可保育所	1,237	66.3	19.6	0.9	12.2	1.0
	幼稚園	876	65.0	13.5	4.3	14.5	2.7
	幼稚園の預かり保育	381	67.2	13.9	4.2	13.9	0.8
	認定こども園	922	63.6	23.0	1.4	10.7	1.3
	地域型保育施設	120	73.3	7.5	3.3	15.0	0.8
	企業主導型保育施設	71	59.2	19.7	5.6	15.5	-
	認可外保育施設	38	44.7	34.2	-	21.1	-
	その他の施設	29	51.7	10.3	10.3	27.6	-
	ファミリーサポートセンター	83	61.4	19.3	2.4	16.9	-
居住区域別	志賀	108	54.6	27.8	-	10.2	7.4
	北部	344	60.2	20.1	-	10.8	9.0
	中北部	419	56.1	22.0	3.6	11.5	6.9
	中部	436	64.9	16.5	4.1	11.2	3.2
	中南部	434	65.0	18.4	1.2	9.4	6.0
	南部	190	53.2	28.9	0.5	9.5	7.9
	東部	591	68.0	13.2	1.9	11.3	5.6

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（３）利用する施設等を選択する際に重視すること【未就学／問 19-1 複数回答】

○利用する施設等を選択する際に重視することは、「自宅の近くにある」が 78.7%と最も高く、次いで「園長・スタッフの対応や印象がよい」(68.8%)、「給食を提供している」(61.6%)、「教育・保育の内容がよい」(58.7%)となっている。



《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、[ひとり親家庭] [フルタイム×フルタイム] [フルタイム×パート（長）]では「給食を提供している」や「保育時間が希望どおりである」、「夜間や休日保育、延長保育に対応している」などで、その他の類型に比べて高くなっている。

○一方で、[フルタイム×パート（短）] [専業主婦・主夫家庭] では「子どもが将来通う小学校区にある」や「バス等の送迎サービスがある」などで、その他の類型に比べて高くなっている。

(%)

		回答者数（人）	自宅の近くにある	園長・スタッフの対応や印象がよい	給食を提供している	教育・保育の内容がよい	安全・危機管理が徹底されている	保育時間が希望どおりである	駐車場がある	施設・設備が充実している	子どもが将来通う小学校区にある	きょうだいが通っている
家庭類型別	ひとり親家庭	101	75.2	63.4	61.4	54.5	50.5	55.4	32.7	43.6	33.7	19.8
	フルタイム×フルタイム	1,047	81.9	71.8	71.6	61.3	58.2	62.3	47.4	46.7	32.8	42.7
	フルタイム×パート（長）	458	76.4	65.5	65.5	57.6	52.8	52.0	47.2	41.9	37.3	35.4
	フルタイム×パート（短）	188	73.9	61.7	51.6	53.2	46.3	38.8	44.1	31.4	44.1	36.7
	専業主婦・主夫家庭	705	77.6	69.6	46.7	58.2	50.6	29.5	34.8	39.7	41.1	25.1

	(つづき)	回答者数（人）	費用負担が少ない	地域の評判がよい	行事が充実している	英語や体操等、特色ある教育プログラムを提供がある	夜間や休日保育、延長保育に対応している	職場の近くにある	バス等の送迎サービスがある	その他	無回答
家庭類型別	ひとり親家庭	101	31.7	32.7	28.7	19.8	21.8	19.8	5.9	3.0	6.9
	フルタイム×フルタイム	1,047	27.2	32.2	24.1	24.7	29.6	17.9	3.6	3.6	4.8
	フルタイム×パート（長）	458	32.3	25.5	25.8	23.8	16.6	20.3	5.2	3.5	7.2
	フルタイム×パート（短）	188	38.3	27.7	21.3	18.6	12.2	19.1	12.8	2.7	7.4
	専業主婦・主夫家庭	705	35.3	32.1	23.1	19.4	8.7	7.5	14.5	2.1	4.8

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《希望する教育・保育事業別比較》

○希望する教育・保育事業別にみると、ほとんどの事業で「自宅の近くにある」が最も高くなっている。

○また、[認可保育所][認定こども園]では「きょうだいが通っている」、[幼稚園][幼稚園の預かり保育]では「子どもが将来通う小学校区にある」が、その他の事業に比べてやや高くなっている。

			(%)									
		回答者数(人)	自宅の近くにある	園長・スタッフの対応や印象がよい	給食を提供している	教育・保育の内容がよい	安全・危機管理が徹底されている	保育時間が希望どおりである	駐車場がある	施設・設備が充実している	子どもが将来通う小学校区にある	きょうだい通っている
希望する教育・保育事業別	認可保育所	1,237	86.7	74.8	76.3	63.5	61.7	63.5	52.0	49.7	36.1	40.4
	幼稚園	876	80.6	71.0	47.3	61.1	53.4	35.3	36.5	41.1	45.7	28.8
	幼稚園の預かり保育	381	83.7	71.4	49.1	62.2	54.9	42.5	41.2	43.6	51.7	33.1
	認定こども園	922	84.4	75.5	77.8	68.4	63.1	60.1	50.4	56.3	37.3	39.7
	地域型保育施設	120	90.8	76.7	65.8	63.3	60.0	59.2	42.5	47.5	36.7	28.3
	企業主導型保育施設	71	81.7	77.5	77.5	64.8	71.8	70.4	50.7	62.0	31.0	31.0
	認可外保育施設	38	71.1	71.1	50.0	63.2	50.0	47.4	39.5	47.4	21.1	21.1
	その他の施設	29	75.9	89.7	62.1	75.9	55.2	41.4	44.8	41.4	24.1	27.6
	ファミリーサポートセンター	83	86.7	78.3	69.9	63.9	68.7	61.4	43.4	61.4	38.6	32.5

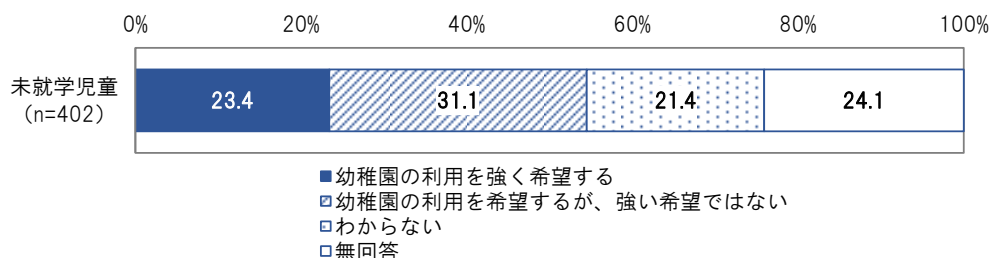
(つづき)		回答者数(人)	費用負担が少ない	地域の評判がよい	行事が充実している	英語や体操等、特色ある教育プログラムを提供がある	夜間や休日保育、延長保育に対応している	職場の近くにある	バス等の送迎サービスがある	その他	無回答
希望する教育・保育事業別	認可保育所	1,237	35.7	33.4	24.5	24.2	26.5	20.9	5.1	2.8	0.3
	幼稚園	876	38.8	32.5	25.6	20.2	15.4	12.2	16.4	2.7	1.9
	幼稚園の預かり保育	381	44.4	33.3	24.7	20.7	16.0	11.5	20.2	3.4	0.3
	認定こども園	922	32.2	39.4	29.0	30.6	25.6	19.4	9.1	3.7	0.7
	地域型保育施設	120	37.5	39.2	23.3	22.5	18.3	20.0	11.7	2.5	-
	企業主導型保育施設	71	47.9	52.1	29.6	33.8	36.6	39.4	16.9	5.6	-
	認可外保育施設	38	36.8	39.5	31.6	50.0	28.9	23.7	18.4	2.6	-
	その他の施設	29	41.4	34.5	31.0	31.0	17.2	10.3	34.5	6.9	-
	ファミリーサポートセンター	83	45.8	39.8	27.7	25.3	30.1	22.9	10.8	6.0	-

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(4) 幼稚園の利用希望【未就学／問 20 単数回答】

※（２）で「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」を含む複数の施設・事業を回答した人のみ

○幼稚園を含む複数の施設・事業を希望する人の幼稚園への利用希望は、「幼稚園の利用を希望するが、強い希望ではない」が31.1%と最も高く、「幼稚園の利用を強く希望する」は23.4%となっている。



《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、[フルタイム×パート（短）]では「幼稚園の利用を強く希望する」、[フルタイム×パート（長）][専業主婦・主夫家庭]では「幼稚園の利用を希望するが、強い希望ではない」が最も高くなっている。

○[フルタイム×パート（短）][専業主婦・主夫家庭]では「幼稚園の利用を強く希望する」が3割を超え、その他の家庭類型に比べて高くなっている。

		回答者数（人）	幼稚園の利用を強く希望する	幼稚園の利用を希望するが、強い希望ではない	わからない	無回答
家庭類型別	ひとり親家庭	16	18.8	12.5	37.5	31.3
	フルタイム×フルタイム	109	11.0	19.3	21.1	48.6
	フルタイム×パート（長）	72	18.1	31.9	23.6	26.4
	フルタイム×パート（短）	34	35.3	29.4	20.6	14.7
	専業主婦・主夫家庭	161	31.7	41.6	20.5	6.2

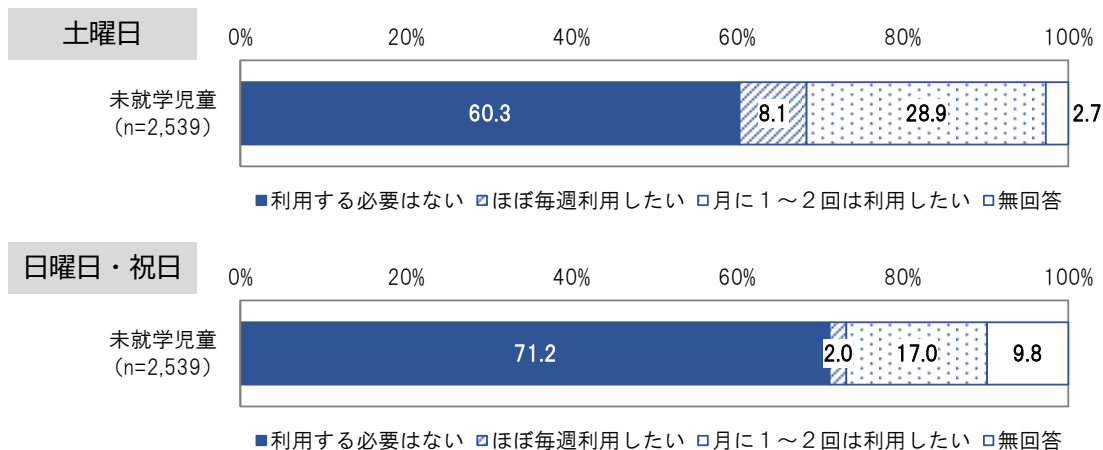
※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

5. 子どもの土曜等や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用について

(1) 土曜日と日曜日・祝日の教育・保育事業の利用希望【未就学／問 21 単数回答】

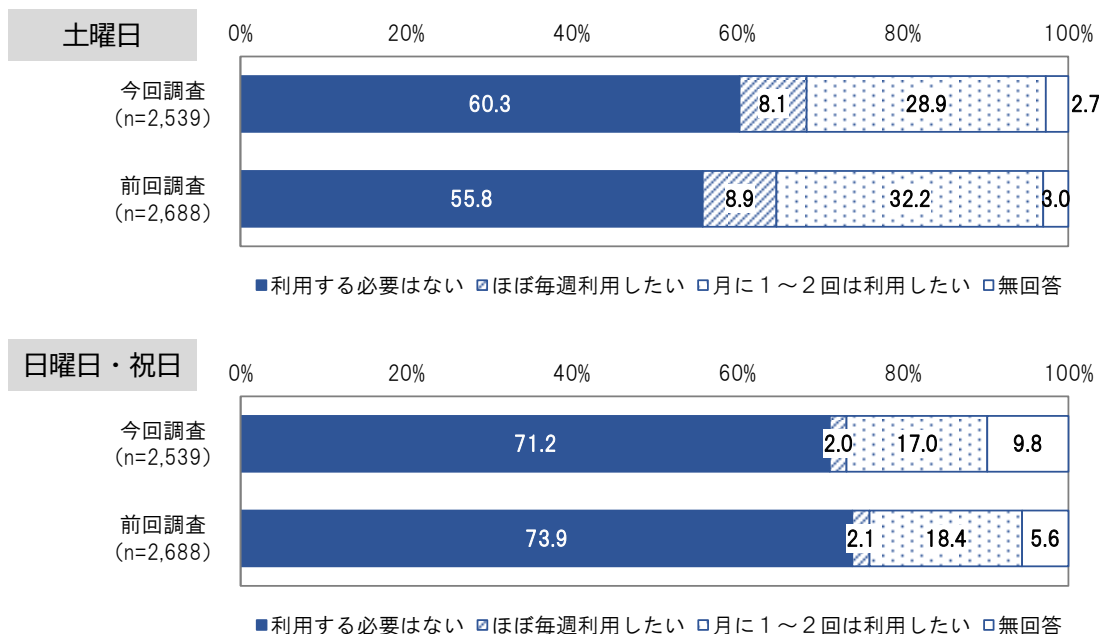
○土曜日と日曜日・祝日の教育・保育事業の利用希望は、土曜日、日曜日・祝日ともに「利用する必要はない」がそれぞれ 60.3%、71.2%と最も高くなっている。

○「ほぼ毎週利用したい」と「月に 1～2 回は利用したい」を合わせた『利用したい』人の割合は、土曜日では 4 割近く、日曜日・祝日では約 2 割となっている。



《経年比較》

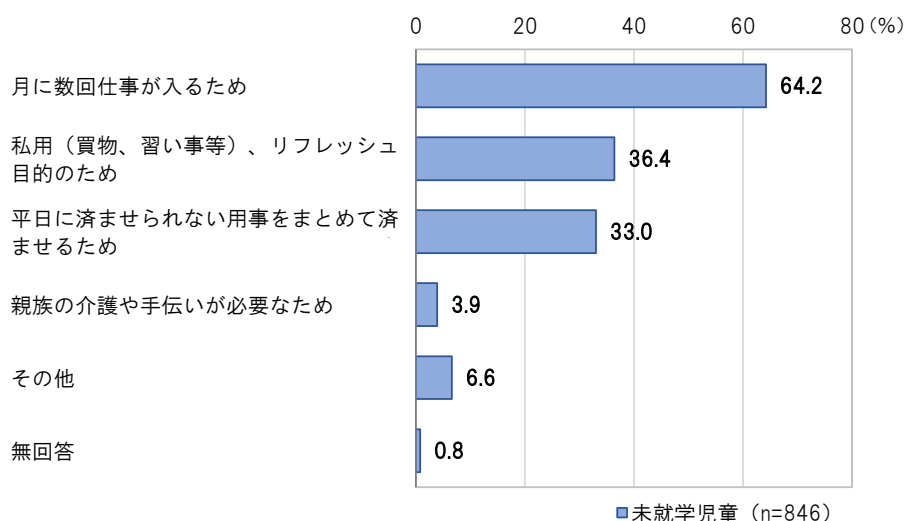
○経年比較をみると、「ほぼ毎週利用したい」と「月に 1～2 回は利用したい」を合わせた『利用したい』人の割合では、土曜日、日曜日・祝日ともに低くなっている。



(1-1) 毎週ではなく、たまに利用したい理由【未就学／問 21-1 複数回答】

※(1)で「月に1～2回は利用したい」と回答した人のみ

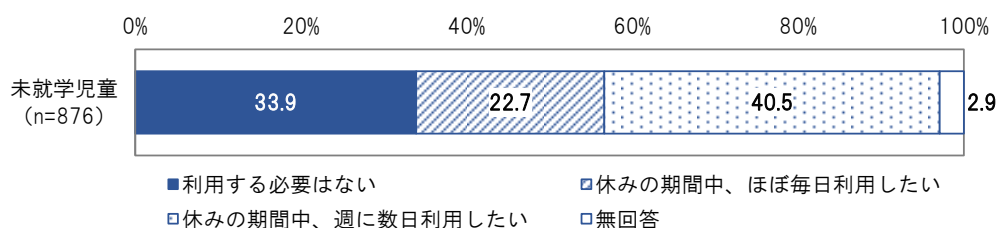
○土曜日と日曜日・祝日の教育・保育事業の利用について、毎週ではなく、たまに利用したい理由は、「月に数回仕事が入るため」が64.2%と最も高く、次いで「私用（買物、習い事等）、リフレッシュ目的のため」（36.4%）、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」（33.0%）となっている。



(2) 長期休暇中の幼稚園の利用希望【未就学／問 22 単数回答】

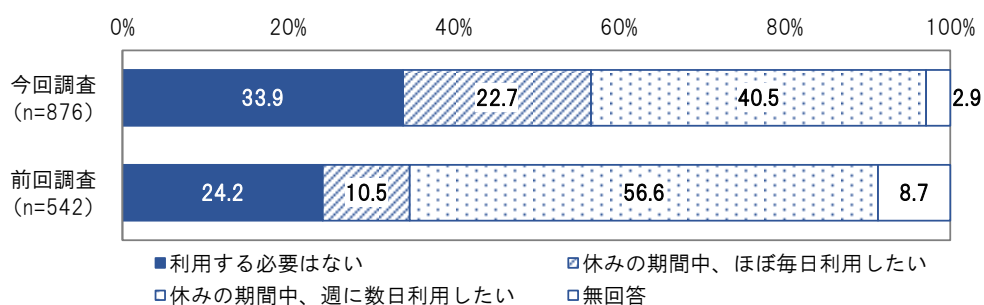
※4(2)で「幼稚園」と回答した人のみ

○幼稚園の利用を希望する人の長期休暇中の利用希望は、「休みの期間中、週に数日利用したい」が40.5%と最も高くなっている。



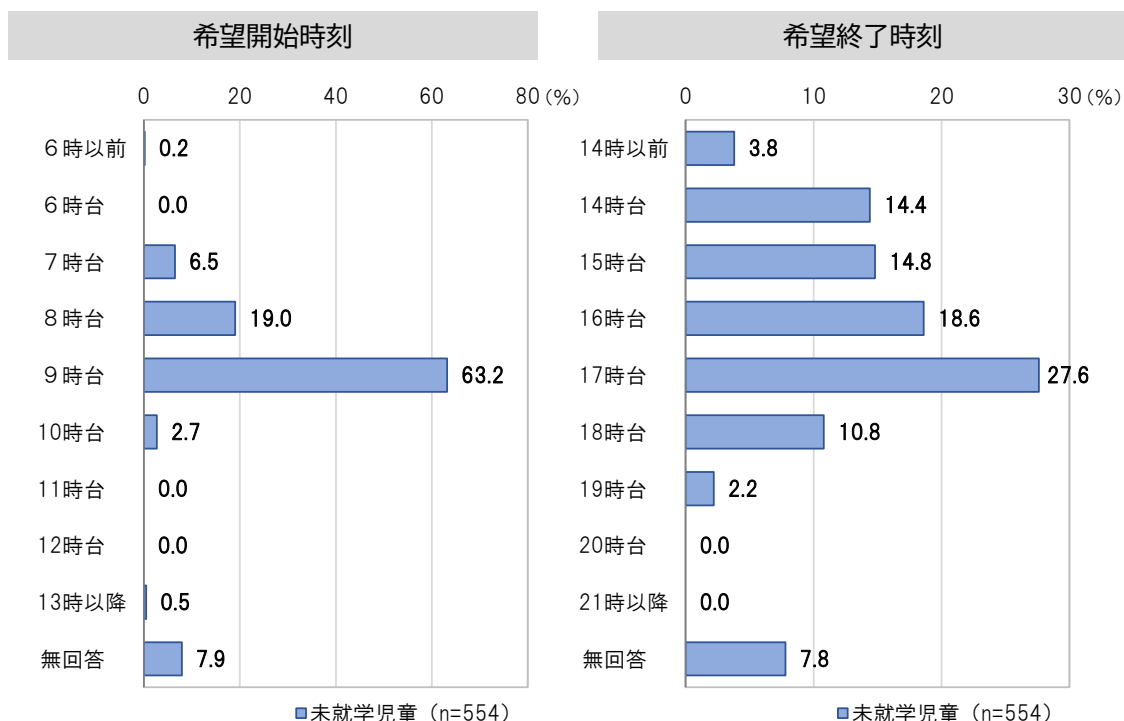
《経年比較》

○経年比較をみると、「利用する必要はない」が10ポイント近く上回っているものの、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」も10ポイント以上上回っている。



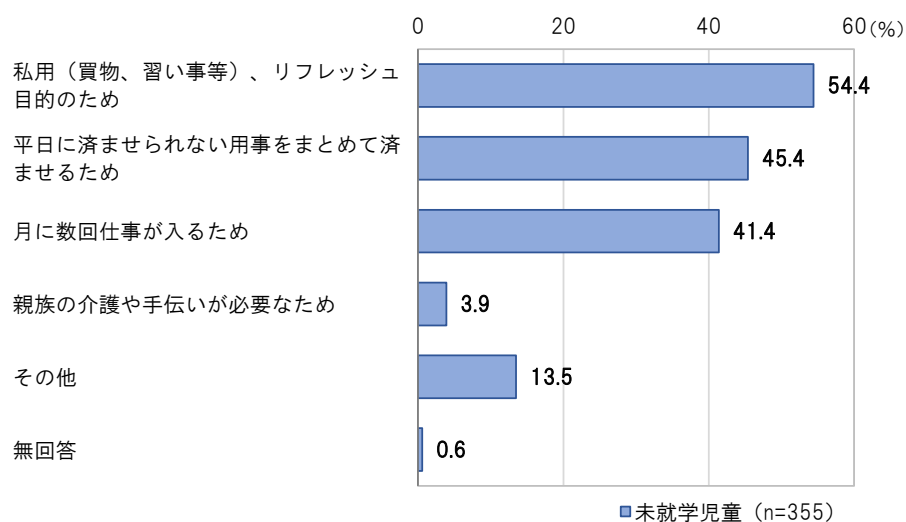
（２－１）利用希望時間帯【未就学／問 22 数量回答】

※（２）で「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」または「休みの期間中、週に数日利用したい」と回答した人のみ
○利用希望時間帯は、開始時刻では「９時台」、終了時間では「１７時台」が、それぞれ最も高くなっている。



（２－２）毎日ではなく、たまに利用したい理由【未就学／問 22-1 複数回答】

※（２）で「休みの期間中、週に数日利用したい」と回答した人のみ
○長期休暇中の教育・保育事業の利用について、毎日ではなく、たまに利用したい理由は、「私用（買物、習い事等）、リフレッシュ目的のため」が 54.4%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」（45.4%）、「月に数回仕事が入るため」（41.4%）となっている。

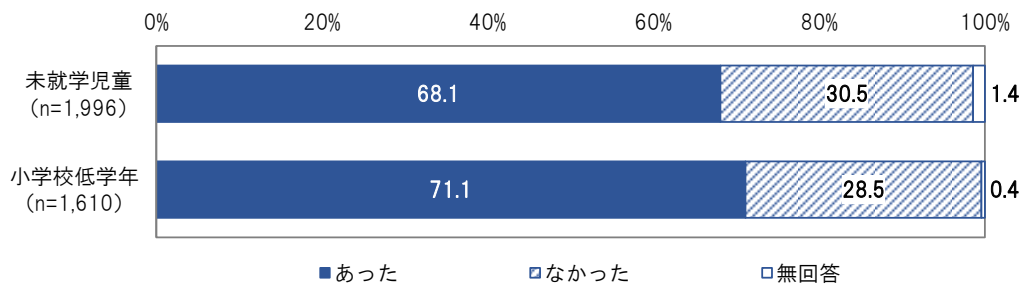


6. 子どもの病気等の際の対応について

(1) この1年間に、子どもが病気やけがで通常の利用（登校）ができなかったことの有無

【未就学（事業利用者）／問 23 単数回答、小学生／問 28 単数回答】

○病気やけがで通常の利用（登校）ができなくなったことの有無は、「あった」が未就学児童で 68.1%、小学校低学年で 71.1%となっている。



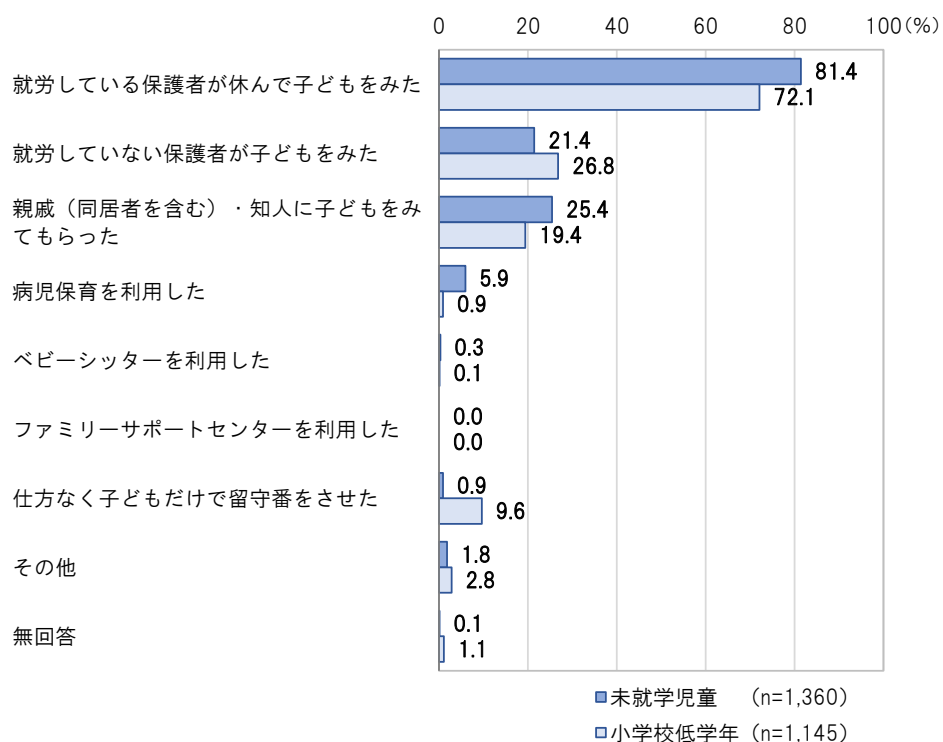
(1-1) 子どもが病気やけがで通常の利用（登校）ができなかった時の対処方法・日数

【未就学（事業利用者）／問 23-1 複数回答・数量回答、小学生／問 28-1 複数回答・数量回答】

※（1）で「あった」と回答した人のみ

○子どもが病気やけがで通常の利用（登校）ができなかった時の対処方法は、「就労している保護者が休んで子どもをみた」が未就学児童で 81.4%、小学校低学年で 72.1%と最も高く、次いで、未就学児童では「親戚（同居者を含む）・知人に子どもをみてもらった」が 25.4%、小学校低学年では「就労していない保護者が子どもをみた」が 26.8%となっている。

○また、未就学児童・小学校低学年ともに「ファミリーサポートセンターを利用した」の回答はみられなかった。



《対処日数》

○未就学児童の年間対処日数については、[就労している保護者が休んで子どもをみた][就労していない保護者が子どもをみた][親戚・知人に子どもをみてもらった][その他]では「10日以上」がそれぞれ最も高くなっている。

○小学校低学年の年間対処日数については、[就労している保護者が休んで子どもをみた][就労していない保護者が子どもをみた][その他]では「10日以上」がそれぞれ最も高くなっている。

○未就学児童・小学校低学年ともに、[病児保育を利用した]では「1日」が最も高くなっている。

			(%)										
		回答者数(人)	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日以上	無回答
未就学児童	就労している保護者が休んで子どもをみた	1,107	1.2	3.0	5.9	1.9	13.4	1.3	4.8	2.0	0.1	58.9	7.7
	就労していない保護者が子どもをみた	291	1.0	3.8	5.2	1.7	11.7	1.0	4.5	2.4	0.3	56.4	12.0
	親戚・知人に子どもをみてもらった	346	7.8	13.0	11.8	3.5	21.4	2.0	3.5	0.3	0.3	29.8	6.6
	病児保育を利用した	80	26.3	15.0	12.5	1.3	15.0	6.3	3.8	1.3	-	17.5	1.3
	ベビーシッターを利用した	4	-	-	-	-	75.0	-	-	-	-	25.0	-
	ファミリーサポートセンターを利用した	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	12	41.7	8.3	8.3	16.7	8.3	-	-	-	-	16.7	-
	その他	25	8.0	-	4.0	4.0	4.0	-	8.0	4.0	-	64.0	4.0
小学校低学年	就労している保護者が休んで子どもをみた	826	6.2	8.2	15.5	3.6	20.3	2.1	4.6	1.2	0.1	28.7	9.4
	就労していない保護者が子どもをみた	307	4.6	10.7	8.8	2.9	15.3	2.6	6.5	1.0	-	36.2	11.4
	親戚・知人に子どもをみてもらった	222	9.9	18.9	14.0	5.4	20.3	1.4	0.9	0.9	-	18.5	9.9
	病児保育を利用した	10	40.0	20.0	10.0	-	20.0	-	-	-	-	-	10.0
	ベビーシッターを利用した	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	ファミリーサポートセンターを利用した	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	110	16.4	25.5	12.7	6.4	12.7	1.8	1.8	-	-	10.0	12.7
	その他	32	9.4	6.3	18.8	9.4	12.5	-	3.1	3.1	-	21.9	15.6

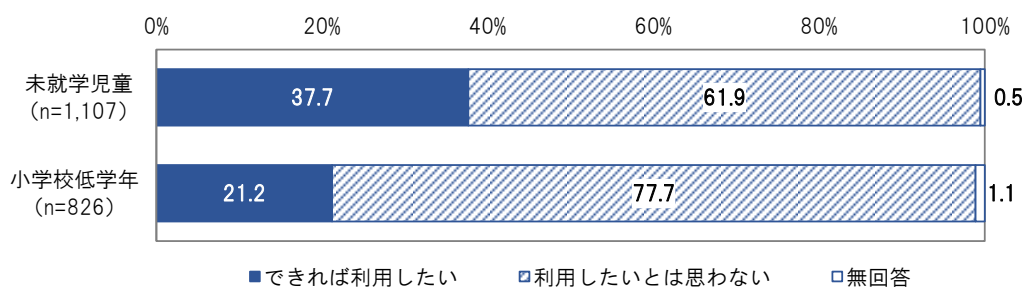
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 就労している保護者が休んで対処した場合の病児保育の利用希望・日数

【未就学（事業利用者）／問 23-2 単数回答・数量回答、小学生／問 28-2 単数回答・数量回答】

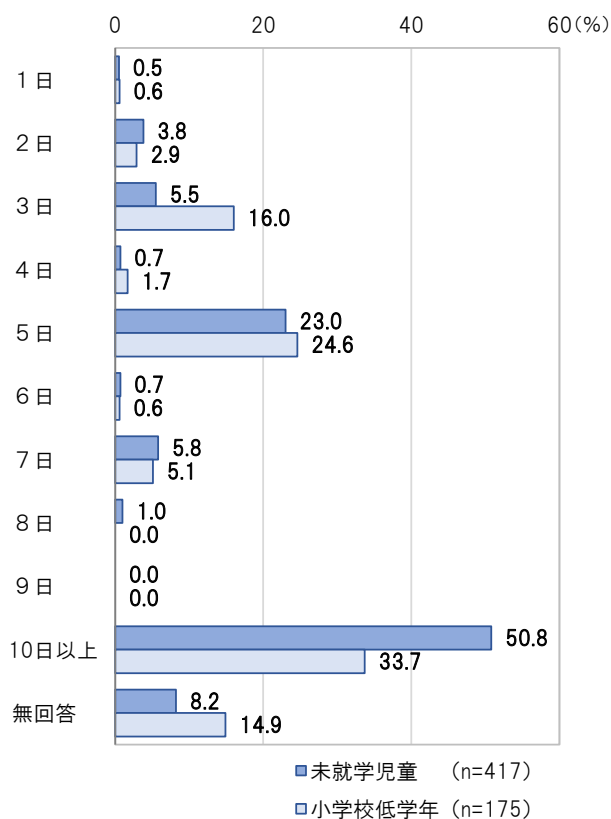
※（1-1）で「就労している保護者が休んで子どもをみた」と回答した人のみ

○就労している保護者が休んで対処した場合の病児保育の利用希望は、「できれば（病児保育を）利用したい」が未就学児童で 37.7%、小学校低学年で 21.2%となっている。



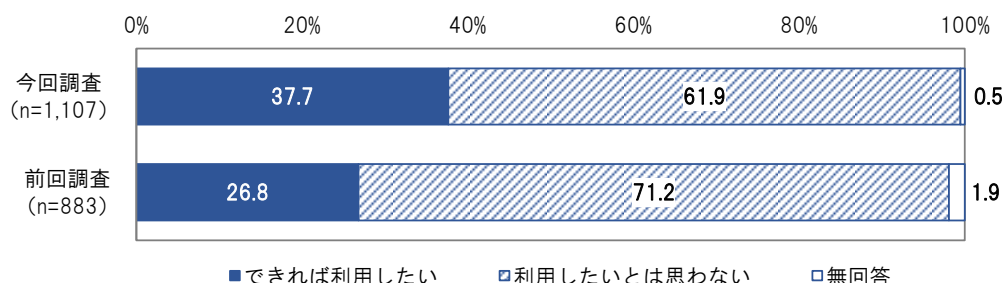
《利用希望日数》

○できれば病児保育を利用したいと回答した場合の年間利用日数については、「10 日以上」が未就学児童で 50.8%、小学校低学年で 33.7%と最も高くなっている。



《経年比較：未就学児童》

○未就学児童の経年比較をみると、前回調査、今回調査ともに「利用したいとは思わない」が最も高くなっているものの、前回調査に比べると「できれば（病児保育を）利用したい」が高くなっている。



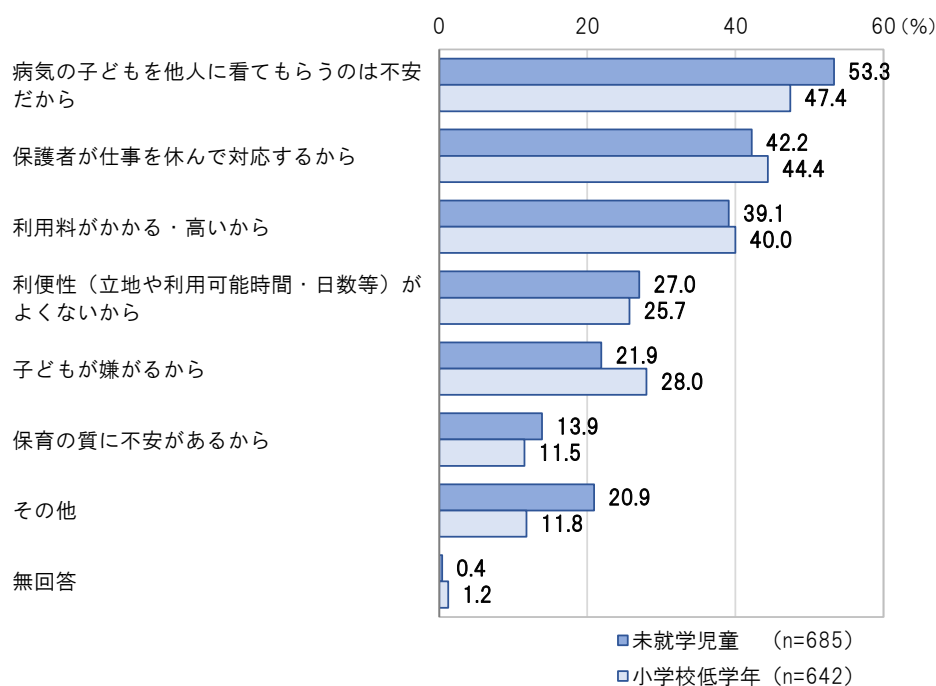
（2-1）病児保育を利用したいと思わない理由

【未就学（事業利用者）／問 23-3 複数回答、小学生／問 28-3 複数回答】

※（2）で「利用したいと思わない」と回答した人のみ

○病児保育を利用したいと思わない理由は、「病気の子どもを他人に看てもらうのは不安だから」が未就学児童で 53.3%、小学校低学年で 47.4%と最も高くなっており、次いで「保護者が仕事を休んで対応するから」（未就学児童：42.2%、小学校低学年：44.4%）、「利用料がかかる・高いから」（未就学児童：39.1%、小学校低学年：40.0%）となっている。

○その他の意見では、未就学児童、小学校低学年ともに「病気の時は子どものそばにいたいから」や「病気の時に慣れない場所に預けるのはかわいそうだから」などの回答が多く、他では「他の病気をもらってこないか心配だから」や「近くにないから」などの回答もみられた。

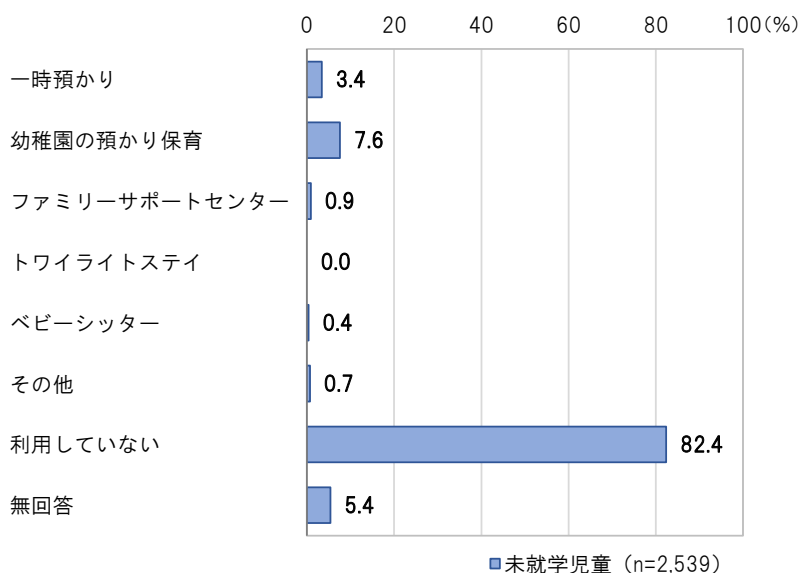


7. 子どもの不定期的な教育・保育事業や一時預かり等の利用について

(1) 日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不規則の就労等の目的で不規則に利用している事業【未就学／問 24 複数回答】

○不規則に利用している事業は、「利用していない」が 82.4%と 8 割以上を占めている。

○利用している人では、「幼稚園の預かり保育」が 7.6%と高く、次いで「一時預かり」(3.4%)となっている。



《年間利用日数》

○年間利用日数では、すべての事業で「10 日以上」が最も高くなっている。

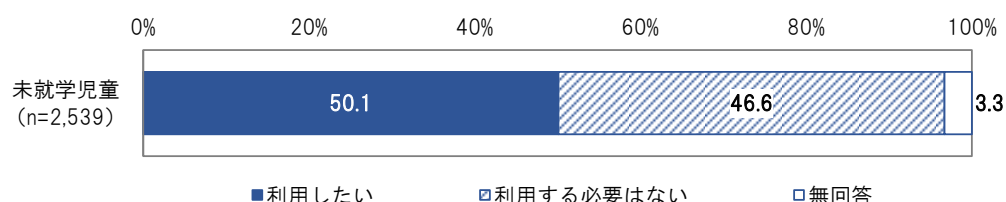
			(%)										
		回答者数（人）	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日以上	無回答
事業名	一時預かり	87	8.0	9.2	9.2	1.1	6.9	1.1	2.3	1.1	-	59.8	1.1
	幼稚園の預かり保育	193	5.2	3.6	4.1	0.5	10.9	2.1	0.5	0.5	-	60.6	11.9
	ファミリーサポートセンター	24	16.7	20.8	12.5	-	8.3	4.2	-	-	4.2	29.2	4.2
	トワイライトステイ	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ベビーシッター	10	-	10.0	-	-	30.0	-	10.0	-	-	40.0	10.0
	その他	19	10.5	5.3	-	-	5.3	10.5	-	-	-	57.9	10.5

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、子どもを預かる事業の利用希望

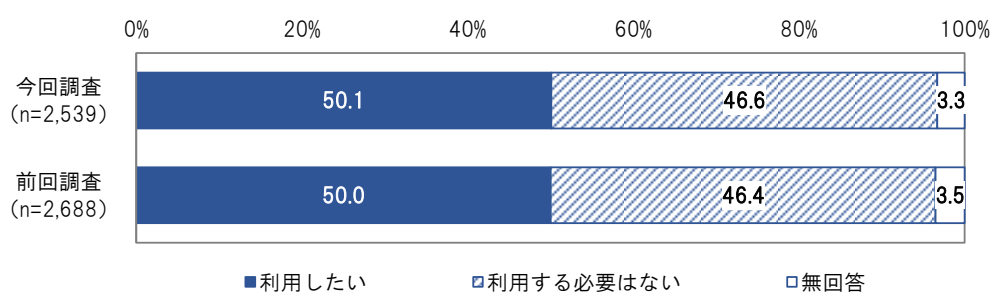
【未就学／問 25 単数回答】

○不定期の就労等の目的で利用したい事業の利用希望は、「利用したい」が50.1%、「利用する必要はない」が46.6%となっている。



《経年比較》

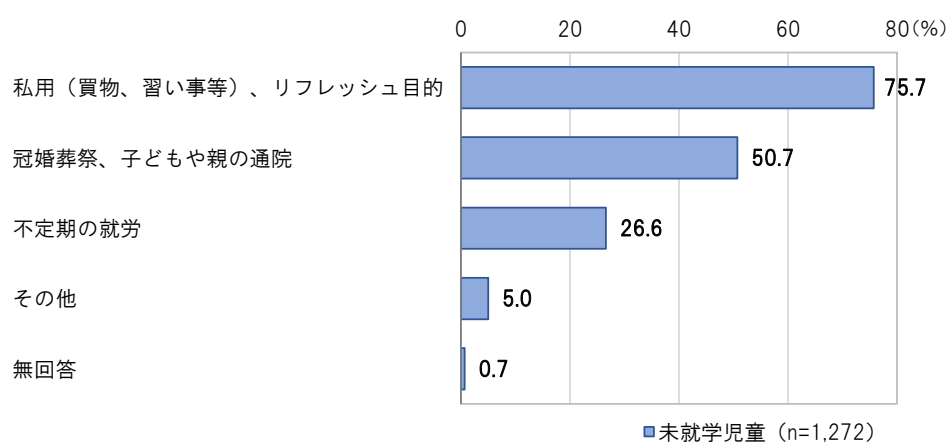
○経年比較をみると、前回調査とほぼ同様の傾向となっている。



(2-1) 利用する目的と希望する年間利用日数【未就学／問 25-1 複数回答・数量回答】

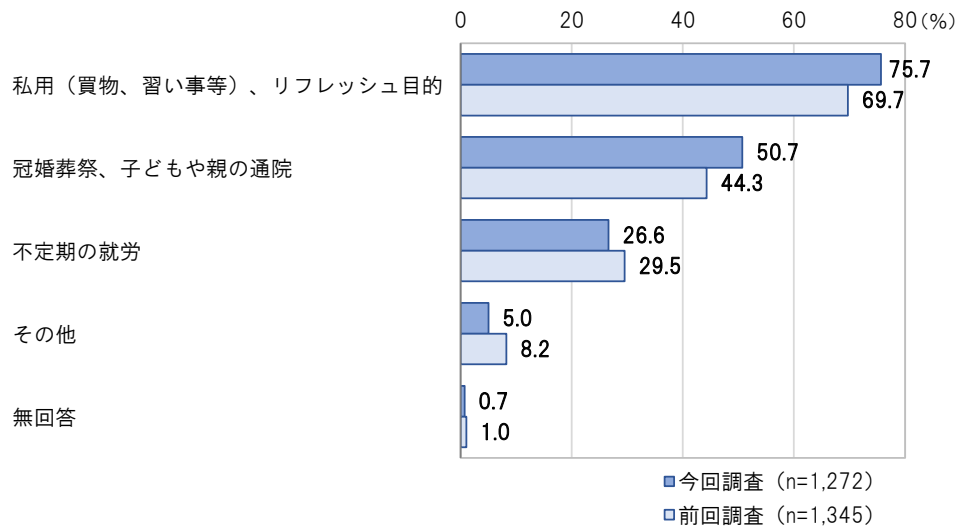
※(2)で「利用したい」と回答した人のみ

○利用したい目的は、「私用（買物、習い事等）、リフレッシュ目的」が75.7%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、子どもや親の通院」（50.7%）、「不定期の就労」（26.6%）となっている。



《経年比較》

○経年比較をみると、回答順は同様の傾向となっているものの、前回調査と比べて「私用（買物、習い事等）、リフレッシュ目的」や「冠婚葬祭、子どもや親の通院」でやや高くなっている。



《年間利用希望日数》

○利用したい年間利用日数では、[その他]を除くすべての目的で「10～14日」が最も高く、[その他]では「5～9日」が最も高くなっている。

○また、[不規則の就労]では「50日以上」がその他の目的に比べて高くなっている。

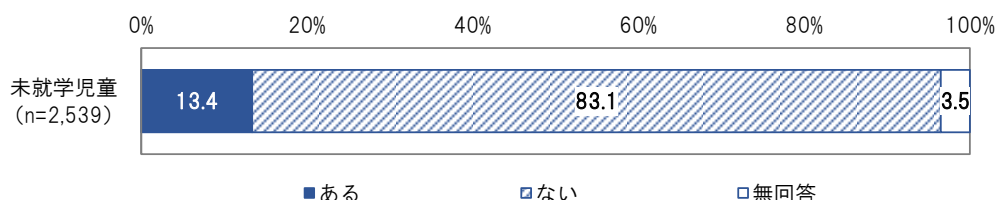
		(%)									
		回答者数 (人)	1 ～ 4 日	5 ～ 9 日	10 ～ 14 日	15 ～ 19 日	20 ～ 29 日	30 ～ 39 日	40 ～ 49 日	50 日 以上	無 回 答
利用 目的	私用（買物、習い事等）、 リフレッシュ目的	963	13.9	18.4	37.8	1.5	8.8	3.3	3.7	4.2	8.4
	冠婚葬祭、子どもや親の 通院	645	24.5	27.0	29.1	0.8	5.0	1.2	0.5	1.2	10.7
	不規則の就労	338	9.2	10.7	24.0	2.1	10.7	8.0	3.0	16.9	15.7
	その他	63	14.3	30.2	17.5	4.8	6.3	3.2	-	7.9	15.9

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(3) 保護者の事情等による短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用の必要性

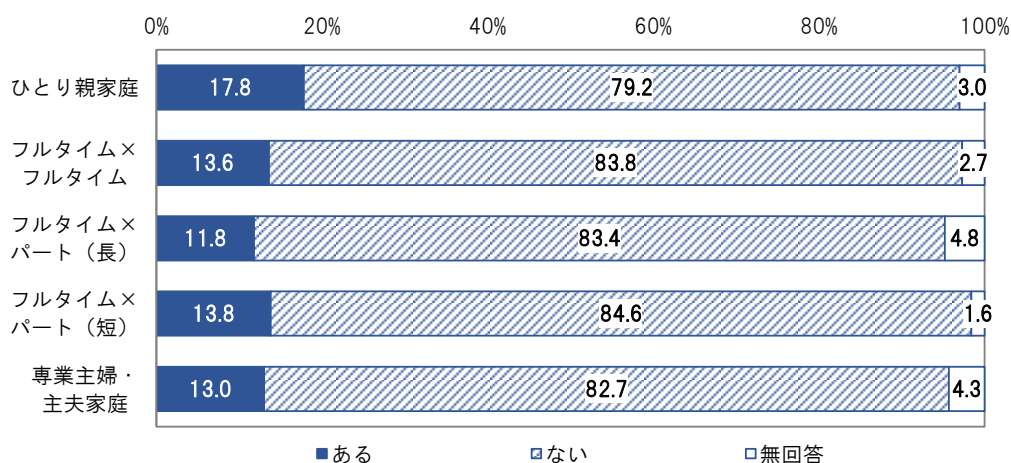
【未就学／問 26 単数回答】

○保護者の事情等による短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用の必要性は、「ない」が 83.1%、「ある」が 13.4%となっている。



《家庭類型別比較》

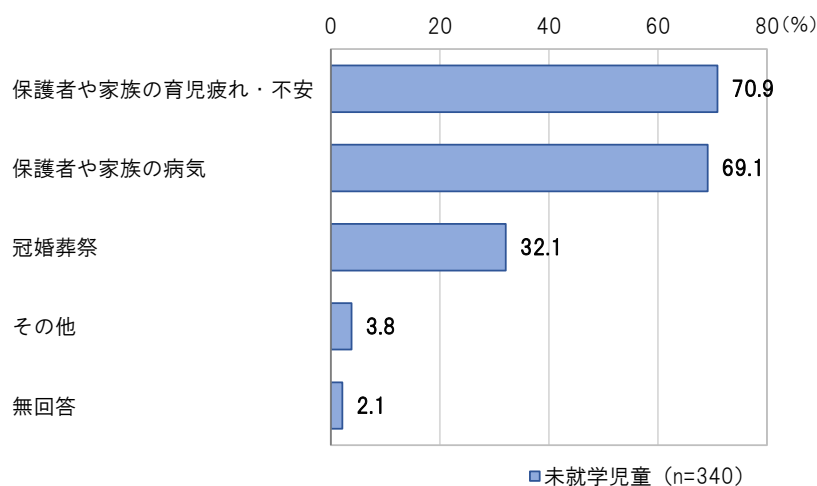
○家庭類型別にみると、「ある」の割合は、[ひとり親家庭] で 17.8%と最も高くなっている。



(3-1) 利用する目的と希望する年間利用日数【未就学／問 26-1 複数回答・数量回答】

※(3)で「ある」と回答した人のみ

○利用したい目的は、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が 70.9%と最も高く、次いで「保護者や家族の病気」(69.1%)、「冠婚葬祭」(32.1%)となっている。



《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、[フルタイム×パート（短）]では「保護者や家族の病気」、その他の家庭類型では「保護者や家族の育児疲れ・不安」が最も高くなっている。

○また、「保護者や家族の育児疲れ・不安」の割合をみると、[ひとり親家庭]では8割以上、[専業主婦・主夫家庭]では約8割と、その他の家庭類型に比べて高くなっている。

(%)

		回答者数 (人)	冠婚葬祭	保護者や家族の 育児疲れ・不安	保護者や家族の 病気	その他	無回答
家庭類型別	ひとり親家庭	18	11.1	83.3	61.1	5.6	-
	フルタイム×フルタイム	142	35.2	69.0	71.1	4.2	1.4
	フルタイム×パート（長）	54	35.2	68.5	66.7	1.9	-
	フルタイム×パート（短）	26	42.3	53.8	61.5	7.7	7.7
	専業主婦・主夫家庭	92	28.3	79.3	71.7	3.3	2.2

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《年間利用希望泊数》

○希望する年間利用泊数では、[保護者や家族の育児疲れ・不安][保護者や家族の病気]の目的で「10泊以上」が最も高くなっている。

(%)

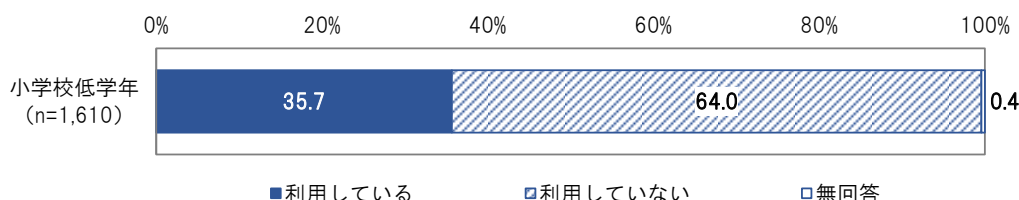
		回答者数 (人)	1泊	2泊	3泊	4泊	5泊	6泊	7泊	8泊	9泊	10泊以上	無回答
利用目的	保護者や家族の育児疲れ・不安	241	5.4	11.2	12.9	2.5	17.0	5.0	3.3	-	-	32.0	10.8
	保護者や家族の病気	235	8.5	10.2	11.5	2.1	17.4	3.4	5.5	0.4	-	22.1	18.7
	冠婚葬祭	109	31.2	22.9	15.6	0.9	10.1	0.9	3.7	-	-	4.6	10.1
	その他	13	7.7	7.7	15.4	-	23.1	-	-	-	-	15.4	30.8

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

8. 子どもの放課後等の預かり事業の利用について

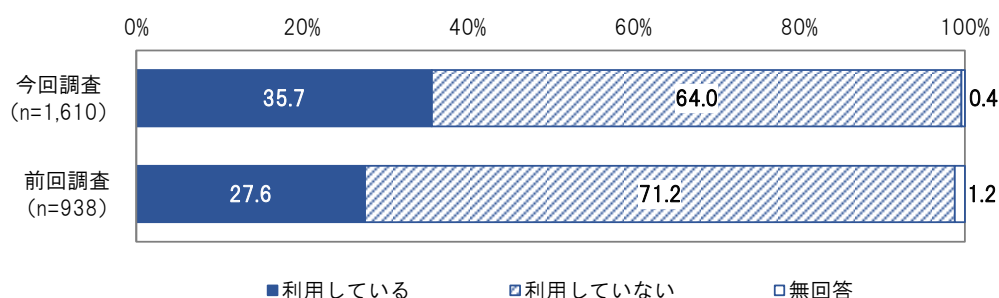
(1) 放課後の預かり事業の利用の有無【小学生／問 23 単数回答】

○放課後の預かり事業の利用の有無は、「利用している」が 35.7%、「利用していない」が 64.0%となっている。



《経年比較》

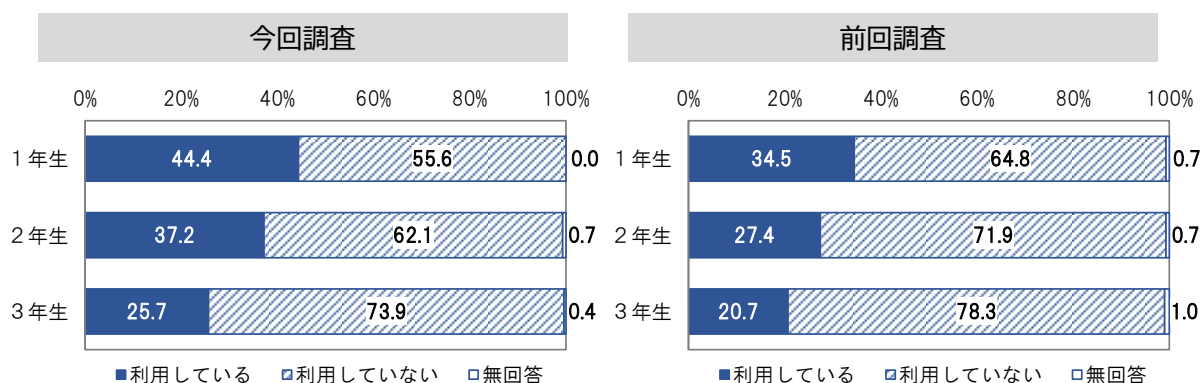
○経年比較をみると、前回調査に比べて「利用している」が 8.1 ポイント高くなっている。



《学年別比較：経年比較》

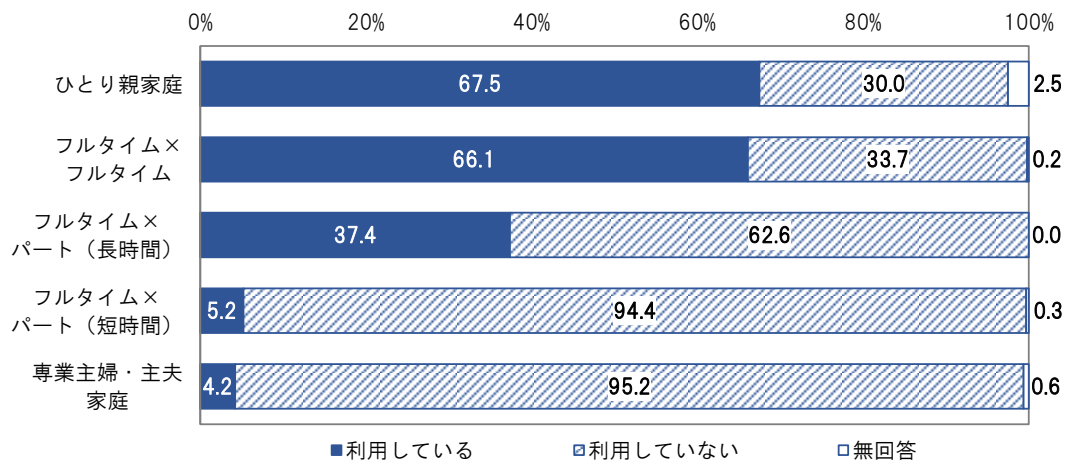
○学年別にみると、学年が下がるにつれて「利用している」が高くなっており、[1年生]では4割以上となっている。

○また、学年別に経年比較をみると、すべての学年で前回調査に比べて「利用している」が高くなっており、特に[1年生][2年生]では約 10 ポイント増加している。



《家庭類型別比較》

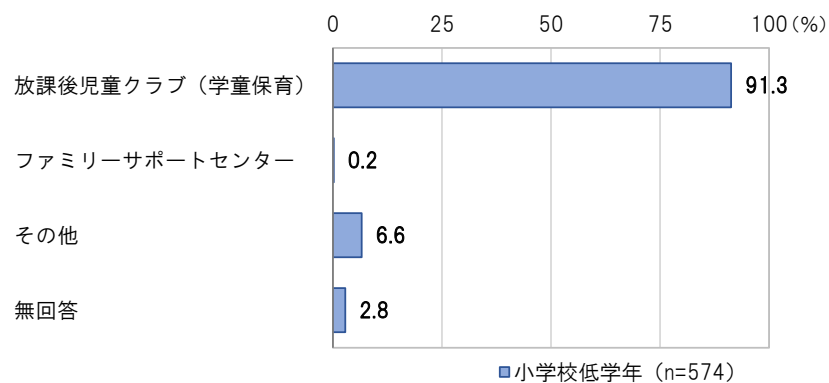
- 家庭類型別にみると、[ひとり親家庭]「フルタイム×フルタイム」では「利用している」が6割を超えて高く、次いで「フルタイム×パート（長時間）」が4割程度となっている。
- 「フルタイム×パート（短時間）」[専業主婦・主夫家庭]では「利用していない」が9割を超えている。



（１－１）利用している預かり事業と利用日数【小学生／問 23-1 複数回答・数量回答】

※（１）で「利用している」と回答した人のみ

- 利用している預かり事業は、「放課後児童クラブ（学童保育）」が91.3%と最も高く、次いで、「ファミリーサポートセンター」が0.2%となっている。



《学年別・家庭類型別比較》

- 学年別にみると、すべての学年で「放課後児童クラブ（学童保育）」が最も高くなっている。
- 家庭類型別にみると、[専業主婦・主夫家庭]を除く家庭類型で「放課後児童クラブ（学童保育）」が最も高くなっている。

(%)

		回答者数 (人)	放課後児童クラブ (学童保育)	ファミリーサポートセン ター	その他	無回答
学年別	1年生	232	90.5	0.4	7.8	2.6
	2年生	209	93.3	-	4.8	2.4
	3年生	132	90.2	-	7.6	3.0
家庭類型別	ひとり親家庭	54	85.2	-	13.0	5.6
	フルタイム×フルタイム	359	95.0	0.3	3.3	1.9
	フルタイム×パート（長）	127	94.5	-	3.1	3.1
	フルタイム×パート（短）	15	66.7	-	33.3	-
	専業主婦・主夫家庭	14	21.4	-	71.4	7.1

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《1週あたりの利用日数》

- 1週あたりの利用日数では、[放課後児童クラブ（学童保育）][その他]で「5日」が最も高くなっている。

(%)

		回答者数 (人)	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答
事業別	放課後児童クラブ（学童保育）	524	0.6	2.5	7.3	15.3	60.7	4.0	-	9.7
	ファミリーサポートセンター	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	その他	38	7.9	15.8	18.4	18.4	36.8	2.6	-	-

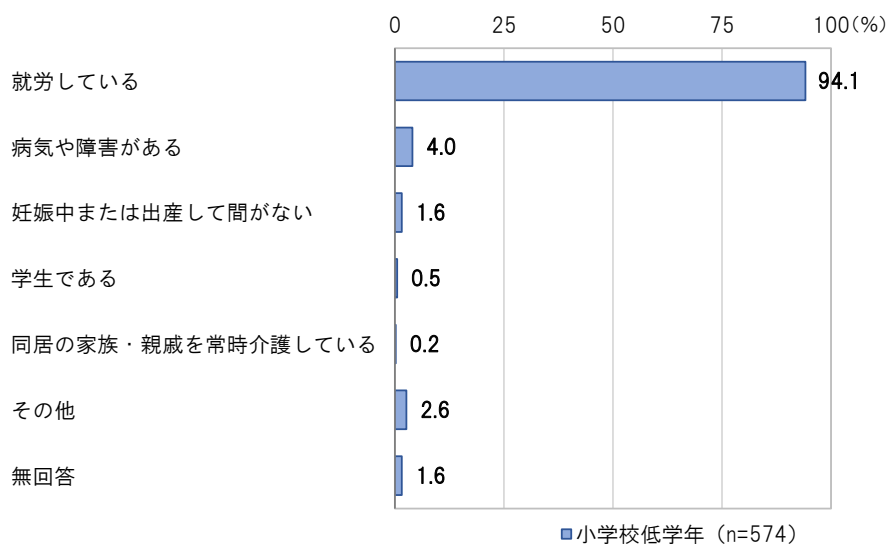
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(1-2) 放課後児童クラブやファミリーサポートセンターを利用している理由

【小学生／問 23-2 複数回答】

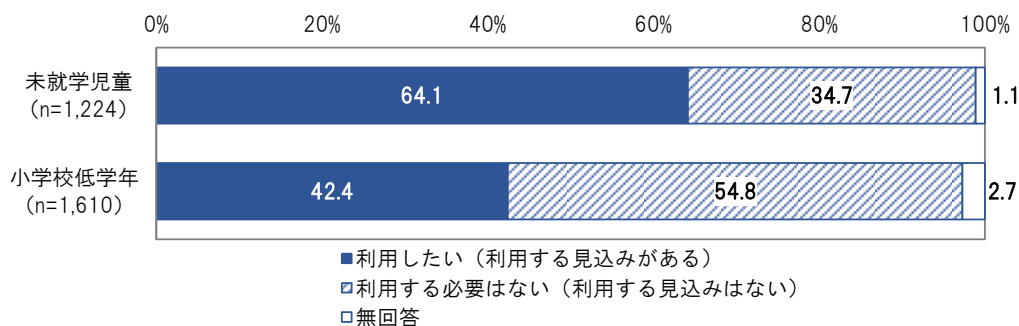
※(1)で「利用している」と回答した人のみ

○放課後児童クラブやファミリーサポートセンターを利用している理由は、「就労している」が94.1%と最も高くなっている。



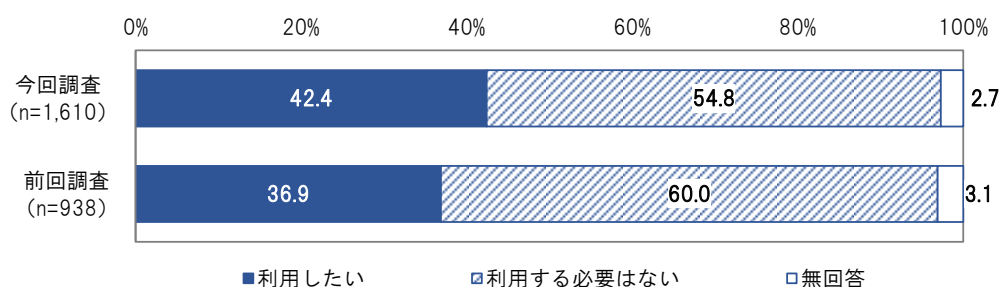
（２）放課後の預かり事業の利用意向【未就学（３歳以上）／問 28 単数回答、小学生／問 24 単数回答】

○放課後の預かり事業の利用意向は、「利用したい（利用する見込みがある）」が未就学児童で 64.1%、小学校低学年で 42.4%となっている。



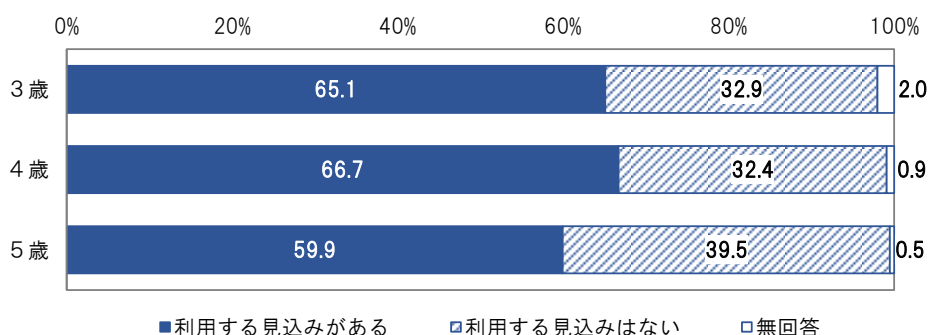
《経年比較：小学校低学年》

○小学校低学年の経年比較をみると、前回調査に比べて「利用したい」がやや高くなっている。



《年齢別比較：未就学児童》

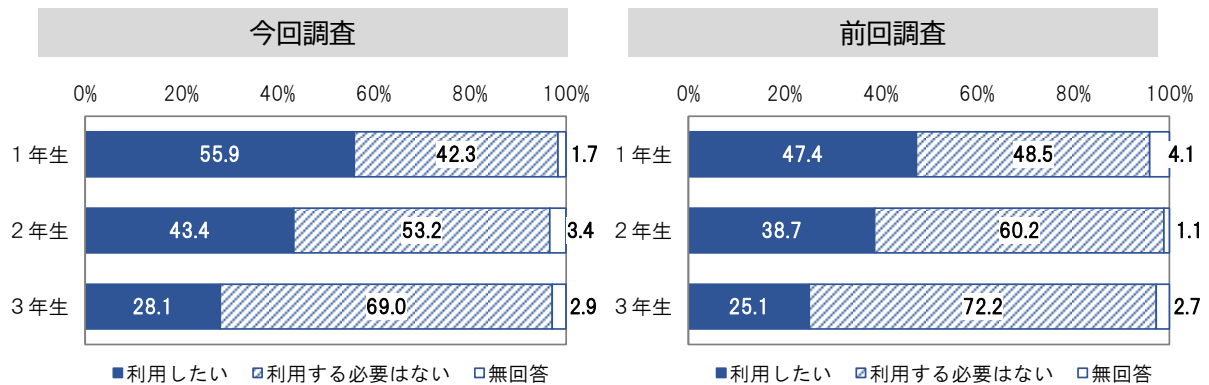
○未就学児童の利用意向を年齢別にみると、[３歳][４歳]では「利用したい」が６割を超えているのに対し、[５歳]ではやや低くなっている。



《学年別比較：小学校低学年：経年比較》

○学年別にみると、学年が下がるにつれて「利用したい」が高くなっており、[1年生]では半数以上となっている。

○また、学年別に経年比較をみると、すべての学年で前回調査に比べて「利用したい」が高くなっており、特に[1年生]では8.5ポイント増加している。



《居住区域別比較》

○居住区域別にみると、未就学児童の「利用する見込みがある」では、[志賀][北部]が約7割を占めて高く、[南部]が6割未満と低くなっている。

○小学校低学年では「利用したい」は[中部]で半数近くを占めて最も高く、[志賀][中南部][東部]で4割を超えている。

		未就学児童				小学校低学年			
		回答者数(人)	利用する見込みがある	利用する見込みはない	無回答	回答者数(人)	利用したい	利用する必要はない	無回答
居住区域別	志賀	57	70.2	29.8	-	73	45.2	50.7	4.1
	北部	159	70.4	28.3	1.3	241	39.0	58.5	2.5
	中北部	195	63.1	33.8	3.1	238	39.9	56.3	3.8
	中部	210	61.9	37.6	0.5	224	48.2	49.6	2.2
	中南部	216	64.4	34.3	1.4	298	44.0	54.4	1.7
	南部	92	57.6	41.3	1.1	114	36.0	59.6	4.4
	東部	294	63.6	36.1	0.3	415	43.1	54.2	2.7

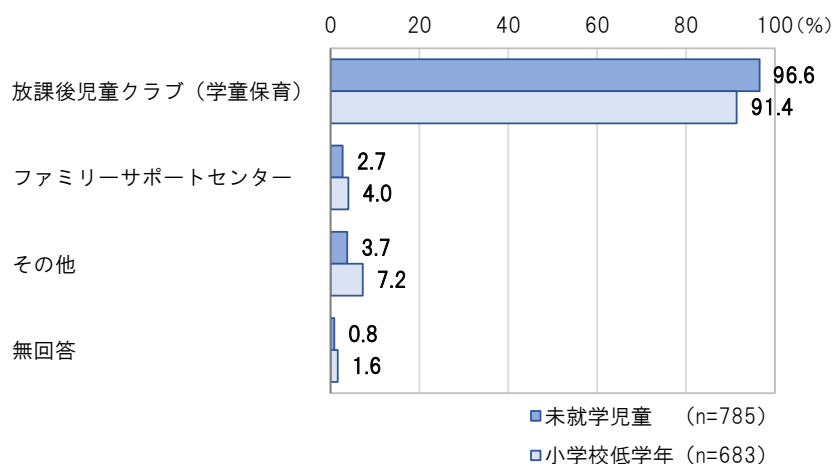
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

(2-1) 利用を希望する預かり事業と利用希望日数

【未就学（3歳以上）／問 28-1 複数回答・数量回答、小学生／問 24-1 複数回答・数量回答】

※（2）で「利用したい」と回答した人のみ

○利用を希望する預かり事業は、「放課後児童クラブ（学童保育）」が未就学児童で 96.6%、小学校低学年で 91.4%と最も高くなっている。



《1週あたりの利用日数》

○1週あたりの利用日数では、「放課後児童クラブ（学童保育）」は「5日」が最も高くなっている。

		(人) 回答者数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答
未就学	放課後児童クラブ（学童保育）	758	0.3	0.9	6.5	7.1	68.3	1.2	-	15.7
	ファミリーサポートセンター	21	4.8	14.3	14.3	4.8	57.1	-	-	4.8
	その他	29	3.4	13.8	17.2	13.8	31.0	-	-	20.7
小学生	放課後児童クラブ（学童保育）	624	1.0	2.4	10.4	15.7	64.7	3.5	-	2.2
	ファミリーサポートセンター	27	18.5	18.5	22.2	11.1	14.8	-	-	14.8
	その他	49	4.1	14.3	16.3	10.2	40.8	10.2	-	4.1

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《利用を希望する期間》

○利用を希望する期間は、すべての預かり事業で「6年生まで」が最も高くなっている。

		(人) 回答者数	まで1年生	まで2年生	まで3年生	まで4年生	まで5年生	まで6年生	無回答
未就学	放課後児童クラブ（学童保育）	758	0.5	4.9	30.1	24.1	5.3	31.5	3.6
	ファミリーサポートセンター	21	-	9.5	19.0	9.5	14.3	38.1	9.5
	その他	29	-	-	10.3	6.9	-	72.4	10.3
小学生	放課後児童クラブ（学童保育）	624	-	2.2	18.8	30.1	9.6	36.2	3.0
	ファミリーサポートセンター	27	3.7	-	7.4	14.8	3.7	63.0	7.4
	その他	49	-	-	12.2	-	2.0	79.6	6.1

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《放課後児童クラブ（学童保育）の利用を希望する期間：年齢・学年別》

○放課後児童クラブ（学童保育）の利用を希望する期間を年齢・学年別にみると、[4歳][5歳]では「3年生まで」が最も高く、[3歳]および[1年生]から[3年生]では「6年生まで」が最も高くなっている。

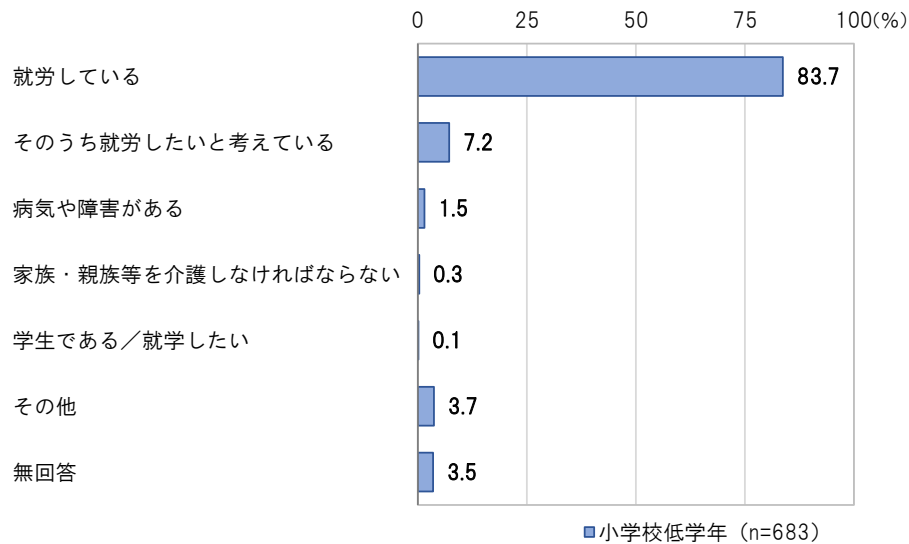
		(人) 回答者数	まで 1 年生	まで 2 年生	まで 3 年生	まで 4 年生	まで 5 年生	まで 6 年生	無 回 答
未 就 学	3歳	249	0.4	3.6	28.5	20.5	6.0	39.0	2.0
	4歳	293	0.3	5.1	30.7	25.6	5.1	29.4	3.8
	5歳	216	0.9	6.0	31.0	26.4	4.6	25.9	5.1
小 学 生	1年生	265	－	4.2	27.9	28.7	5.3	32.1	1.9
	2年生	227	－	0.9	16.3	33.9	9.3	35.7	4.0
	3年生	131	－	0.8	3.8	26.7	19.1	45.8	3.8

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（2-2）放課後児童クラブを利用したい理由【小学生／問24-2 複数回答】

※（2）で「利用したい」と回答した人のみ

○放課後児童クラブを利用したい理由は、「就労している」が83.7%と最も高くなっている。

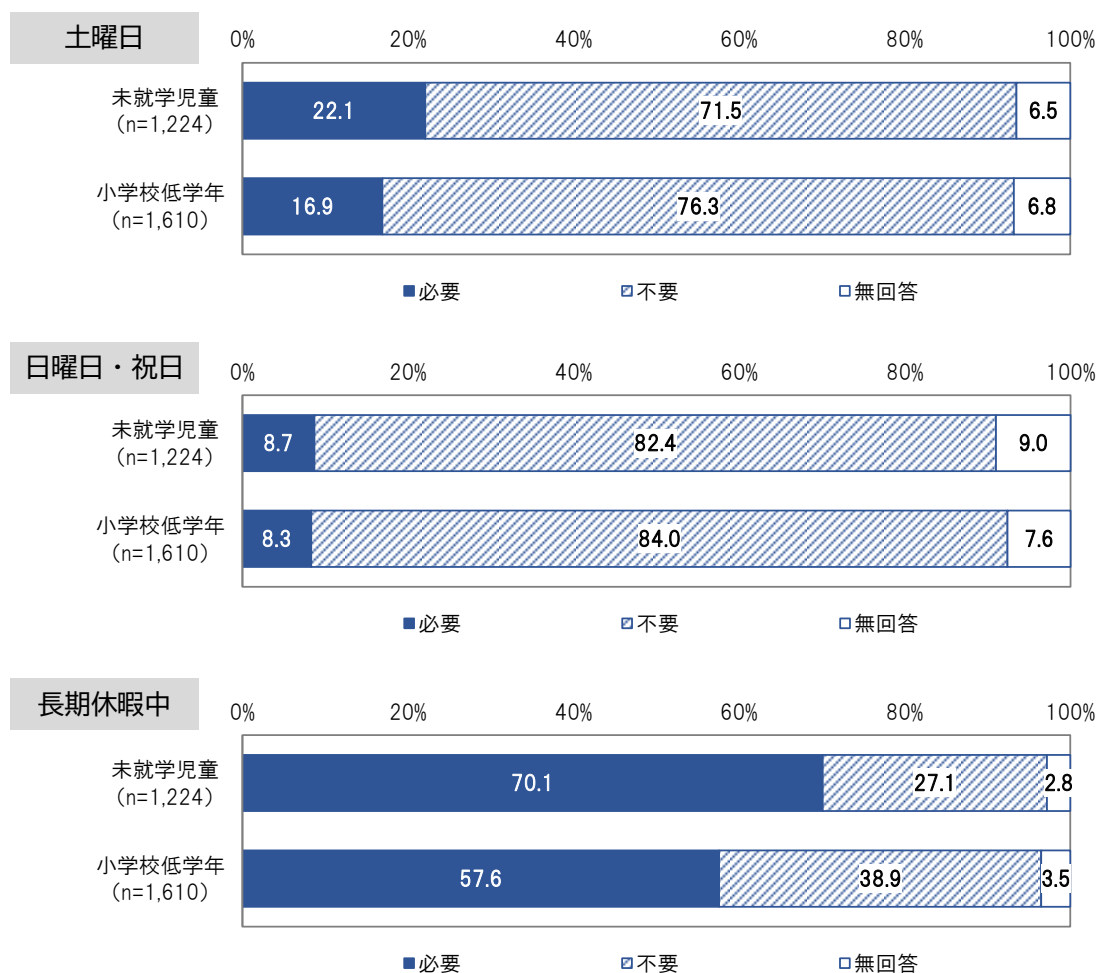


(3) 土曜日等と長期休暇中の放課後児童クラブの利用意向

【未就学（3歳以上）／問 29 単数回答、小学生／問 25 単数回答】

○土曜日と日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用意向は、ともに「不要」が高くなっており、利用意向は、土曜日は2割程度、日曜日・祝日は1割未満となっている。

○長期休暇中の放課後児童クラブの利用意向は、「必要」が未就学児童で70.1%、小学校低学年で57.6%と最も高くなっている。



《利用を希望する期間》

○利用を希望する期間では、未就学児童・小学校低学年とも、土曜日と日曜日・祝日、長期休暇中ともに「6年生まで」が最も高くなっている。

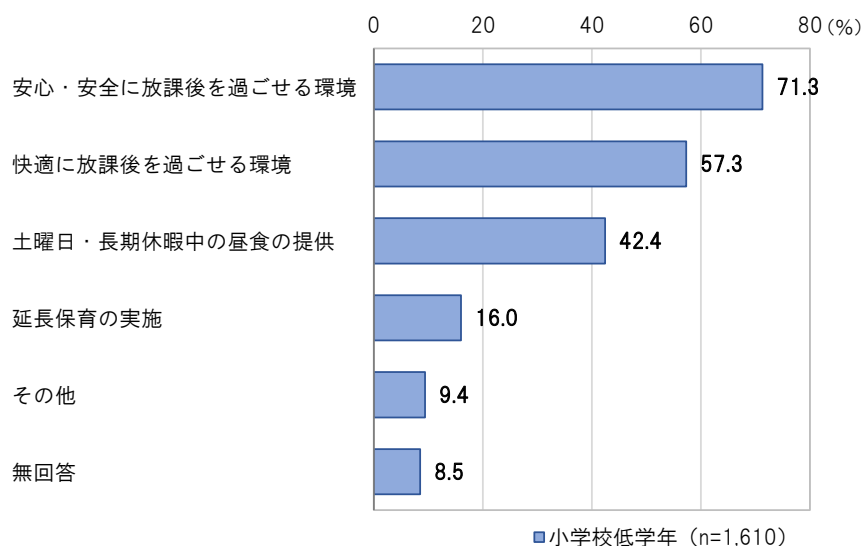
		(人) 回答者数	まで 1 年生	まで 2 年生	まで 3 年生	まで 4 年生	まで 5 年生	まで 6 年生	無 回 答
未 就 学	土曜日	270	0.4	3.7	23.0	21.9	3.7	39.3	8.1
	日曜日・祝日	106	-	1.9	19.8	18.9	4.7	44.3	10.4
	長期休暇中	858	0.2	4.1	25.6	21.3	5.0	37.1	6.6
小 学 生	土曜日	272	-	2.2	16.2	22.8	9.9	42.3	6.6
	日曜日・祝日	134	-	2.2	10.4	15.7	11.2	52.2	8.2
	長期休暇中	928	0.1	1.8	14.3	22.5	8.1	39.2	13.9

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

（４）放課後児童クラブに求めること【小学生／問 26 複数回答】

○放課後児童クラブに求めることは、「安心・安全に放課後を過ごせる環境」が71.3%と最も高く、次いで、「快適に放課後を過ごせる環境」(57.3%)、「土曜日・長期休暇中の昼食の提供」(42.4%)となっている。

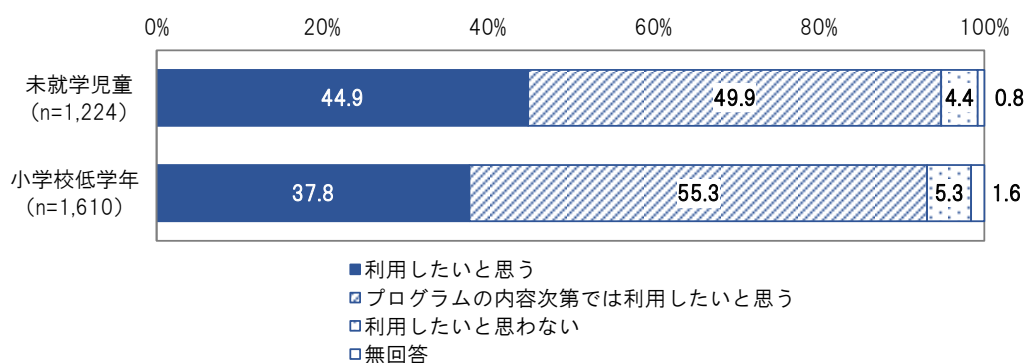
○その他の意見では、「宿題や勉強のサポート」や「安価（もしくは無料）利用料金」などの回答が多く、他では「昼食の提供」や「障害のある子どもへの配慮（加配）」などの回答もみられた。



（５）放課後子ども教室（保護者の就労の有無にかかわらず、放課後等にすべての子ども（小学生）が参加できる子どもの居場所）の利用意向

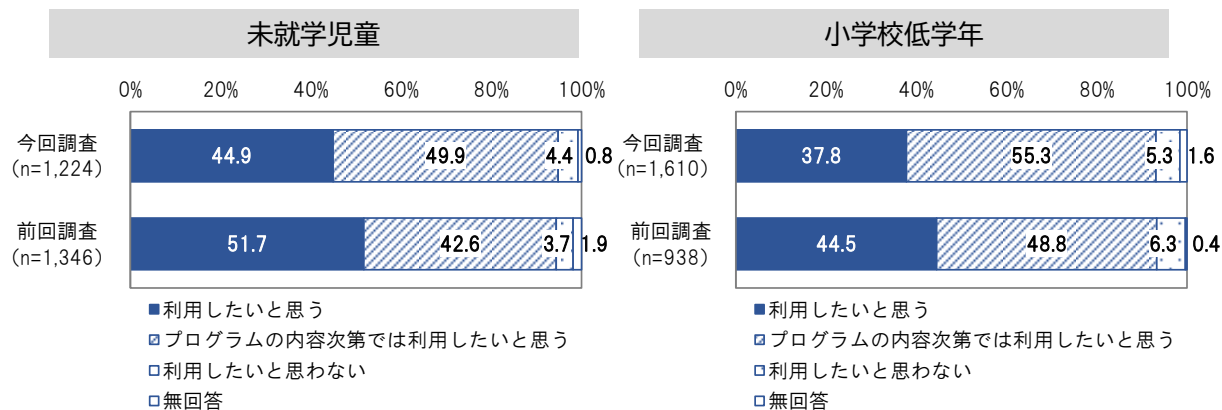
【未就学（3歳以上）／問 30 単数回答、小学生／問 27 単数回答】

○放課後子ども教室の利用意向は、「プログラムの内容次第では利用したいと思う」が未就学児童で49.9%、小学校低学年で55.3%と最も高くなっており、「利用したいと思う」（未就学児童：44.9%、小学校低学年：37.8%）と合わせた『利用したいと思う』は、未就学児童・小学校低学年ともに9割以上となっている。



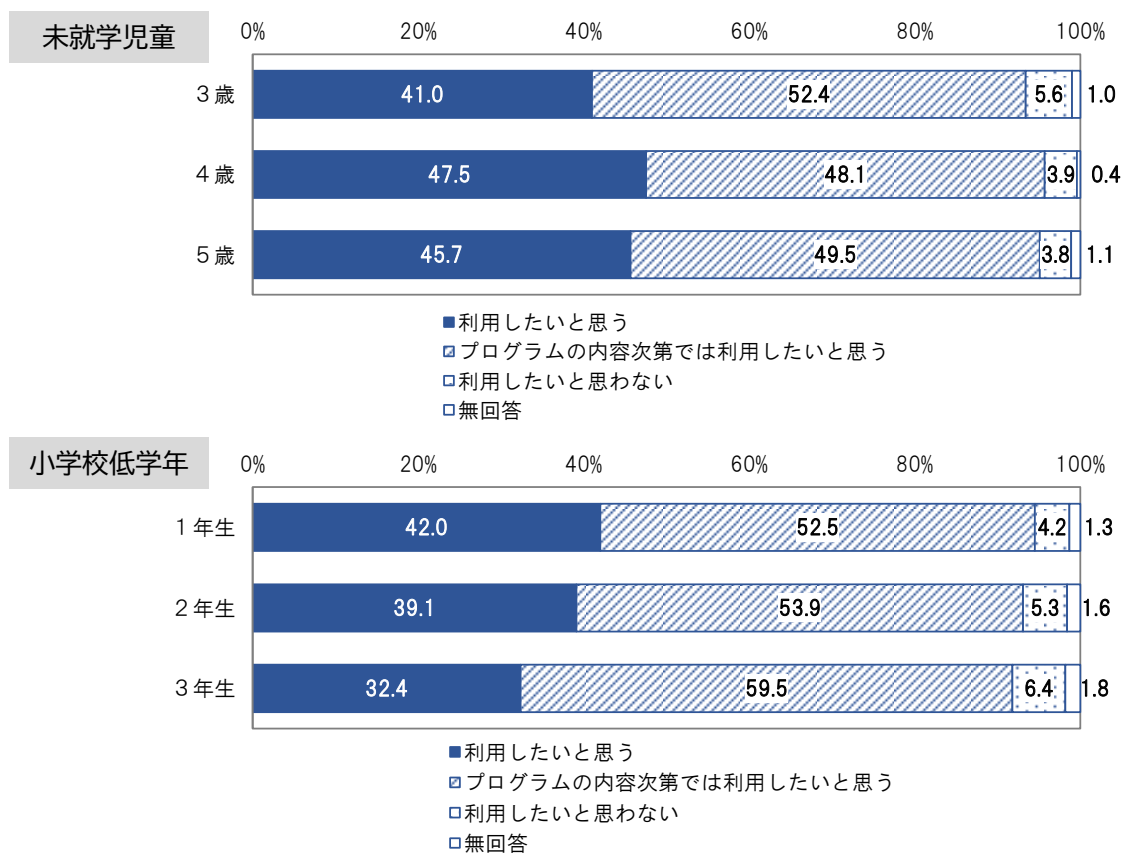
《経年比較》

○経年比較をみると、未就学児童・小学校低学年ともに、前回調査に比べて「利用したいと思う」が低くなっているものの、「プログラムの内容次第では利用したいと思う」が高くなっており、『利用したいと思う』の割合には大きな差異はみられない。



《年齢・学年別》

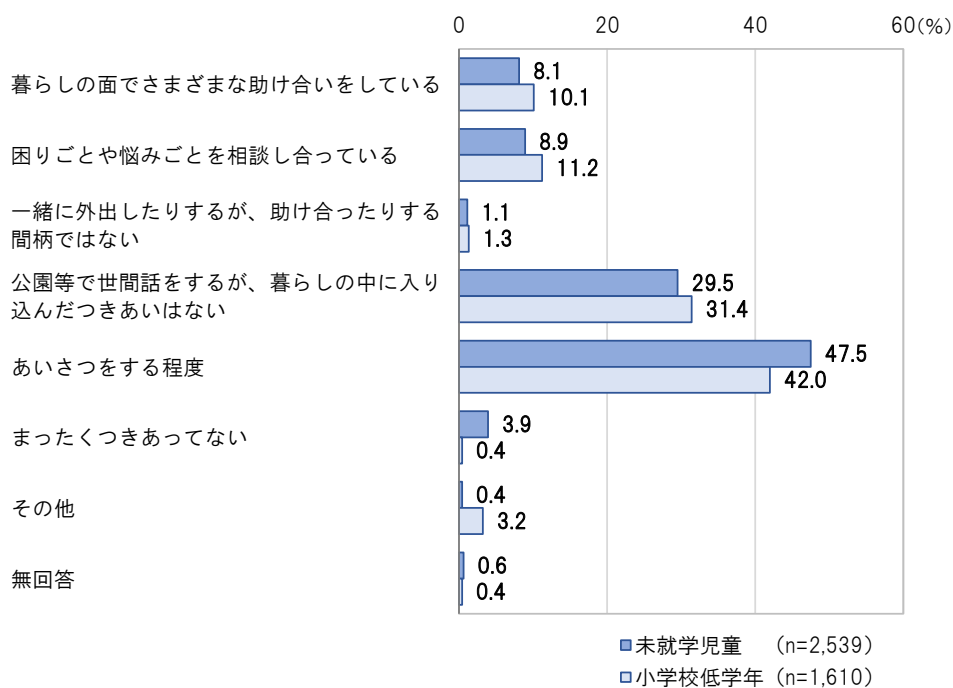
○年齢・学年別にみると、未就学児童では年齢による相関はみられないのに対し、小学校低学年では、学年が下がるにつれて「利用したいと思う」が高くなり、学年が上がるにつれて「プログラムの内容次第では利用したいと思う」が高くなる傾向がみられる。



9. 地域における子育て支援について

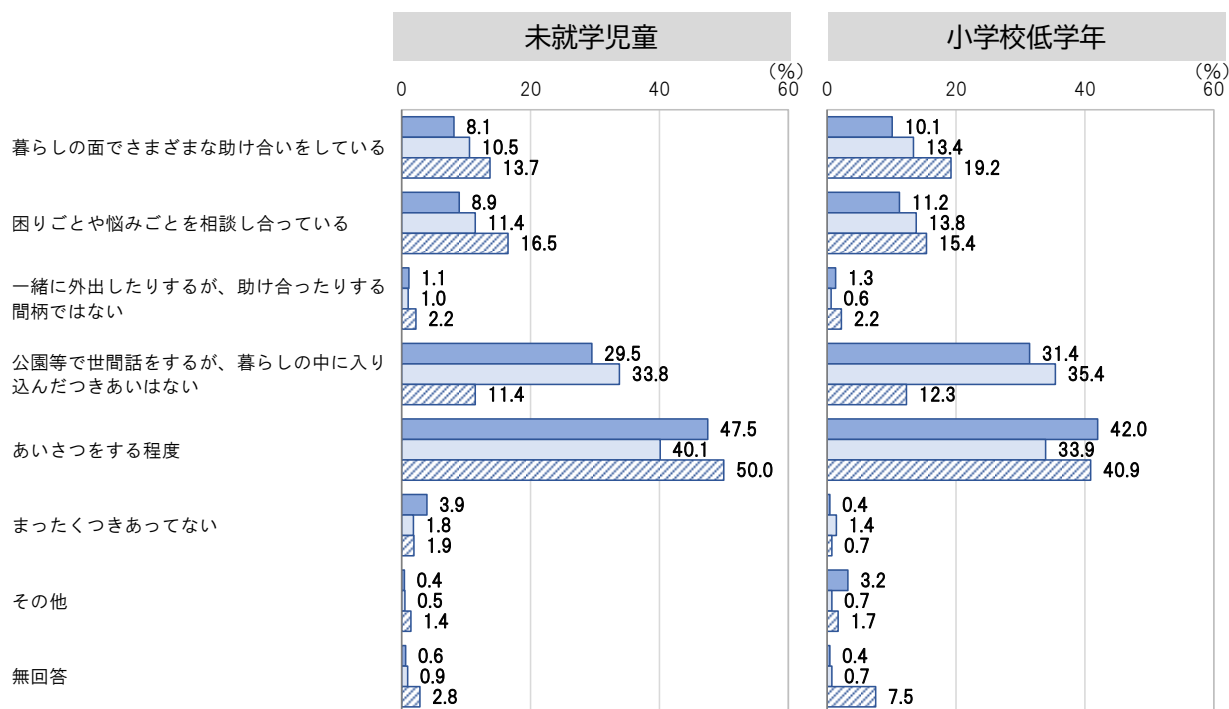
(1) 近所づきあいの程度【未就学／問 34 単数回答、小学生／問 31 単数回答】

○近所づきあいの程度は、「あいさつをする程度」が未就学児童で 47.5%、小学校低学年で 42.0%と最も高く、次いで「公園等で世間話をするが、暮らしの中に入り込んだつきあいはない」（未就学児童：29.5%、小学校低学年：31.4%）となっている。



《経年比較》

○経年比較をみると、未就学児童・小学校低学年ともに、「暮らしの面でさまざまな助け合いをしている」や「困りごとや悩みごとを相談し合っている」が低くなる傾向がみられる。



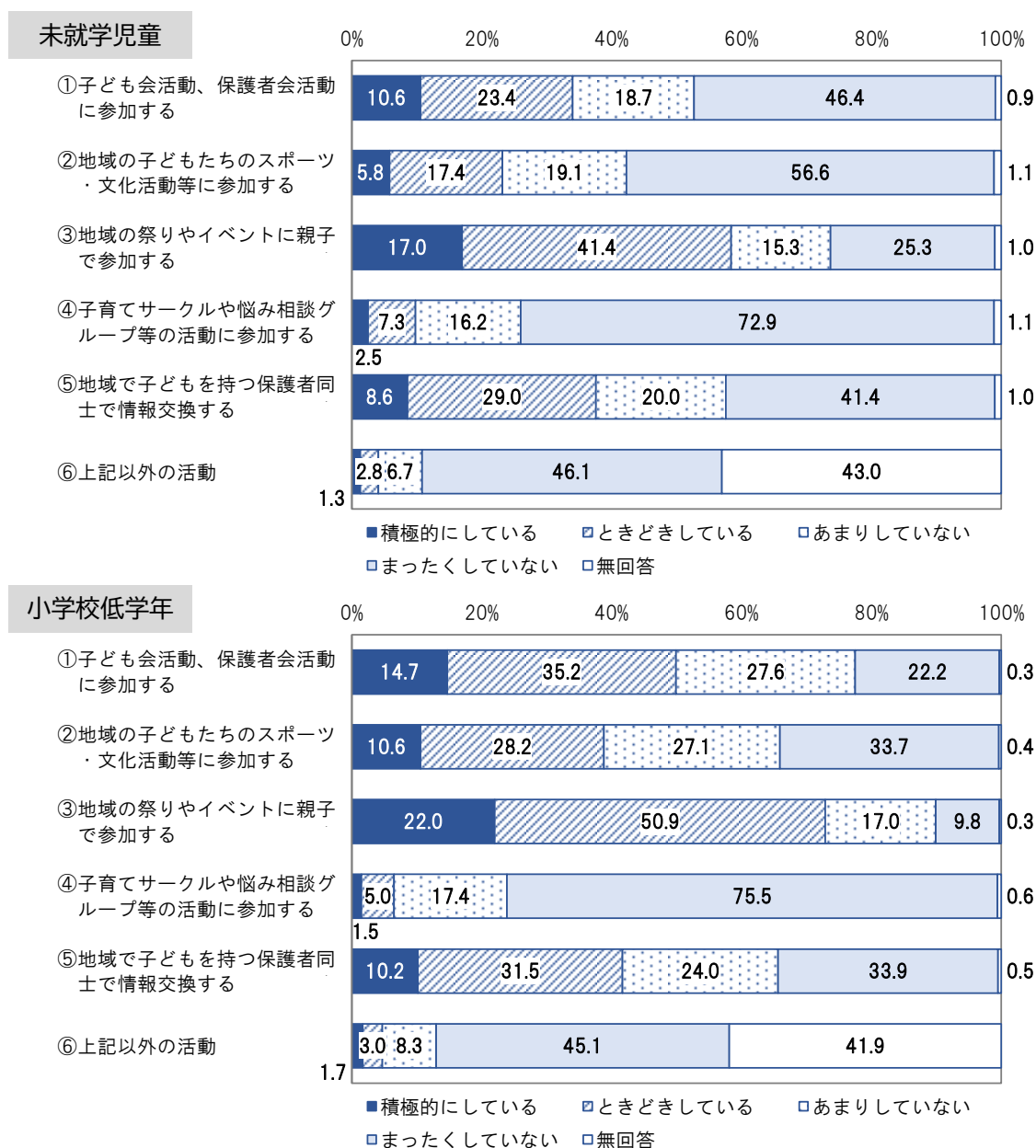
*前々回調査における「宅配便などを預かったりみやげものを分けたりするが、暮らしの中に入り込んだつきあいはない」の割合は、前回・今回調査の「家の前や公園等で世間話をするが、暮らしの中に入り込んだつきあいはない」に掲載

(2) 地域の子どもたちに関わる活動や保護者同士の交流への参加状況

【未就学／問 35 単数回答、小学生／問 32 単数回答】

○地域の子どもたちとの交流や活動の参加の有無は、「積極的にしている」と「ときどきしている」を合わせた『している』の割合をみると、未就学児童・小学校低学年ともに〔③地域の祭りやイベントに親子で参加する〕が最も高く、未就学児童では約6割、小学校低学年は7割以上となっている。

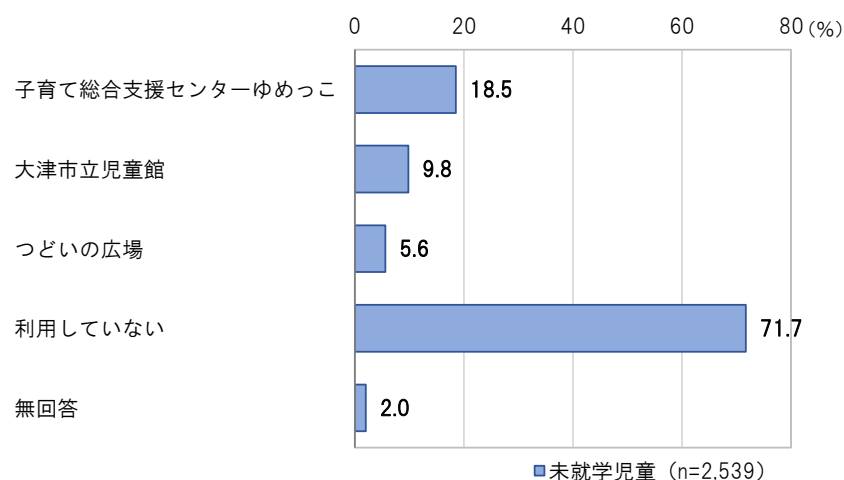
○おおむねすべての項目で、未就学児童に比べて小学校低学年で『している』の割合が高く、特に〔①子ども会活動、保護者会活動に参加する〕〔②地域の子どもたちのスポーツ・文化活動等に参加する〕〔③地域の祭りやイベントに親子で参加する〕では10ポイント以上上回っている。



(3) 地域子育て支援拠点施設の利用状況【未就学／問 36 複数回答・数量回答】

○地域子育て支援拠点施設の利用状況は、「利用していない」が71.7%と最も高くなっている。

○利用している人では、「子育て総合支援センターゆめっこ」が18.5%と高く、次いで「大津市立児童館」(9.8%)、「つどいの広場」(5.6%)となっている。



《年齢別・家庭類型別比較》

○年齢別にみると、すべての事業で、年齢が下がるにつれて利用が高くなっている。

○家庭類型別にみると、すべての事業で「専業主婦・主夫家庭」の利用が最も高くなっている。

○また、[フルタイム×フルタイム][専業主婦・主夫家庭]では、「子育て総合支援センターゆめっこ」が2割を超えて、その他の家庭類型に比べて高くなっている。

		回答者数 (人)	子育て総合支援センター ゆめっこ	大津市立児童館	つどいの広場	利用していない	無回答
年齢別	0歳	429	33.1	16.8	13.1	49.4	2.1
	1歳	427	26.5	14.1	7.5	62.8	1.6
	2歳	388	22.7	13.7	6.2	64.4	2.3
	3歳	395	14.7	6.8	3.3	77.7	2.3
	4歳	457	7.0	3.1	2.6	88.4	1.3
	5歳	372	7.8	5.4	1.3	85.8	2.2
家庭類型別	ひとり親家庭	101	11.9	8.9	4.0	73.3	5.0
	フルタイム×フルタイム	1,047	21.6	9.4	5.2	70.7	1.6
	フルタイム×パート (長)	458	9.6	4.8	1.5	84.3	1.7
	フルタイム×パート (短)	188	13.8	5.3	3.7	79.8	2.7
	専業主婦・主夫家庭	705	22.4	14.8	9.8	62.6	2.0

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《0～2歳の教育・保育事業利用状況別比較》

○0～2歳について、教育・保育事業の利用状況別にみると、すべての年齢で〔(教育・保育事業を)利用していない〕人の地域子育て支援拠点施設の利用が高く、特に、〔0歳〕ではすべての施設で10ポイント以上の差がみられる。

○また、「大津市立児童館」では、すべての年齢で教育・保育事業の利用状況により10ポイント以上の差がみられる。

(%)

		回答者数 (人)	子育て総合支援センター ゆめっこ	大津市立児童館	つどいの広場	利用していない	無回答
0歳	(教育・保育事業を)利用している	161	25.5	5.6	5.6	65.2	1.2
	(教育・保育事業を)利用していない	261	37.5	23.4	18.0	39.8	2.7
1歳	(教育・保育事業を)利用している	262	22.1	7.3	4.6	71.8	1.5
	(教育・保育事業を)利用していない	151	33.8	25.2	12.6	48.3	1.3
2歳	(教育・保育事業を)利用している	289	20.8	10.4	3.8	69.9	1.4
	(教育・保育事業を)利用していない	94	29.8	23.4	13.8	47.9	4.3

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《月あたりの利用回数》

○月あたりの利用回数は、すべての事業で「1回」が最も高くなっている。

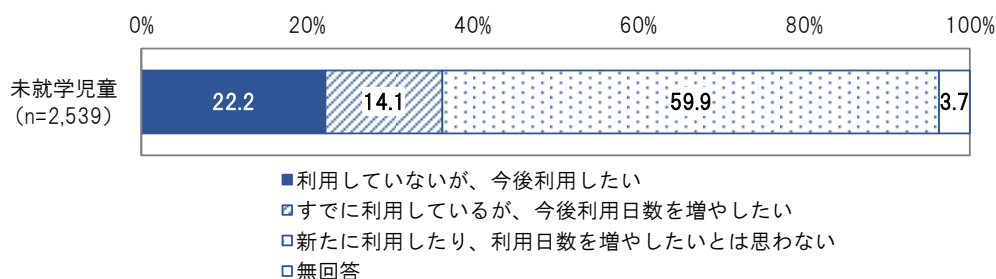
(%)

		回答者数 (人)	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上	無回答
支援拠点施設別	子育て総合支援センターゆめっこ	469	61.8	13.6	5.5	5.5	1.1	0.2	-	0.4	-	2.3	9.4
	大津市立児童館	143	36.4	14.7	10.5	9.8	7.0	2.1	-	3.5	-	7.7	8.4
	つどいの広場	250	44.8	22.0	6.8	10.4	4.0	1.2	-	1.6	-	2.8	6.4

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(4) 地域子育て支援拠点施設の今後の利用意向【未就学／問 37 単数回答・数量回答】

○地域子育て支援拠点施設の今後の利用意向は、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が 59.9%と最も高くなっており、「利用していないが、今後利用したい」は 22.2%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」は 14.1%となっている。



《年齢別・家庭類型別比較》

○年齢別にみると、すべての年齢で「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が最も高くなっているものの、[0歳][1歳]では「利用していないが、今後利用したい」が3割近く、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が2割以上となっており、利用意向が高くなっている。

○家庭類型別にみると、すべての家庭類型で「利用していないが、今後利用したい」が2割程度となっている。また、[専業主婦・主夫家庭]では、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が約2割を占め、その他の家庭類型に比べてやや高くなっている。

		回答者数(人)	利用していないが、今後利用したい	すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい	新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない	無回答
年齢別	0歳	429	28.7	31.2	37.3	2.8
	1歳	427	29.5	21.3	45.2	4.0
	2歳	388	22.4	16.2	57.0	4.4
	3歳	395	19.5	7.1	70.1	3.3
	4歳	457	17.1	4.4	75.7	2.8
	5歳	372	16.4	5.6	72.6	5.4
家庭類型別	ひとり親家庭	101	21.8	10.9	62.4	5.0
	フルタイム×フルタイム	1,047	22.5	13.7	61.1	2.7
	フルタイム×パート(長)	458	20.1	8.3	66.8	4.8
	フルタイム×パート(短)	188	20.2	10.6	62.2	6.9
	専業主婦・主夫家庭	705	23.4	20.3	53.0	3.3

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《0～2歳の教育・保育事業利用状況別比較》

- 0～2歳について、教育・保育事業の利用状況別にみると、[0歳・(教育・保育事業を)利用していない]では「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が最も高くなっている。
- また、[0歳][1歳]では、[(教育・保育事業を)利用している]に比べて、[(教育・保育事業を)利用していない]での今後の利用意向が高くなっている。

(%)

		回答者数(人)	利用していないが、今後利用したい	すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい	新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない	無回答
0歳	(教育・保育事業を)利用している	161	26.7	19.9	49.7	3.7
	(教育・保育事業を)利用していない	261	29.9	37.9	29.9	2.3
1歳	(教育・保育事業を)利用している	262	29.8	15.3	50.8	4.2
	(教育・保育事業を)利用していない	151	26.5	30.5	39.1	4.0
2歳	(教育・保育事業を)利用している	289	25.3	15.6	56.4	2.8
	(教育・保育事業を)利用していない	94	13.8	18.1	59.6	8.5

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《月あたりの利用希望回数》

- 月あたりの利用希望回数は、[すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい]人では「4回」、[利用していないが、今後利用したい]人では「1回」が最も高くなっている。既に利用している人では、週1回程度の頻度に増やしたい人が多い傾向がみられる。

(%)

		回答者数(人)	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上	無回答
意向別	利用していないが、今後利用したい	564	44.7	22.3	7.4	11.3	2.1	0.2	0.2	0.5	-	2.3	8.9
	すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい	359	13.1	18.1	15.6	18.7	7.5	1.9	-	8.1	0.3	9.2	7.5

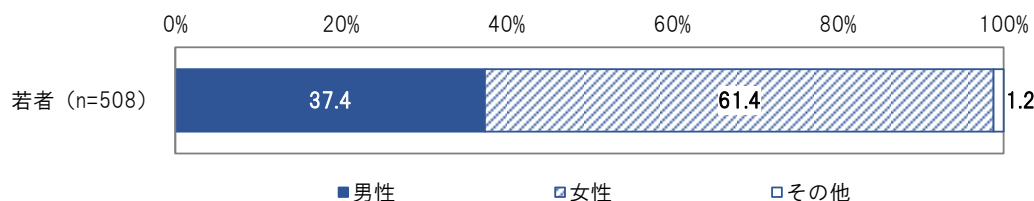
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

Ⅲ 調査結果②《若者の生活実態や考え・支援のニーズ》

1. 自身と家族のことについて

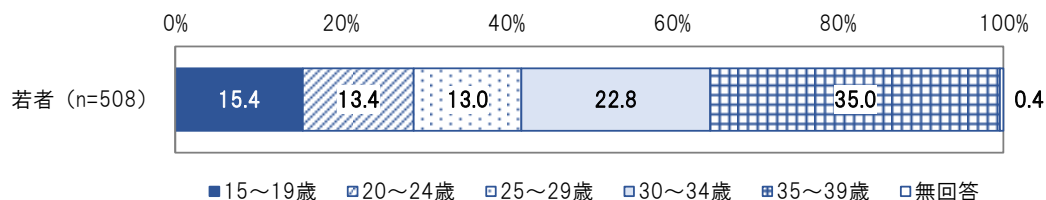
(1) 性別【若者／問1 単数回答】

○性別は、「男性」が37.4%、「女性」が61.4%となっている。



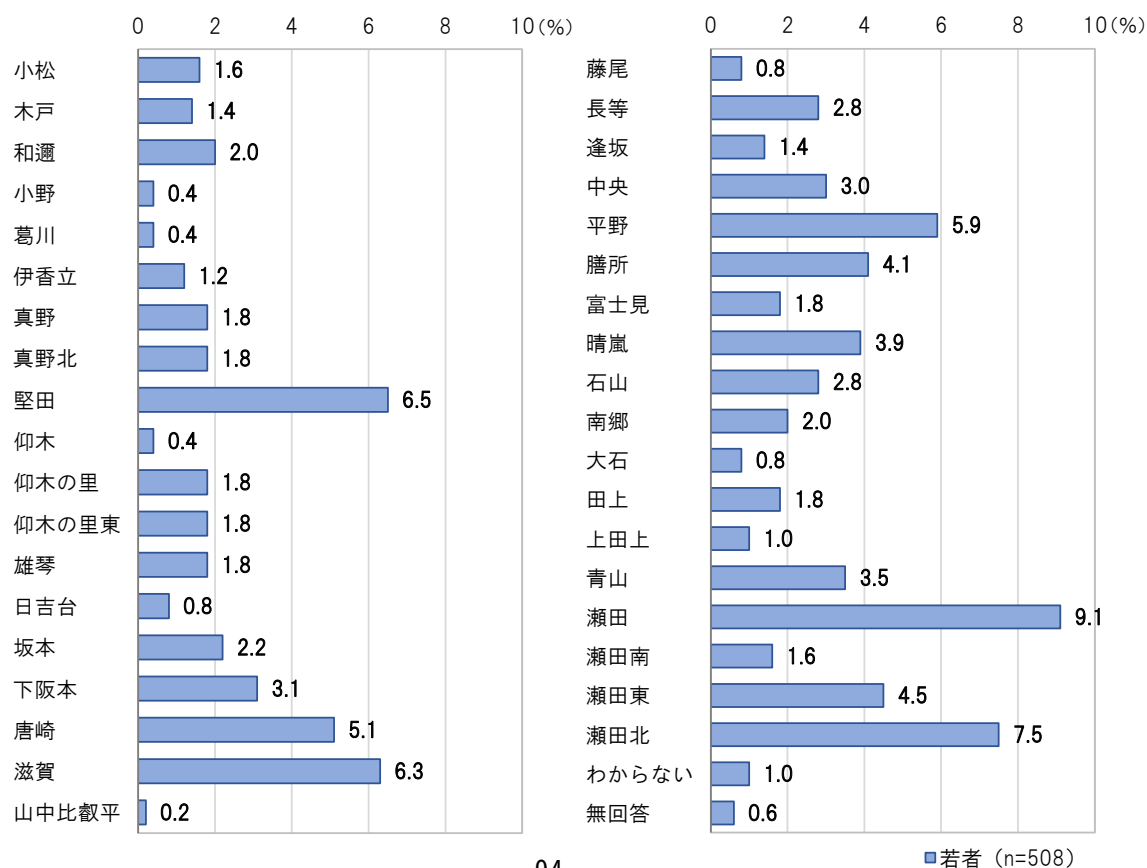
(2) 年齢（令和5年4月1日現在）【若者／問2 単数回答】

○年齢は、「35～39歳」が35.0%と最も高く、次いで「30～34歳」(22.8%)、「15～19歳」(15.4%)となっている。



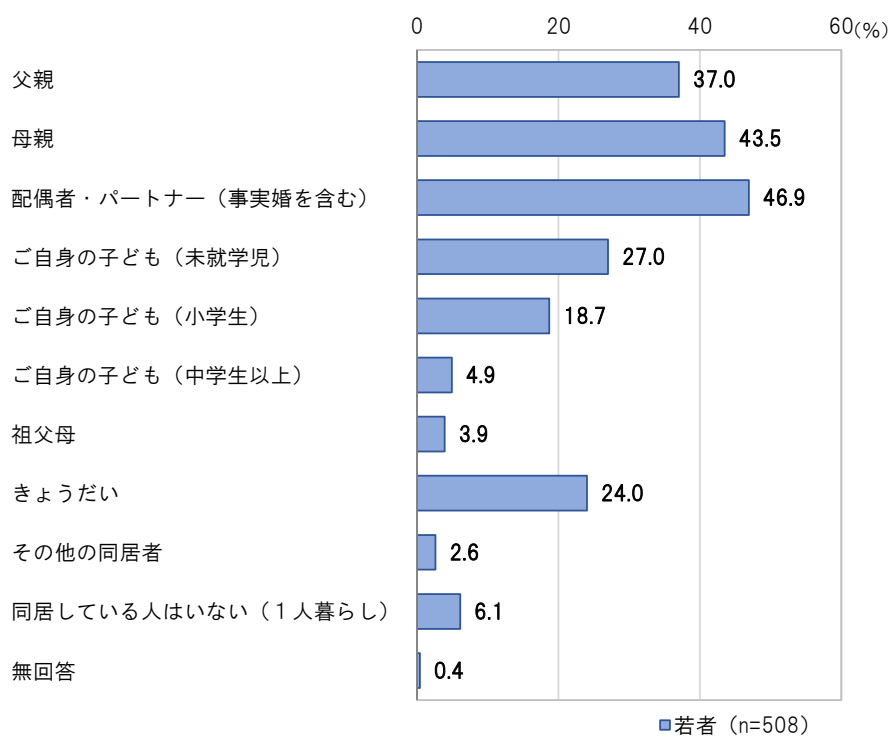
(3) 居住学区（小学校区）【若者／問3 単数回答】

○居住学区についてみると、「瀬田」が9.1%と最も高く、次いで「瀬田北」(7.5%)、「堅田」(6.5%)、「滋賀」(6.3%)となっている。



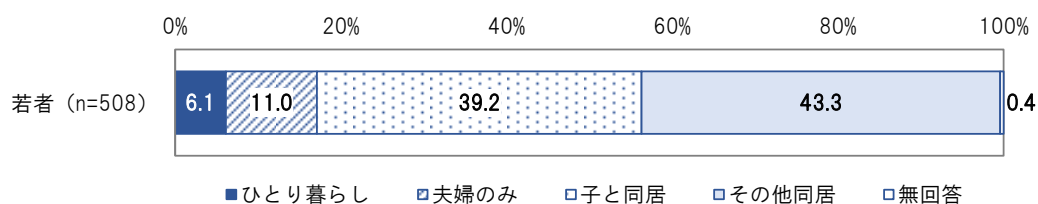
（４）同居家族【若者／問４ 複数回答】

○同居家族は、「配偶者・パートナー（事実婚を含む）」が46.9%と最も高く、次いで「母親」（43.5%）、「父親」（37.0%）となっている。また、「同居している人はいない（１人暮らし）」が6.1%となっている。



《家族形態》

○同居家族より家族形態を区分すると、「その他同居」が43.3%と最も高く、「子と同居」が39.2%となっている。



【参考】家族形態区分の考え方

ひとり暮らし：「同居している人はいない」と回答した人

夫婦のみ：「配偶者・パートナー（事実婚を含む）」のみを回答した人

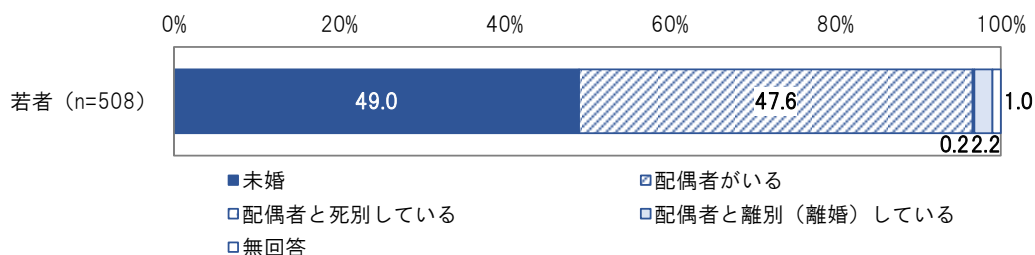
子と同居：「ご自身の子ども（未就学児）」「ご自身の子ども（小学生）」「ご自身の子ども（中学生以上）」のいずれかを回答した人

その他同居：上記以外の世帯

として区分している。

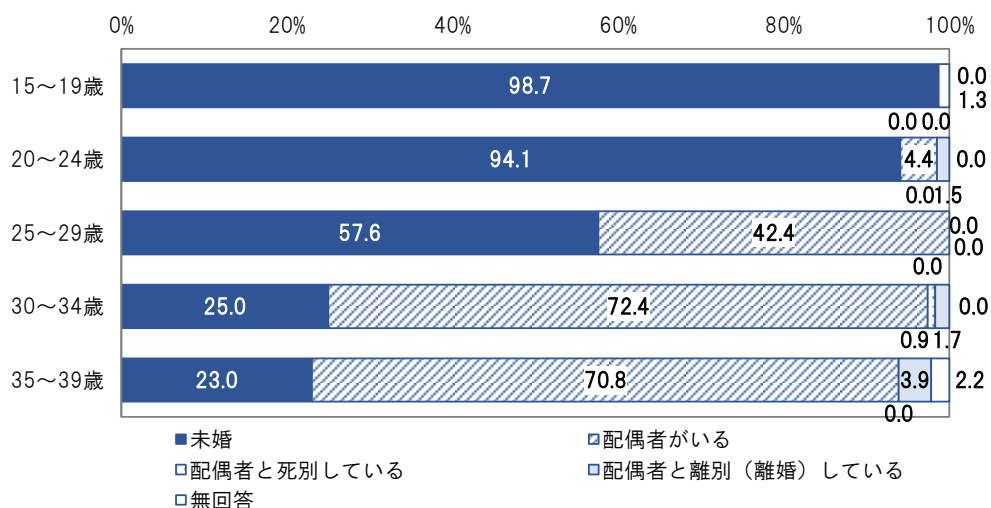
（５）婚姻状況【若者／問 24 単数回答】

○婚姻状況は、「未婚」が49.0%と最も高く、次いで「配偶者がいる」が47.6%となっている。



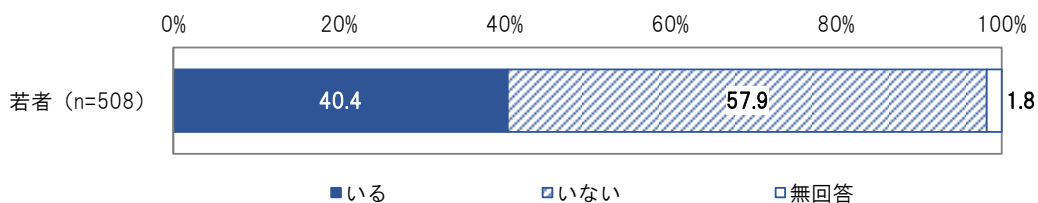
《年代別比較》

○年代別にみると、[15～19 歳] [20～24 歳] では「未婚」が9割を超え、[25～29 歳] では「未婚」が約6割、「配偶者がいる」が約4割となっており、[30～34 歳] [35～39 歳] では「配偶者がいる」が7割を超えている。



（６）子どもの有無【若者／問 25 単数回答】

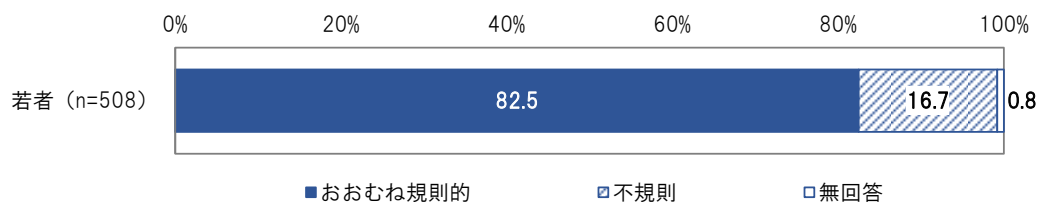
○子どもの有無は、「いる」が40.4%、「いない」が57.9%となっている。



2. ふだんの生活について

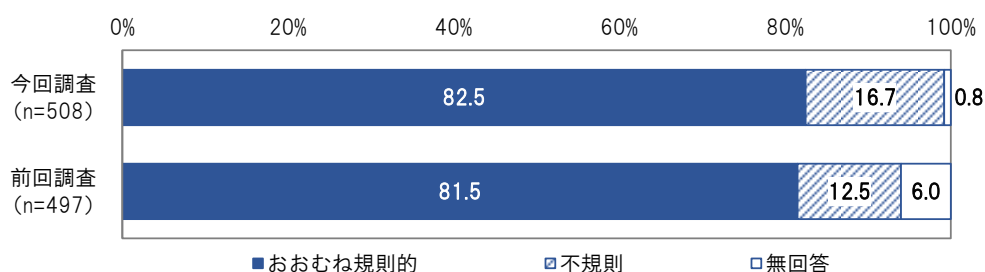
(1) 就寝時刻と起床時刻【若者／問5 単数回答・数量回答】

○就寝時刻と起床時刻は、「おおむね規則的」が82.5%、「不規則」が16.7%となっている。



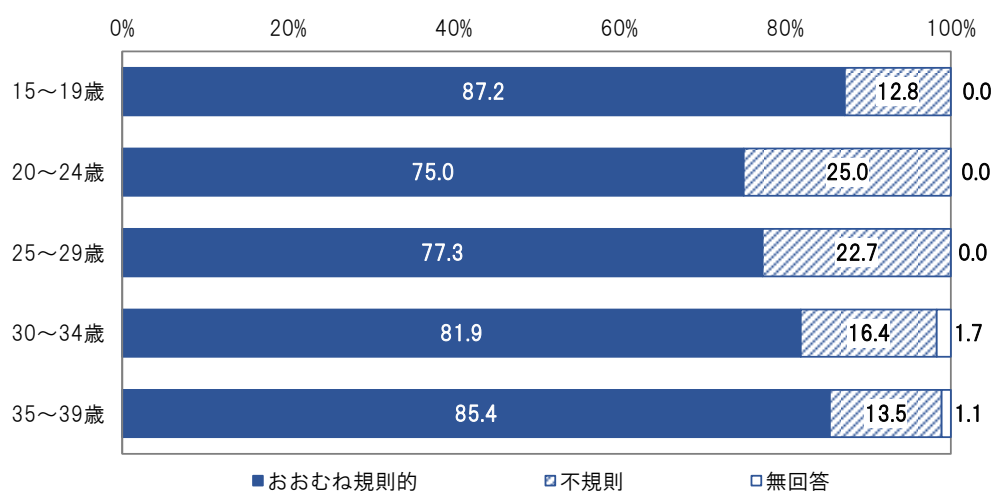
《経年比較》※前回調査は「睡眠の状況」の回答との比較

○経年比較をみると、「不規則」がやや高くなっている。



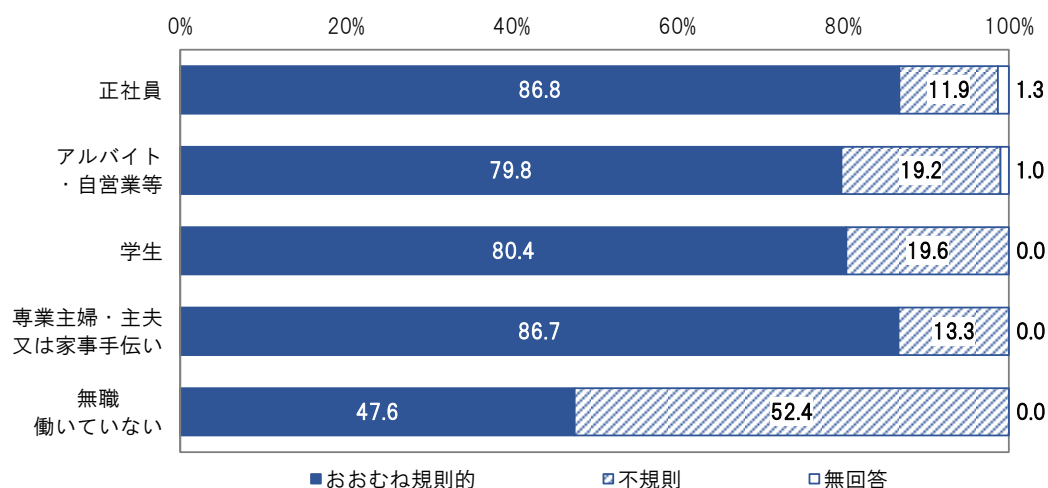
《年代別比較》

○年代別にみると、[20～24 歳] [25～29 歳] では「不規則」が2割を超え、その他の年代に比べてやや高くなっている。



《就労状況別比較》

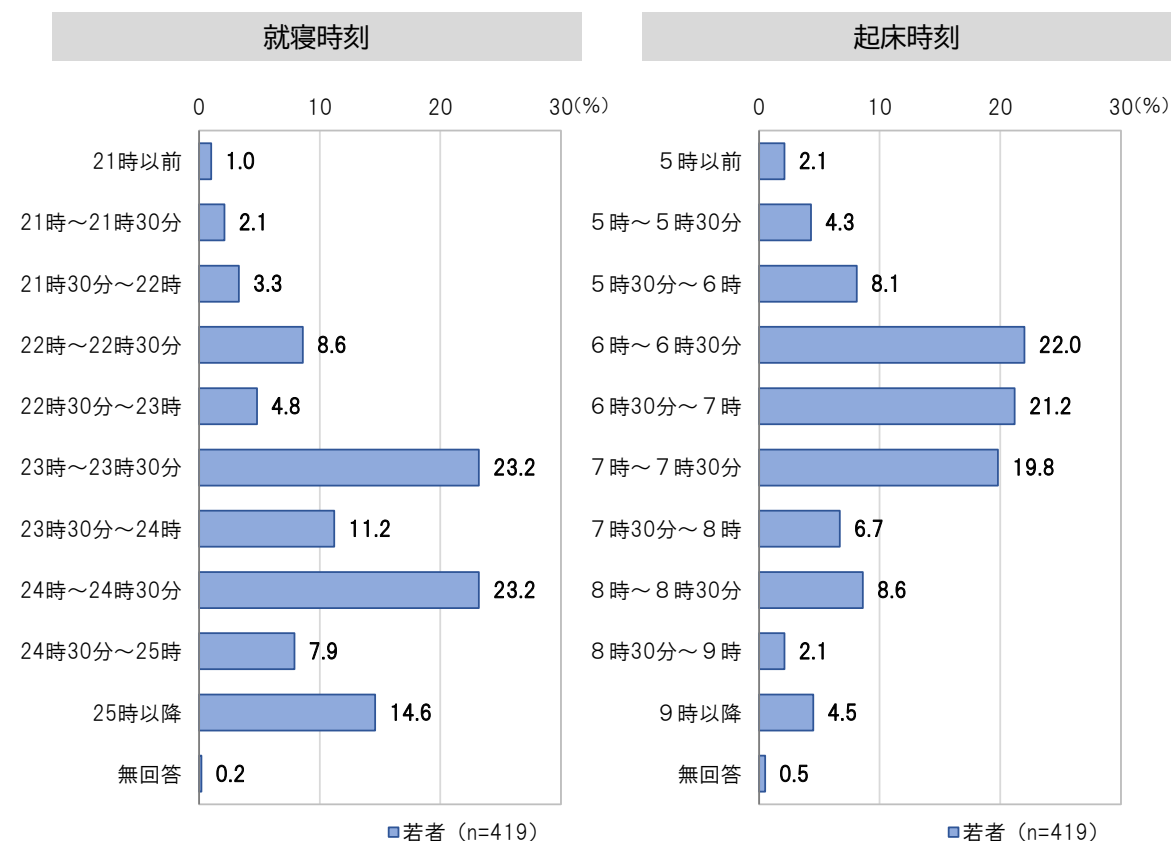
○就労状況別にみると、[正社員] [アルバイト・自営業等] [学生] [専業主婦・主夫等] は「おおむね規則的」が8割程度であるのに対して、[無職、働いていない] では「おおむね規則的」は半数未満となっている。※就労状況の分類については、P121 参照。



《就寝時刻・起床時刻》 ※「おおむね規則的」と回答した人のみ

○就寝時刻は、「23 時～23 時 30 分」および「24 時～24 時 30 分」が 23.2%と最も高く、次いで「25 時以降」が 14.6%となっている。

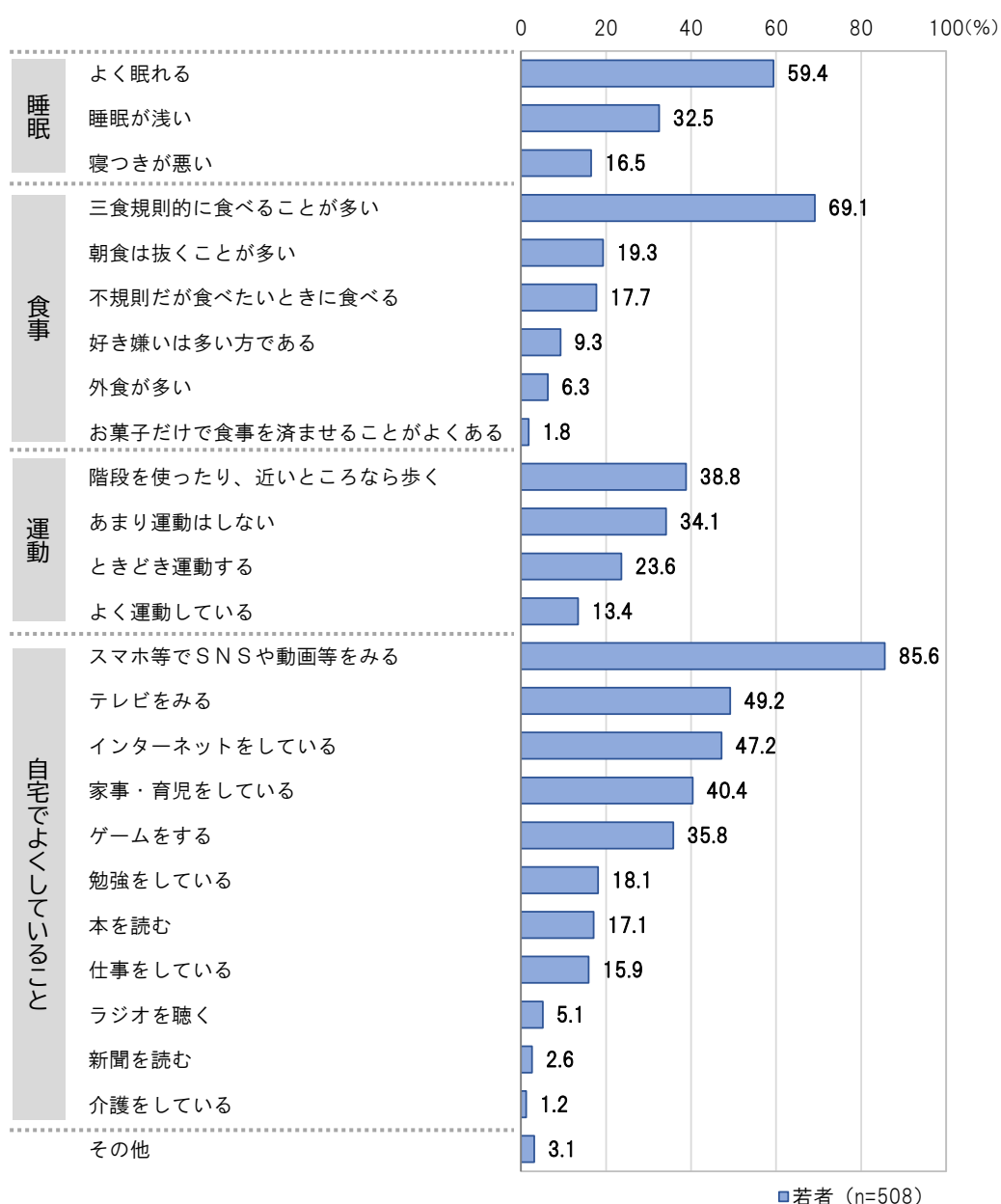
○起床時間は、「6 時～6 時 30 分」が 22.0%と最も高く、次いで「6 時 30 分～7 時」が 21.2%、「7 時～7 時 30 分」が 19.8%となっている。



(2) 食事や睡眠等の生活習慣【若者／問6 複数回答】

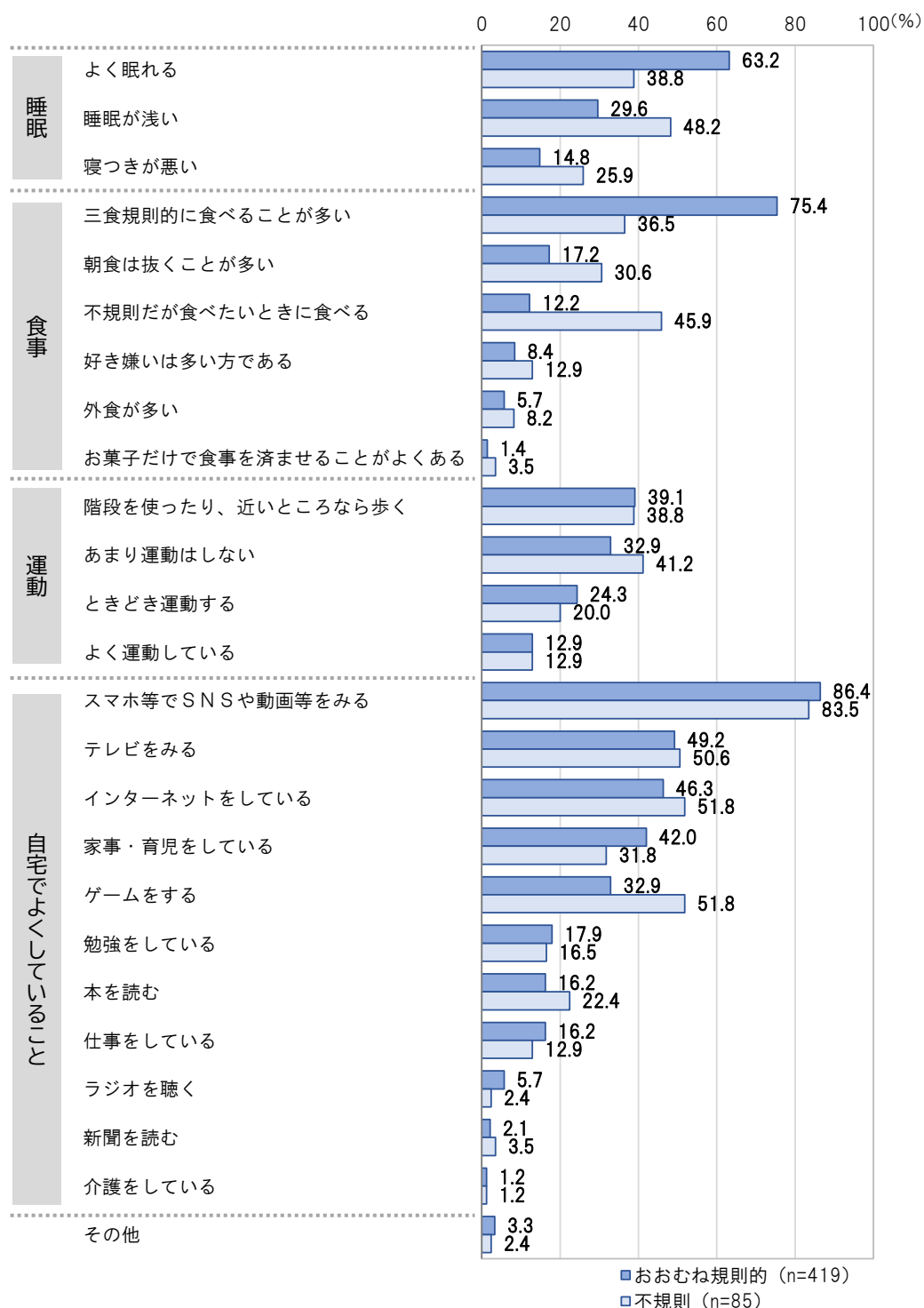
○普段の食事や睡眠等の生活習慣は、【睡眠】については「よく眠れる」が59.4%、【食事】では「三食規則的に食べることが多い」が69.1%、【運動】については「階段を使ったり、近いところなら歩く」が38.8%と高くなっている。

○また、【自宅でよくしていること】では、「スマホ等でSNSや動画等をみる」が85.6%と最も高く、次いで「テレビをみる」(49.2%)、「インターネットをしている」(47.2%)となっている。



《睡眠時間の規則性別比較》

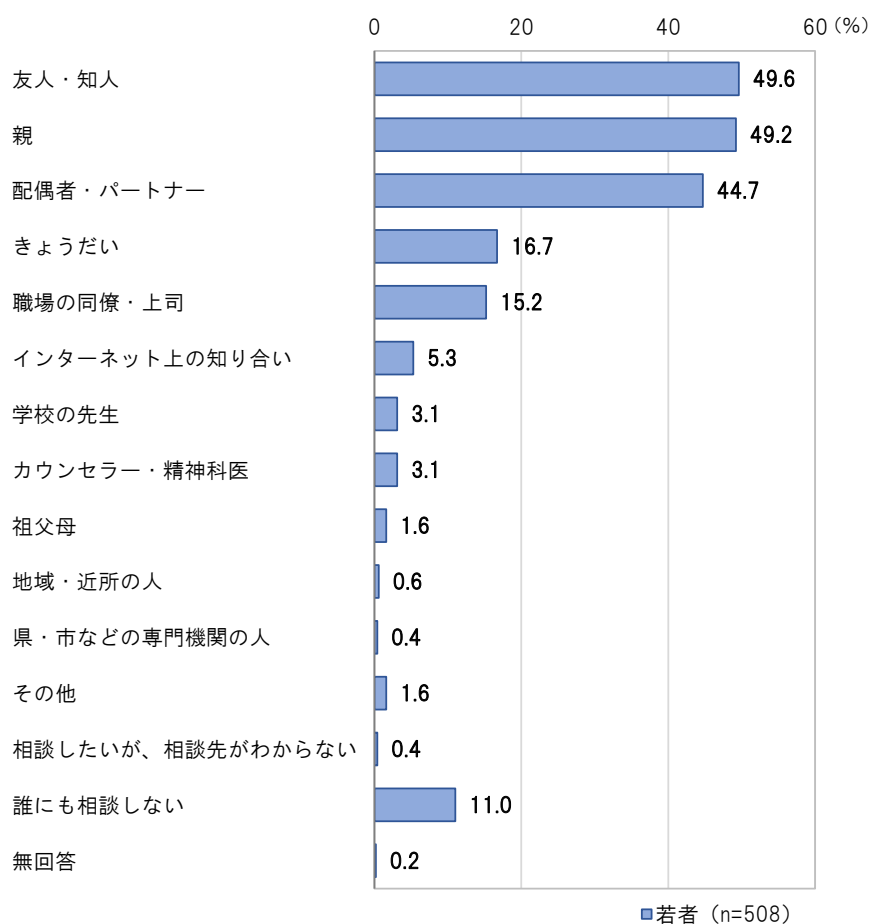
- 睡眠時間の規則性別にみると、【運動】や【自宅でよくしていること】ではほとんどの項目で大きな差異はみられないものの、【食事】では「おおむね規則的」では「三食規則的に食べることが多い」が最も高いのに対し、「不規則」では「不規則だが食べたいときに食べる」が最も高くなっている。また、【睡眠】においても、「おおむね規則的」では「よく眠れる」が最も高いのに対し、「不規則」では「睡眠が浅い」が最も高くなっている。
- その他、「不規則」では、「寝つきが悪い」や「朝食は抜くことが多い」、「あまり運動はしない」、「ゲームをする」が「おおむね規則的」に比べて高くなっている。



(3) ふだんの悩み事の相談先【若者／問7 複数回答】

○ふだんの悩み事の相談先は、「友人・知人」が49.6%、「親」が49.2%と、ともに約半数を占めて最も高く、次いで「配偶者・パートナー」(44.7%)、「きょうだい」(16.7%)、「職場の同僚・上司」(15.2%)となっている。

○一方で、「誰にも相談しない」が11.0%と1割を超えている。



《年代・家族形態別比較》

○年代別にみると、[15～19歳] [20～24歳] では「親」、[25～29歳] では「友人・知人」、[30～34歳] [35～39歳] では「配偶者・パートナー」が最も高くなっている。また、[15～19歳] では「学校の先生」、[20～24歳] では「インターネット上の知り合い」、[35～39歳] では「職場の同僚・上司」が、それぞれその他の年代に比べて高くなっている。

○家族形態別にみると、[ひとり暮らし] では「友人・知人」、[夫婦のみ] [子と同居] では「配偶者・パートナー」、[その他同居] では「親」が最も高くなっている。また、[ひとり暮らし] では「誰にも相談しない」が約2割と、その他の家族形態に比べて高くなっている。

(%)

		回答者数 (人)	友人・知人	親	配偶者・パートナー	きょうだい	職場の同僚・上司	インターネット上の知り合い	学校の先生	カウンセラー・精神科医
年代別	15～19歳	78	57.7	67.9	2.6	21.8	-	5.1	11.5	7.7
	20～24歳	68	67.6	69.1	13.2	14.7	8.8	10.3	4.4	2.9
	25～29歳	66	56.1	47.0	47.0	18.2	18.2	6.1	-	4.5
	30～34歳	116	48.3	44.0	64.7	17.2	16.4	5.2	-	1.7
	35～39歳	178	37.6	38.2	61.2	14.6	22.5	3.4	2.2	1.1
家族形態別	ひとり暮らし	31	61.3	48.4	19.4	12.9	16.1	9.7	-	-
	夫婦のみ	56	42.9	33.9	87.5	19.6	19.6	1.8	-	1.8
	子と同居	199	42.2	37.2	75.4	12.1	18.6	2.5	2.0	1.0
	その他同居	220	55.9	64.1	10.0	20.9	10.9	8.2	5.5	5.9

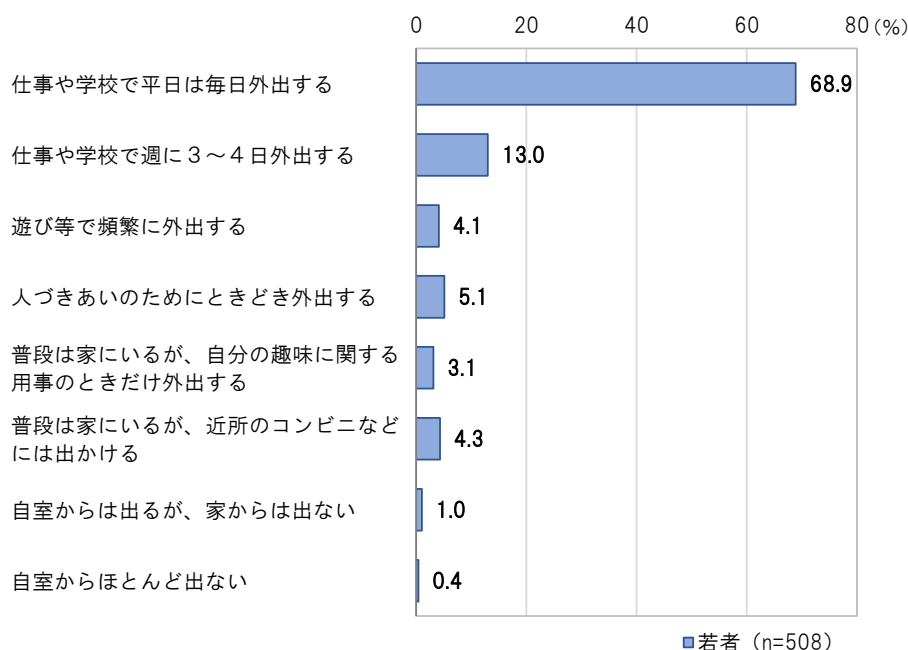
	(つづき)	回答者数 (人)	祖父母	地域・近所の人	県・市などの専門機関の人	その他	相談したいが、相談先がわからない	誰にも相談しない	無回答
年代別	15～19歳	78	1.3	-	-	-	1.3	11.5	1.3
	20～24歳	68	5.9	-	1.5	-	-	13.2	-
	25～29歳	66	4.5	-	-	3.0	-	9.1	-
	30～34歳	116	-	0.9	-	2.6	-	9.5	-
	35～39歳	178	-	1.1	0.6	1.7	0.6	11.8	-
家族形態別	ひとり暮らし	31	-	-	-	-	-	19.4	-
	夫婦のみ	56	-	-	-	-	-	7.1	-
	子と同居	199	-	1.0	0.5	2.5	0.5	8.5	-
	その他同居	220	3.6	0.5	0.5	1.4	0.5	13.2	0.5

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(4) 外出状況【若者／問8 単数回答】

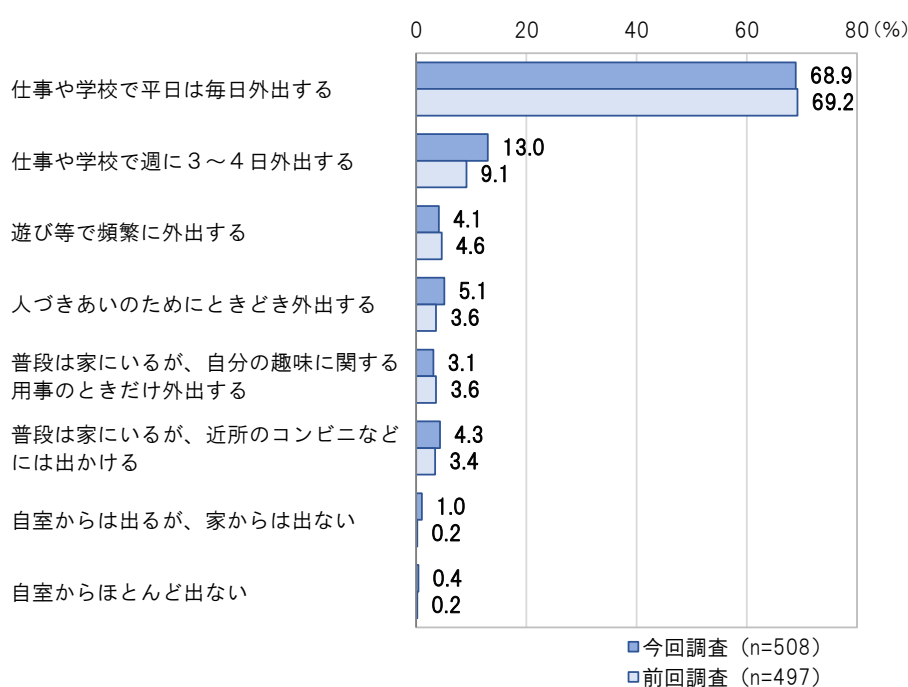
○外出状況は、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が68.9%と最も高く、「仕事や学校で週に3～4日外出する」(13.0%)を合わせると、8割以上の人が仕事や学校で外出している。

○一方で、外出頻度が少ない(「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」)人の割合は8.8%となっている。



《経年比較》

○経年比較をみると、ほぼ同様の傾向となっているものの、外出頻度が少ない人の割合がやや増加している。



《就労状況別比較》

○就労状況別にみると、[正社員] [アルバイト等] [学生] では「仕事や学校で平日は毎日外出する」、[専業主婦・主夫等] では「遊び等で頻繁に外出する」、[無職] では「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が最も高くなっている。

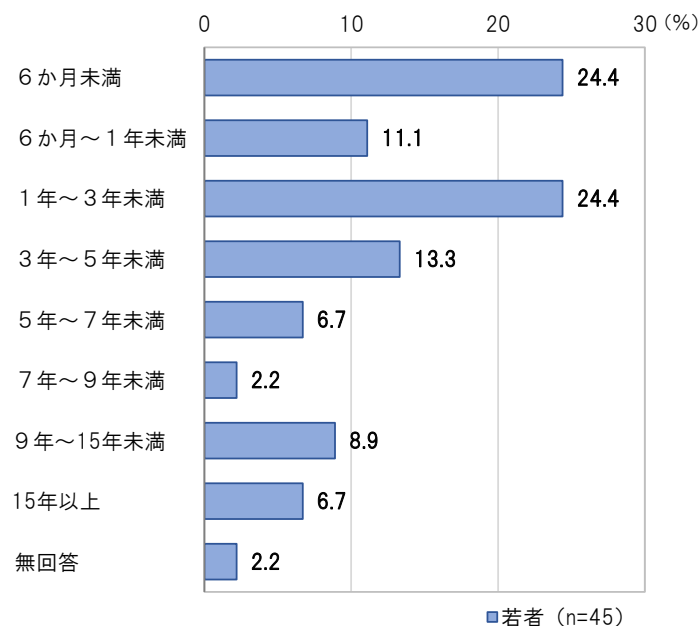
○外出頻度が少ない（「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」）人の割合は[無職] で6割を超えている。

			回答者数（人）								(%)
就労状況別			仕事や学校で平日は毎日外出する	仕事や学校で週に3～4日外出する	遊び等で頻繁に外出する	人づきあいのためにときどき外出する	普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	自室からは出るが、家からは出ない	自室からほとんど出ない	
	正社員	235	81.7	7.7	3.4	3.0	1.3	3.0	-	-	
	アルバイト等	99	65.7	24.2	-	4.0	2.0	3.0	1.0	-	
	学生	107	73.8	19.6	-	-	4.7	0.9	0.9	-	
	専業主婦・主夫等	30	16.7	6.7	30.0	23.3	6.7	13.3	3.3	-	
	無職	21	14.3	4.8	-	19.0	19.0	28.6	9.5	4.8	

（４－１）現在の外出状況になってからの期間【若者／問8-1 単数回答】

※（４）で「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」のいずれかを回答した人のみ

○現在の外出状況になってからの期間は、「6か月未満」および「1年～3年未満」が24.4%と最も高く、次いで「3年～5年未満」（13.3%）、「6か月～1年未満」（11.1%）となっている。

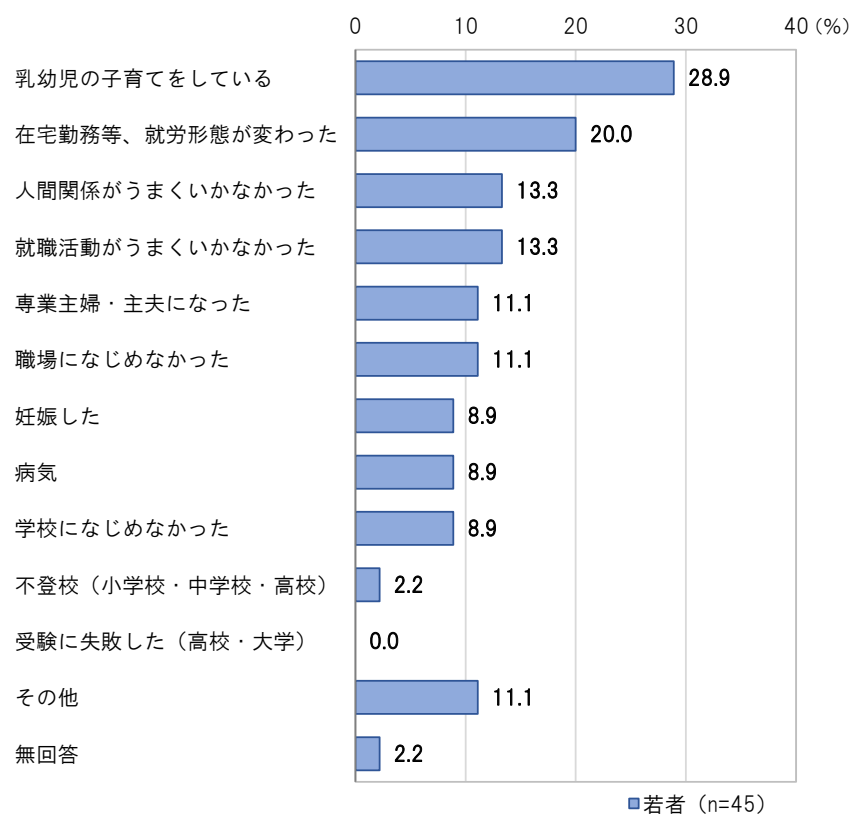


(4-2) 現在の外出状況になったきっかけ【若者／問8-2 複数回答】

※(4)で「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」のいずれかを回答した人のみ

○現在の外出状況になったきっかけは、「乳幼児の子育てをしている」が28.9%と最も高く、次いで「在宅勤務等、就労形態が変わった」(20.0%)、「人間関係がうまくいかなかった」および「就職活動がうまくいかなかった」(13.3%)となっている。

○その他の意見では、「障害があるから」「退職した」の回答がみられた。



【参考】ひきこもり傾向分類の考え方

内閣府が実施した「こども・若者の意識と生活に関する調査」（令和5年3月）を参考に、以下のよう整理。

本調査では、「広義のひきこもり群」「親和群」をまとめて『ひきこもり傾向群』とし、傾向を分析。

●広義のひきこもり群

- 2（4）外出状況（問8）で以下の項目を選択した人
- ・ 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
 - ・ 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
 - ・ 自室からは出るが、家からは出ない
 - ・ 自室からほとんど出ない

かつ

- 2（4-1）現在の外出状況になってからの期間（問8-1）で「6か月以上」を選択した人
であって、以下の項目に該当する人を除く

- 2（4-2）現在の外出状況になったきっかけ（問8-2）で以下の項目を選択した人
- ・ 在宅勤務等、就労形態が変わった
 - ・ 専業主婦・主夫になった
 - ・ 妊娠した
 - ・ 乳幼児の子育てをしている
 - ・ 病気 ※病名に、統合失調症又は身体的な病気を記入した人
 - ・ その他 ※カッコ内に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した人

又は

- 4（1）就労状況（問13）で以下の項目を選択した人
- ・ 勤めている（正社員）
 - ・ 勤めている（契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト（学生のアルバイトは除く））
 - ・ 自営業
 - ・ 自由業
 - ・ 専業主婦・主夫又は家事手伝い
- 2（2）食事や睡眠等の生活習慣（問6）で以下の項目を選択した人
- ・ 仕事をしている
 - ・ 家事・育児をしている
 - ・ 介護をしている

このうち、

- 2（4）外出状況（問8）で「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」を選択した人を「狭義のひきこもり」、
2（4）外出状況（問8）で「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」を選択した人を「準ひきこもり」とし、
「狭義のひきこもり」と「準ひきこもり」の合計を「広義のひきこもり」とする。

●親和群

- 3（4）自分自身の意識や態度（問12）で以下の4項目において、
すべて「はい」、または1項目のみ「どちらかといえばはい」を選択した人から「広義のひきこもり群」を除いた人。

- ③家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる
- ⑥家や自室に閉じこもりたいと思うことがある
- ⑩嫌な出来事があると、外に出たくなくなる
- ⑭理由があるなら家や自室に閉じこもるのは仕方がないと思う

「広義のひきこもり」と「親和群」の合計を「ひきこもり傾向群」とする。

●一般群

回答者全体から「広義のひきこもり群」「親和群」を除いた者で、
問12③・⑥・⑩・⑭の項目にすべて回答している人。

《ひきこもりの推計：経年比較》

	前回調査 (平成 30 年調査時点)			今回調査 (令和 5 年調査時点)		
	該当 人数	回答割合	市全体の 推計数	該当 人数	回答割合	市全体の 推計数
ひきこもり群 (①) (広義のひきこもり)	9 人	1.81%	1,617人	12 人	2.36%	2,032人
狭義のひきこもり	1 人	0.20%	174人	5 人	0.98%	844人
準ひきこもり	8 人	1.61%	1,443人	7 人	1.38%	1,188人
ひきこもり親和群 (②)	39人	7.85%	7,038人	47 人	9.25%	7,962人
ひきこもり傾向群 (①+②)	48人	9.66%	8,661人	59 人	11.61%	9,994人

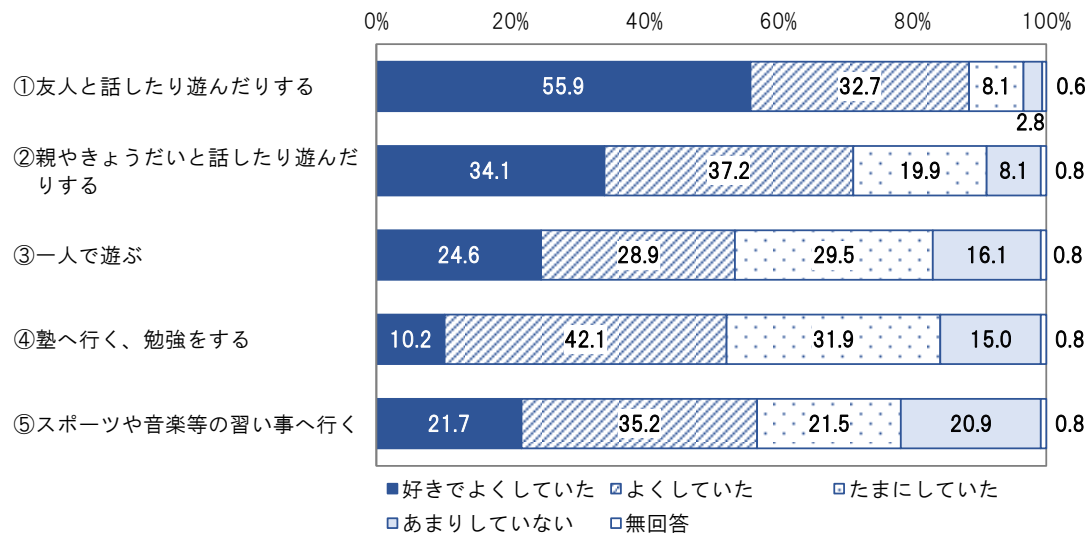
※「市全体の推計数」については調査基準日の 15～39 歳人口を母数として算出している。

3. これまでの経験や考え方について

(1) 小中学生の頃によくしていたこと【若者／問9 単数回答】

○小中学生の頃によくしていたことは、「好きでよくしている」と「よくしている」を合わせた『よくしている』の割合をみると、“①友人と話したり遊んだりする”が88.6%と最も高く、次いで“②親やきょうだいと話したり遊んだりする”が71.3%となっている。

○一方で、「あまりしていない」の割合をみると、“⑤スポーツや音楽等の習い事へ行く”が20.9%と最も高くなっている。



《睡眠時間の規則性別比較》

○睡眠時間の規則性別にみると、[おおむね規則的]な人に比べて[不規則]な人では、“③一人で遊ぶ”の頻度がやや高く、“⑤スポーツや音楽等の習い事へ行く”の頻度がやや低い傾向がみられる。

		(%)					
		回答者数(人)	好きでよくしていた	よくしていた	たまにしていた	あまりしていない	無回答
①友人と話したり遊んだりする	おおむね規則的	419	58.0	32.2	6.9	2.1	0.7
	不規則	85	43.5	36.5	14.1	5.9	-
②親やきょうだいと話したり遊んだりする	おおむね規則的	419	35.1	37.5	19.3	7.2	1.0
	不規則	85	28.2	35.3	23.5	12.9	-
③一人で遊ぶ	おおむね規則的	419	22.4	29.6	30.3	16.7	1.0
	不規則	85	36.5	27.1	23.5	12.9	-
④塾へ行く、勉強をする	おおむね規則的	419	11.2	40.6	31.7	15.5	1.0
	不規則	85	4.7	50.6	31.8	12.9	-
⑤スポーツや音楽等の習い事へ行く	おおむね規則的	419	21.7	34.8	22.4	20.0	1.0
	不規則	85	20.0	37.6	16.5	25.9	-

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《ひきこもり傾向別比較》

○ひきこもり傾向別にみると、[一般群] に比べて [ひきこもり傾向群] では、“③一人で遊ぶ” の頻度が高く、“⑤スポーツや音楽等の習い事へ行く” の頻度が低い傾向がみられる。

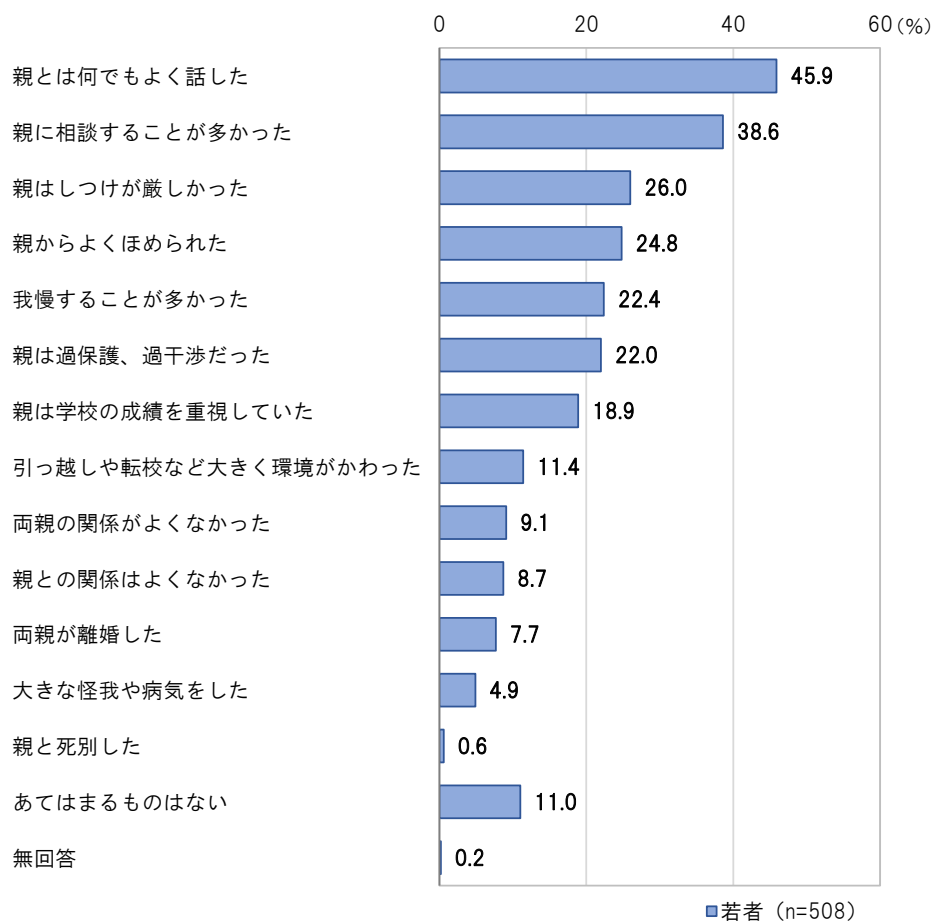
(%)

		回答者数 (人)	好きで よくしていた	よくしていた	たまにしていた	あまり していない	無回答
①友人と話したり遊んだりする	ひきこもり傾向群	59	45.8	32.2	11.9	8.5	1.7
	一般群	443	57.3	32.7	7.7	2.0	0.2
②親やきょうだいと話したり遊んだりする	ひきこもり傾向群	59	28.8	32.2	18.6	18.6	1.7
	一般群	443	34.8	37.7	20.3	6.8	0.5
③一人で遊ぶ	ひきこもり傾向群	59	52.5	27.1	11.9	8.5	-
	一般群	443	21.2	29.3	32.1	16.9	0.5
④塾へ行く、勉強をする	ひきこもり傾向群	59	10.2	52.5	23.7	11.9	1.7
	一般群	443	10.4	41.1	32.7	15.6	0.2
⑤スポーツや音楽等の習い事へ行く	ひきこもり傾向群	59	18.6	27.1	10.2	42.4	1.7
	一般群	443	22.1	36.3	22.8	18.3	0.5

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

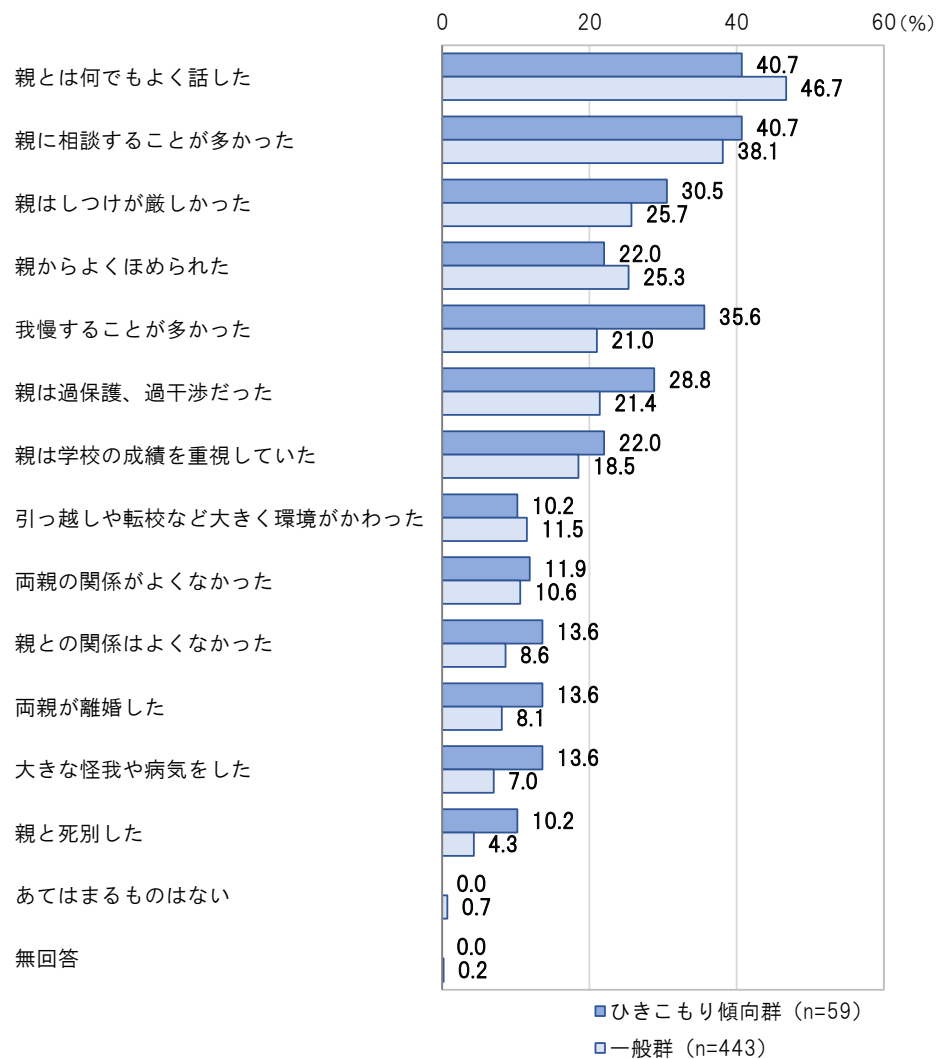
(2) 小中学生の頃の経験【若者／問 10 複数回答】

○小中学生の頃の経験は、「親とは何でもよく話した」が 45.9%と最も高く、次いで「親に相談することが多かった」(38.6%)、「親はしつけが厳しかった」(26.0%)、「親からよくほめられた」(24.8%)となっている。



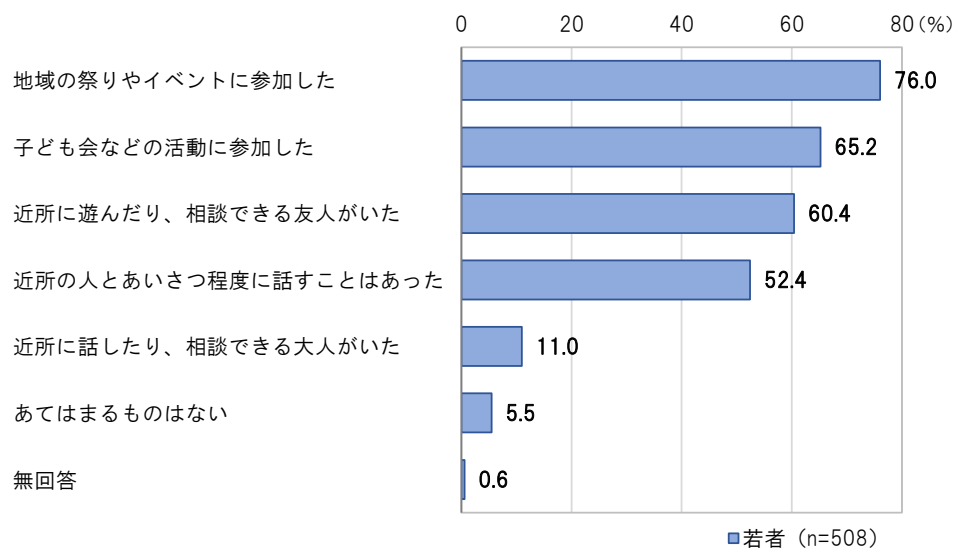
《ひきこもり傾向別比較》

○ひきこもり傾向別にみると、[ひきこもり傾向群]では、「我慢することが多かった」が[一般群]に比べて15ポイント以上上回っている。また、「親は過保護、過干渉だった」や「両親の関係がよくなかった」、「親との関係はよくなかった」、「両親が離婚した」などで、[一般群]に比べて[ひきこもり傾向群]で高い割合となっている。



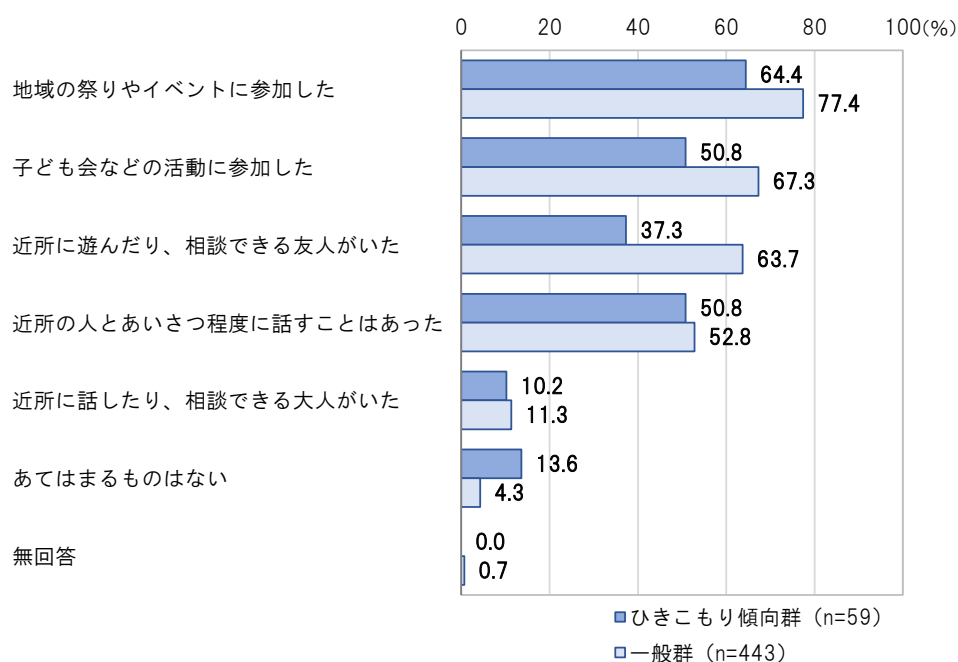
(3) 小中学生の頃の地域での経験【若者／問 11 複数回答】

○小中学生の頃の地域での経験は、「地域の祭りやイベントに参加した」が 76.0%と最も高く、次いで「子ども会などの活動に参加した」(65.2%)、「近所に遊んだり、相談できる友人がいた」(60.4%)、「近所の人とあいさつ程度に話すことはあった」(52.4%)となっている。



《ひきこもり傾向別比較》

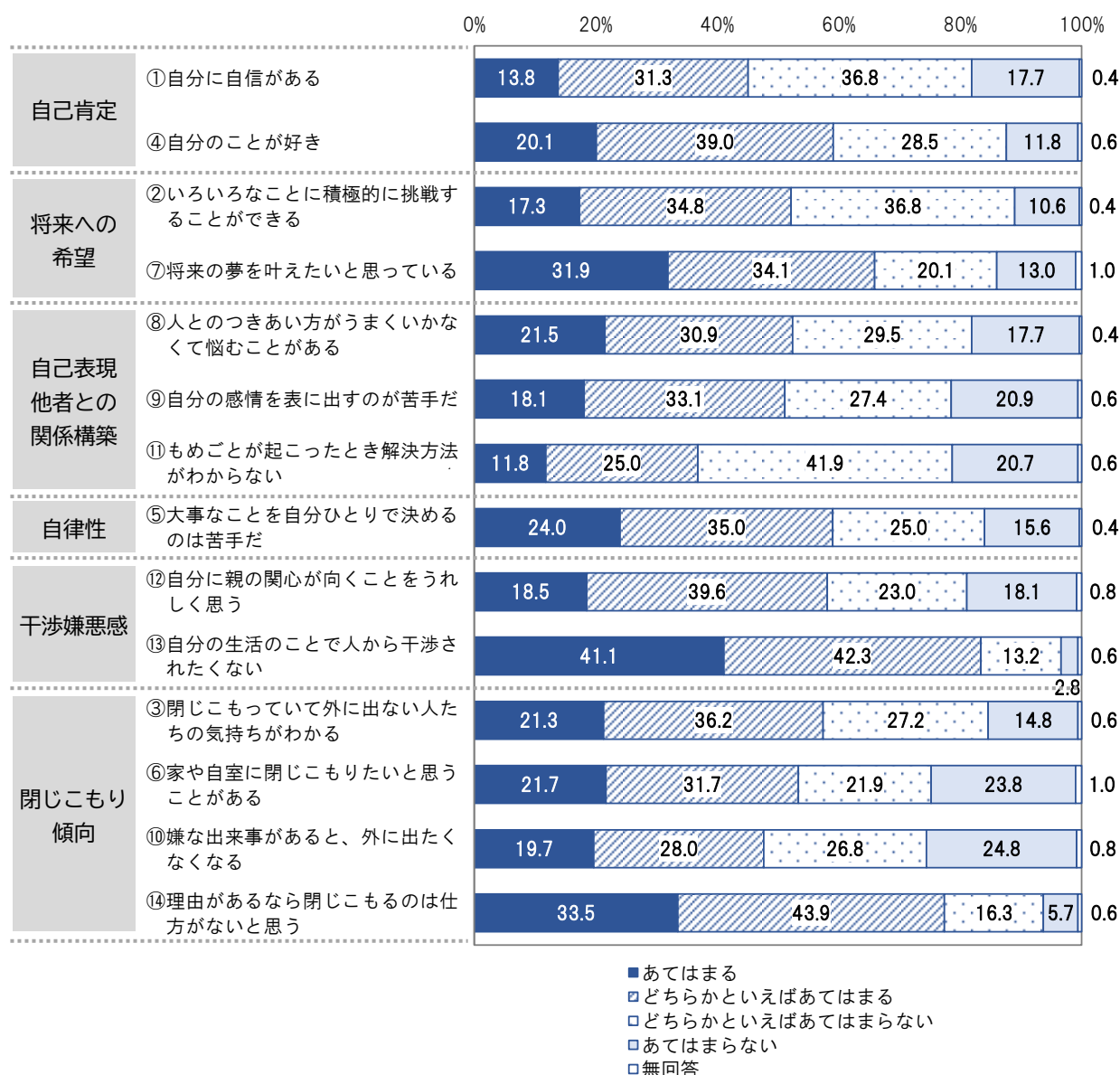
○ひきこもり傾向別にみると、[ひきこもり傾向群]では、「地域の祭りやイベントに参加した」、や「子ども会などの活動に参加した」、「近所に遊んだり、相談できる友人がいた」で、[一般群]に比べて低くなっており、特に「近所に遊んだり、相談できる友人がいた」では 20 ポイント以上下回っている。



(4) 自分自身の意識や態度【若者／問12 単数回答】

○自分自身の意識や態度では、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合をみると、“⑬自分の生活のことで人から干渉されたくない”が83.4%と最も高く、次いで“⑭理由があるなら閉じこもるのは仕方がないと思う”が77.4%となっている。

○一方で、「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の割合をみると、“⑪もめごとが起こったとき解決方法がわからない”が62.6%と最も高く、次いで“①自分に自信がある”が54.5%となっている。

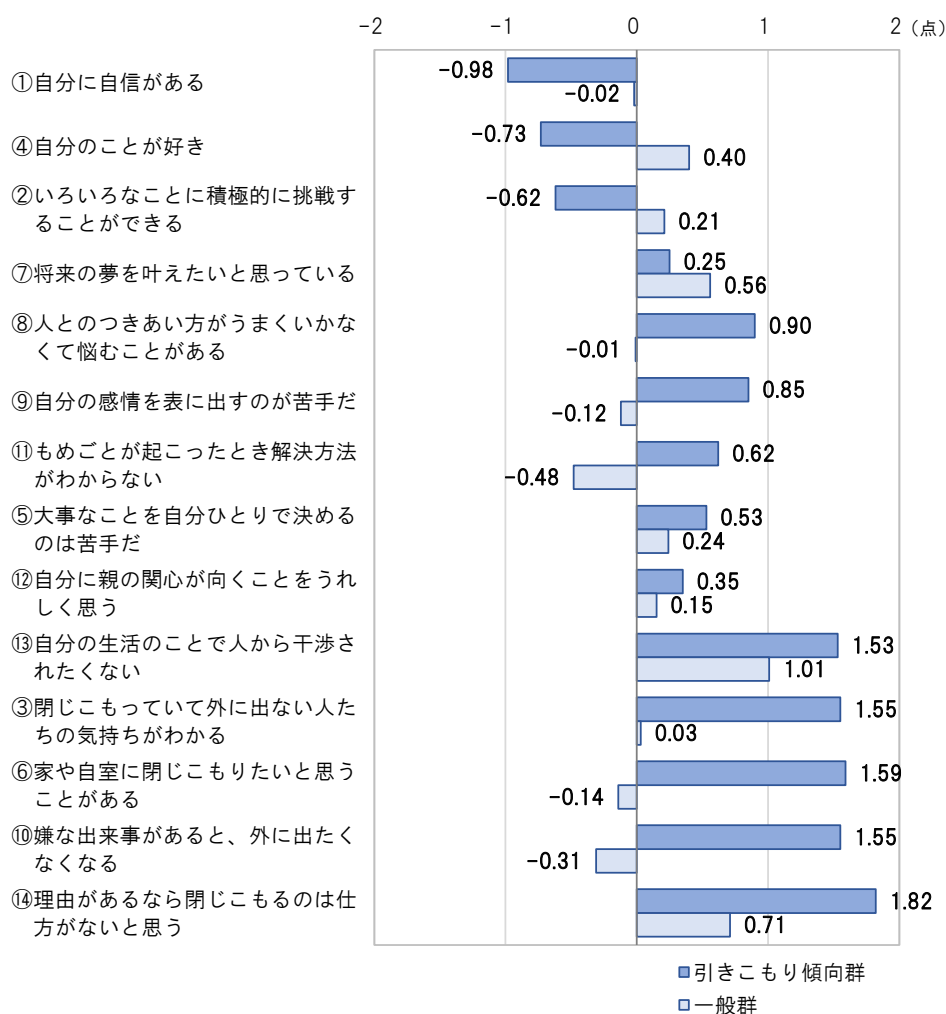


※傾向をみやすいよう、項目の掲載順序を変更している。

《ひきこもり傾向別比較（点数化）》

※点数化に際しては…「あてはまる」を2点、「どちらかといえばあてはまる」を1点、「どちらかといえばあてはまらない」を-1点、「あてはまらない」を-2点とした各属性の合計点を、不明・無回答を除いた回答者数で除し、平均点を算出している。（以下、同様）

○ひきこもり傾向別にみると、[一般群]と[ひきこもり傾向群]の点数の差は、ひきこもり傾向分類に活用した③・⑥・⑩・⑭以外では、“④自分のことが好き”で1.13点と最もかい離が大きく、次いで“⑪もめごとが起こったとき解決方法がわからない”が1.10点、“⑨自分の感情を表に出すのが苦手だ”が0.97点、“①自分に自信がある”が0.96点、“⑧人とのつきあい方がうまくいなくて悩むことがある”が0.91点となっており、自己肯定感や自己表現において差が大きい結果となっている。



※傾向をみやすいよう、項目の掲載順序を変更している。

《小中学生の頃の経験：意識・態度別比較》

○自己肯定感に関する2項目（①・④）では、「親とは何でもよく話した」「親に相談することが多かった」「親からよくほめられた」などで、差が大きくなっている。

(%)

		回答者数 (人)	親とは何でもよく話した	親に相談することが多かった	親はしつこく厳しかった	親からよくほめられた	我慢することが多かった	親は過保護、過干渉だった	親は学校の成績を重視していた
①自分に自信がある	あてはまる	229	56.8	43.7	28.8	33.6	18.8	23.6	24.5
	あてはまらない	277	36.5	33.9	23.8	17.3	25.6	20.9	14.4
④自分のことが好き	あてはまる	300	53.7	43.0	25.7	32.0	15.7	22.0	20.3
	あてはまらない	205	34.6	32.2	26.8	14.6	32.7	22.4	16.6
②いろいろなことに積極的に挑戦することができる	あてはまる	265	54.0	44.9	27.9	30.6	21.1	22.3	21.1
	あてはまらない	241	36.5	31.1	24.1	18.3	24.1	22.0	16.6
⑦将来の夢を叶えたいと思っている	あてはまる	335	47.2	40.0	25.4	27.5	21.5	22.1	19.7
	あてはまらない	168	42.3	35.7	28.0	19.6	24.4	22.6	17.3
⑧人とのつきあい方がうまくいなくて悩むことがある	あてはまる	266	42.5	42.5	28.9	23.3	27.1	25.9	20.7
	あてはまらない	240	49.6	34.2	22.9	26.7	17.5	17.9	16.7
⑨自分の感情を表に出すのが苦手だ	あてはまる	260	41.9	37.3	21.9	21.9	24.6	23.8	18.5
	あてはまらない	245	49.8	39.6	30.6	27.8	20.4	20.4	19.2
⑪周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない	あてはまる	187	40.1	38.5	25.7	20.9	26.7	24.1	21.9
	あてはまらない	318	49.1	38.4	26.4	27.0	20.1	21.1	17.0
⑤大事なことを自分ひとりで決めるのは苦手だ	あてはまる	300	50.0	44.0	24.0	29.3	25.3	25.7	20.0
	あてはまらない	206	39.3	30.1	29.1	18.0	18.4	17.0	17.5
⑫自分に親の関心が向くことをうれしく思う	あてはまる	295	55.6	48.1	24.7	33.2	19.7	18.6	20.3
	あてはまらない	209	31.6	24.4	28.2	12.4	26.8	27.3	16.7
⑬自分の生活のことで人から干渉されたくない	あてはまる	424	42.7	36.8	27.1	23.3	23.6	23.1	19.3
	あてはまらない	81	61.7	46.9	21.0	32.1	17.3	17.3	16.0
③家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる	あてはまる	292	43.5	34.2	24.7	22.3	26.4	22.6	18.8
	あてはまらない	213	48.8	44.1	28.2	28.2	17.4	21.6	19.2
⑥家や自室に閉じこもりたいと思うことがある	あてはまる	271	37.3	34.7	25.8	21.0	26.6	24.7	17.7
	あてはまらない	232	56.0	43.1	26.7	29.3	17.7	19.4	20.3
⑩嫌な出来事があると、外に出たくなる	あてはまる	242	40.9	39.7	27.7	23.1	23.1	22.3	19.8
	あてはまらない	262	50.4	37.0	24.8	26.3	22.1	22.1	17.9
⑭理由があるなら家や自室に閉じこもるのは仕方がないと思う	あてはまる	393	44.5	38.4	25.7	25.2	24.2	22.6	19.6
	あてはまらない	112	50.0	38.4	27.7	23.2	17.0	20.5	16.1

※意識・態度の該当比較において、割合の高い方を「薄い網掛け」としている。無回答を省略。傾向をみるため、順番を変更している。

(%)

(つづき)		回答者数(人)	きく引つ く越しや 環境が かわった	両親の 関係が よくな った	親との 関係は よくな った	両親が 離婚し た	た大きな 怪我や 病気を した	親と死 別した	あては まるも のではない
①自分に自信がある	あてはまる	229	11.4	9.1	8.7	7.7	4.9	0.6	11.0
	あてはまらない	277	12.7	7.9	7.4	6.1	4.4	0.9	6.6
④自分のことが好き	あてはまる	300	8.5	7.5	5.6	6.6	2.8	-	9.4
	あてはまらない	205	12.7	6.3	5.3	6.0	4.3	0.3	9.3
②いろいろなことに積極的 に挑戦することが できる	あてはまる	265	10.1	10.1	9.7	9.0	5.4	0.4	14.8
	あてはまらない	241	12.5	9.1	7.9	7.5	5.7	1.1	6.0
⑦将来の夢を叶えたい と思っている	あてはまる	335	10.3	6.9	5.6	7.3	3.9	0.9	8.6
	あてはまらない	168	11.0	8.4	8.1	6.6	4.8	0.6	10.7
⑧人とのつきあい方が うまくいなくて悩 むことがある	あてはまる	266	11.9	10.7	10.1	10.1	5.4	0.6	11.9
	あてはまらない	240	12.8	11.7	10.2	9.0	4.9	1.1	10.2
⑨自分の感情を表に出 すのが苦手だ	あてはまる	260	9.6	6.3	7.1	6.3	5.0	-	12.1
	あてはまらない	245	11.9	10.4	10.0	8.8	4.6	0.4	12.3
⑪周りの人ともめごと が起こったとき、ど うやって解決したら いいかわからない	あてはまる	187	12.2	8.4	7.6	8.0	5.3	0.8	9.2
	あてはまらない	318	10.2	8.6	11.2	10.2	4.8	1.1	11.8
⑤大事なことを自分ひ とりで決めるのは苦 手だ	あてはまる	300	9.3	13.2	13.7	10.2	5.9	1.0	13.2
	あてはまらない	206	11.0	7.7	8.0	8.7	4.7	-	9.0
⑫自分に親の関心が向 くことをうれしく思 う	あてはまる	295	11.9	9.4	7.2	6.3	5.0	0.3	10.7
	あてはまらない	209	11.5	5.4	3.1	5.1	5.8	0.3	8.5
⑬自分の生活のことで 人から干渉されたく ない	あてはまる	424	11.0	14.4	16.7	11.5	3.8	1.0	14.8
	あてはまらない	81	12.5	10.4	9.9	8.0	5.0	0.7	11.3
③家や自室に閉じこも って外に出ない 人たちの気持ちがわ かる	あてはまる	292	10.0	9.1	9.5	7.9	4.1	-	16.6
	あてはまらない	213	13.4	10.3	11.0	8.6	6.5	1.0	12.0
⑥家や自室に閉じこも りたいと思うことが ある	あてはまる	271	11.7	11.2	9.7	6.3	5.3	1.5	14.1
	あてはまらない	232	12.2	11.1	11.4	8.1	5.9	0.4	12.9
⑩嫌な出来事があると、 外に出たくなくな る	あてはまる	242	10.6	7.8	7.3	6.5	5.3	0.8	9.8
	あてはまらない	262	10.3	9.9	9.9	7.4	4.5	0.4	13.2
⑭理由があるなら家や 自室に閉じこもるの は仕方がないと思う	あてはまる	393	4.9	2.5	2.5	6.2	4.9	-	9.9
	あてはまらない	112	12.0	9.2	8.4	8.1	5.1	0.5	10.4

※意識・態度の該当比較において、割合の高い方を「薄い網掛け」としている。無回答を省略。順番を変更している。

《全体・性別・就労状況別・ひきこもり傾向別分析》

- 自己肯定感として、「低」の割合が全体（36.8％）に比べて高いのは、[女性] [15～19歳] [25～34歳] [アルバイト・自営業等] [学生] [専業主婦（夫）家事手伝い] [無職、働いていない] [ひきこもり傾向群] で割合が高くなっており、特に [無職、働いていない] [ひきこもり傾向群] で高くなっている。
- 将来の希望として、「低」の割合が全体（23.2％）に比べて高いのは、[女性] [25～39歳] [アルバイト・自営業等] [無職、働いていない] [ひきこもり傾向群] で割合が高くなっており、特に [無職、働いていない] [ひきこもり傾向群] で高くなっている。
- 自己表現・他者との関係構築力は、「低」の割合が全体（23.0％）に比べて高いのは、[女性] [15～24歳] [30～34歳] [学生] [無職、働いていない] [ひきこもり傾向群] で割合が高くなっており、特に [無職、働いていない] [ひきこもり傾向群] で高くなっている。
- 決定における自律性として、「低」の割合が全体（24.0％）に比べて高いのは、[女性] [15～34歳] [学生] [無職、働いていない] [ひきこもり傾向群] で割合が高くなっており、特に [15～19歳] [学生] [ひきこもり傾向群] で高くなっている。
- 干渉嫌悪感として、「高」の割合が全体（36.0％）に比べて高いのは、[30～39歳] [正社員] [アルバイト・自営業等] [専業主婦（夫）家事手伝い] [無職、働いていない] で割合が高くなっている。

【参考】分類の説明

①・②・④・⑦・⑬については、

「あてはまる」を2点、「どちらかといえばあてはまる」を1点、「どちらかといえばあてはまらない」を－1点、「あてはまらない」を－2点

⑤・⑧・⑨・⑪・⑫については、

「あてはまる」を－2点、「どちらかといえばあてはまる」を－1点、「どちらかといえばあてはまらない」を1点、「あてはまらない」を2点

として点数化し、以下の方法で分析した。

自己肯定感：①④合計点が、2点以上は「高」、±1点は「中」、－2点以下は「低」

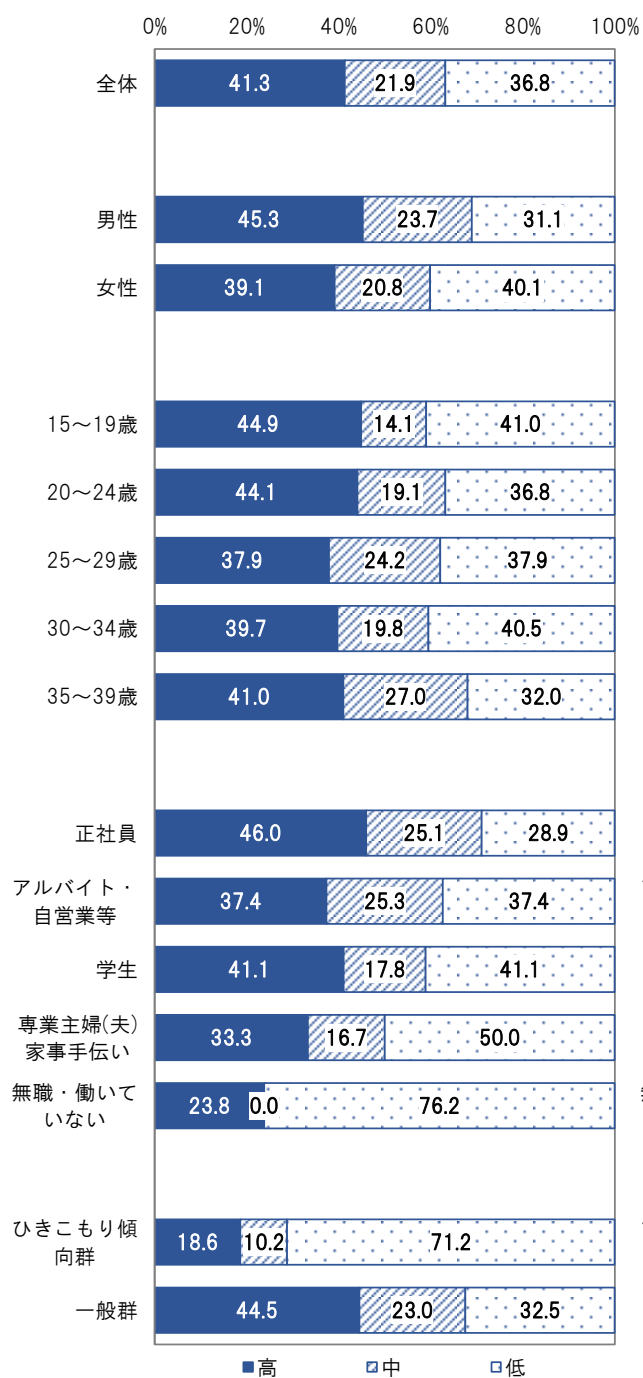
将来への希望：②⑦合計点が、2点以上は「高」、±1点は「中」、－2点以下は「低」

自己表現、他者との関係構築力：⑧⑨⑪合計点が、3点以上は「高」、±2点は「中」、－3点以下は「低」

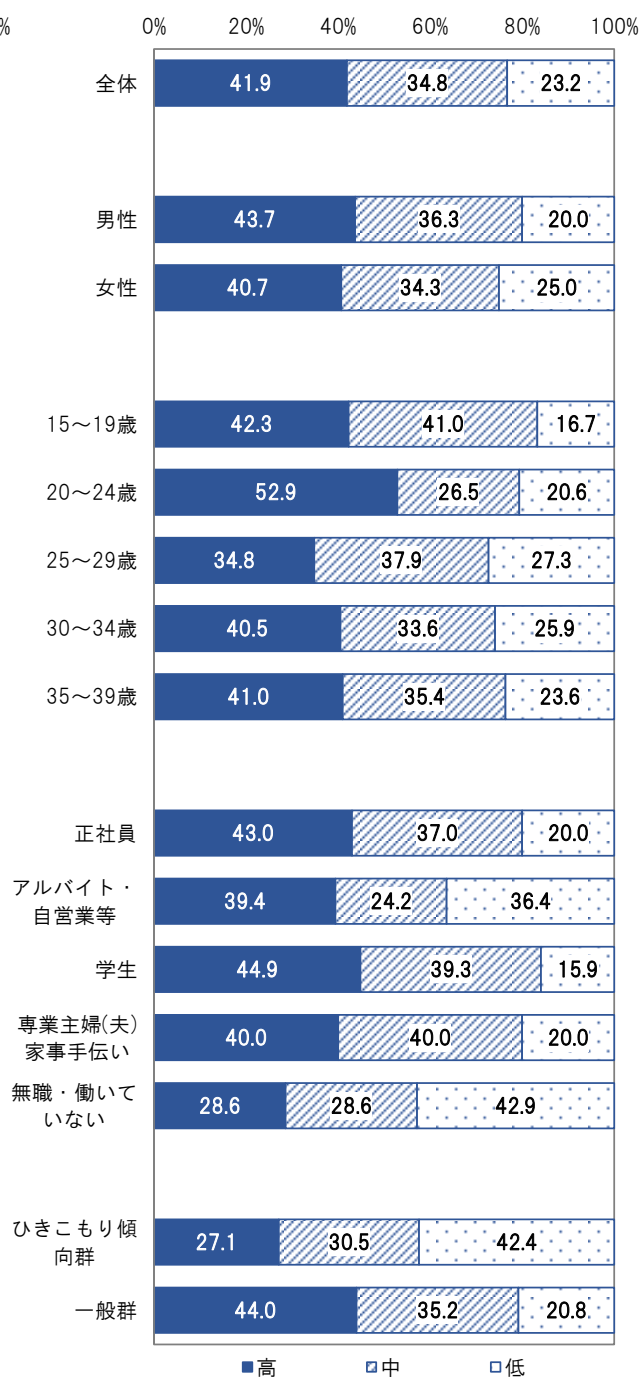
決定における自律性：⑤が、2点以上は「高」、±1点は「中」、－2点以下は「低」

干渉嫌悪感：⑫⑬合計点が、2点以上は「高」、±1点は「中」、－2点以下は「低」

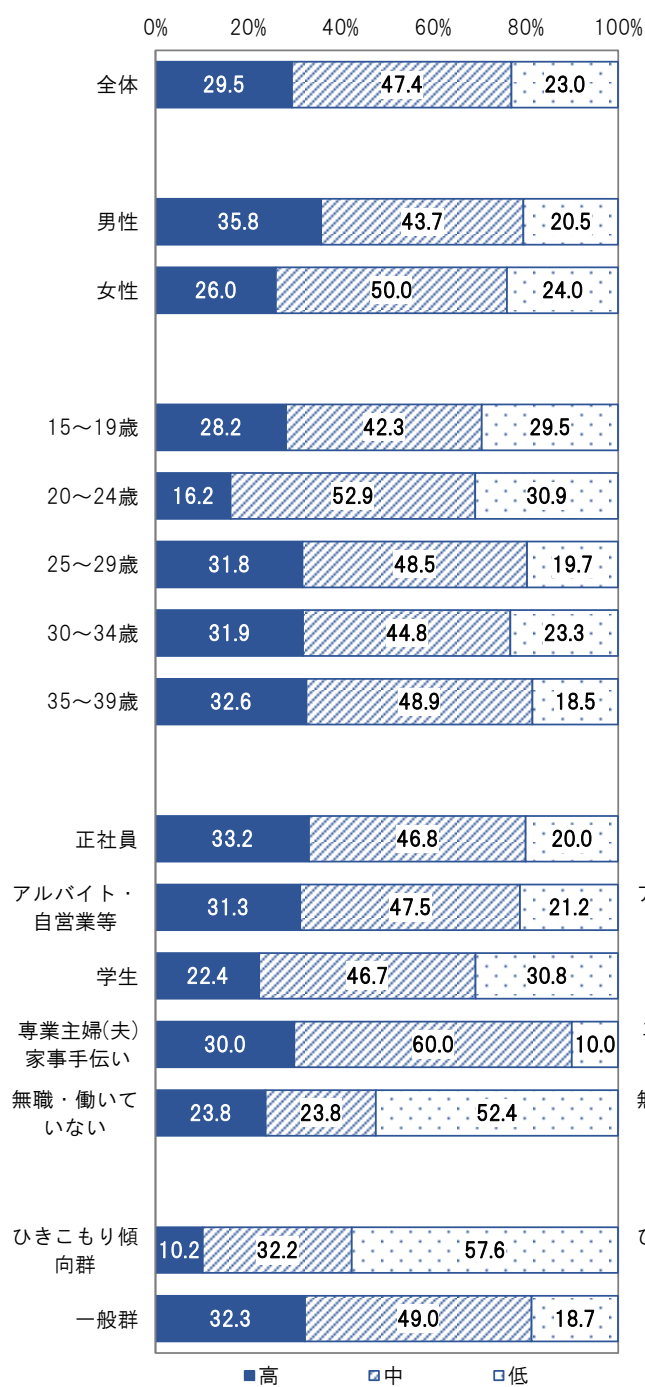
自己肯定感



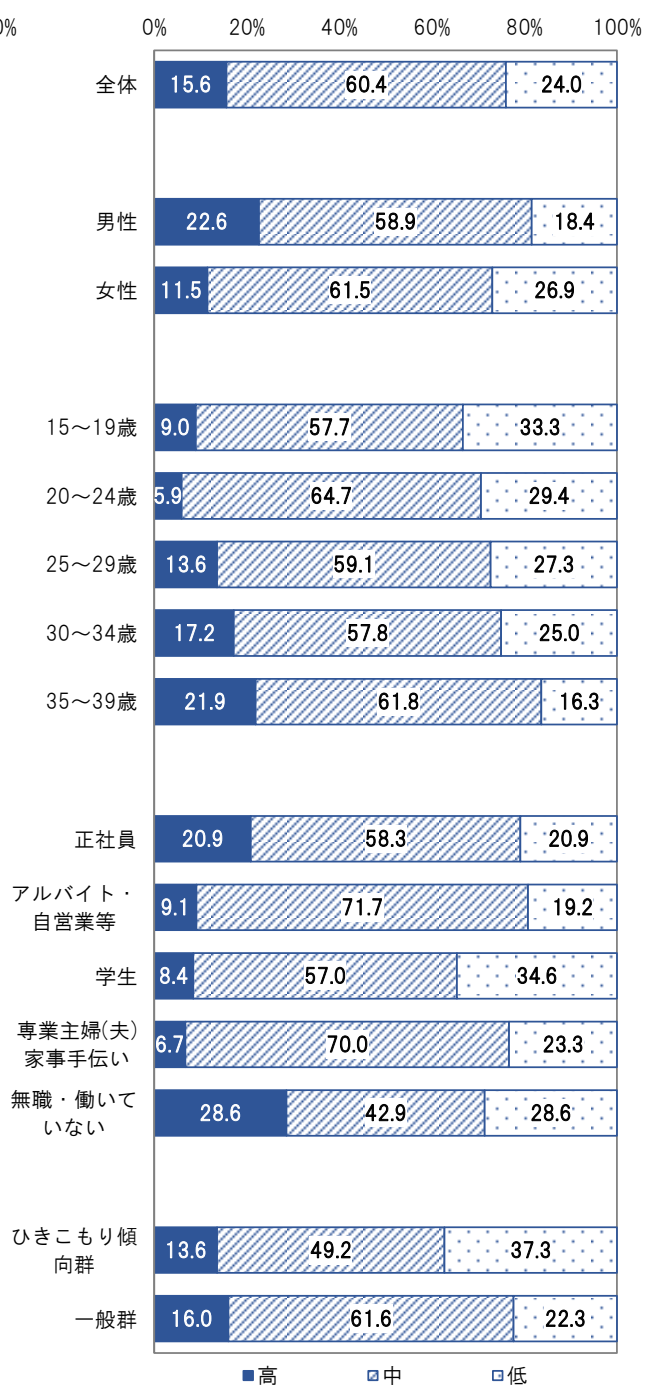
将来への希望

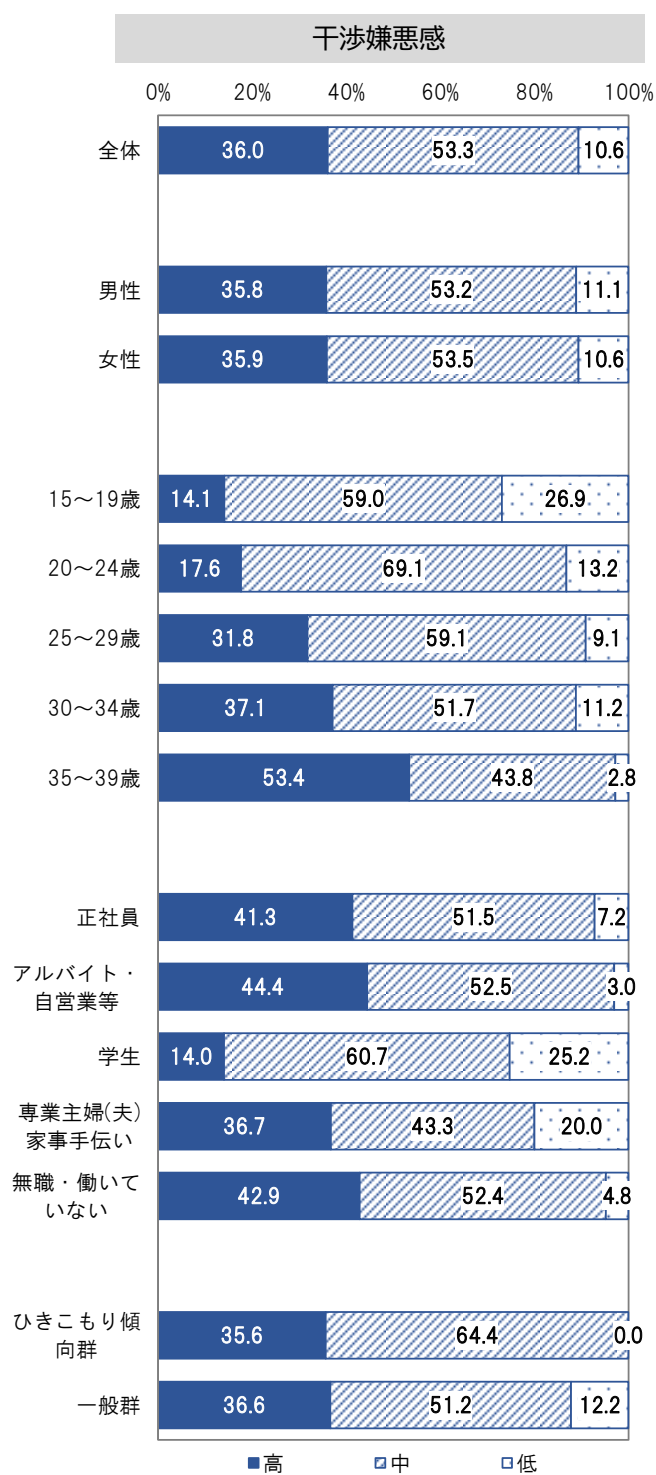


自己表現・他者との関係構築力



決定における自律性

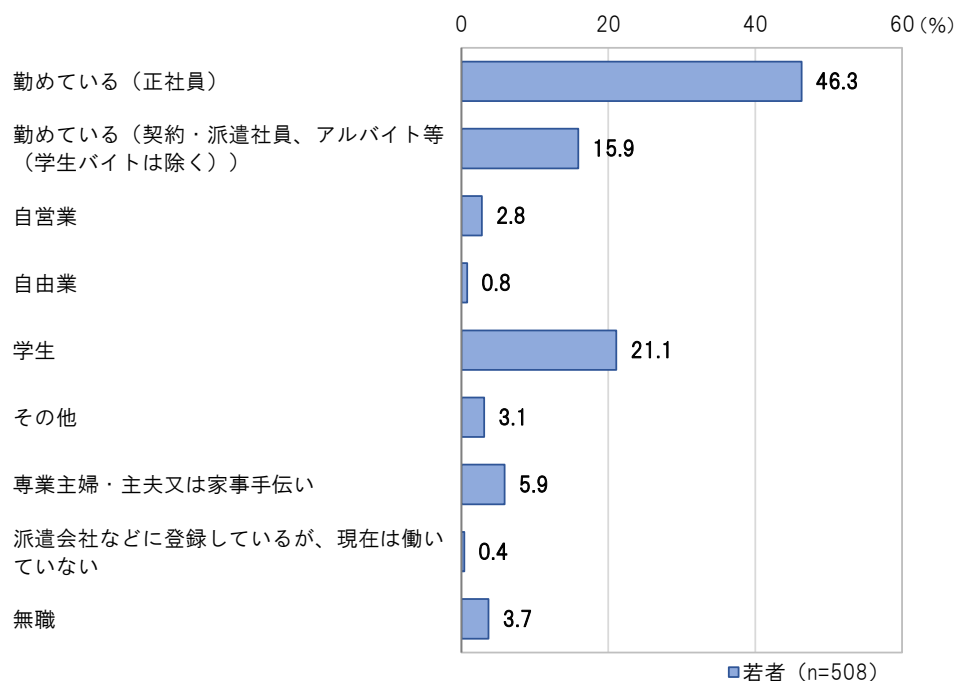




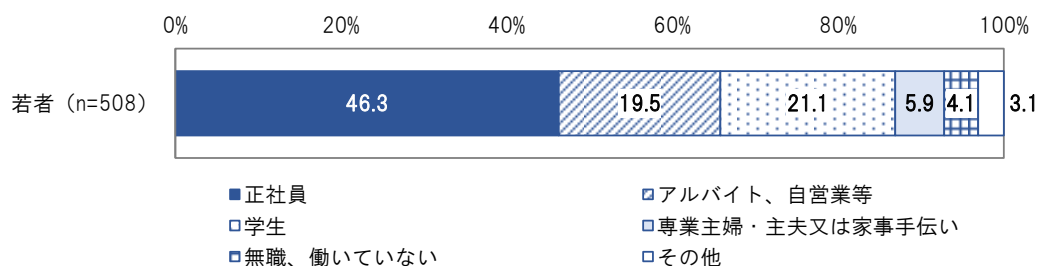
4. 就労について

(1) 就労状況【若者／問13 単数回答】

○就労状況は、「勤めている（正社員）」が46.3%と最も高く、次いで「学生」(21.1%)、「勤めている（契約・派遣社員、アルバイト等（学生バイトは除く））」(15.9%)となっている。



《就労分類》



【参考】就労分類区分の考え方

正社員：「勤めている（正社員）」と回答した人

アルバイト、自営業等：「勤めている（契約・派遣社員、アルバイト等（学生バイトは除く））」「自営業」「自由業」のいずれかを回答した人

学生：「学生」と回答した人

専業主婦・主夫又は家事手伝い：「専業主婦・主夫又は家事手伝い」と回答した人

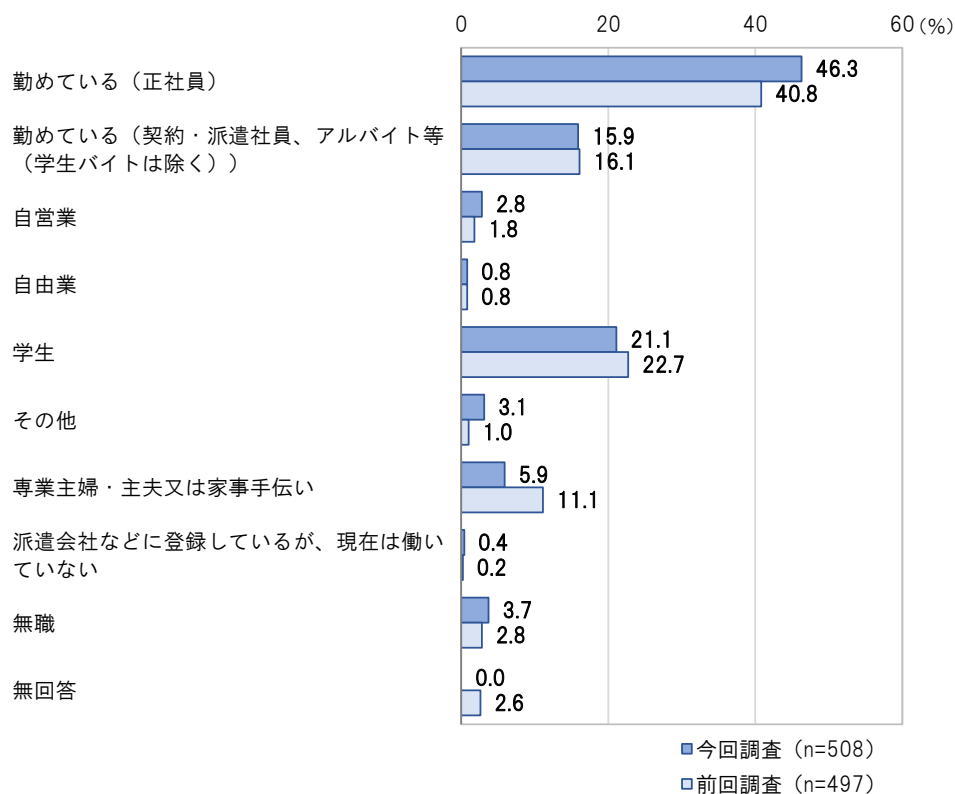
無職、働いていない：「派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」「無職」と回答した人

その他：上記以外

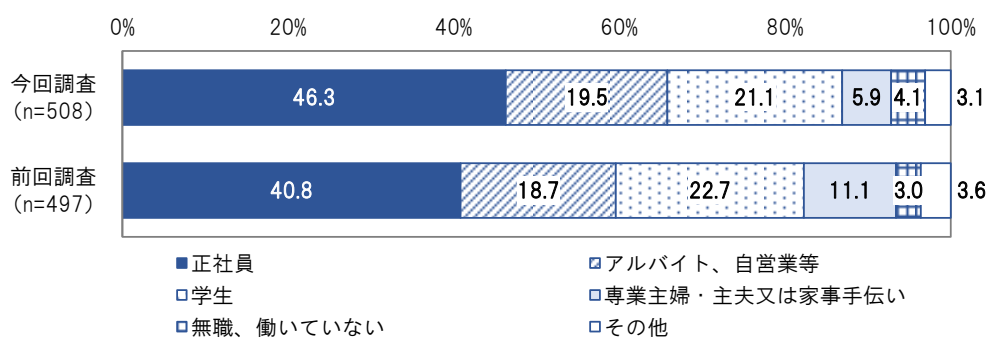
として区分している。

《経年比較》

○経年比較をみると、前回調査と比べて「勤めている（正社員）」が 5.5 ポイント増加しており、「専業主婦・主夫又は家事手伝い」が 5.2 ポイント減少している。



《就労分類》



《年代別比較》

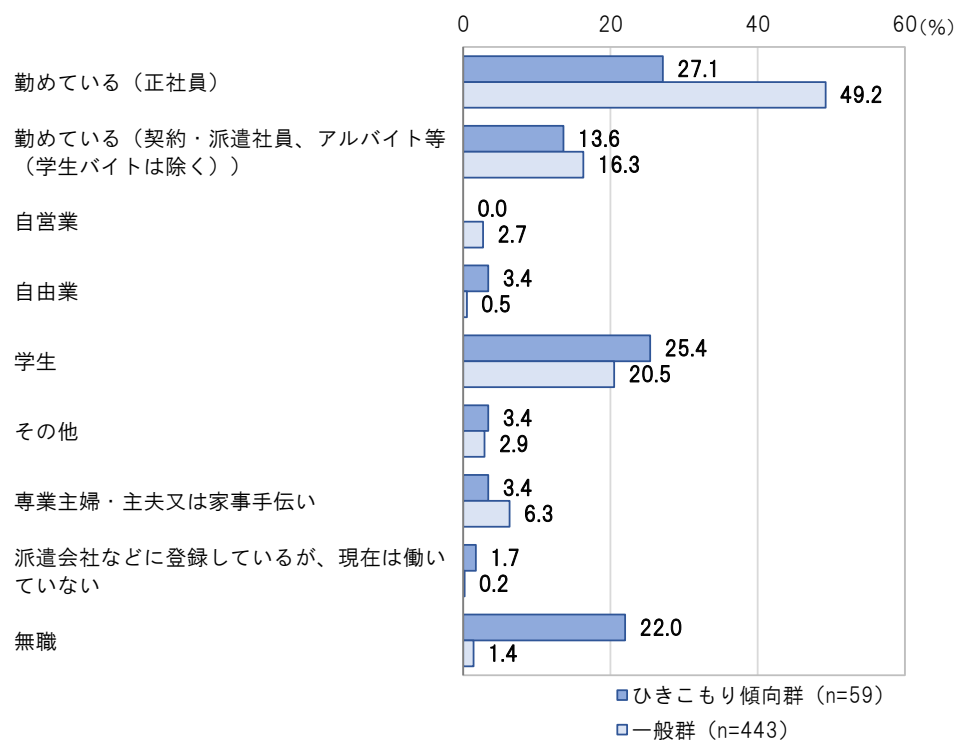
○年代別にみると、「勤めている（正社員）」は〔25～29 歳〕以降、年齢が上がるにつれ割合が減少する一方で、「勤めている（契約・派遣社員、アルバイト等（学生バイトは除く））」の割合が増加している。

		(%)									
年代別		回答者数（人）	勤めている（正社員）	勤めている（契約・派遣社員、アルバイト等（学生バイトは除く））	自営業	自由業	学生	その他	専業主婦・主夫又は家事手伝い	派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない	無職
	15～19歳	78	1.3	1.3	-	-	96.2	1.3	-	-	-
	20～24歳	68	27.9	14.7	-	1.5	45.6	2.9	1.5	-	5.9
	25～29歳	66	69.7	16.7	1.5	-	1.5	1.5	4.5	-	4.5
	30～34歳	116	61.2	15.5	2.6	0.9	-	3.4	9.5	0.9	6.0
	35～39歳	178	54.5	22.5	5.6	1.1	-	4.5	8.4	0.6	2.8

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《ひきこもり傾向別比較》

○ひきこもり傾向別にみると、〔ひきこもり傾向群〕の就労状況は、「勤めている（正社員）」が 27.1% と最も高く、次いで「学生」（25.4%）、「無職」（22.0%）となっている。



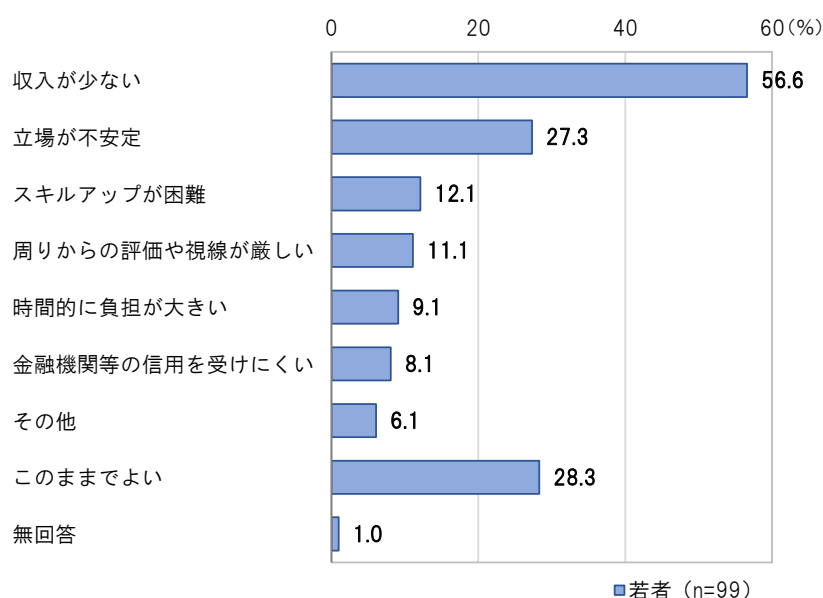
(1-1) 現在の雇用形態に対する考え【若者／問 13-1 複数回答】

※(1)で「勤めている(契約・派遣社員、アルバイト等(学生バイトは除く))」「自営業」「自由業」のいずれかを回答した人のみ

○正社員以外で就労している人の現在の雇用形態に対する考えは、「収入が少ない」が56.6%と最も高く、次いで「立場が不安定」(27.3%)、「スキルアップが困難」(12.1%)となっている。

○また、「このままでよい」が28.3%と3割近くを占めている。

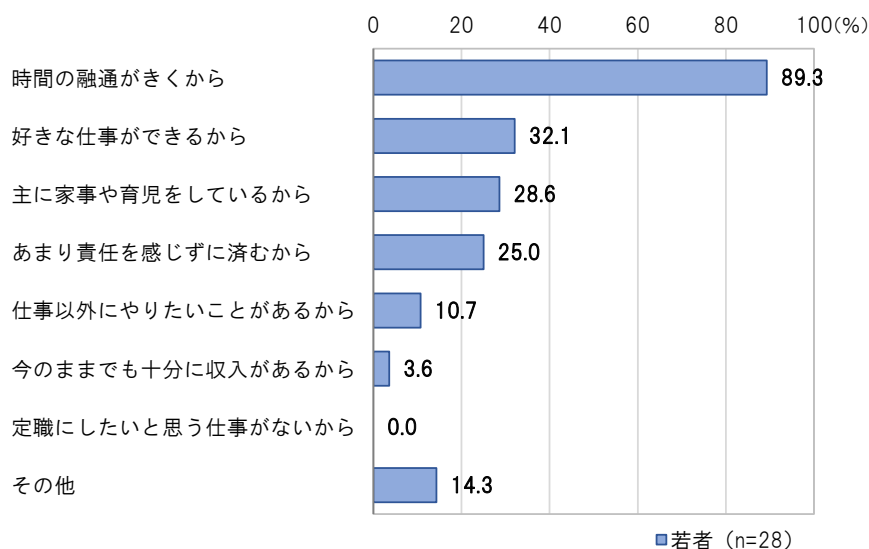
○その他の意見では、「障害があり、作業所で働いている」などの回答がみられた。



(1-2) 現在の雇用形態のままでよいと考える理由【若者／問 13-2 複数回答】

※(1-1)で「このままでよい」と回答した人のみ

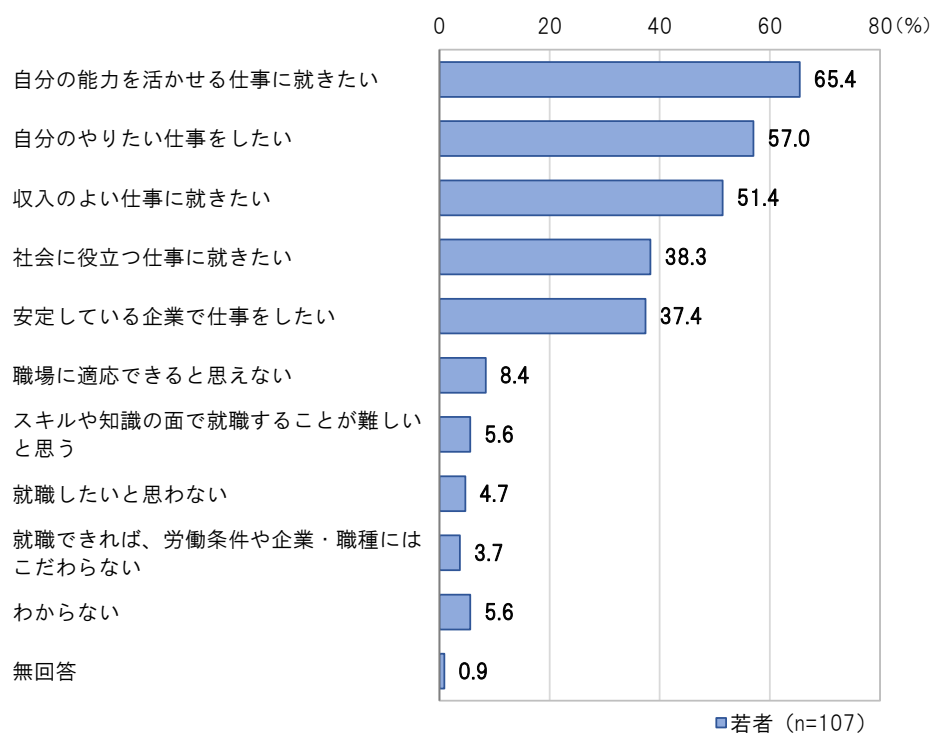
○正社員以外で就労している人で現在の雇用形態のままでよいと考える理由は、「時間の融通がきくから」が89.3%と最も高く、次いで「好きな仕事ができるから」(32.1%)、「主に家事や育児をしているから」(28.6%)、「あまり責任を感じずに済むから」(25.0%)となっている。



(1-3) 将来の就職に対する考え【若者／問 13-3 複数回答】

※(1)で「学生」と回答した人のみ

○将来の就職に対する考えは、「自分の能力を活かせる仕事に就きたい」が 65.4%と最も高く、次いで「自分のやりたい仕事をしたい」(57.0%)、「収入のよい仕事に就きたい」(51.4%)となっている。

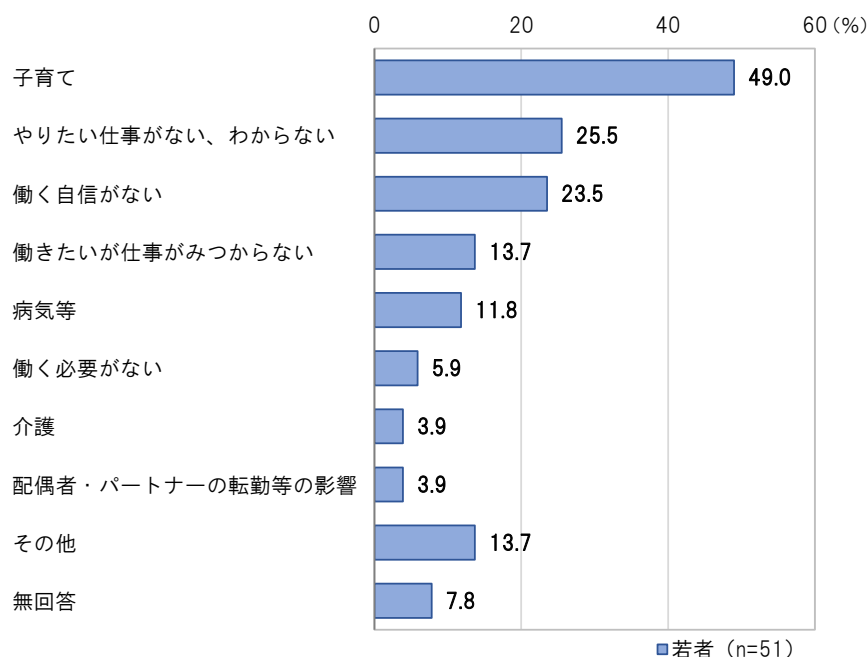


(1-4) 働いていない理由【若者／問 13-4 複数回答】

※(1)で「専業主婦・主夫又は家事手伝い」「派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」「無職」のいずれかを回答した人のみ

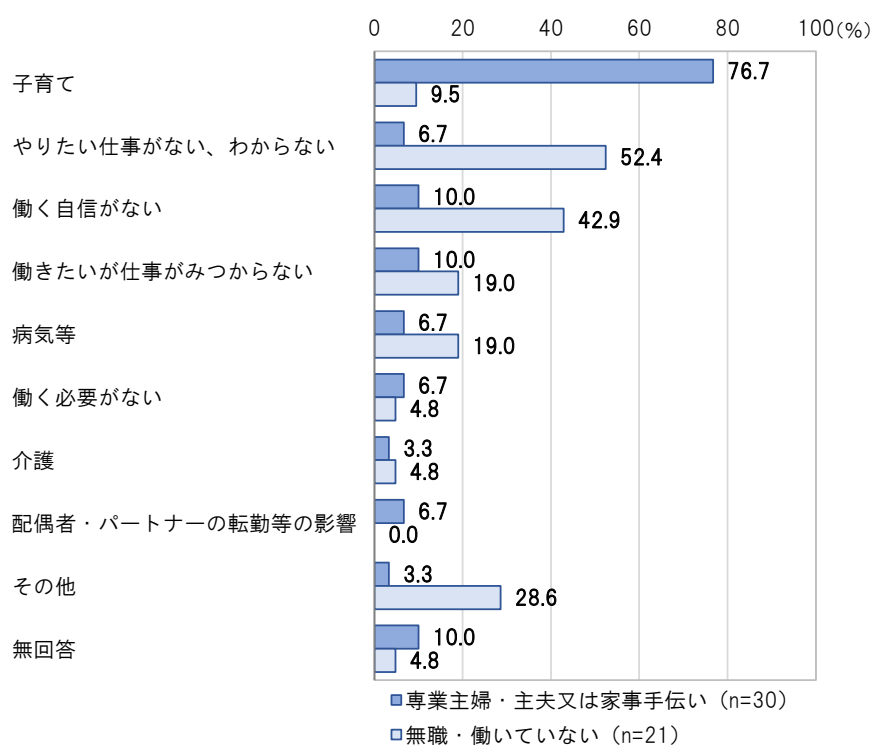
○働いていない人の働いていない理由は、「子育て」が49.0%と最も高く、次いで「やりたい仕事がない、わからない」(25.5%)、「働く自信がない」(23.5%)となっている。

○その他の意見では、「妊娠」や「障害があるため」などの回答がみられた。



《就労状況別比較》

○就労状況別にみると、[専業主婦・主夫又は家事手伝い]では「子育て」が最も高く、[無職・働いていない]では「やりたい仕事がない、わからない」や「働く自信がない」が高くなっている。

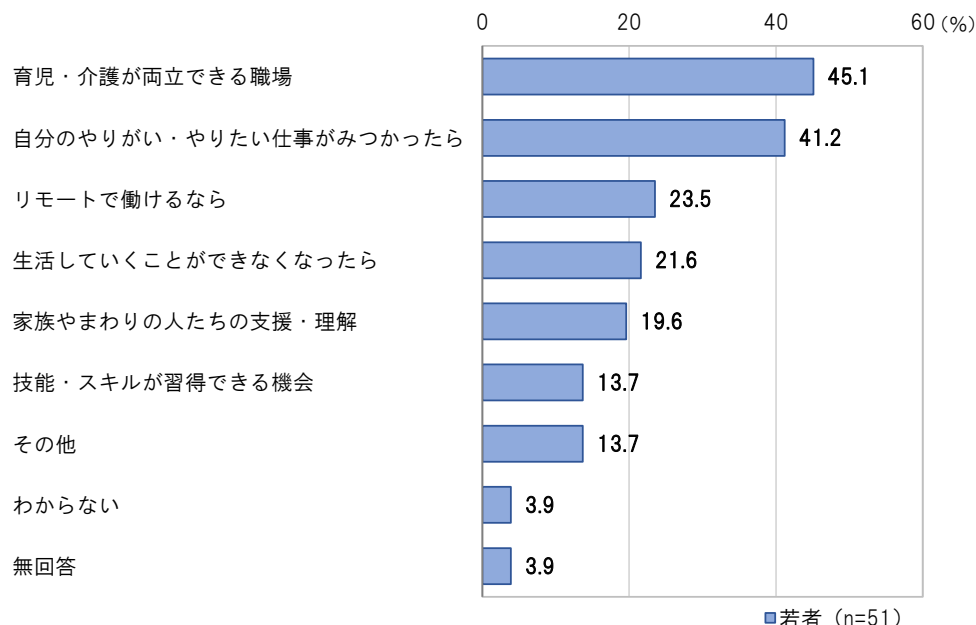


(1-5) 働こうと思うきっかけ【若者／問13-5 複数回答】

※(1)で「専業主婦・主夫又は家事手伝い」「派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」「無職」のいずれかを回答した人のみ

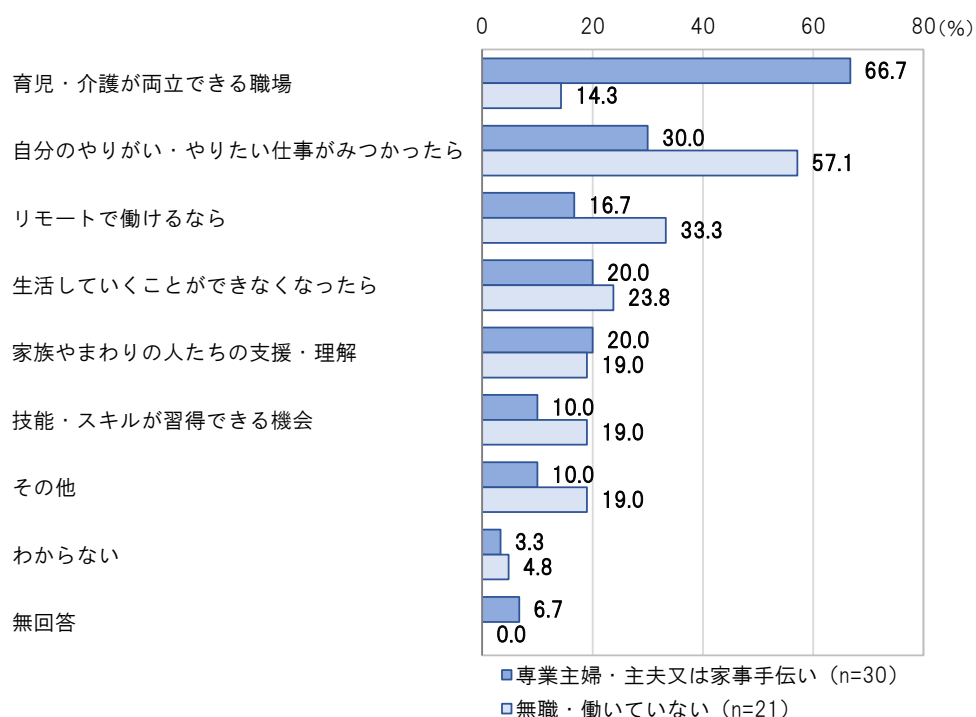
○働いていない人が働こうと思うきっかけは、「育児・介護が両立できる職場」が45.1%と最も高く、次いで「自分のやりがい・やりたい仕事が見つかったら」(41.2%)、「リモートで働けるなら」(23.5%)となっている。

○その他の意見では、「子どもが大きくなったら」の回答が多くみられた。



《就労状況別比較》

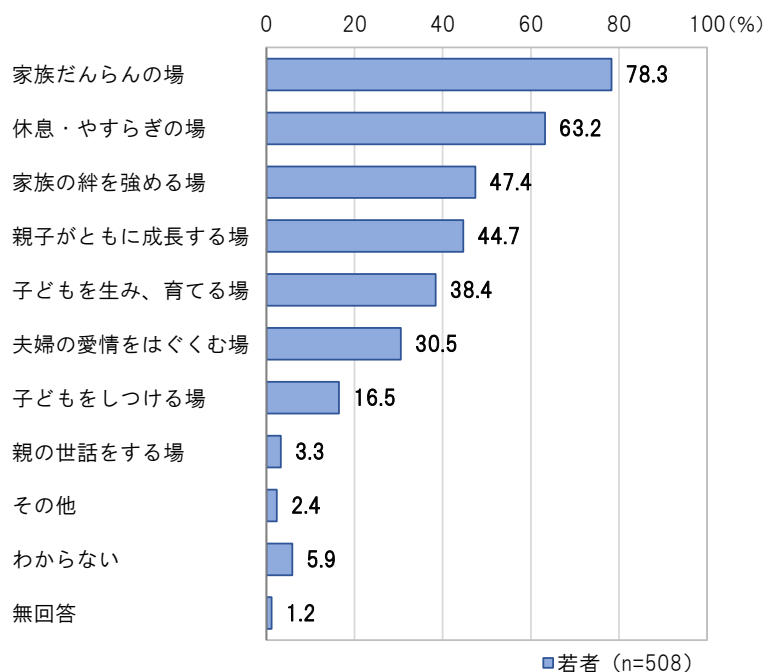
○就労状況別にみると、「専業主婦・主夫又は家事手伝い」では「育児・介護が両立できる職場」が最も高く、「無職・働いていない」では「自分のやりがい・やりたい仕事が見つかったら」や「リモートで働けるなら」が高くなっている。



5. 家族や周囲との関わりについて

(1) 家族の意味【若者／問 14 複数回答】

○家族がもつ意味は、「家族だんらん」が 78.3%と最も高く、次いで「休息・やすらぎの場」(63.2%)、「家族の絆を強める場」(47.4%)、「親子がともに成長する場」(44.7%)となっている。



《年代別・ひきこもり傾向別比較》

○年代別にみると、おおむね年代が上がるにつれて「家族だんらんの場」や「子どもを生み、育てる場」、「子どもをしつける場」の割合が高くなる傾向がみられる。

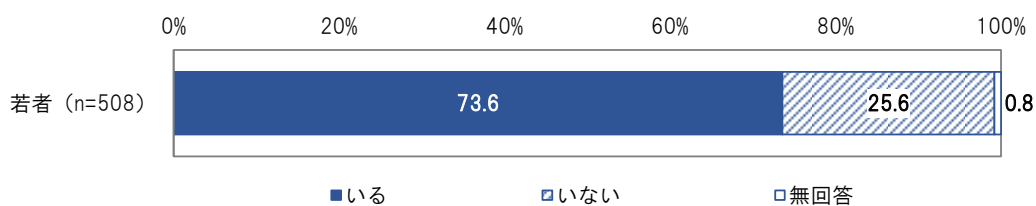
○ひきこもり傾向別にみると、[一般群] に比べて [ひきこもり傾向群] では「親の世話をする場」や「その他」、「わからない」が高くなっている。

		回答者数 (人)	家族だんらんの場	休息・やすらぎの場	家族の絆を強める場	親子がともに成長する場	子どもを生み、育てる場	夫婦の愛情をはぐくむ場	子どもをしつける場	親の世話をする場	その他	わからない	無回答
年代別	15～19歳	78	67.9	55.1	39.7	30.8	19.2	11.5	9.0	5.1	-	6.4	2.6
	20～24歳	68	77.9	61.8	39.7	44.1	25.0	16.2	10.3	1.5	5.9	2.9	1.5
	25～29歳	66	77.3	59.1	42.4	39.4	39.4	33.3	18.2	3.0	3.0	7.6	-
	30～34歳	116	81.0	62.1	55.2	52.6	46.6	42.2	18.1	6.0	2.6	7.8	-
	35～39歳	178	82.0	69.7	50.6	47.2	46.6	36.0	20.8	1.7	1.7	5.1	1.7
ひきこもり	ひきこもり傾向群	59	61.0	49.2	23.7	27.1	28.8	15.3	13.6	5.1	6.8	15.3	-
	一般群	443	81.0	65.5	51.2	47.6	40.2	33.0	17.2	3.2	1.6	4.5	1.1

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

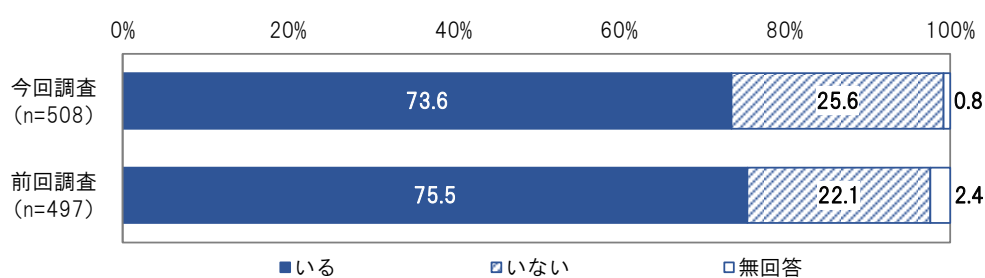
(2) 親友の有無【若者／問 15 単数回答・数量回答】

○親友の有無は、「いる」が73.6%、「いない」が25.6%となっている。



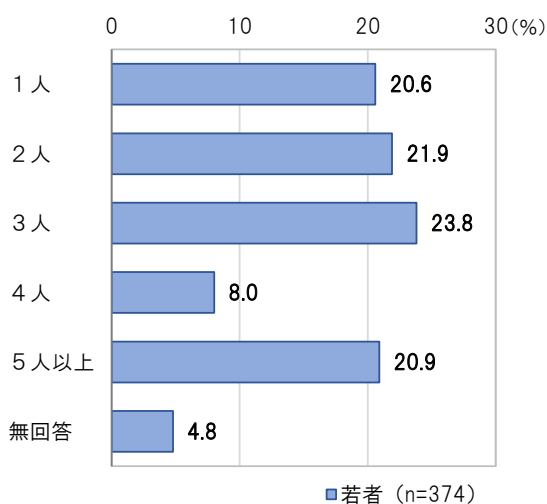
《経年比較》

○経年比較をみると、大きな差異はみられないが、「いる」がやや低くなっている。



《親友の人数》※「いる」と回答した人のみ

○親友の人数は「3人」が23.8%と最も高く、複数（2人以上）親友がいる人が74.6%となっている。



《意識・態度別比較》

○自己肯定感に関する2項目（①・④）では「あてはまる（自己肯定感が高い）」、自己表現に関する2項目（⑧・⑨）では「あてはまらない（自己表現が苦手でない）」で親友の人数が多くなっている。

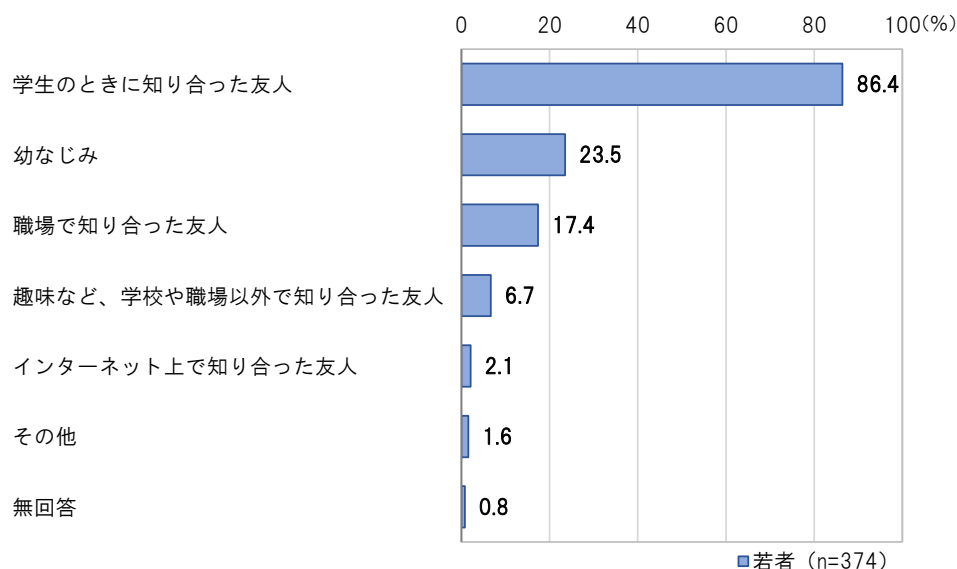
		(%)						
		(人) 回答者数	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
①自分に自信がある	あてはまる	184	15.8	21.2	24.5	9.8	22.3	6.5
	あてはまらない	188	25.5	22.9	23.4	6.4	19.7	2.1
④自分のことが好き	あてはまる	232	16.8	20.7	22.8	9.9	22.8	6.9
	あてはまらない	139	27.3	23.0	25.9	5.0	18.0	0.7
②いろいろなことに積極的に挑戦することができる	あてはまる	214	13.6	22.0	24.3	10.7	23.8	5.6
	あてはまらない	158	30.4	22.2	23.4	4.4	17.1	2.5
⑦将来の夢を叶えたいと思っている	あてはまる	257	17.9	20.6	25.3	9.7	21.0	5.4
	あてはまらない	112	26.8	25.0	21.4	4.5	20.5	1.8
⑧人とのつきあい方がうまくいなくて悩むことがある	あてはまる	186	25.8	23.7	23.7	6.5	17.2	3.2
	あてはまらない	186	15.6	19.9	24.2	9.7	24.7	5.9
⑨自分の感情を表に出すのが苦手だ	あてはまる	185	22.2	24.3	23.2	8.6	16.8	4.9
	あてはまらない	186	19.4	19.4	24.7	7.5	25.3	3.8
⑪周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない	あてはまる	133	26.3	24.1	24.1	5.3	15.0	5.3
	あてはまらない	238	17.6	20.6	23.9	9.7	24.4	3.8
⑤大事なことを自分ひとりで決めるのは苦手だ	あてはまる	221	23.5	21.7	18.6	7.7	24.0	4.5
	あてはまらない	151	16.6	22.5	31.8	8.6	16.6	4.0
⑫自分に親の関心が向くことをうれしく思う	あてはまる	220	20.5	19.5	20.5	9.1	25.5	5.0
	あてはまらない	150	21.3	25.3	29.3	6.7	14.0	3.3
⑬自分の生活のことで人から干渉されたくない	あてはまる	303	20.1	23.8	24.4	8.6	19.8	3.3
	あてはまらない	68	23.5	13.2	22.1	5.9	26.5	8.8
③家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる	あてはまる	199	22.1	22.6	24.1	7.0	21.1	3.0
	あてはまらない	172	19.2	20.9	23.8	9.3	20.9	5.8
⑥家や自室に閉じこもりたいと思うことがある	あてはまる	184	25.5	26.1	20.1	6.5	18.5	3.3
	あてはまらない	186	16.1	17.7	28.0	9.7	23.1	5.4
⑩嫌な出来事があると、外に出たくなくなる	あてはまる	170	21.2	27.1	27.6	5.3	15.9	2.9
	あてはまらない	201	20.4	17.4	20.9	10.4	25.4	5.5
⑭理由があるなら家や自室に閉じこもるのは仕方がないと思う	あてはまる	285	21.8	20.4	24.2	7.7	22.1	3.9
	あてはまらない	86	17.4	26.7	23.3	9.3	17.4	5.8

※意識・態度の該当比較において、割合の高い方を「薄い網掛け」としている。無回答を省略。傾向をみるため、順番を変更している。

(2-1) 親友との関係【若者／問 15-1 複数回答】

※(2)で「いる」と回答した人のみ

○親友との関係は、「学生のときに知り合った友人」が86.4%と最も高く、次いで「幼なじみ」(23.5%)、「職場で知り合った友人」(17.4%)となっている。



《年代別・ひきこもり傾向別比較》

○年代別にみると、おおむね年代が上がるにつれて「学生のときに知り合った友人」が低くなり、「職場で知り合った友人」が高くなる傾向がみられる。

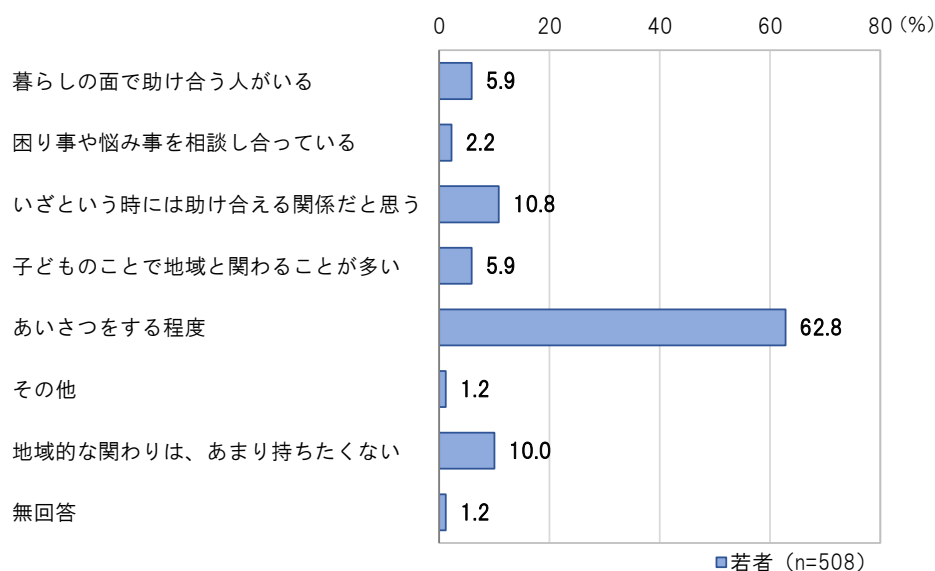
○ひきこもり傾向別にみると、[一般群]に比べて[ひきこもり傾向群]では「趣味など、学校や職場以外で知り合った友人」や「インターネット上で知り合った友人」が高くなっている。

		回答者数 (人)	学生のときに 知り合った 友人	幼なじみ	職場で知り 合った友人	趣味など、 学校や職場 以外で知り 合った友人	インター ネット上で 知り 合った友人	その他	無 回 答
年代別	15～19歳	60	95.0	25.0	-	10.0	1.7	-	-
	20～24歳	52	92.3	28.8	1.9	1.9	5.8	-	-
	25～29歳	54	90.7	27.8	11.1	3.7	1.9	-	-
	30～34歳	90	80.0	26.7	22.2	7.8	1.1	3.3	1.1
	35～39歳	117	82.9	16.2	31.6	6.8	1.7	2.6	1.7
ひきこもり	ひきこもり 傾向群	34	79.4	23.5	8.8	8.8	5.9	2.9	-
	一般群	335	87.2	23.9	17.9	6.3	1.5	1.5	0.9

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(3) 近所の人との関わり【若者／問 16 単数回答】

○近所の人との関わりは、「あいさつをする程度」が62.8%と最も高く、「暮らしの面で助け合う人がある」(5.9%)、「困り事や悩み事を相談し合っている」(2.2%)、「いざという時には助け合える関係だと思う」(10.8%)、「子どものことで地域と関わることが多い」(5.9%)を合わせた『近所の人と関わりが多い』人は3割未満となっている。



《家族形態別・ひきこもり傾向別比較》

○家族形態別にみると、[ひとり暮らし]では「地域的な関わりは、あまり持ちたくない」が約3割となっており、その他の家族形態に比べて高くなっている。また、[子と同居][その他同居]では「いざという時には助け合える関係だと思う」が1割を超えて高くなっている。

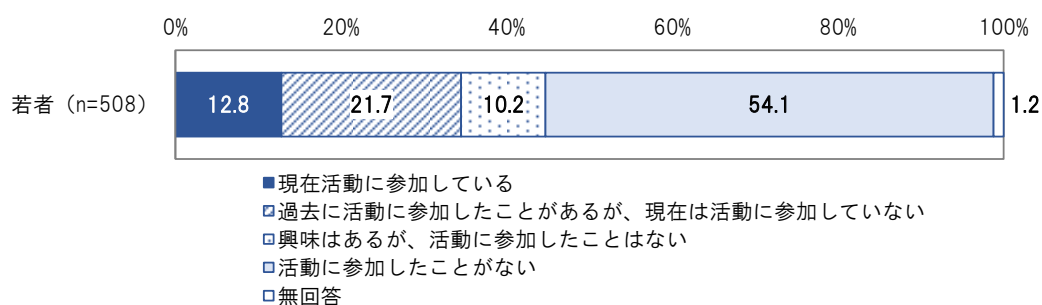
○ひきこもり傾向別にみると、[一般群]に比べて[ひきこもり傾向群]では「地域的な関わりは、あまり持ちたくない」が高くなっている。

		回答者数 (人)	暮らしの面で助け合う人がある	困り事や悩み事を相談し合っている	いざという時には助け合える関係だと思う	子どものことで地域と関わるが多い	あいさつをする程度	その他	地域的な関わりは、あまり持ちたくない	無回答
家族形態別	ひとり暮らし	31	3.2	-	6.5	-	54.8	6.5	29.0	-
	夫婦のみ	56	1.8	3.6	1.8	-	80.4	3.6	8.9	-
	子と同居	199	7.5	4.0	13.6	14.6	56.8	-	3.0	0.5
	その他同居	220	5.9	0.5	11.4	0.5	65.0	0.5	14.1	2.3
ひきこもり傾向別	ひきこもり傾向群	59	6.8	1.7	5.1	-	59.3	-	27.1	-
	一般群	443	5.6	2.3	11.7	6.8	63.4	1.1	7.9	1.1

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

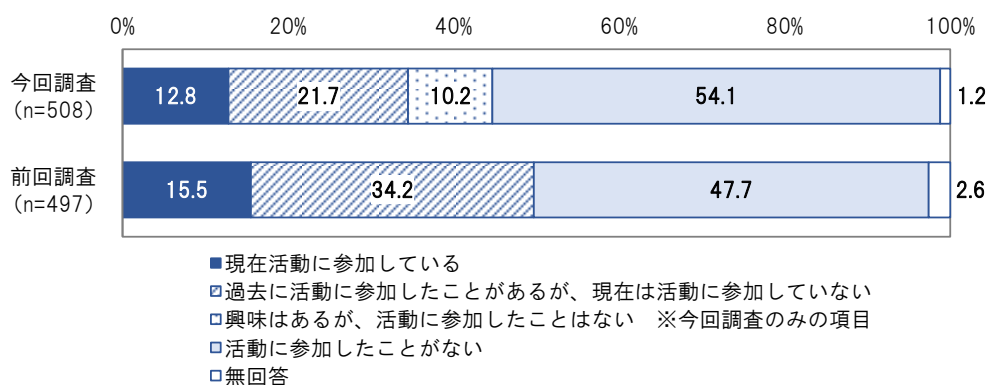
（４）地域活動への参加状況【若者／問 17 単数回答】

○地域活動への参加状況は、「活動に参加したことがない」が 54.1%と最も高く、次いで「過去に活動に参加したことがあるが、現在は活動に参加していない」（21.7%）となっており、「興味はあるが、活動に参加したことはない」（10.2%）と合わせると、『活動に参加していない』人が8割を超えている。



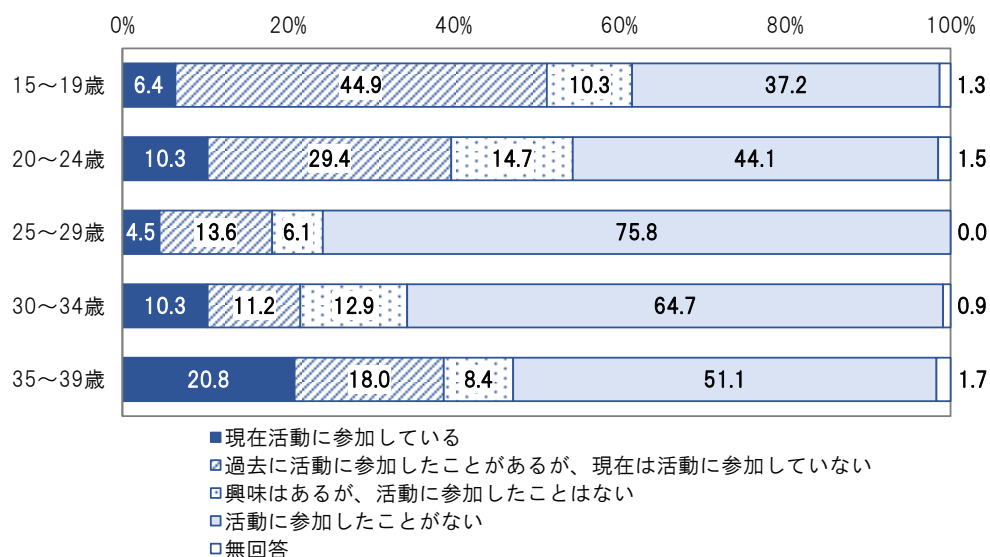
《経年比較》

○経年比較をみると、「過去に活動に参加したことがあるが、現在は活動に参加していない」が 10ポイント以上下回っており、「活動に参加したことがない」が大きく増加している。



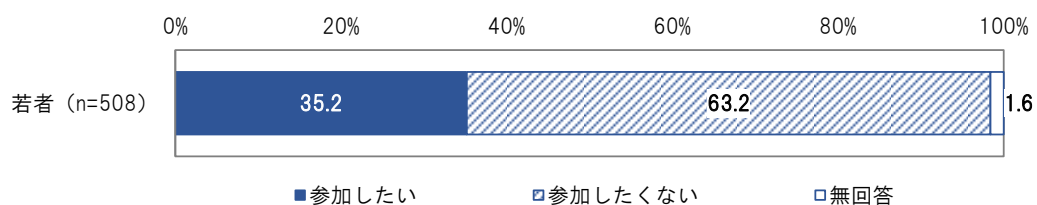
《年代別比較》

○年代別にみると、「現在活動に参加している」の割合は [35～39 歳] で約 2 割と高くなっている。また、[25～29 歳] で「活動に参加したことがない」が 7 割を超えて最も高くなっている。



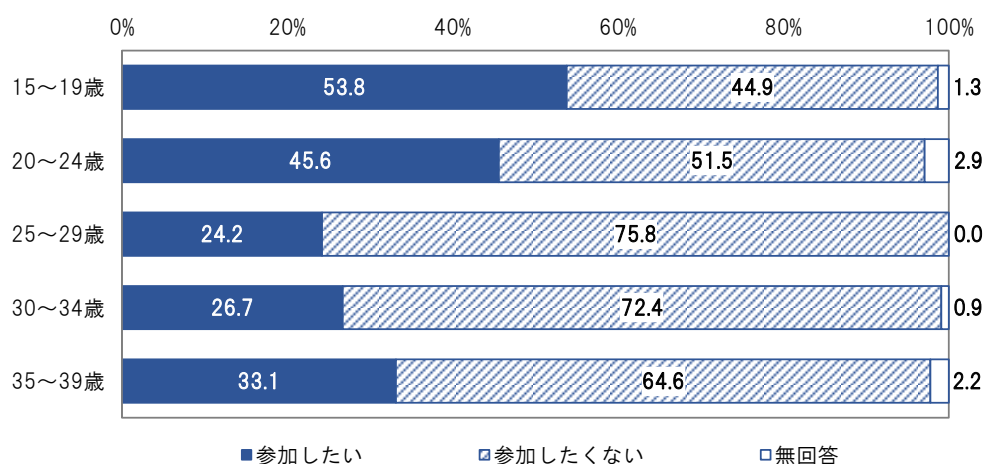
(5) 地域活動への今後の参加意向【若者／問 18 単数回答】

○地域活動への今後の参加意向は、「参加したい」が35.2%、「参加したくない」が63.2%となっている。



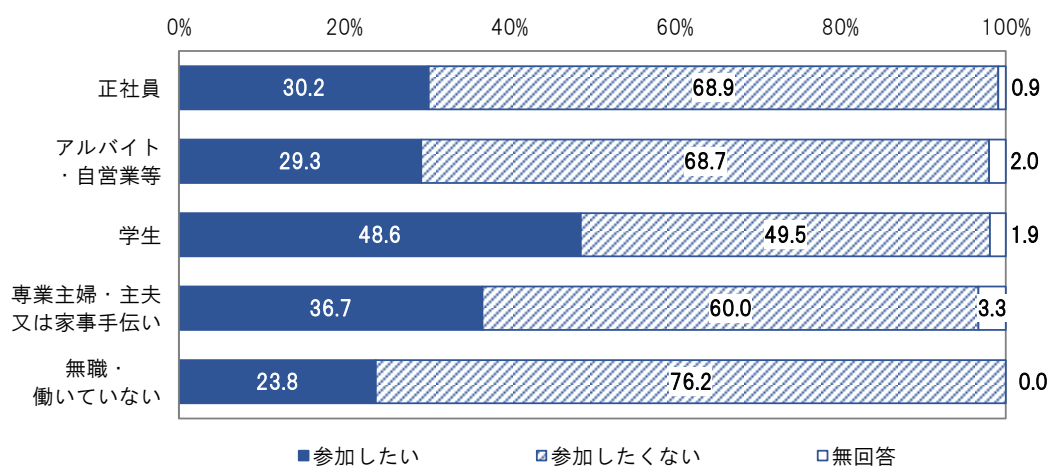
《年代別比較》

○年代別にみると、[15～19 歳] では「参加したい」が半数を超え、「参加したくない」を上回っている。



《就労状況別比較》

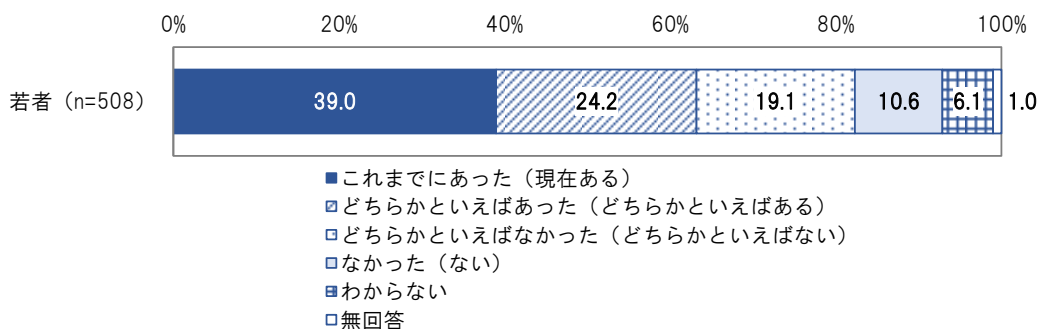
○就労状況別にみると、[学生] で「参加したい」が48.6%と半数近くを占め、その他の就労状況に比べて高くなっている。



6. 困難に直面した経験と支援について

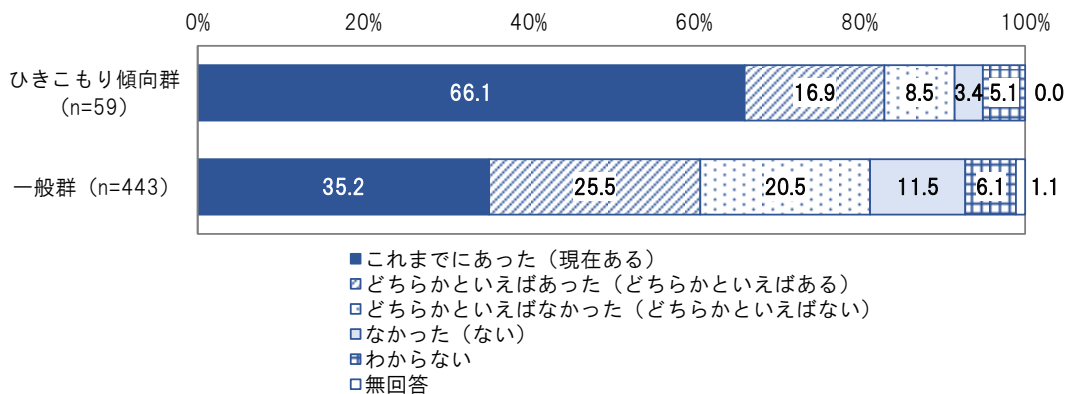
(1) 困難に直面した経験の有無【若者／問 22 単数回答】

○困難に直面した経験の有無は、「これまでにあった（現在ある）」が 39.0%と最も高く、「どちらかといえばあった（どちらかといえばある）」(24.2%) と合わせると、『あった（ある）』が6割以上となっている。



《ひきこもり傾向別比較》

○ひきこもり傾向別にみると、[ひきこもり傾向群] では「これまでにあった（現在ある）」が6割を超えており、「どちらかといえばあった（どちらかといえばある）」(16.9%) と合わせると、『あった（ある）』が8割以上となっている。また、「これまでにあった（現在ある）」が[一般群] に比べて 30 ポイント以上上回っている。

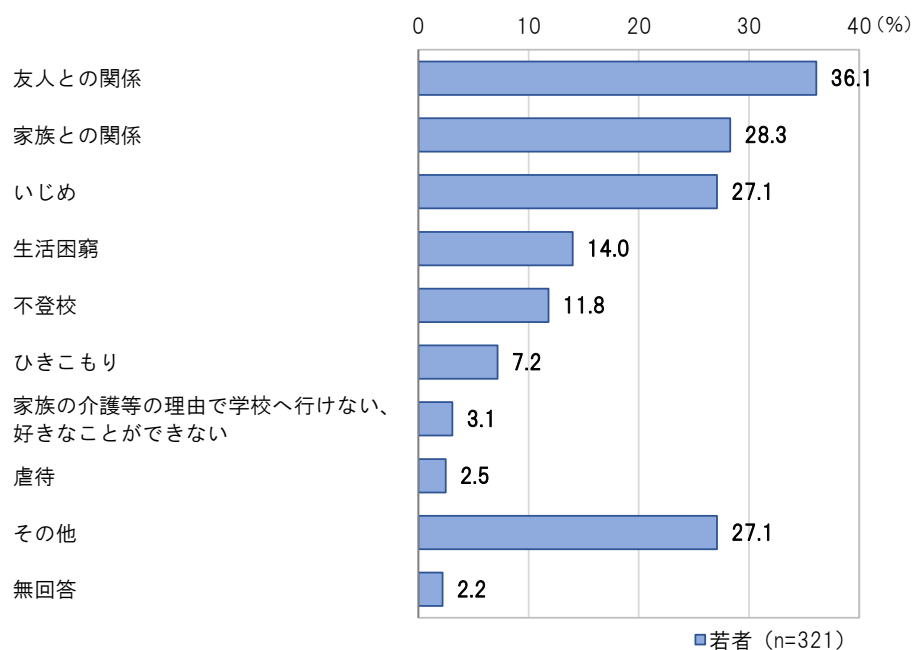


(1-1) これまでにあった（現在ある）困難の内容【若者／問 22-1 複数回答】

※（１）で「これまでにあった（現在ある）」「どちらかといえばあった（どちらかといえばある）」と回答した人のみ

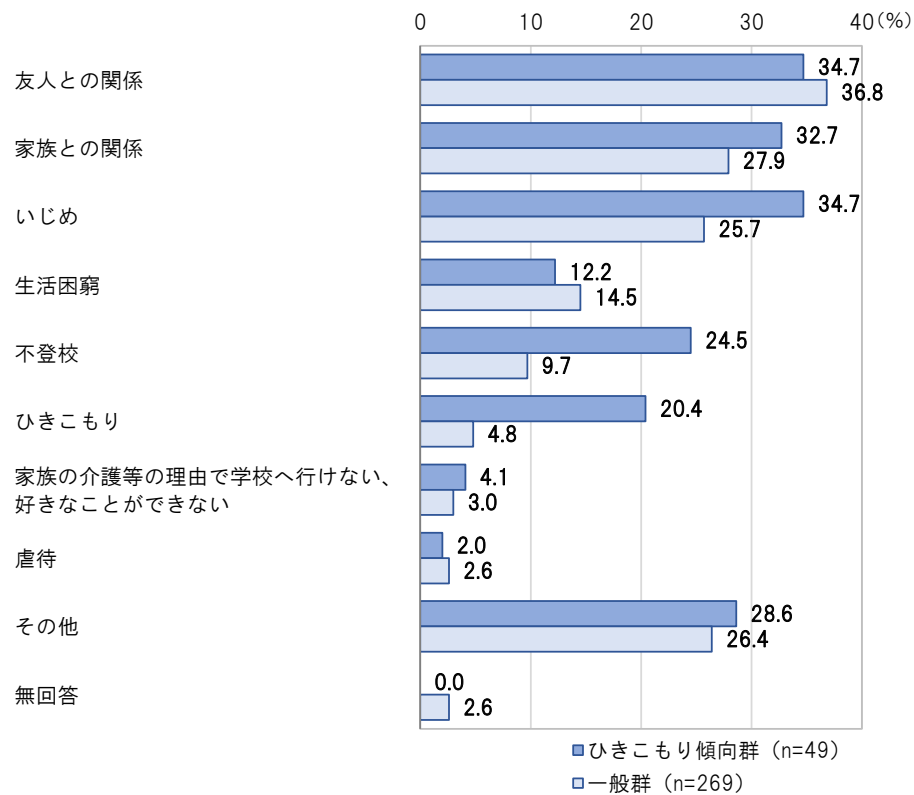
○これまでにあった（現在ある）困難の内容は、「友人との関係」が36.1%と最も高く、次いで「家族との関係」（28.3%）、「いじめ」（27.1%）となっている。

○その他の意見では、「仕事・職場環境」の回答が多く、他では「離婚」や「受験」などの回答がみられた。



《ひきこもり傾向別比較》

○ひきこもり傾向別にみると、[ひきこもり傾向群] では「家族との関係」や「いじめ」、「不登校」、「ひきこもり」などで「一般群」に比べて高くなっている。



《年代別比較》

○年代別にみると、[35～39 歳] では「家族との関係」、それ以外の年代では「友人との関係」が最も高くなっている。また、年代が下がるにつれて「友人との関係」が高くなる傾向がみられる。
○その他、[35～39 歳] では「生活困窮」が約2割となっており、その他の年代に比べてやや高くなっている。

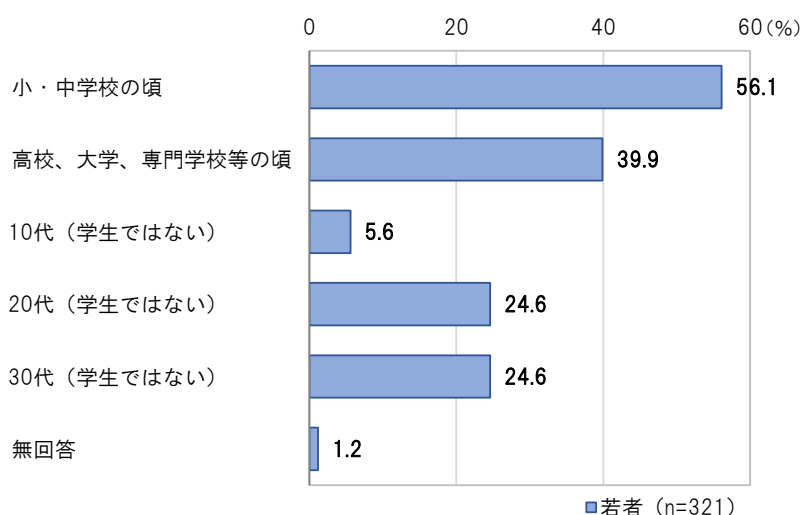
		(%)										
		回答者数 (人)	友人との関係	家族との関係	いじめ	生活困窮	不登校	ひきこもり	家族の介護等の理由で学校へ行けない、好きなことができない	虐待	その他	無回答
年代別	15～19歳	44	59.1	20.5	20.5	2.3	15.9	9.1	—	2.3	22.7	—
	20～24歳	40	50.0	25.0	32.5	12.5	10.0	7.5	—	2.5	25.0	—
	25～29歳	43	39.5	34.9	34.9	9.3	16.3	7.0	2.3	7.0	16.3	7.0
	30～34歳	73	32.9	27.4	28.8	15.1	9.6	8.2	5.5	1.4	31.5	1.4
	35～39歳	119	24.4	31.1	24.4	19.3	10.9	5.9	4.2	1.7	30.3	2.5

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(1-2) 困難の経験があった時期【若者／問 22-2 複数回答】

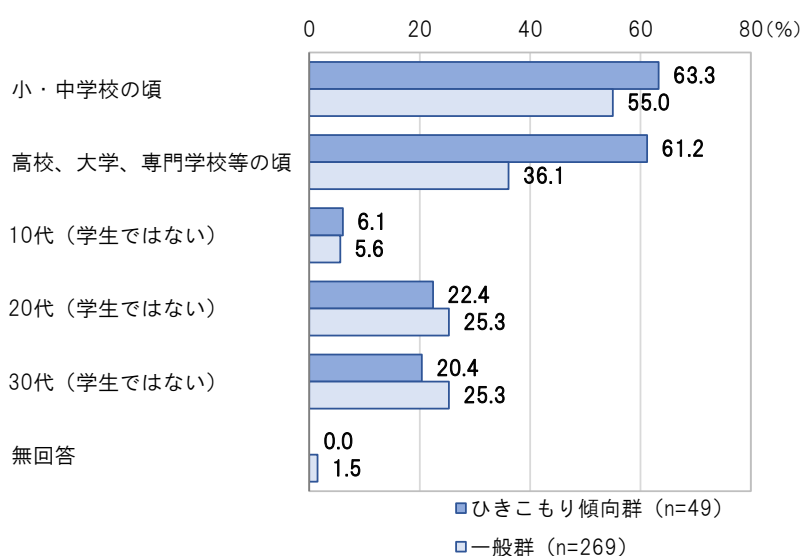
※(1)で「これまでにあった(現在ある)」「どちらかといえばあった(どちらかといえばある)」と回答した人のみ

○困難のあった時期は、「小・中学校の頃」が56.1%と最も高く、次いで「高校、大学、専門学校等の頃」(39.9%)となっており、学生時代に困難があった人が多い結果となっている。



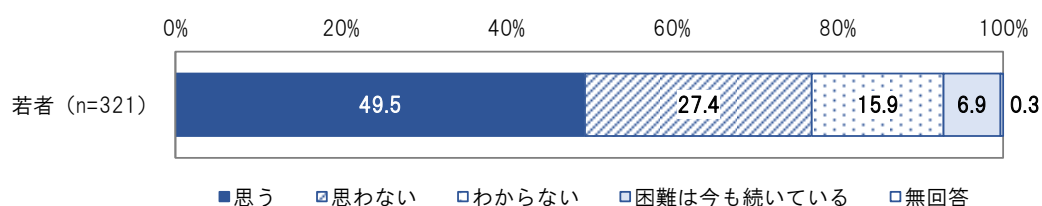
《ひきこもり傾向別比較》

○ひきこもり傾向別にみると、[ひきこもり傾向群]では、「小・中学校の頃」や「高校、大学、専門学校等の頃」が[一般群]に比べて高くなっている。



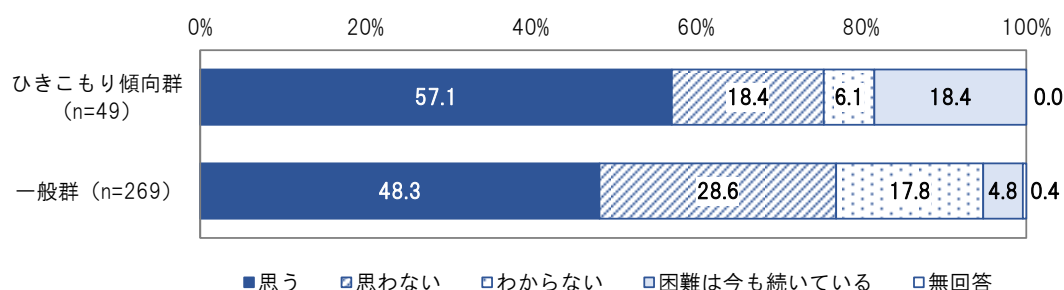
(1-3) 困難の経験による今の生活への影響【若者／問 22-3 単数回答】

○困難の経験による今の生活への影響は、「(影響していると)思う」が49.5%と約半数を占め、「(影響していると)思わない」は27.4%となっている。



《ひきこもり傾向別比較》

○ひきこもり傾向別にみると、[ひきこもり傾向群] では、「(影響していると) 思う」が半数以上を占め、[一般群] に比べて高くなっている。また、[ひきこもり傾向群] では、「困難は今も続いている」が約2割を占め、[一般群] に比べて高くなっている。

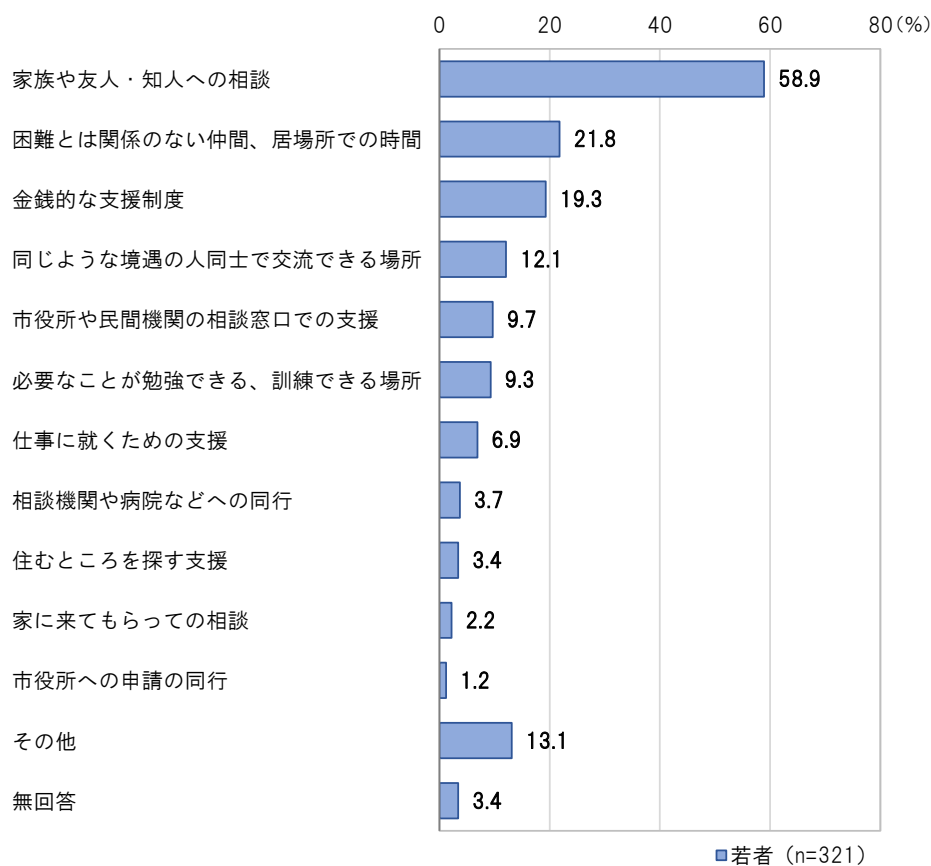


(1-4) 困難を乗り越えるために必要な支援【若者／問 22-4 複数回答】

※(1)で「これまでにあった(現在ある)」「どちらかといえばあった(どちらかといえばある)」と回答した人のみ

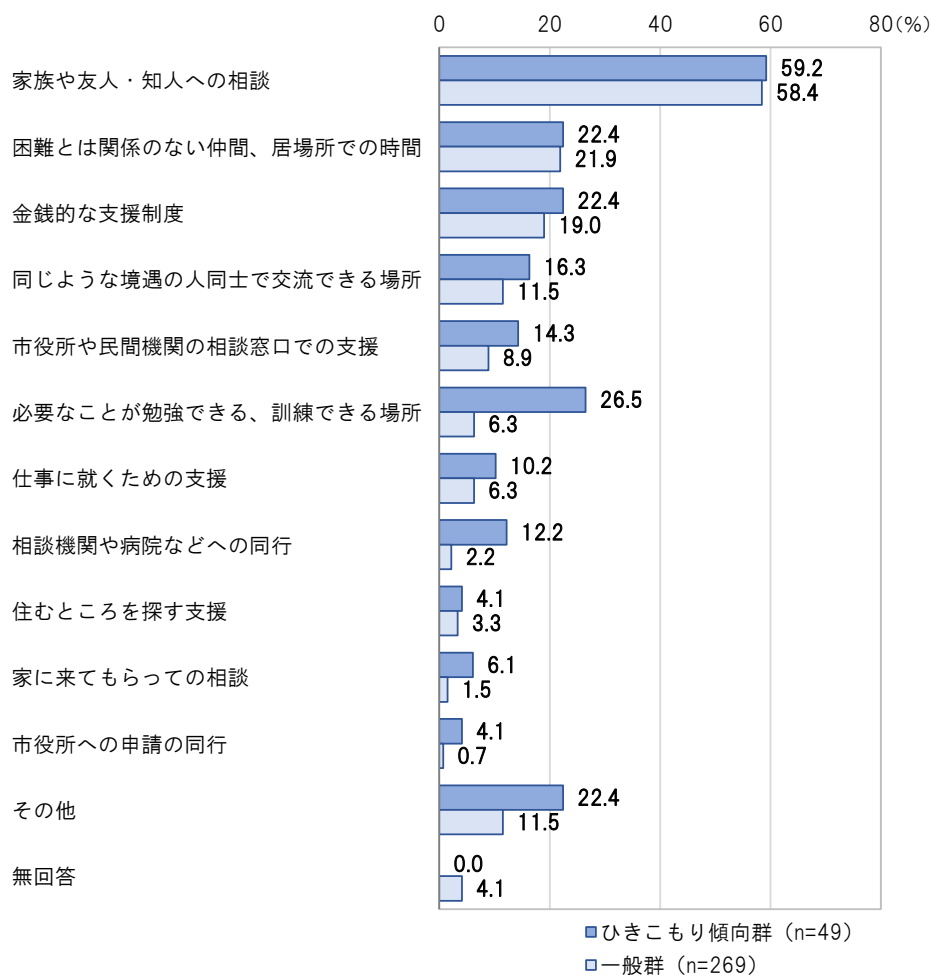
○困難を乗り越えるために必要な支援は、「家族や友人・知人への相談」が58.9%と最も高く、次いで「困難とは関係のない仲間、居場所での時間」(21.8%)、「金銭的な支援制度」(19.3%)となっている。

○その他の意見では、「時間が解決する」の回答が多く、他では「治療・カウンセリング」や「環境改善」などの回答がみられた。



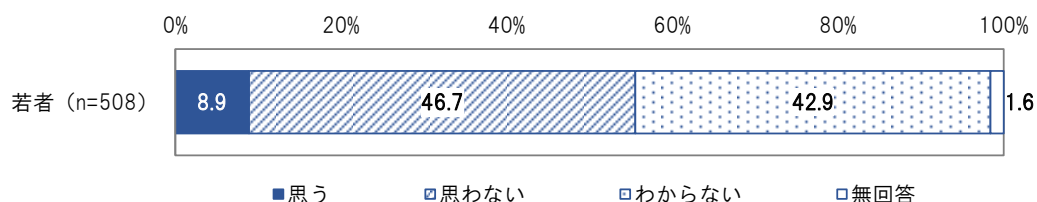
《ひきこもり傾向別比較》

○ひきこもり傾向別にみると、[ひきこもり傾向群]では、「市役所や民間機関の相談窓口での支援」や「必要なことが勉強できる、訓練できる場所」、「仕事に就くための支援」、「相談機関や病院などへの同行」が[一般群]に比べて高く、特に「必要なことが勉強できる、訓練できる場所」では20ポイント近く、「相談機関や病院などへの同行」では10ポイント程度上回っている。



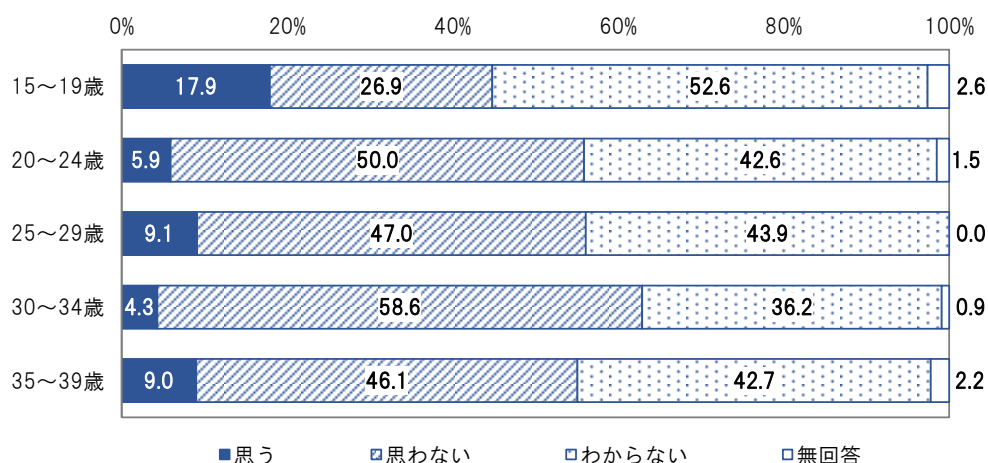
(2) 相談窓口や支援の情報が届いていると思うか【若者／問 23 単数回答】

○相談窓口や支援の情報が届いていると思うかは、「(届いていると) 思わない」が46.7%と最も高く、「(届いていると) 思う」は8.9%となっている。



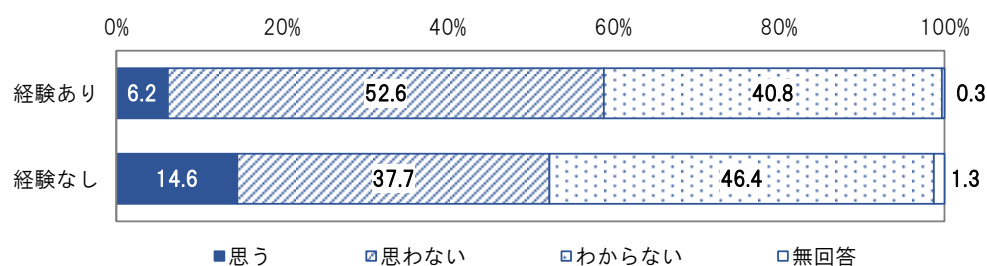
《年代別比較》

○年代別にみると、[15～19 歳] では「(届いていると) 思う」が2割近くを占め、その他の年代に比べて高くなっている。また、すべての年代で「(届いていると) 思わない」が「(届いていると) 思う」を上回っており、特に [30～34 歳] では6割近くを占めて最も高くなっている。



《困難に直面した経験の有無別比較》

○困難に直面した経験の有無別にみると、[(困難に直面した) 経験あり] では「(届いていると) 思わない」が52.6%と半数以上を占め、[(困難に直面した) 経験なし] を約 15 ポイント上回っている。また、[(困難に直面した) 経験あり] では「(届いていると) 思う」が1割未満となっている。

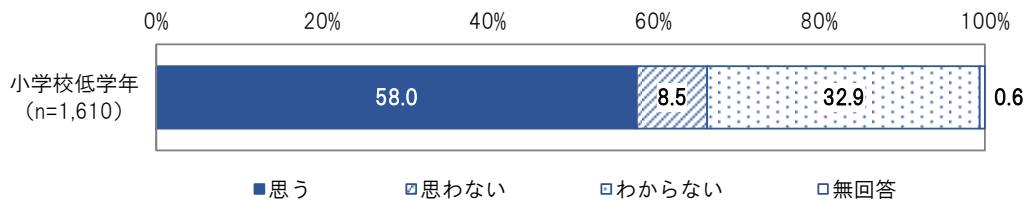


IV 調査結果③《子ども・若者の意見表明》

1. 子どもの意見を尊重することについて

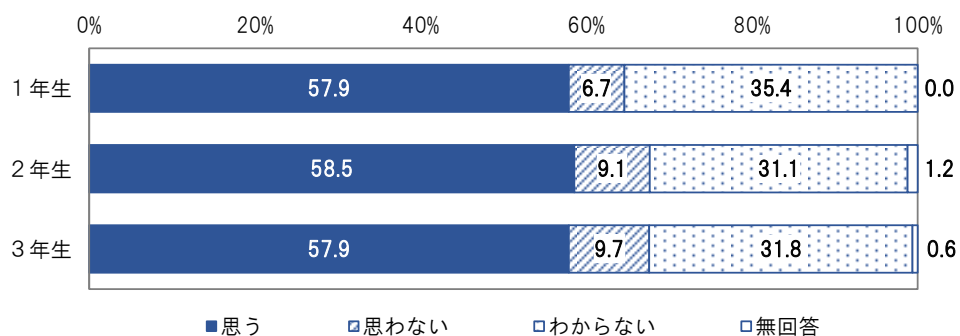
(1) 家庭や学校において子どもの考えや思っていることを表す機会の有無【小学生／問 21 単数回答】

○家庭や学校において子どもの考えや思っていることを表す機会の有無は、「(確保されていると) 思う」が58.0%、「(確保されていると) 思わない」が8.5%となっている。



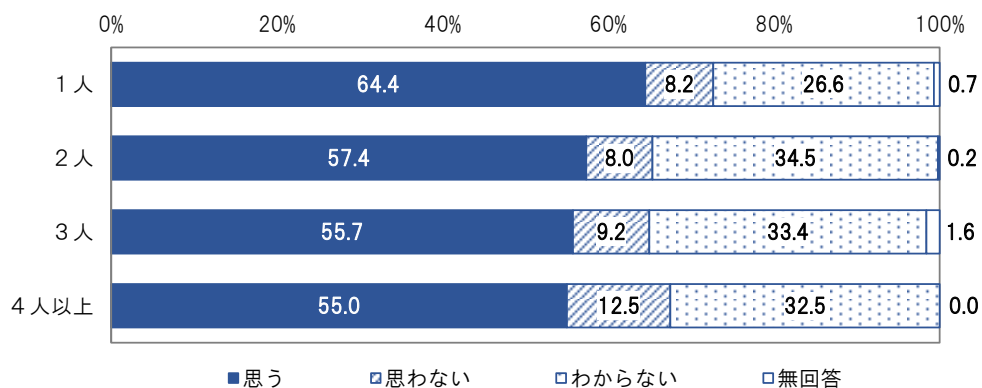
《学年別比較》

○学年別にみると、「(確保されていると) 思う」は学年による相関はみられないのに対し、「(確保されていると) 思わない」は学年が上がるにつれてやや高くなる傾向がみられる。



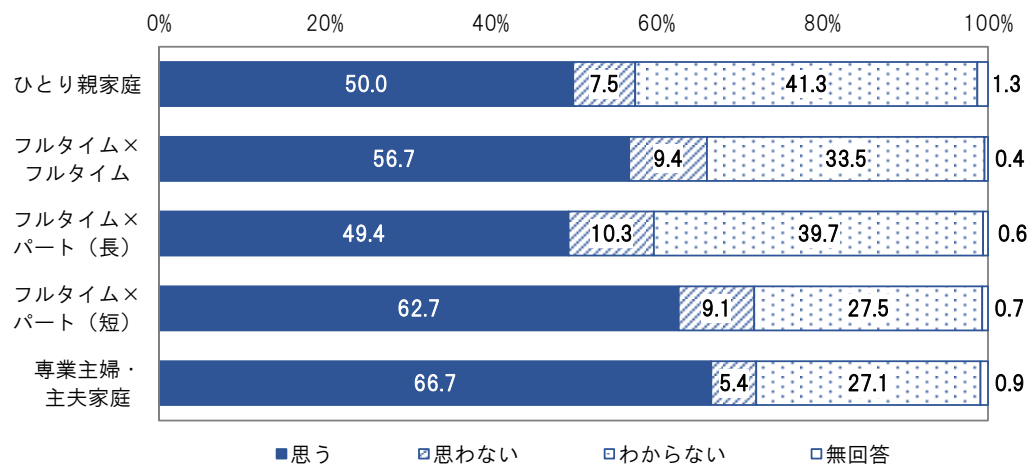
《子どもの人数別比較》

○子どもの人数別にみると、子どもの人数が増えるにつれて「(確保されていると) 思う」が低くなり、「(確保されていると) 思わない」が高くなる傾向がみられる。



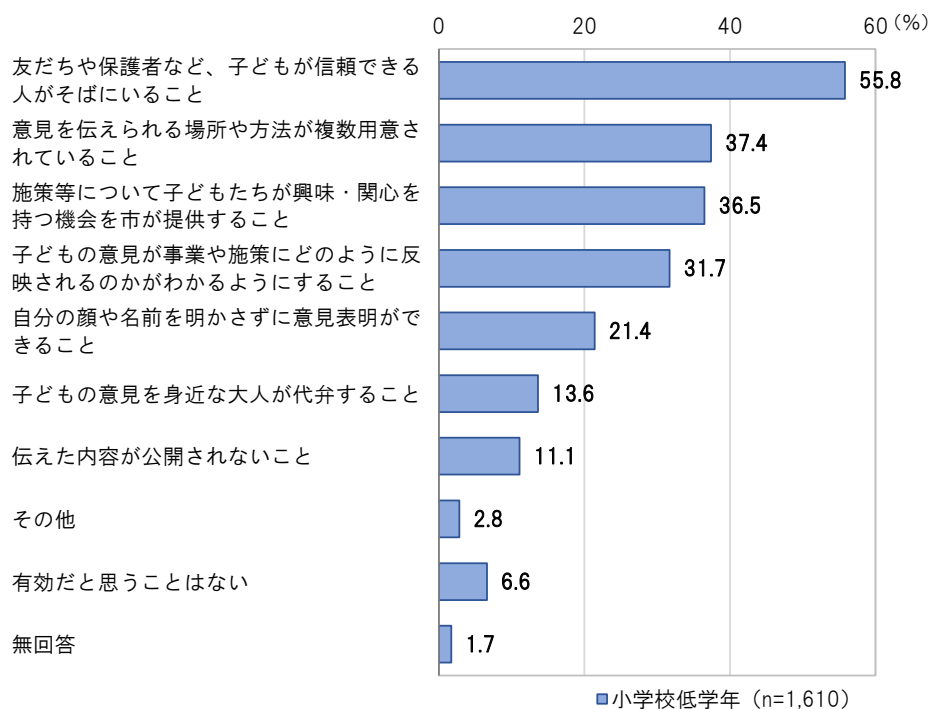
《家庭類型別比較》

- 家庭類型別にみると、[フルタイム×パート（短）][専業主婦・主夫家庭]では、「(確保されていると)思う」が6割を超えて高くなっている。
- [フルタイム×フルタイム][フルタイム×パート（長）][フルタイム×パート（短）]の、共働き家庭では「(確保されていると)思わない」が約1割と、その他の家庭類型に比べてやや高くなっている。



(2) 子どもが意見を表明しやすくするために有効だと思うこと【小学生／問 22 複数回答】

○子どもが意見を表明しやすくするために有効だと思うことは、「友だちや保護者など、子どもが信頼できる人がそばにいること」が55.8%と最も高く、次いで「意見を伝えられる場所や方法が複数用意されていること」(37.4%)、「施策等について子どもたちが興味・関心を持つ機会を市が提供すること」(36.5%)となっている。



《子どもの意見表明の機会の有無別比較》

○子どもの意見表明の機会の有無別にみると、[(確保されていると) 思わない] 人では「施策等について子どもたちが興味・関心を持つ機会を市が提供する」や「子どもの意見を身近な大人が代弁すること」で、[(確保されていると) 思う] 人に比べて高い割合となっている。

(%)

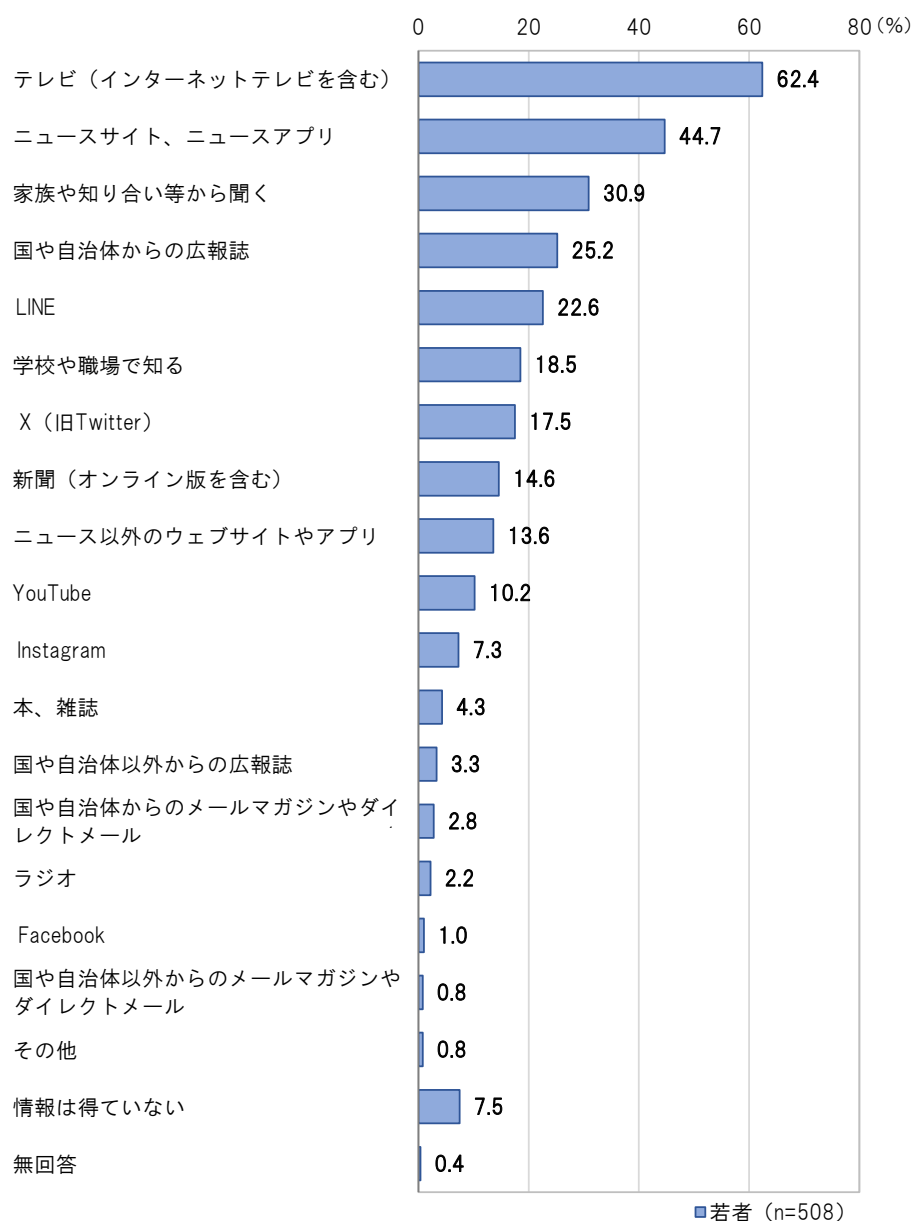
		回答者数 (人)	友だちや保護者など、子どもが信頼できる人がそばにいること	意見を伝えられる場所や方法が複数用意されていること	施策等について子どもたちが興味・関心を持つ機会を市が提供すること	意見が事業等にどのように反映されるのかがわかるようにすること	自分の顔や名前を明かさずに意見表明ができること	子どもの意見を身近な大人が代弁すること	伝えた内容が公開されないこと	その他	有効だと思うことはない	無回答
機会の有無	思う	933	58.8	39.4	37.0	33.0	21.1	13.4	10.9	2.3	5.1	1.1
	思わない	137	48.2	38.0	41.6	27.7	19.7	17.5	10.9	3.6	10.9	-
	わからない	530	52.6	33.6	34.3	30.4	22.6	13.0	11.5	3.4	7.9	2.6

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

2. 若者の意見反映・社会参加について

(1) 国や大津市の制度や政策に関する情報の入手方法【若者／問19 複数回答】

○国や大津市の制度や政策に関する情報の入手方法は、「テレビ（インターネットテレビを含む）」が62.4%と最も高く、次いで「ニュースサイト、ニュースアプリ」（44.7%）、「家族や知り合い等から聞く」（30.9%）となっている。



《年代別・子どもの有無別比較》

○年代別にみると、年代が上がるにつれて「国や自治体からの広報誌」や「LINE」、「新聞（オンライン版を含む）」などが高くなる傾向がみられる。また、[15～19歳]では「テレビ（インターネットテレビを含む）」や「家族や知り合い等から聞く」、「学校や職場で知る」、「YouTube」、「Instagram」などで、その他の年代に比べてやや高くなっている。

○子どもの有無別にみると、[(子どもが) いる]では「国や自治体からの広報誌」や「LINE」、「Instagram」などで [(子どもが) いない] に比べて高く、[(子どもが) いない] では「学校や職場で知る」や「X（旧 Twitter）」、「YouTube」などで [(子どもが) いる] に比べて高くなっている。

(%)

		回答者数（人）	テレビ（インターネットテレビを含む）	ニュースサイト、ニュースアプリ	家族や知り合い等から聞く	国や自治体からの広報誌	LINE	学校や職場で知る	X（旧 Twitter）	新聞（オンライン版を含む）	ニュース以外のウェブサイトやアプリ	YouTube
年代別	15～19歳	78	70.5	42.3	41.0	9.0	12.8	26.9	21.8	11.5	12.8	21.8
	20～24歳	68	63.2	33.8	36.8	19.1	19.1	19.1	25.0	8.8	5.9	8.8
	25～29歳	66	59.1	34.8	27.3	22.7	21.2	12.1	24.2	10.6	12.1	15.2
	30～34歳	116	54.3	50.9	28.4	24.1	25.0	15.5	19.8	12.9	14.7	9.5
	35～39歳	178	64.6	48.9	27.5	36.5	27.5	18.5	9.0	20.8	16.9	4.5
子ども	いる	205	62.0	43.9	28.3	35.1	28.3	14.6	10.7	14.6	16.1	4.9
	いない	294	62.9	45.6	32.3	18.4	18.7	20.7	22.4	15.0	12.2	13.6

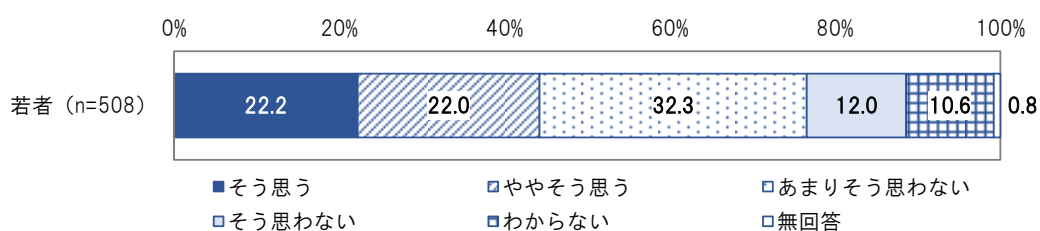
	(つづき)	回答者数（人）	Instagram	本、雑誌	国や自治体以外からの広報誌	国や自治体からのメールマガジンやダイレクトメール	ラジオ	Facebook	国や自治体以外からのメールマガジンやダイレクトメール	その他	情報は得ていない	無回答
年代別	15～19歳	78	10.3	5.1	2.6	-	3.8	1.3	-	-	6.4	1.3
	20～24歳	68	4.4	5.9	1.5	2.9	1.5	1.5	1.5	4.4	11.8	-
	25～29歳	66	7.6	7.6	4.5	1.5	1.5	-	-	-	9.1	-
	30～34歳	116	6.9	1.7	2.6	1.7	-	0.9	0.9	-	6.0	-
	35～39歳	178	7.3	3.9	4.5	5.1	3.4	1.1	1.1	0.6	6.7	0.6
子ども	いる	205	9.3	3.4	5.4	3.9	2.4	1.0	1.0	1.5	5.4	-
	いない	294	5.4	5.1	2.0	2.0	2.0	0.7	0.7	0.3	9.2	-

※1番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 国や市に対して自分の意見を伝えたいか【若者／問 20 単数回答】

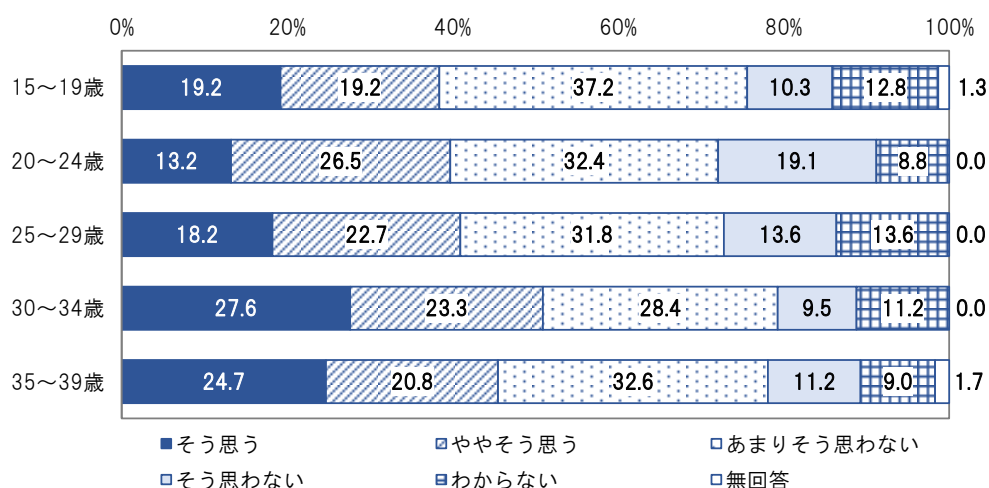
○国や市に対して自分の意見を伝えたいかどうかは、「あまりそう思わない」が32.3%と最も高く、「そう思わない」(12.0%)と合わせると、『(国や市に対して自分の意見を伝えたいと) 思わない』人が44.3%となっている。

○一方で、「そう思う」(22.2%)と「ややそう思う」(22.0%)を合わせた『(国や市に対して自分の意見を伝えたいと) 思う』人が44.2%となっている。



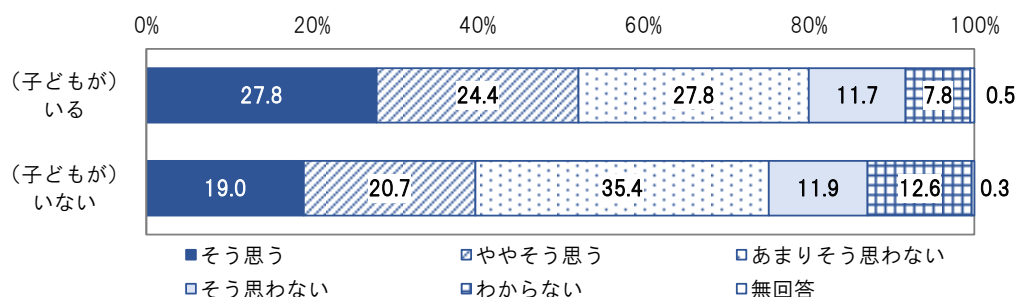
《年代別比較》

○年代別にみると、[30～34 歳] で『(国や市に対して自分の意見を伝えたいと) 思う』が約半数を占め、最も高くなっている。一方で、[20～24 歳] では『(国や市に対して自分の意見を伝えたいと) 思わない』が半数を超え、その他の年代に比べて高くなっている。



《子どもの有無別比較》

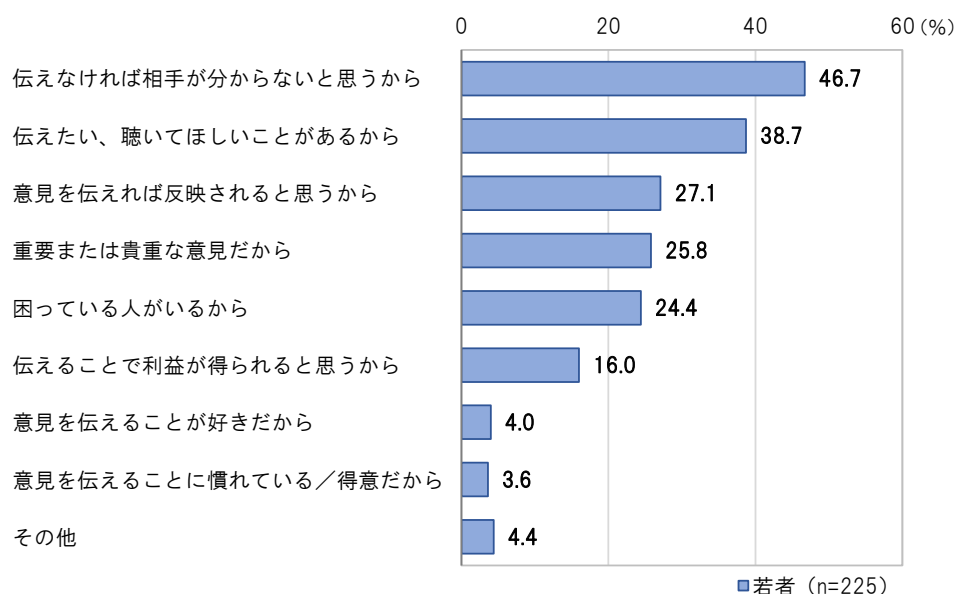
○子どもの有無別にみると、[(子どもが) いる] で『(国や市に対して自分の意見を伝えたいと) 思う』が半数以上を占め、[(子どもが) いない] に比べて高くなっている。



（２－１）国や市に対して自分の意見を伝えたいと思う理由【若者／問 20-1 複数回答】

※（２）で「そう思う」「ややそう思う」と回答した人のみ

○国や市に対して自分の意見を伝えたいと思う理由は、「伝えなければ相手が分からないと思うから」が 46.7%と最も高く、次いで「伝えたい、聴いてほしいことがあるから」（38.7%）、「意見を伝えれば反映されると思うから」（27.1%）となっている。



《年代別比較》

○年代別にみると、[15～19 歳] では「意見を伝えれば反映されると思うから」、[25～29 歳] では「困っている人がいるから」、[35～39 歳] では「重要または貴重な意見だから」などで、その他の年代に比べてやや高くなっている。

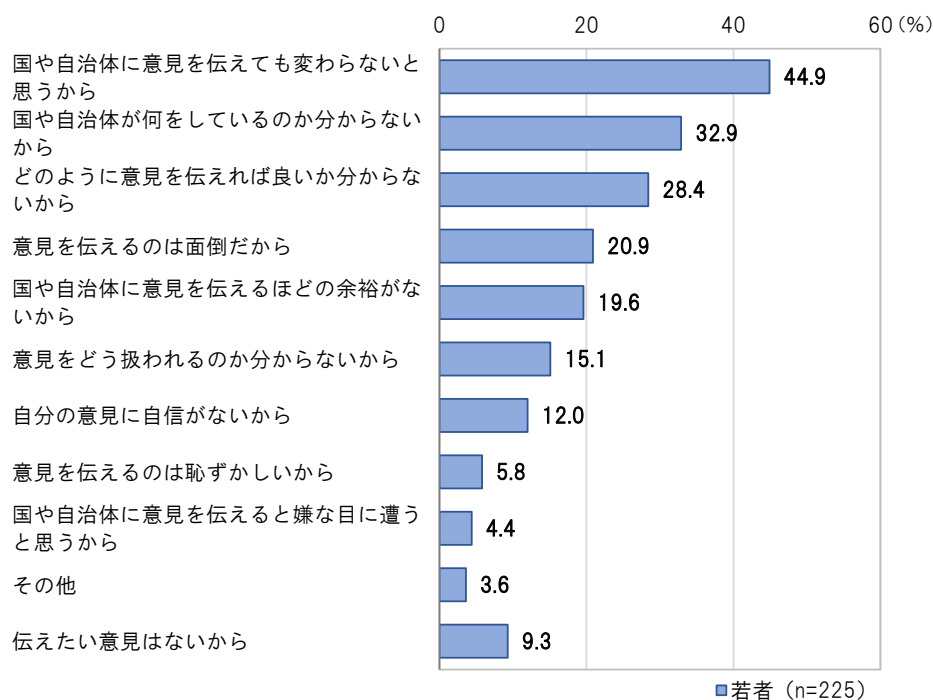
		(%)									
		回答者数 (人)	伝えなければ相手が分からないと思うから	伝えたい、聴いてほしいことがあるから	意見を伝えれば反映されると思うから	重要または貴重な意見だから	困っている人がいるから	伝えることで利益が得られると思うから	意見を伝えることが好きだから	意見を伝えることに慣れている／得意だから	その他
年代別	15～19歳	30	46.7	46.7	40.0	26.7	20.0	23.3	3.3	-	-
	20～24歳	27	51.9	25.9	33.3	18.5	18.5	14.8	7.4	3.7	11.1
	25～29歳	27	48.1	33.3	33.3	18.5	33.3	25.9	3.7	3.7	-
	30～34歳	59	42.4	37.3	20.3	25.4	16.9	15.3	3.4	1.7	6.8
	35～39歳	81	46.9	42.0	23.5	30.9	29.6	11.1	3.7	6.2	3.7

※ 1 番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2-2) 国や市に対して自分の意見を伝えたいと思わない理由【若者／問 20-2 複数回答】

※(2)で「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した人のみ

○国や市に対して自分の意見を伝えたいと思わない理由は、「国や自治体に意見を伝えても変わらないと思うから」が44.9%と最も高く、次いで「国や自治体は何をしているのか分からないから」(32.9%)、「どのように意見を伝えれば良いか分からないから」(28.4%)となっている。



《年代別比較》

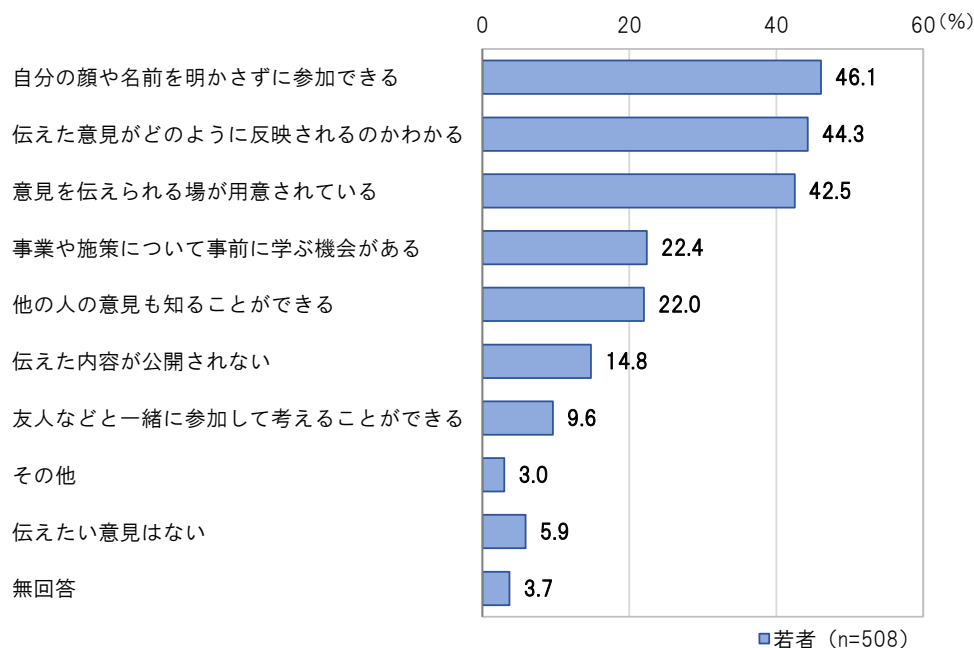
○年代別にみると、[20～24 歳] 以下は「国や自治体は何をしているのか分からないから」、[25～29 歳] 以上は「国や自治体に意見を伝えても変わらないと思うから」が最も高くなっている。また、「国や自治体は何をしているのか分からないから」では、年代が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。

		理由											(%)
		回答者数 (人)	国や自治体に意見を伝えても変わらないと思うから	国や自治体は何をしているのか分からないから	どのように意見を伝えれば良いか分からないから	意見を伝えるのは面倒だから	国や自治体に意見を伝えるほどの余裕がないから	意見をどう扱われるのか分からないから	自分の意見に自信がないから	意見を伝えるのは恥ずかしいから	国や自治体に意見を伝えると嫌な目に遭うと思うから	その他	伝えたい意見はないから
年代別	15～19歳	37	37.8	43.2	35.1	13.5	10.8	13.5	10.8	13.5	-	2.7	10.8
	20～24歳	35	31.4	42.9	34.3	28.6	22.9	17.1	17.1	-	2.9	-	8.6
	25～29歳	30	46.7	33.3	16.7	23.3	10.0	16.7	6.7	10.0	6.7	3.3	10.0
	30～34歳	44	50.0	27.3	31.8	18.2	27.3	11.4	11.4	4.5	4.5	9.1	9.1
	35～39歳	78	51.3	26.9	25.6	21.8	20.5	16.7	12.8	3.8	6.4	2.6	9.0

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(3) 意見が伝えやすいと思う方法【若者／問 21 複数回答】

○意見が伝えやすいと思う方法は、「自分の顔や名前を明かさずに参加できる」が 46.1%と最も高く、次いで「伝えた意見がどのように反映されるのかわかる」(44.3%)、「意見を伝えられる場が用意されている」(42.5%)となっている。



《年代別比較》

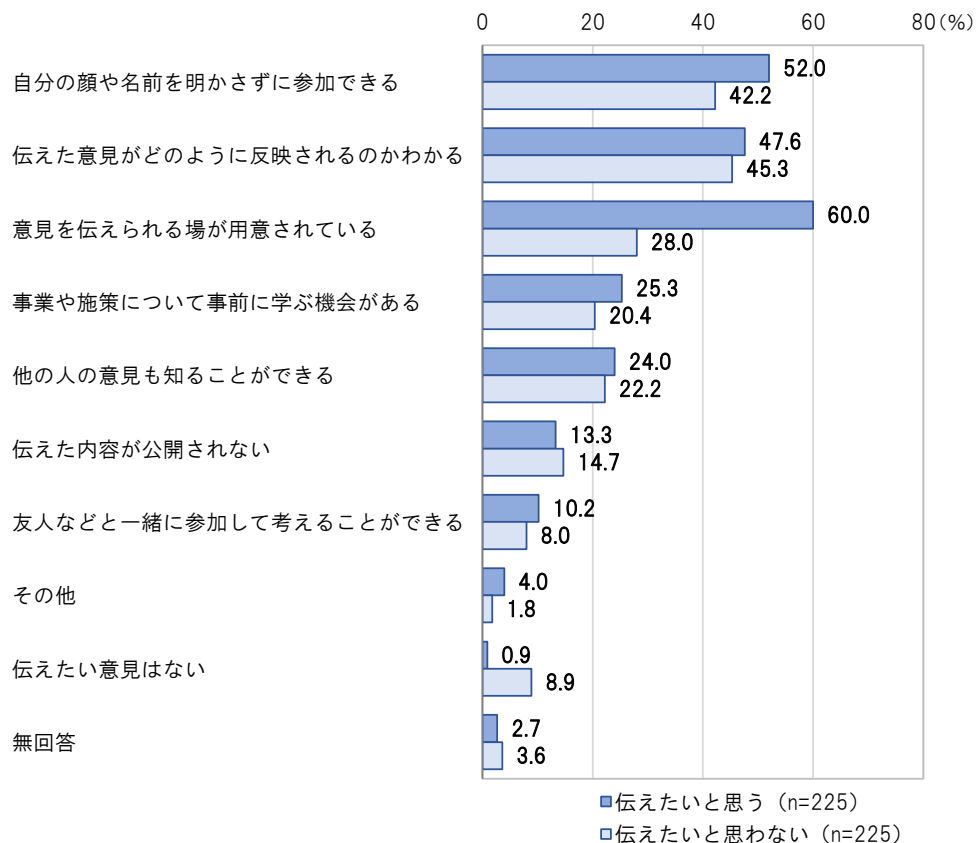
○年代別にみると、[25～29 歳] [30～34 歳] では「伝えた意見がどのように反映されるのかわかる」、その他の年代では「自分の顔や名前を明かさずに参加できる」が最も高くなっている。また、年代が下がるにつれて「友人などと一緒に参加して考えることができる」が高くなる傾向がみられる。

		(%)										
		回答者数 (人)	自分の顔や名前を明かさずに参加できる	伝えた意見がどのように反映されるのかわかる	意見を伝えられる場が用意されている	事業や施策について事前に学ぶ機会がある	他の人の意見も知ることができる	伝えた内容が公開されない	友人などと一緒に参加して考えることができる	その他	伝えたい意見はない	無回答
年代別	15～19歳	78	44.9	32.1	34.6	23.1	20.5	20.5	15.4	3.8	9.0	10.3
	20～24歳	68	51.5	33.8	45.6	29.4	23.5	8.8	10.3	2.9	7.4	4.4
	25～29歳	66	39.4	59.1	37.9	19.7	22.7	19.7	13.6	3.0	7.6	3.0
	30～34歳	116	44.0	52.6	44.0	24.1	25.9	15.5	6.0	1.7	1.7	0.9
	35～39歳	178	47.8	42.1	45.5	19.7	19.7	11.8	7.3	3.4	6.2	2.8

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《自分の意見を伝えることに対する希望別比較》

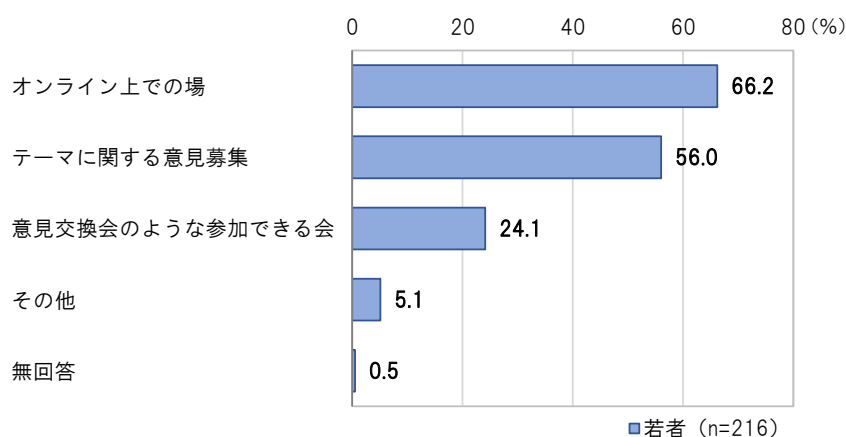
○自分の意見を伝えることに対する希望別にみると、「伝えたいと思う」人では「伝えたいと思わない」人に比べて「自分の顔や名前を明かさずに参加できる」や「意見を伝えられる場が用意されている」で高くなっている。



(3-1) 意見を伝えられる場として希望する形態【若者／問 21-1 複数回答】

※(3)で「意見を伝えられる場が用意されている」と回答した人のみ

○意見を伝えられる場として希望する形態は、「オンライン上での場」が 66.2%と最も高く、次いで「テーマに関する意見募集」(56.0%)、「意見交換会のような参加できる会」(24.1%)となっている。



《年代別比較》

○年代別にみると、すべての年代で「オンライン上での場」が最も高くなっているものの、特に[15～19歳]から[25～29歳]では7割を超えて高くなっている。

○また、[25～29歳]から[35～39歳]では「テーマに関する意見募集」が半数を超えて高くなっている。

(%)

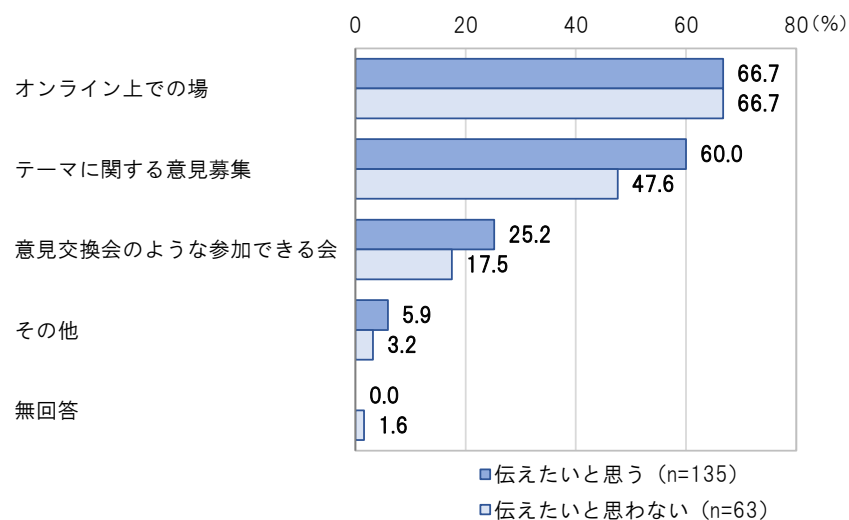
		回答者数 (人)	オンライン上での場	テーマに関する意見募集	意見交換会のような参加 できる会	その他	無回答
年代別	15～19歳	27	70.4	48.1	25.9	-	-
	20～24歳	31	71.0	45.2	25.8	6.5	-
	25～29歳	25	76.0	56.0	16.0	-	-
	30～34歳	51	62.7	58.8	21.6	9.8	-
	35～39歳	81	61.7	60.5	27.2	4.9	1.2

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《自分の意見を伝えることに対する希望別比較》

○自分の意見を伝えることに対する希望別にみると、[伝えたいと思う]人では[伝えたいと思わない]人に比べて「テーマに関する意見募集」や「意見交換会のような参加できる会」で高くなっている。

○「オンライン上での場」では、自分の意見を伝えることに対する希望の有無に関わらず、高くなっている。



V 調査結果④ 《子どもを産み育てる環境》

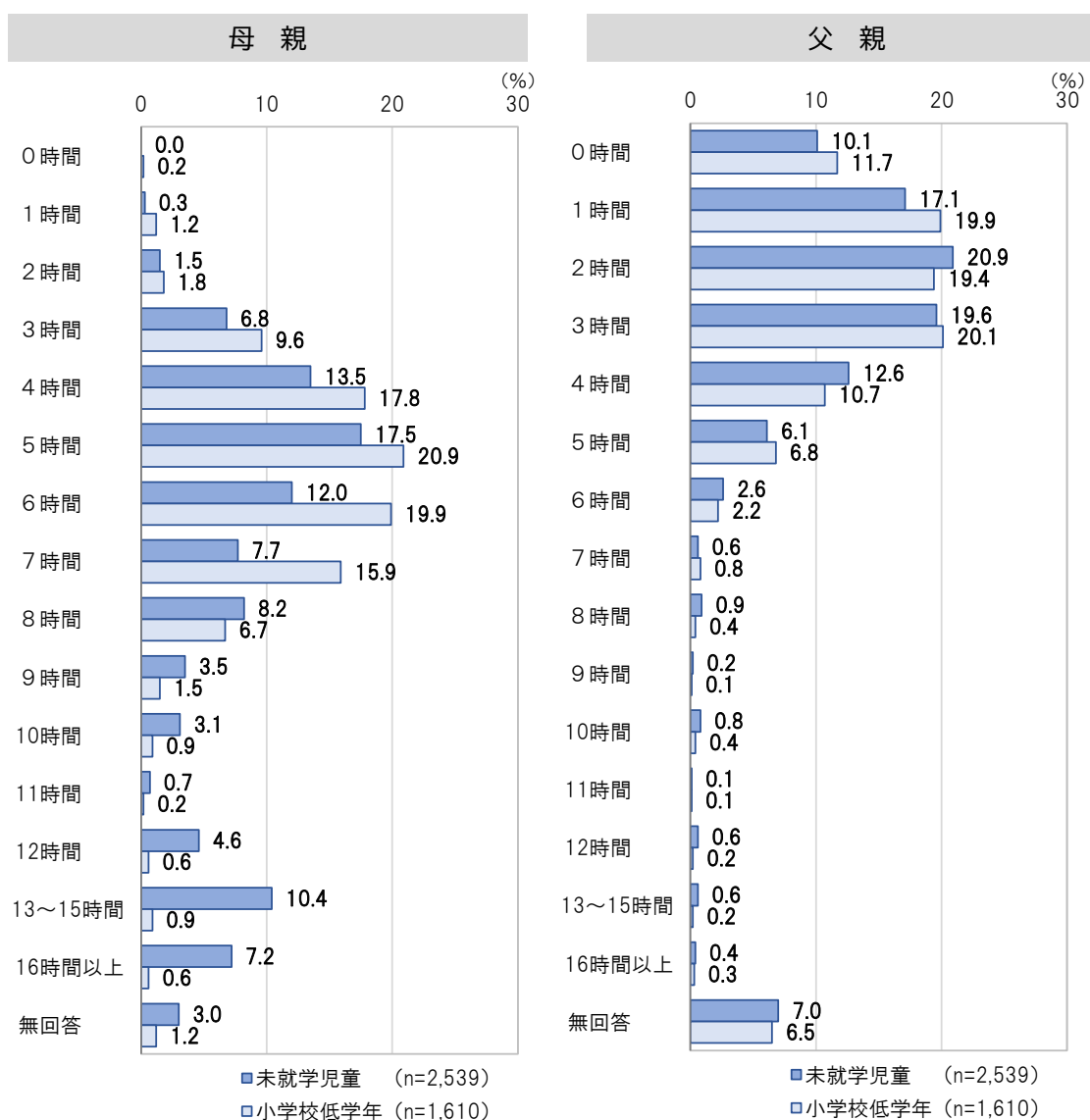
1. 育児休業や短時間勤務制度等、職場の両立支援制度について

(1) 子どもと一緒に過ごす時間（平日の1日平均）

【未就学／問31（1）数量回答、小学生／問29（1）数量回答】

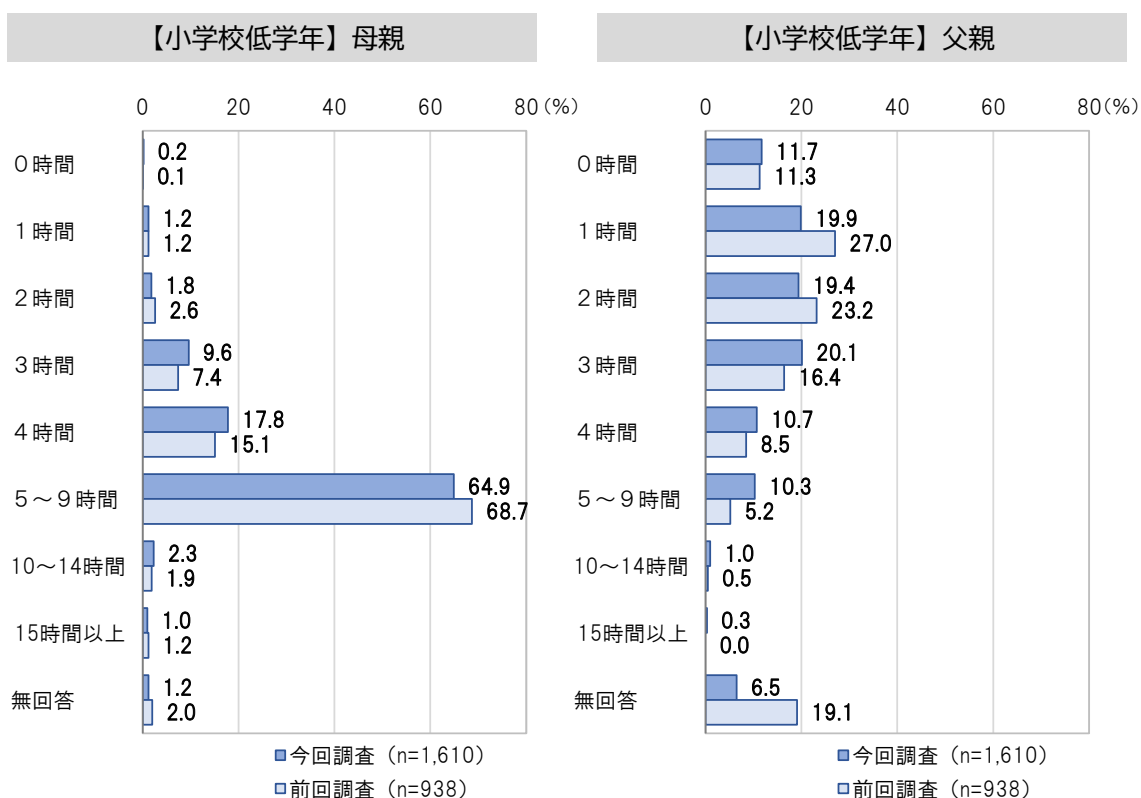
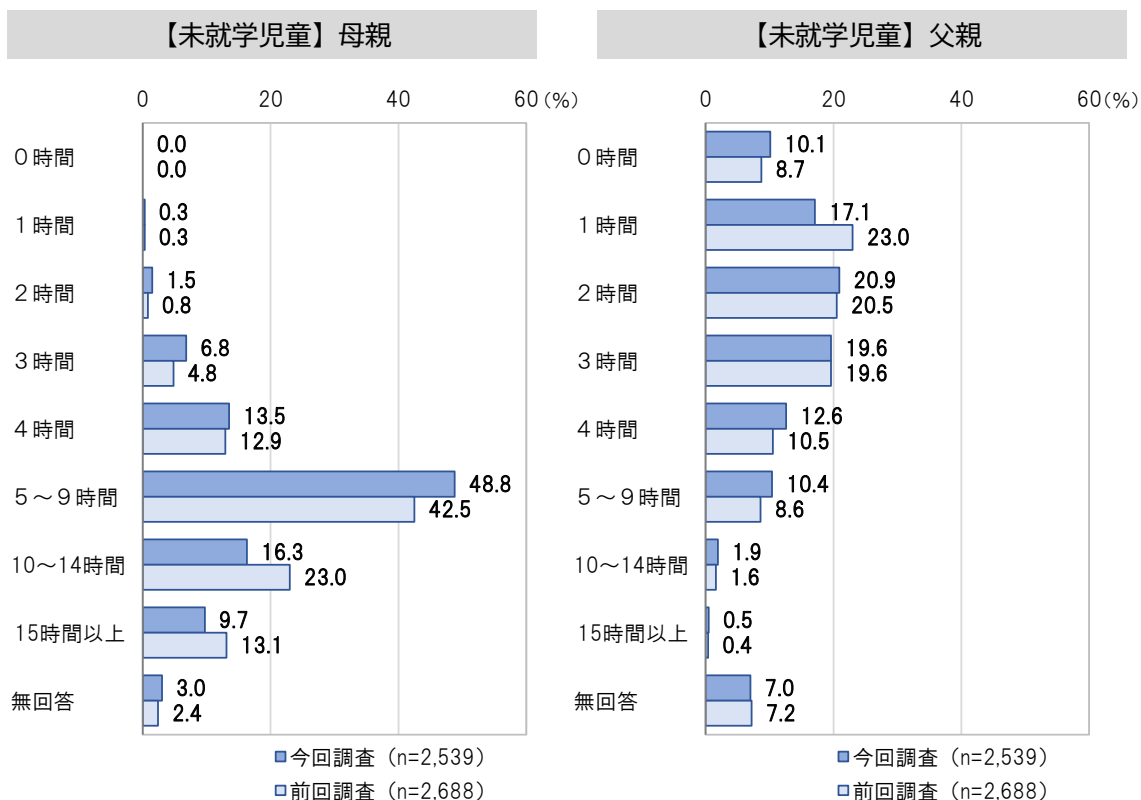
○子どもと一緒に過ごす時間は、母親では「5時間」が未就学児童で17.5%、小学校低学年で20.9%と最も高く、次いで未就学児童では「4時間」（13.5%）、小学校低学年では「6時間」（19.9%）となっている。

○父親では、未就学児童では「2時間」が20.9%、小学校低学年では「3時間」が20.1%で最も高くなっている。



《経年比較》

○経年比較をみると、母親は、未就学児童では『9時間以下』、小学校低学年では『4時間以下』の割合がやや高くなっているのに対し、父親は、未就学児童では『4時間以上』、小学校低学年では『3時間以上』でやや高くなっており、母親の子どもと一緒に過ごす時間はやや短く、父親の子どもと一緒に過ごす時間はやや長くなっている。



《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、母親では未就学児童・小学校低学年ともに〔ひとり親家庭〕〔フルタイム×フルタイム〕〔フルタイム×パート（長）〕では『4時間以下』が高く、〔フルタイム×パート（短）〕〔専業主婦・主夫家庭〕では『10時間以上』が高くなっており、就労時間が短くなる家庭類型であるほど子どもと過ごす時間が増加する傾向がみられる。

○一方、父親では未就学児童・小学校低学年ともに〔フルタイム×フルタイム〕で「3時間」が最も高く、〔フルタイム×パート（長）〕では「2時間」、小学校低学年では〔フルタイム×パート（短）〕〔専業主婦・主夫家庭〕では「1時間」となっており、母親とは反対に、就労時間が長くなる家庭類型であるほど子どもと過ごす時間が増加する傾向がみられる。

			(%)									
			回答者数 (人)	0時間	1時間	2時間	3時間	4時間	5～9時間	10～14時間	15時間以上	無回答
未就学児童	母親	ひとり親家庭	101	1.0	-	4.0	6.9	11.9	53.5	6.9	7.9	7.9
		フルタイム×フルタイム	1,047	-	0.7	2.6	13.1	24.5	40.8	10.0	6.4	1.9
		フルタイム×パート（長）	458	-	0.2	0.7	4.1	10.9	72.9	4.8	3.7	2.6
		フルタイム×パート（短）	188	-	-	1.1	2.1	5.3	61.7	17.0	7.4	5.3
		専業主婦・主夫家庭	705	-	-	0.4	0.6	1.1	41.0	34.0	19.1	3.7
	父親	ひとり親家庭	101	5.9	1.0	1.0	2.0	4.0	3.0	1.0	-	82.2
		フルタイム×フルタイム	1,047	7.8	17.4	21.4	23.3	14.6	10.9	1.5	0.3	2.8
		フルタイム×パート（長）	458	12.7	18.6	21.2	20.1	10.5	11.8	1.7	0.7	2.8
		フルタイム×パート（短）	188	11.7	17.0	22.3	15.4	14.9	9.0	3.7	-	5.9
		専業主婦・主夫家庭	705	12.5	18.0	22.4	17.7	10.9	10.1	2.3	0.9	5.2
小学校低学年	母親	ひとり親家庭	80	2.5	-	5.0	17.5	23.8	38.8	2.5	-	10.0
		フルタイム×フルタイム	543	0.4	2.6	3.7	19.3	32.8	39.0	1.3	0.4	0.6
		フルタイム×パート（長）	340	-	0.9	0.3	5.3	16.2	74.4	1.8	1.2	-
		フルタイム×パート（短）	287	-	0.3	0.7	4.2	5.9	86.1	2.1	0.3	0.3
		専業主婦・主夫家庭	336	-	0.3	0.6	1.5	4.8	84.8	4.8	2.1	1.2
	父親	ひとり親家庭	80	6.3	-	-	1.3	-	5.0	-	-	87.5
		フルタイム×フルタイム	543	8.5	18.2	17.7	24.5	15.7	12.3	1.1	0.4	1.7
		フルタイム×パート（長）	340	11.5	19.7	25.6	20.3	10.3	10.0	1.2	-	1.5
		フルタイム×パート（短）	287	16.7	24.0	19.5	17.8	10.5	8.7	0.7	-	2.1
		専業主婦・主夫家庭	336	15.2	23.5	20.8	19.9	6.5	9.2	1.2	0.6	3.0

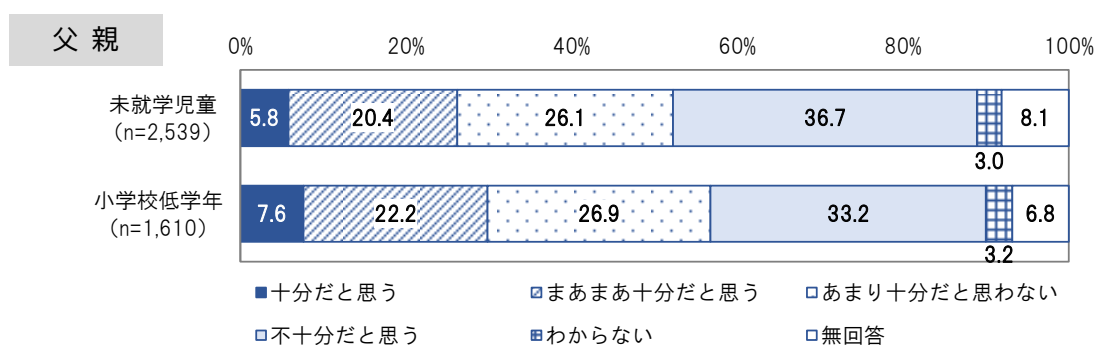
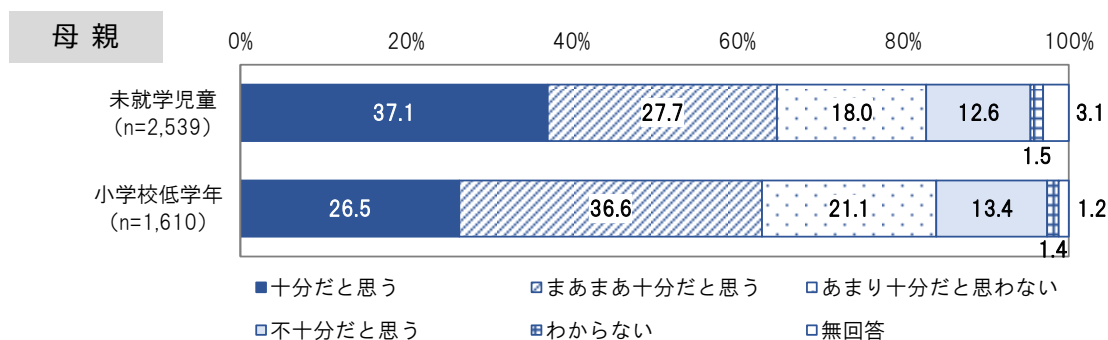
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(1-1) 子どもと一緒に過ごす時間の充足度【未就学／問 31（2）単数回答、小学生／問 29（2）単数回答】

○子どもと一緒に過ごす時間の充足度は、母親では未就学児童で「十分だと思う」が37.1%、小学校低学年で「まあまあ十分だと思う」が36.6%と最も高く、「十分だと思う」と「まあまあ十分だと思う」を合わせた『十分だと思う』が6割を超えている。

○一方、父親では「不十分だと思う」が未就学児童で36.7%、小学校低学年で33.2%と最も高く、「あまり十分だと思わない」と合わせた『十分だと思わない』が6割を超えている。

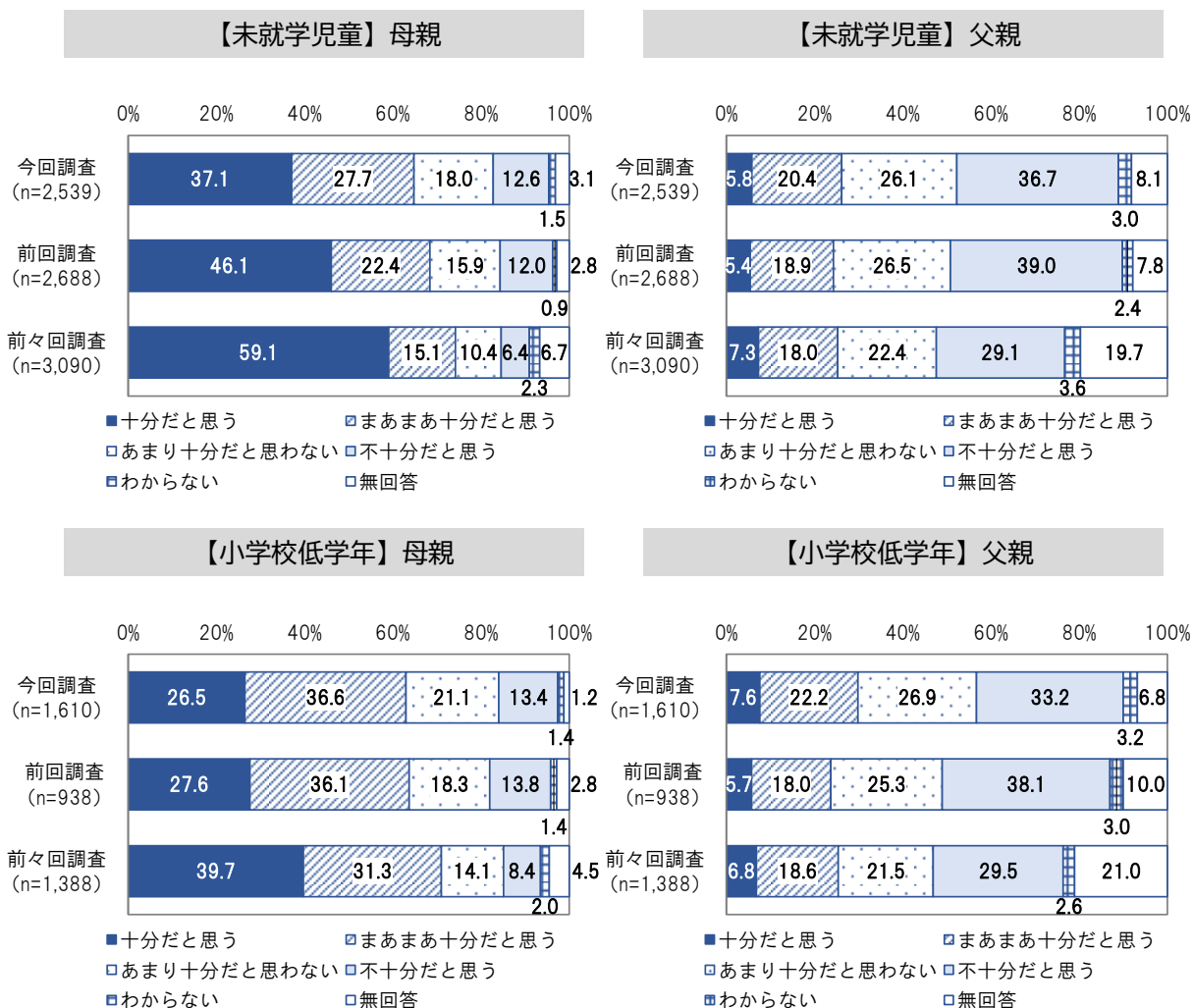
○また、『十分だと思う』の割合をみると、母親では小学校低学年に比べて未就学児童がやや高いのに対し、父親では未就学児童に比べて小学校低学年がやや高くなっている。



《経年比較》

○経年比較をみると、母親では、未就学児童・小学校低学年ともに「十分だと思う」が前々回調査以降、低くなる傾向がみられる。また、「あまり十分だと思わない」と「不十分だと思う」を合わせた『十分だと思わない』が高くなる傾向がみられる。

○父親では、未就学児童・小学校低学年ともに『十分だと思わない』が高い傾向にある。



《家庭類型別比較》

○家庭類型別にみると、未就学児童、小学校低学年の母親、父親（[ひとり親家庭]を除く）ともに、就労時間が短くなる家庭類型であるほど「あまり十分だと思わない」「不十分だと思う」が減少する傾向がみられる。

(%)

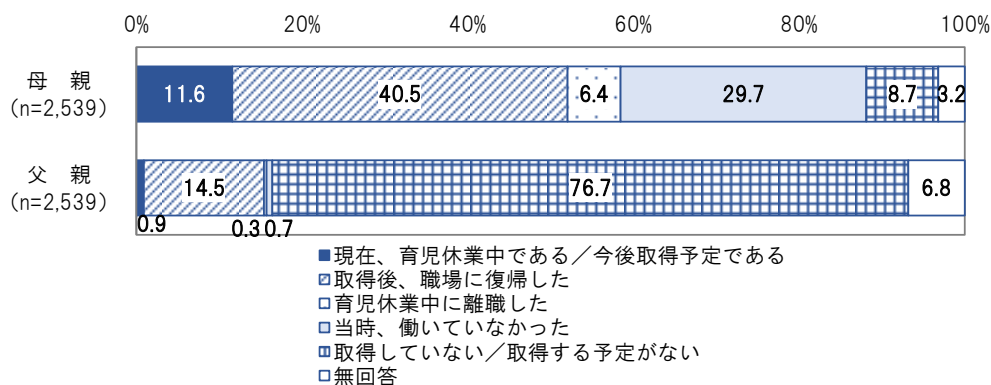
			回答者数 (人)	十分だ と思う	まあまあ 十分だ と思う	あまり 十分だ と思 わない	不 十分 だ と 思 う	わ か ら な い	無 回 答
未 就 学 児 童	母 親	ひとり親家庭	101	9.9	33.7	22.8	18.8	8.9	5.9
		フルタイム×フルタイム	1,047	19.9	25.5	28.3	23.2	1.0	2.2
		フルタイム×パート（長）	458	25.5	40.8	20.3	8.7	1.5	3.1
		フルタイム×パート（短）	188	41.0	41.0	10.1	2.1	1.6	4.3
		専業主婦・主夫家庭	705	72.9	18.3	2.8	1.1	1.0	3.8
	父 親	ひとり親家庭	101	2.0	2.0	3.0	5.0	4.0	84.2
		フルタイム×フルタイム	1,047	4.6	17.4	27.9	43.9	2.4	3.8
		フルタイム×パート（長）	458	5.5	22.3	25.5	39.1	2.8	4.8
		フルタイム×パート（短）	188	9.0	27.7	22.3	30.9	3.7	6.4
		専業主婦・主夫家庭	705	7.1	24.5	28.5	30.5	3.4	6.0
小 学 校 低 学 年	母 親	ひとり親家庭	80	7.5	27.5	25.0	30.0	2.5	7.5
		フルタイム×フルタイム	543	7.4	25.8	38.1	26.5	1.7	0.6
		フルタイム×パート（長）	340	23.2	45.0	21.2	9.1	0.9	0.6
		フルタイム×パート（短）	287	39.7	48.4	6.6	3.5	1.4	0.3
		専業主婦・主夫家庭	336	53.0	37.5	5.7	1.5	1.2	1.2
	父 親	ひとり親家庭	80	2.5	1.3	1.3	2.5	1.3	91.3
		フルタイム×フルタイム	543	5.2	18.8	29.8	41.3	2.9	2.0
		フルタイム×パート（長）	340	8.8	25.6	28.5	32.9	2.6	1.5
		フルタイム×パート（短）	287	7.7	26.1	28.6	30.0	4.2	3.5
		専業主婦・主夫家庭	336	10.7	25.6	25.3	32.1	4.2	2.1

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 出生時の育児休業の取得状況【未就学／問 32 単数回答】

○子どもの出生時の父母のいずれかもしくは双方の育児休業の取得状況は、母親では「取得後、職場に復帰した」が40.5%、父親では「取得していない」が76.7%と最も高くなっている。

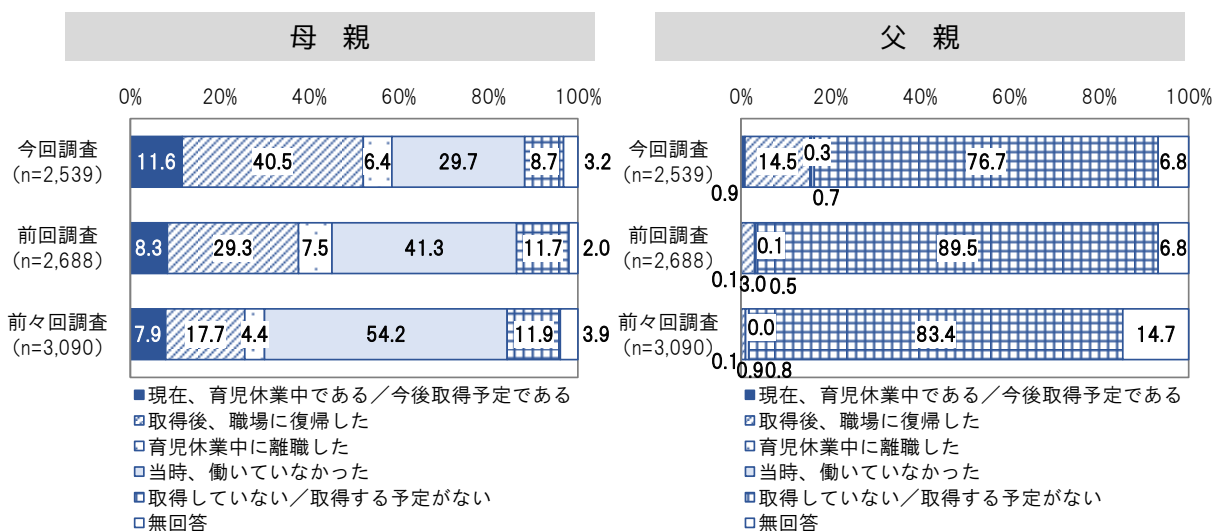
○「現在、育児休業中である／今後取得予定である」と「取得後、職場に復帰した」を合わせた『取得している』人は、母親で52.1%、父親で15.4%となっている。



《経年比較》

○経年比較をみると、母親・父親ともに「取得後、職場に復帰した」が前々回調査以降、高くなる傾向がみられ、「現在、育児休業中である／今後取得予定である」と合わせた『取得している』人の割合は増加している。

○また、母親の「当時、働いていなかった」が減少している。



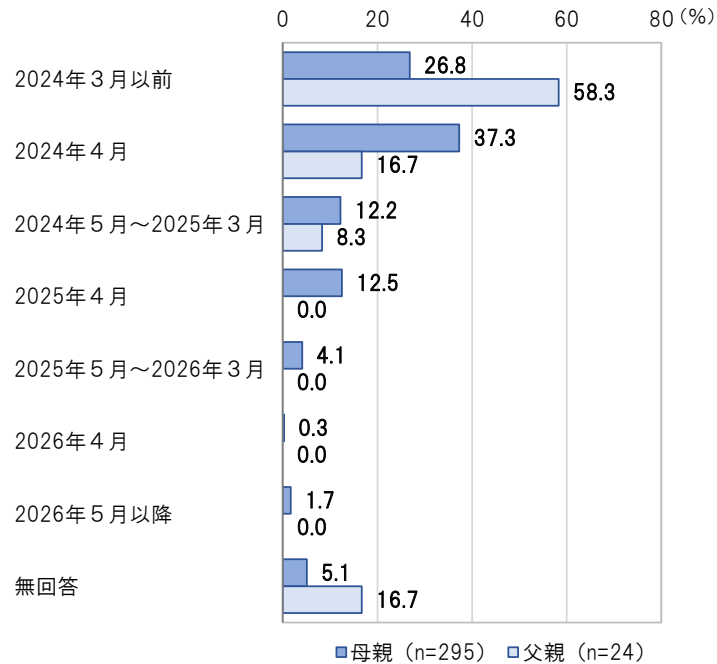
(2-1) 職場復帰希望時期に子どもを預けることができた場合の職場復帰希望時期

【未就学／問 32-1 数量回答】

※(2)で「現在、育児休業中である／今後取得予定である」と回答した人のみ

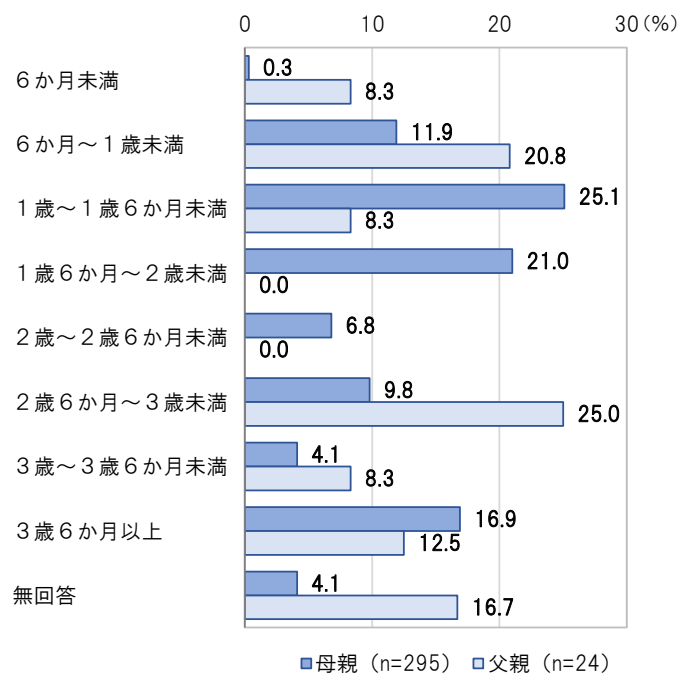
① 職場復帰希望時期

○職場復帰希望時期は、母親では「2024年4月」、父親では「2024年3月以前」が最も高くなっている。



② 職場復帰希望時期の子どもの年齢

○職場復帰希望時期の子どもの年齢は、母親では「1歳～1歳6か月未満」、父親では「2歳6か月～3歳未満」が最も高くなっている。

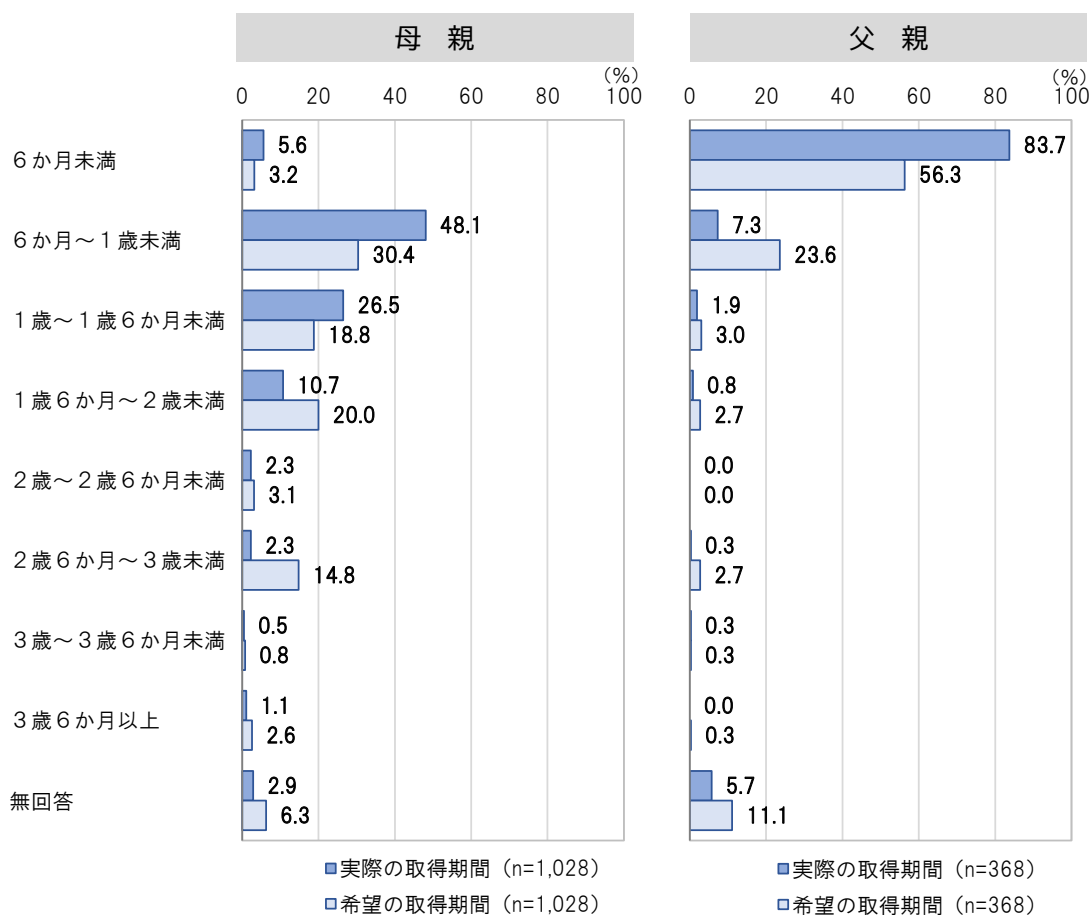


(2-2) 育児休業の実際の取得期間と希望の取得期間【未就学／問 32-2 数量回答】

※(2)で「取得後、職場に復帰した」と回答した人のみ

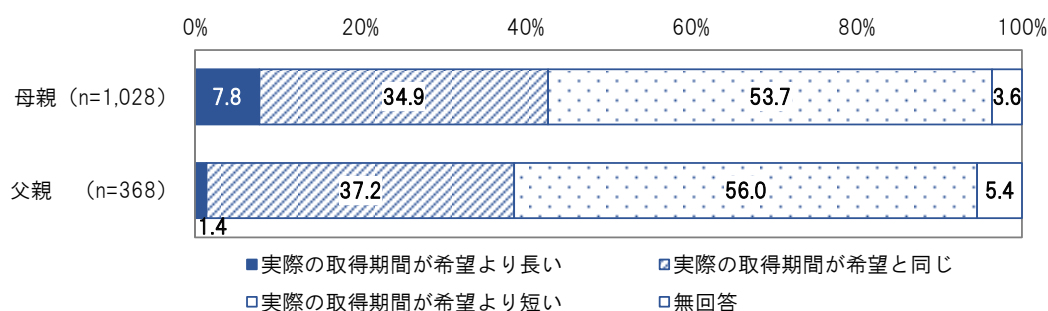
○育児休業の取得期間は、母親では実際の取得期間、希望の取得期間ともに「6か月～1歳未満」が最も高く、それぞれ48.1%、30.4%となっている。

○一方で、父親では実際の取得期間、希望の取得期間ともに「6か月未満」が最も高く、それぞれ83.7%、56.3%となっている。



《育児休業の実際の取得期間と希望の取得期間の差》

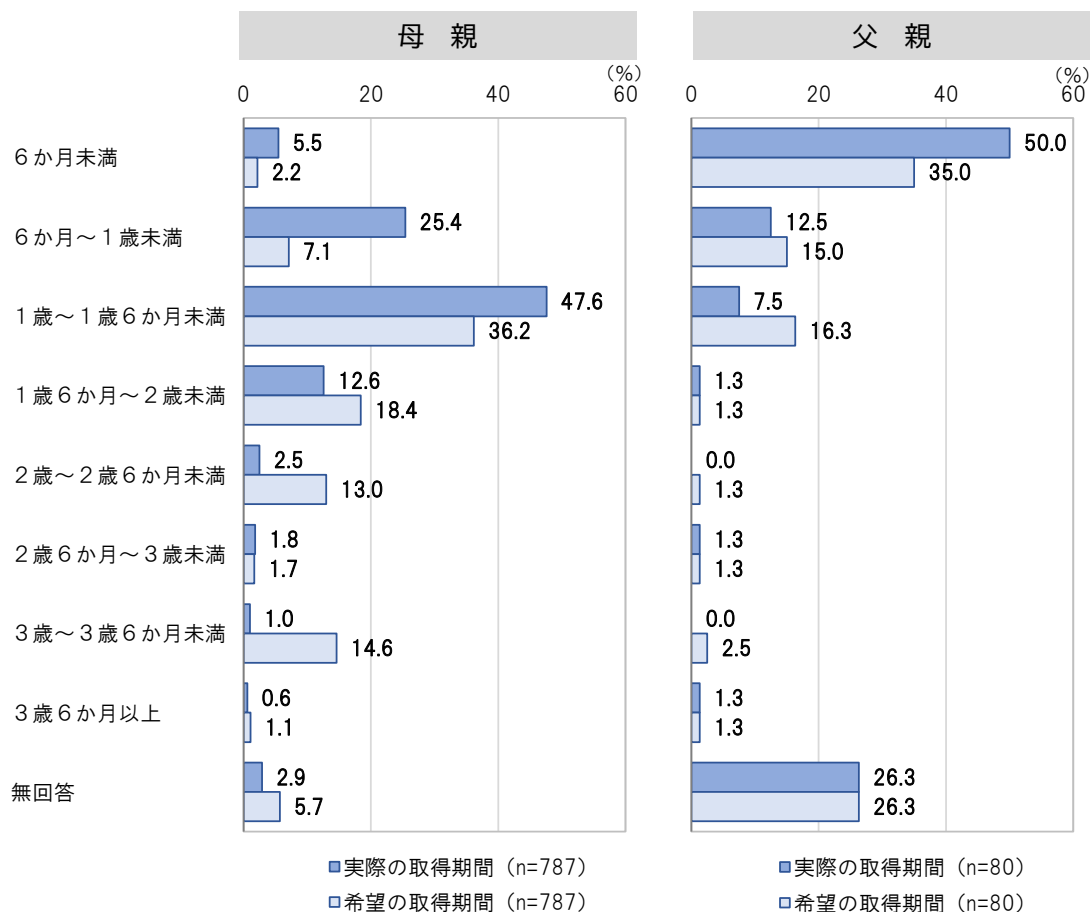
○育児休業の実際の取得期間と希望の取得期間の差をみると、「実際の取得期間が希望より短い」が母親で53.7%、父親で56.0%と最も高くなっている。また、父親では「実際の取得期間が希望と同じ」が母親に比べてやや高くなっている。



《経年比較》※選択肢が煩雑になるため、グラフは前回調査のみ

○経年比較をみると、前回調査では、母親の実際の取得期間、希望の取得期間ともに「1歳～1歳6か月未満」が最も高く、それぞれ47.6%、36.2%となっている。

○父親においても、前回調査に比べて「6か月未満」が高く、「6か月～1歳未満」「1歳～1歳6か月未満」が低くなっており、父親・母親ともに、実際の取得期間・希望の取得期間ともに短くなっている。

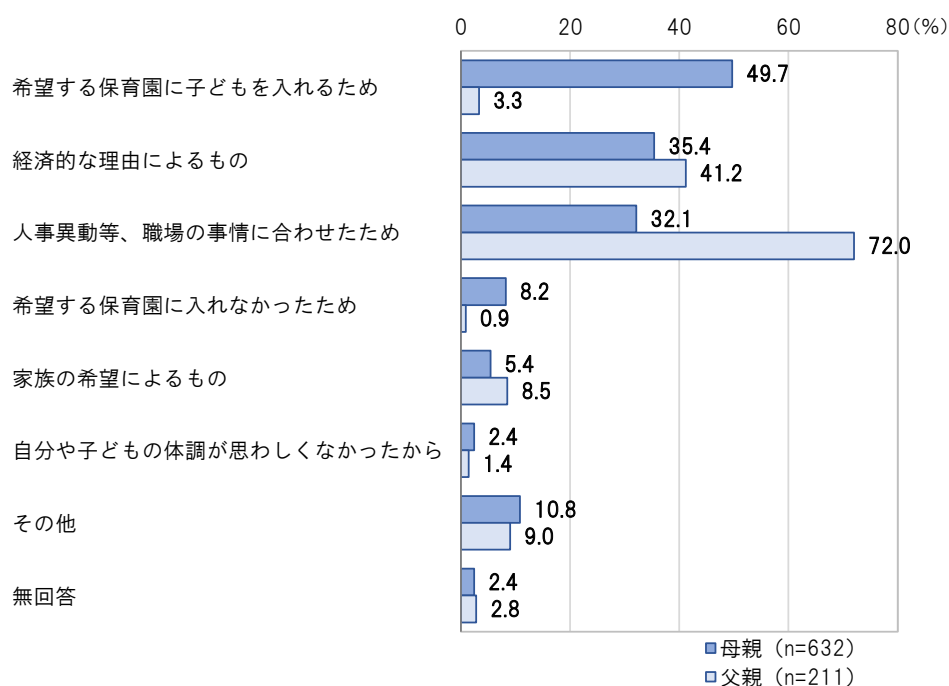


(2-3) 実際の取得期間と希望が異なった理由【未就学／問 32-3 数量回答】

※(2-2)で育児休業の実際の取得期間と希望の取得期間に差がある人のみ

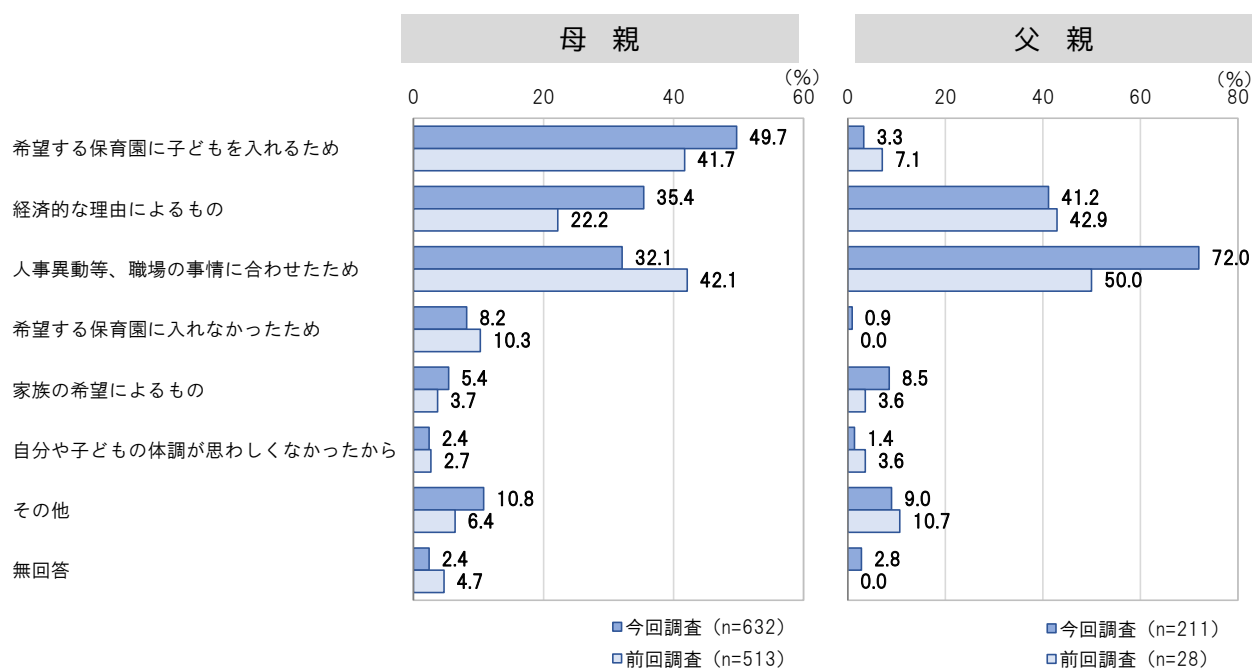
○取得期間の希望と实际が異なった理由は、母親では「希望する保育園に子どもを入れるため」が49.7%と最も高く、次いで「経済的な理由によるもの」(35.4%)、「人事異動等、職場の事情に合わせたため」(32.1%)となっている。

○一方、父親では「人事異動等、職場の事情に合わせたため」が72.0%と最も高く、次いで「経済的な理由によるもの」(41.2%)となっている。



《経年比較》

○経年比較をみると、[母親]では「希望する保育園に子どもを入れるため」や「経済的な理由によるもの」、[父親]では「人事異動等、職場の事情に合わせたため」がそれぞれ高くなっている。

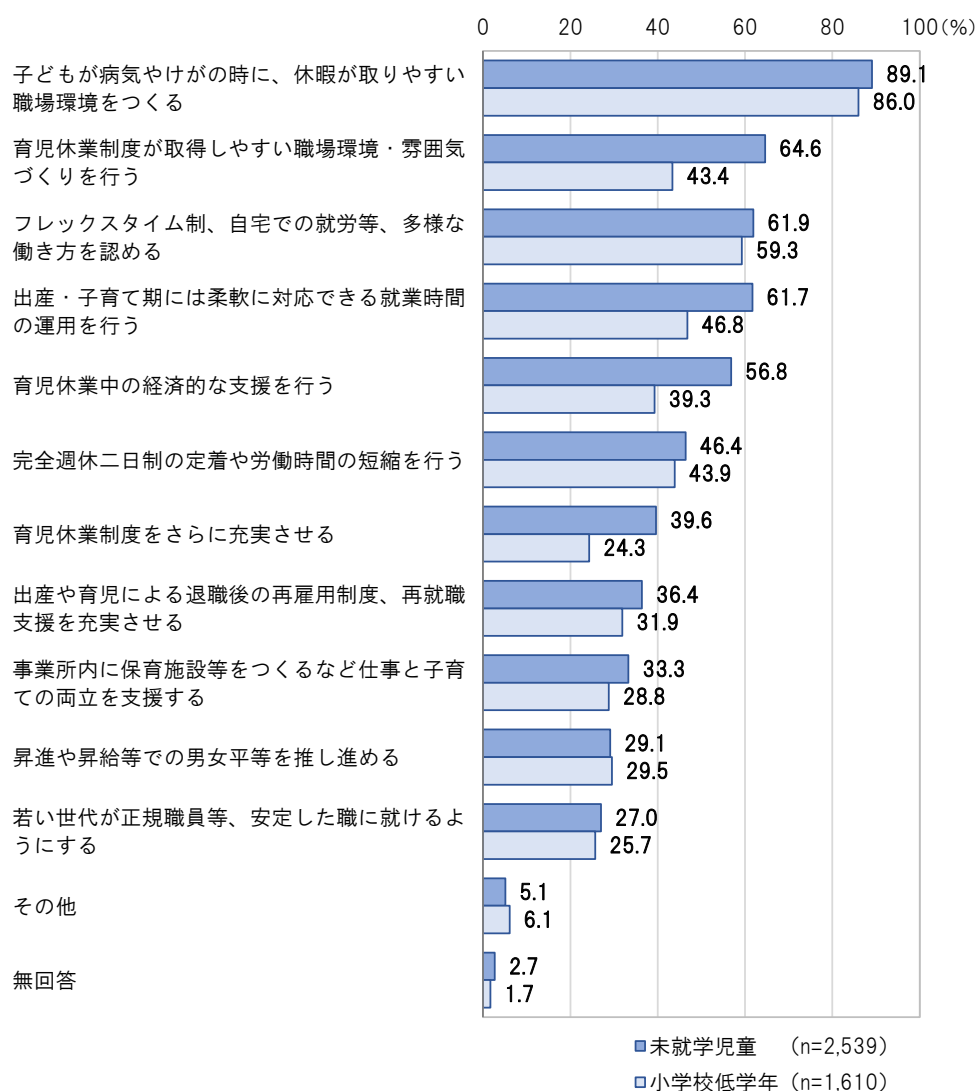


(3) 仕事と子育てを両立するために企業に期待すること

【未就学／問 33 複数回答、小学生／問 30 複数回答】

○仕事と子育てを両立するために企業に期待することは、「子どもが病気やけがの時に、休暇が取りやすい職場環境をつくる」が未就学児童で 89.1%、小学校低学年で 86.0%と最も高く、次いで未就学児童では「育児休業制度が取得しやすい職場環境・雰囲気づくりを行う」(64.6%)、小学校低学年では「フレックスタイム制、自宅での就労等、多様な働き方を認める」(59.3%)となっている。

○また、未就学児童では「育児休業制度が取得しやすい職場環境・雰囲気づくりを行う」、「出産・子育て期には柔軟に対応できる就業時間の運用を行う」、「育児休業中の経済的な支援を行う」、「育児休業制度をさらに充実させる」などの、育児休業に関する項目で小学校低学年に比べて高くなっている。

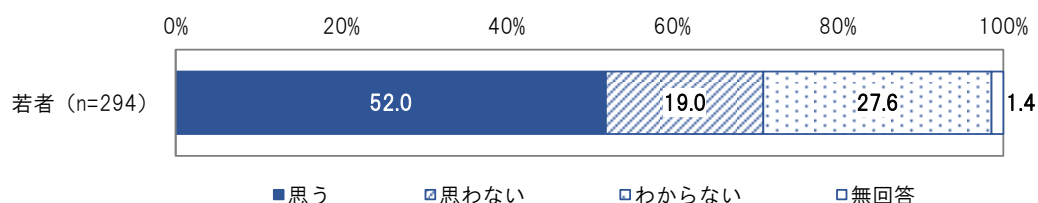


2. 子どもを持つことについて

(1) 子どもを持つことの希望【若者（現在子どもがいない人）／問 25-1 単数回答】

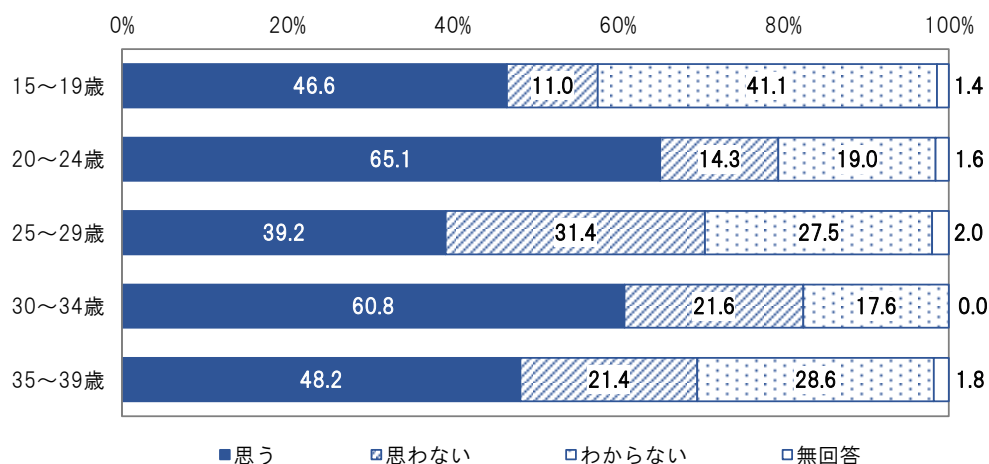
※現在子どもが「いない」と回答した人のみ

○子どもを持つことの希望は、「（子どもを持ちたいと）思う」が 52.0%、「（子どもを持ちたいと）思わない」が 19.0%となっている。



《年代別比較》

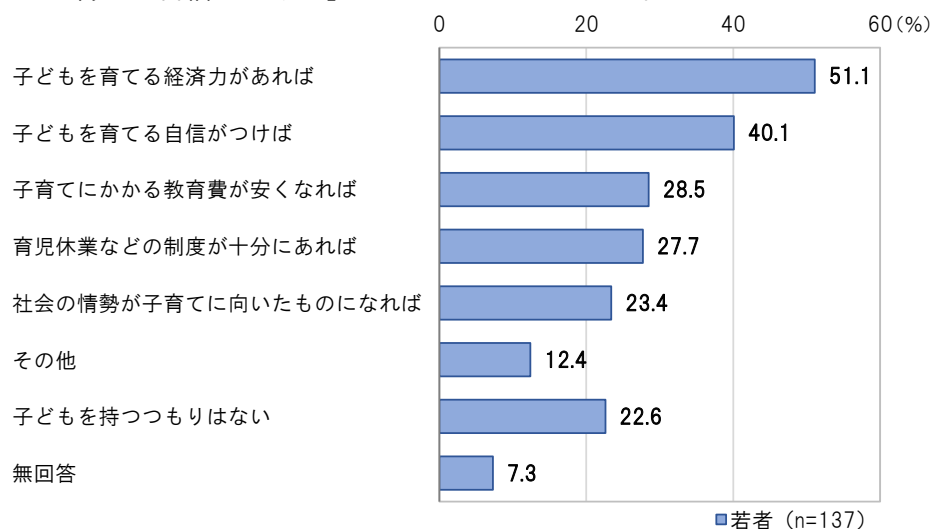
○年代別にみると、[20～24 歳] [30～34 歳] では「（子どもを持ちたいと）思う」が6割を超えて高くなっている。一方で、[25～29 歳] では「（子どもを持ちたいと）思わない」が3割を超えて高くなっている。また、[15～19 歳] では「わからない」が4割を超えて高くなっている。



(1-1) 子どもを持ちたいと思うための条件【若者／問 25-5 複数回答】

※(1)で「（子どもを持ちたいと）思わない」「わからない」と回答した人のみ

○子どもを持ちたいと思うための条件は、「子どもを育てる経済力があれば」が 51.1%と最も高く、次いで「子どもを育てる自信がつけば」が 40.1%となっている。

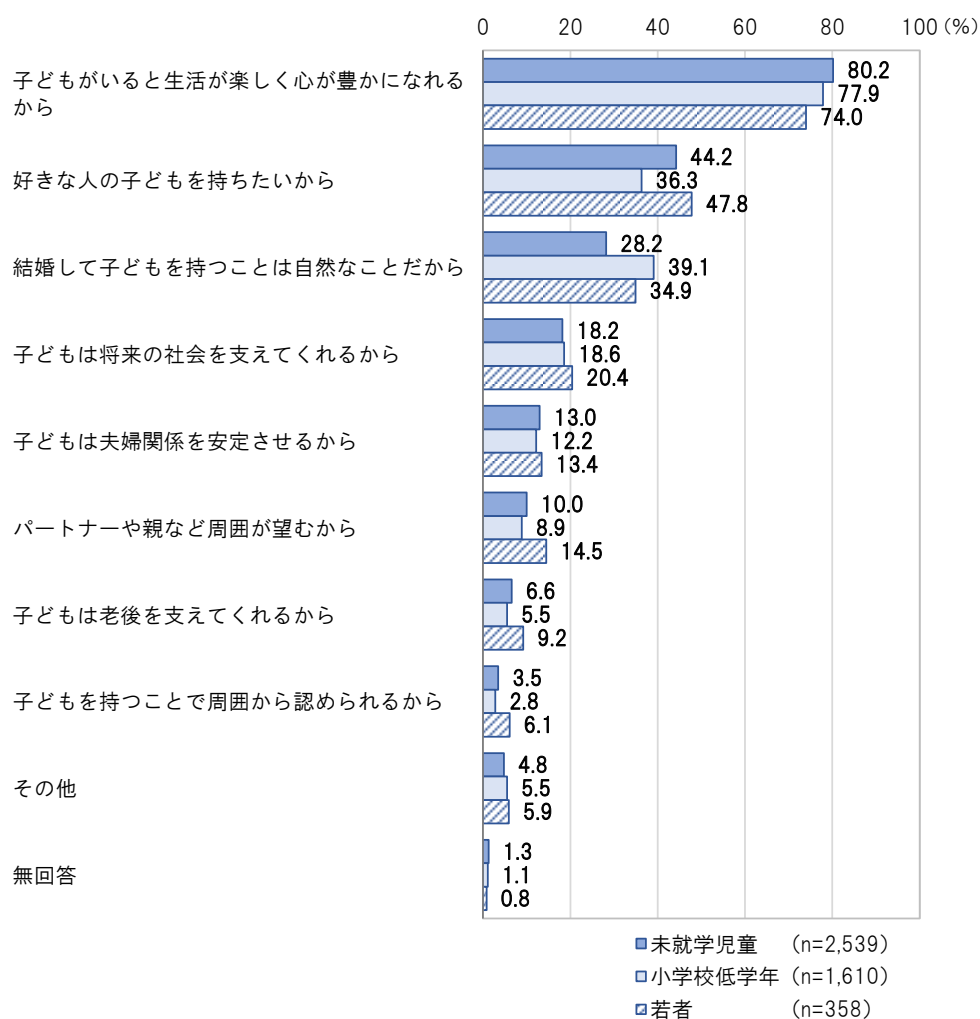


(2) 子どもを持つ（持ちたい）理由

【未就学／問 38 複数回答、小学生／問 33 複数回答、若者／問 25-2 複数回答】

※若者は、現在子どもがいる人もしくは、(1)で「(子どもを持ちたい)と思う」と回答した人のみ

○子どもを持つ（持ちたい）理由は、「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになれるから」が未就学児童で 80.2%、小学校低学年で 77.9%、若者で 74.0%と最も高く、次いで未就学児童と若者では「好きな人の子どもを持ちたいから」（未就学児童：44.2%、若者：47.8%）、小学校低学年では「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」（39.1%）となっている。



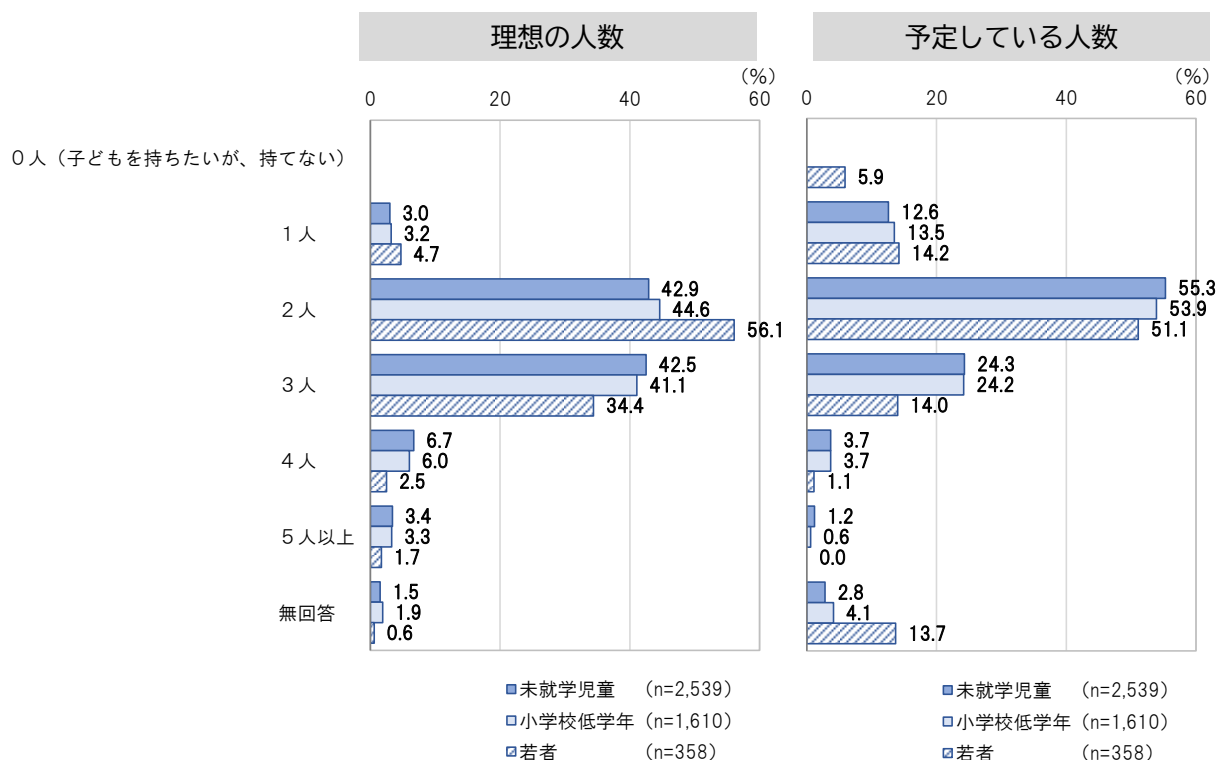
(3) 理想と予定している子どもの人数

【未就学／問 39 単数回答、小学生／問 34 単数回答、若者／問 25-3 単数回答】

※若者は、現在子どもがいる人もしくは、(1)で「(子どもを持ちたい)と思う」と回答した人のみ

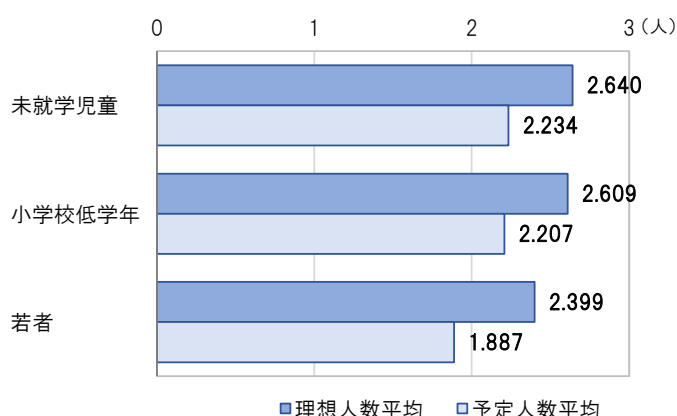
○理想の子どもの人数は、「2人」が未就学児童で42.9%、小学校低学年で44.6%、若者で56.1%と最も高く、次いで「3人」(未就学児童：42.5%、小学校低学年：41.1%、若者：34.4%)となっている。

○予定している子どもの人数は、「2人」が未就学児童で55.3%、小学校低学年で53.9%、若者で51.1%と最も高くなっている。



《理想の人数と予定している人数の差》

○子どもの理想の人数と予定している人数については、それぞれの平均人数を算出して差をみると、未就学児童では理想が2.640人に対して予定が2.234人、小学校低学年では理想が2.609人に対して予定が2.207人、若者では理想が2.399人に対して予定が1.887人となっており、若者で最も差が大きくなっている。

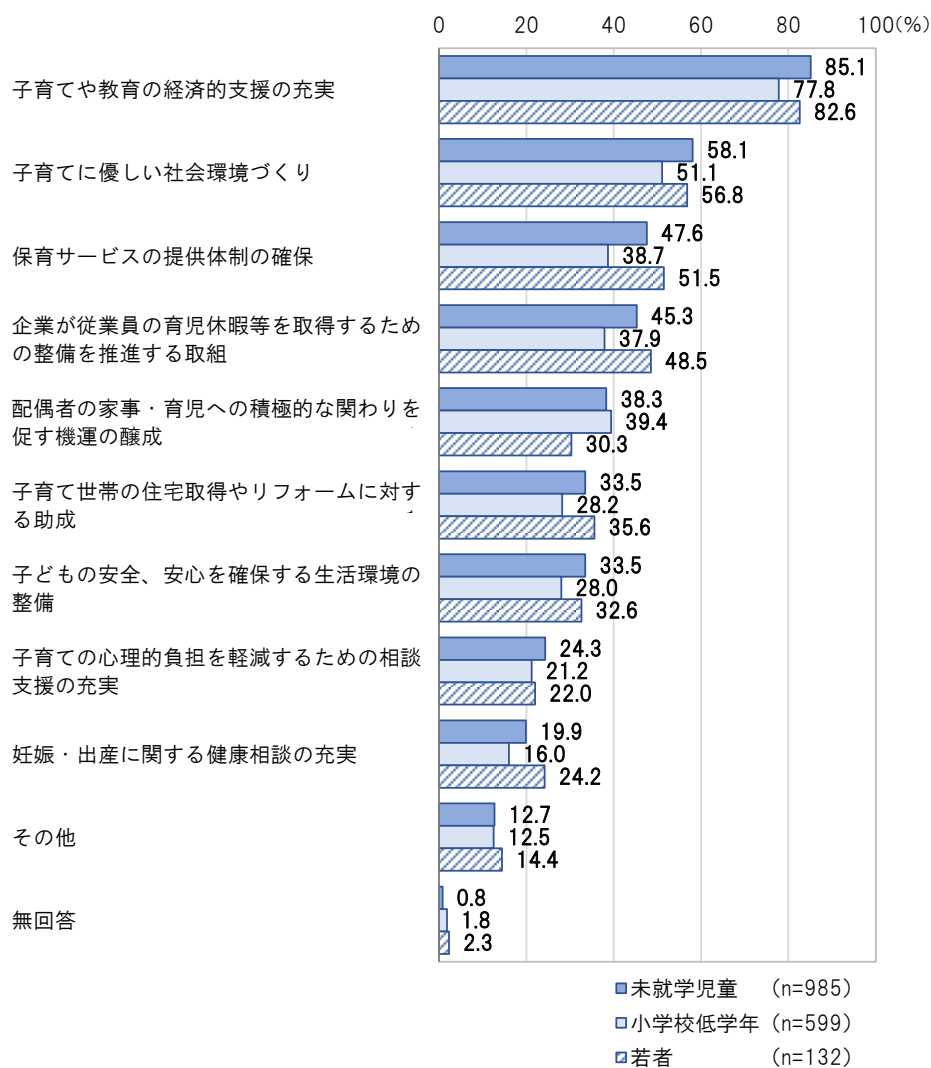


(3-1) 理想とする子どもの人数と予定している人数を近づけるために必要なこと

【未就学／問 39-1 複数回答、小学生／問 34-1 複数回答、若者／問 25-4 単数回答】

※(3)で「理想している人数より予定している人数が少ない」と回答した人のみ

○理想とする子どもの人数と予定している人数を近づけるために必要なことは、「子育てや教育の経済的支援の充実」が未就学児童で 85.1%、小学校低学年で 77.8%、若者で 82.6%と最も高く、次いで「子育てに優しい社会環境づくり」(未就学児童：58.1%、小学校低学年：51.1%、若者：56.8%)、「保育サービスの提供体制の確保」(未就学児童：47.6%、小学校低学年：38.7%、若者：51.5%)となっている。



3. 大津市の子ども・若者支援施策の満足度と重要度について

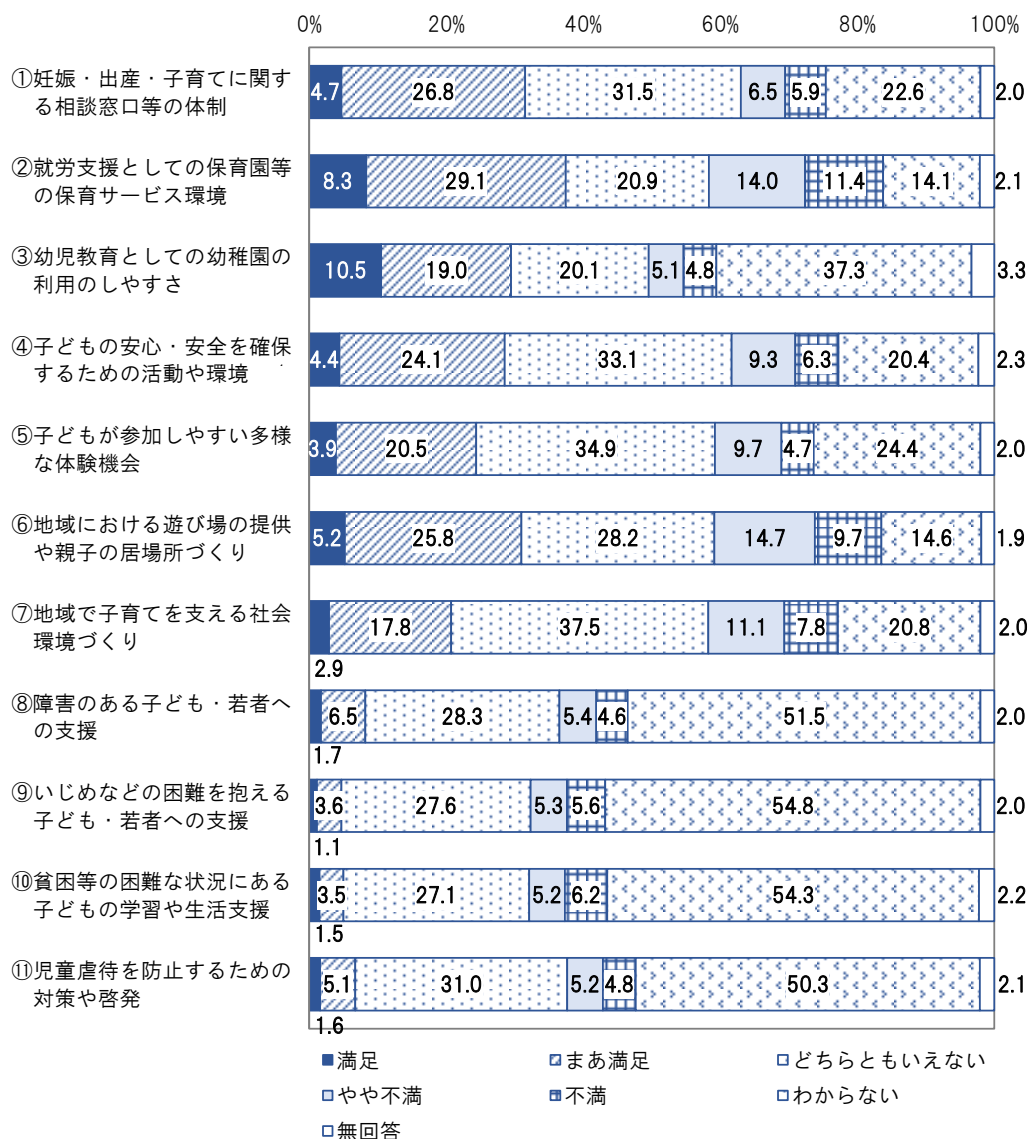
(1) 子ども・若者支援施策の満足度【未就学／問 40 単数回答、小学生／問 35 単数回答、若者／問 26 単数回答】

① 未就学児童

○未就学児童の満足度は、「満足」と「まあ満足」を合わせた『満足』の割合をみると、“②就労支援としての保育園等の保育サービス環境”で37.4%と最も高く、次いで“①妊娠・出産・子育てに関する相談窓口等の体制”が31.5%、“⑥地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり”が31.0%となっている。

○「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』の割合をみると、“②就労支援としての保育園等の保育サービス環境”で25.4%と最も高く、次いで“⑥地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり”が24.4%となっている。

○また、“⑧障害のある子ども・若者への支援”、“⑨いじめなどの困難を抱える子ども・若者への支援”、“⑩貧困等の困難な状況にある子どもの学習や生活支援”、“⑪児童虐待を防止するための対策や啓発”では、『不満』が『満足』を上回っている。

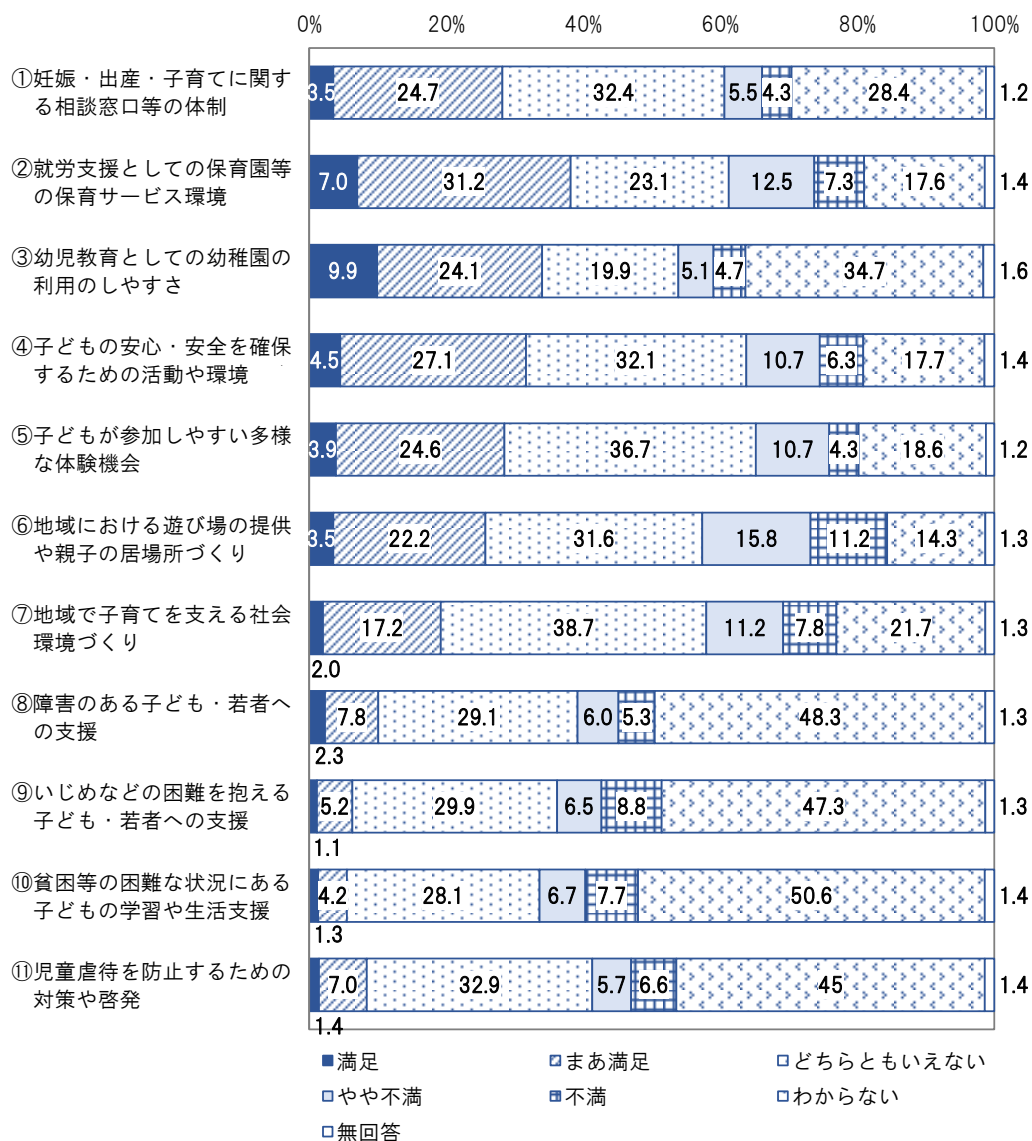


② 小学校低学年

○小学校低学年の満足度は、「満足」と「まあ満足」を合わせた『満足』の割合をみると、“②就労支援としての保育園等の保育サービス環境”で38.2%と最も高く、次いで“③幼児教育としての幼稚園の利用のしやすさ”が34.0%、“④子どもの安心・安全を確保するための活動や環境”が31.6%となっている。

○「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』の割合をみると、“⑥地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり”で27.0%と最も高く、次いで“②就労支援としての保育園等の保育サービス環境”が19.8%となっている。

○また、“⑥地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり”、“⑧障害のある子ども・若者への支援”、“⑨いじめなどの困難を抱える子ども・若者への支援”、“⑩貧困等の困難な状況にある子どもの学習や生活支援”、“⑪児童虐待を防止するための対策や啓発”では、『不満』が『満足』を上回っている。



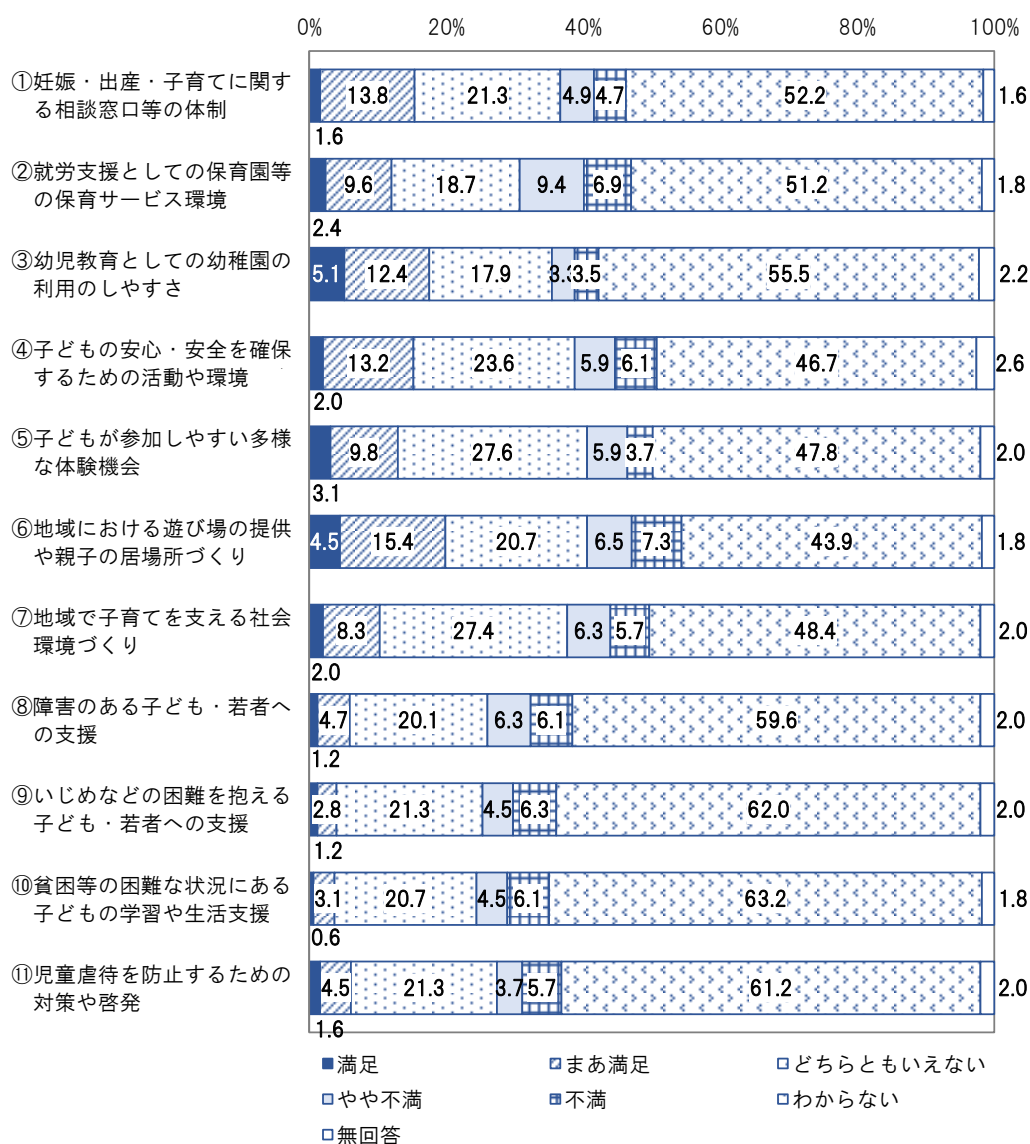
③ 若者

○若者の満足度は、すべての項目で「わからない」が最も高くなっており、未就学児童・小学校低学年に比べて施策の認知度が低いことが推測される。

○「満足」と「まあ満足」を合わせた『満足』の割合をみると、“⑥地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり”で19.9%と最も高く、次いで“③幼児教育としての幼稚園の利用のしやすさ”が17.5%となっている。

○「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』の割合をみると、“②就労支援としての保育園等の保育サービス環境”で16.3%と最も高くなっている。

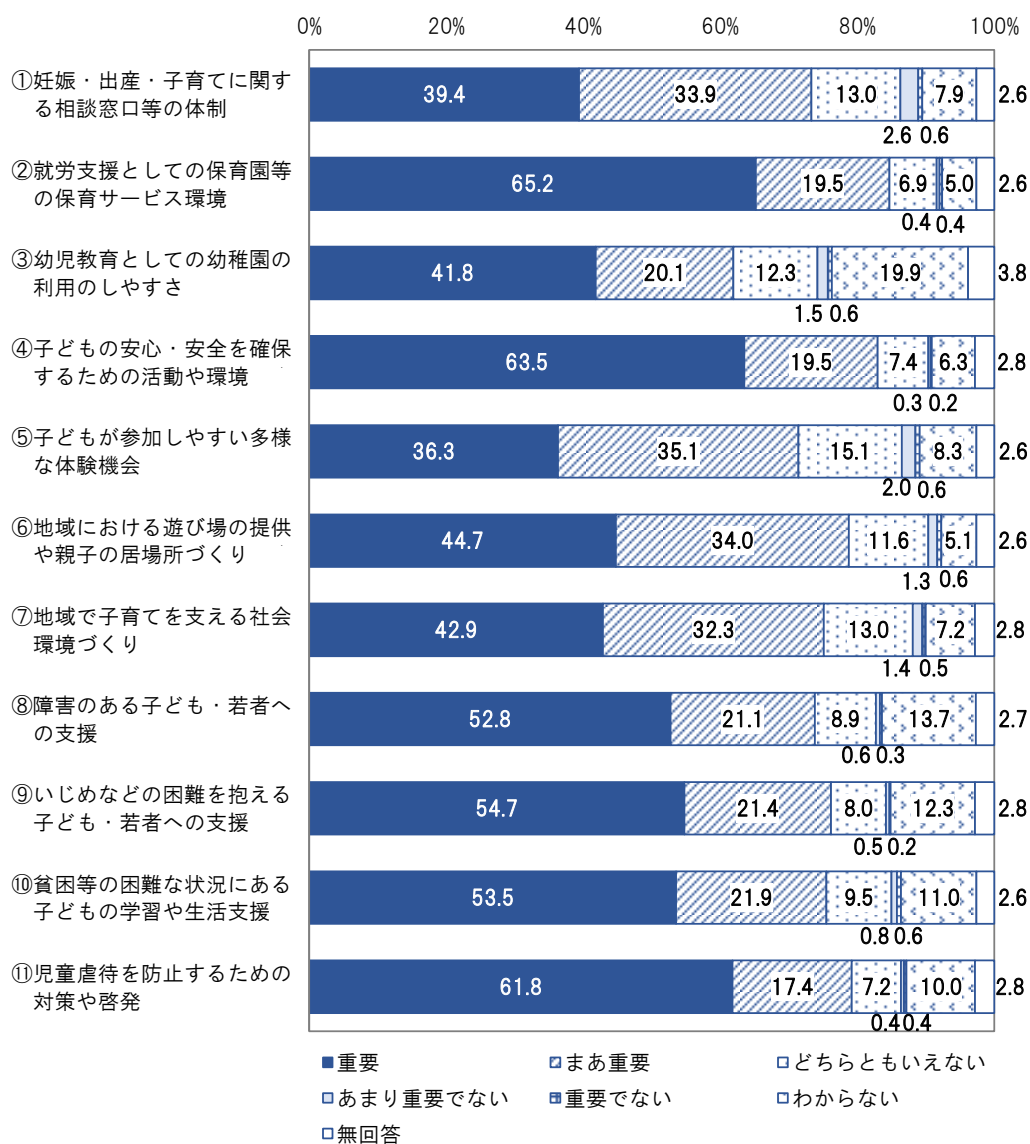
○また、“②就労支援としての保育園等の保育サービス環境”、“⑦地域で子育てを支える社会環境づくり”、“⑧障害のある子ども・若者への支援”、“⑨いじめなどの困難を抱える子ども・若者への支援”、“⑩貧困等の困難な状況にある子どもの学習や生活支援”、“⑪児童虐待を防止するための対策や啓発”では、『不満』が『満足』を上回っている。



(2) 子ども・若者支援施策の重要度【未就学／問 40 単数回答、小学生／問 35 単数回答、若者／問 26 単数回答】

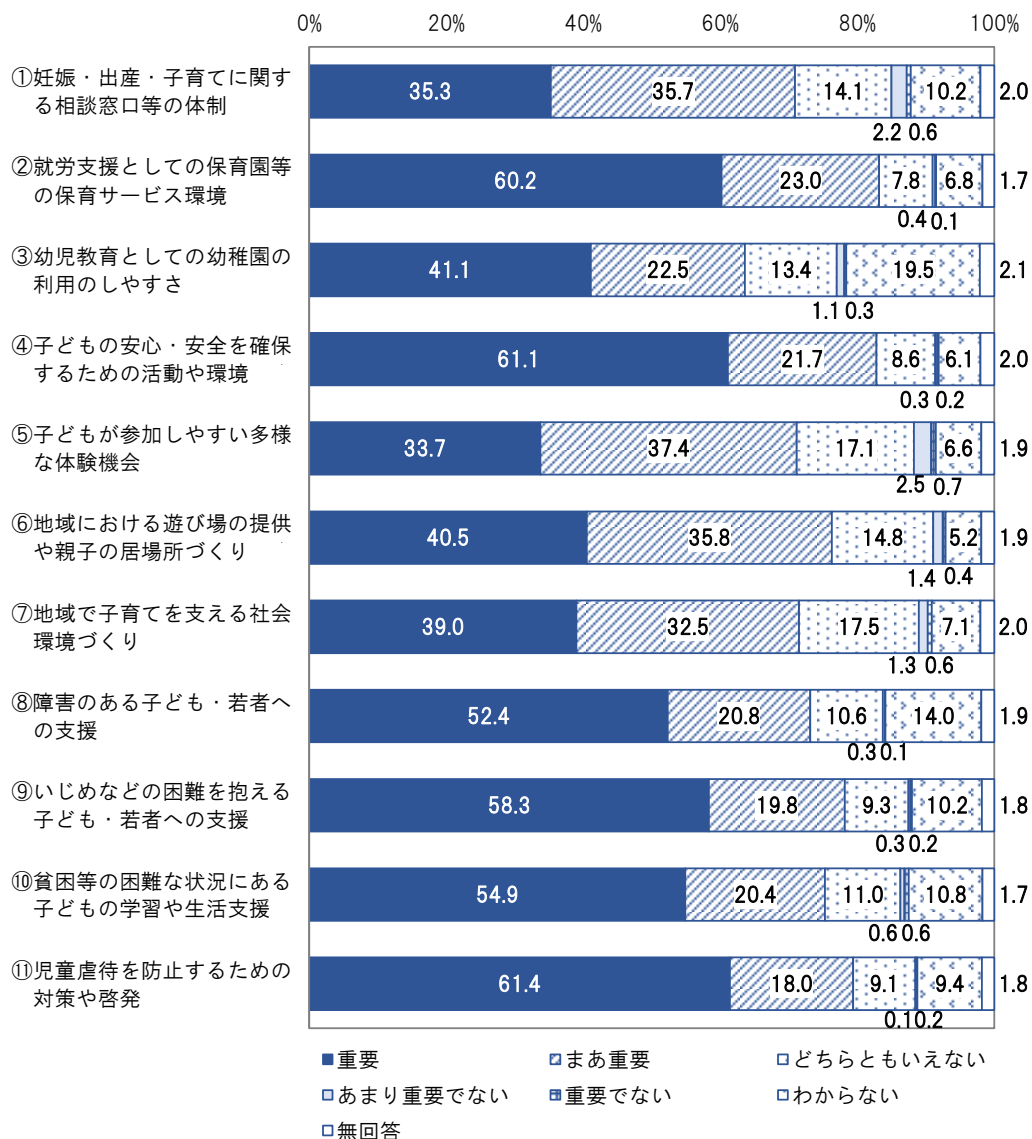
① 未就学児童

○未就学児童の重要度は、「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』の割合をみると、“②就労支援としての保育園等の保育サービス環境”で84.7%と最も高く、次いで“④子どもの安心・安全を確保するための活動や環境”が83.0%、“⑪児童虐待を防止するための対策や啓発”が79.2%となっている。



② 小学校低学年

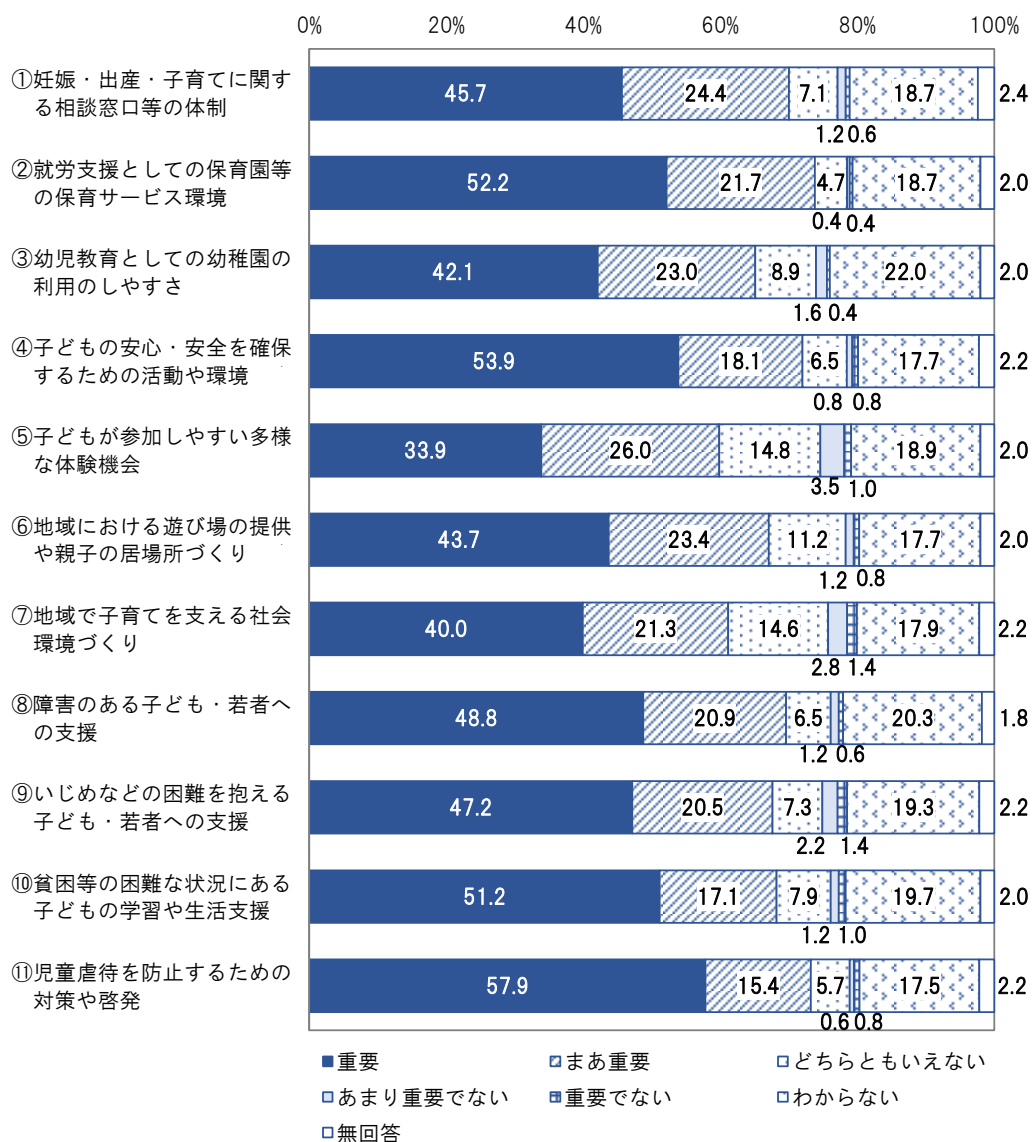
○小学校低学年の重要度は、「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』の割合をみると、“②就労支援としての保育園等の保育サービス環境”で83.2%と最も高く、次いで“④子どもの安心・安全を確保するための活動や環境”が82.8%、“⑪児童虐待を防止するための対策や啓発”が79.4%となっており、重要度の高い施策については未就学児童と同様の傾向となっている。



③ 若者

○若者の重要度は、「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』の割合をみると、“②就労支援としての保育園等の保育サービス環境”で73.9%と最も高く、次いで“⑪児童虐待を防止するための対策や啓発”が73.3%、“④子どもの安心・安全を確保するための活動や環境”が72.0%となっている。

○未就学児童・小学校低学年の重要度と比較すると、すべての項目で「わからない」が高くなっている。



(3) 重要度と満足度のポートフォリオ分析

【参考】ポートフォリオ分析の考え方

「ポートフォリオ分析」とは、顧客満足度調査等で用いられる分析手法の一つ。
本調査では、大津市が取り組む子ども・若者支援施策について、
「満足度」と「重要度」を、それぞれ点数化して2次元グラフに配置することにより、
優先的に改善が求められる取組を検討するための一つの基礎資料とする。
分析にあたり、「満足度」と「重要度」については、回答を点数化して平均値を算出した。
それぞれ点数付けについては、下記の通り。

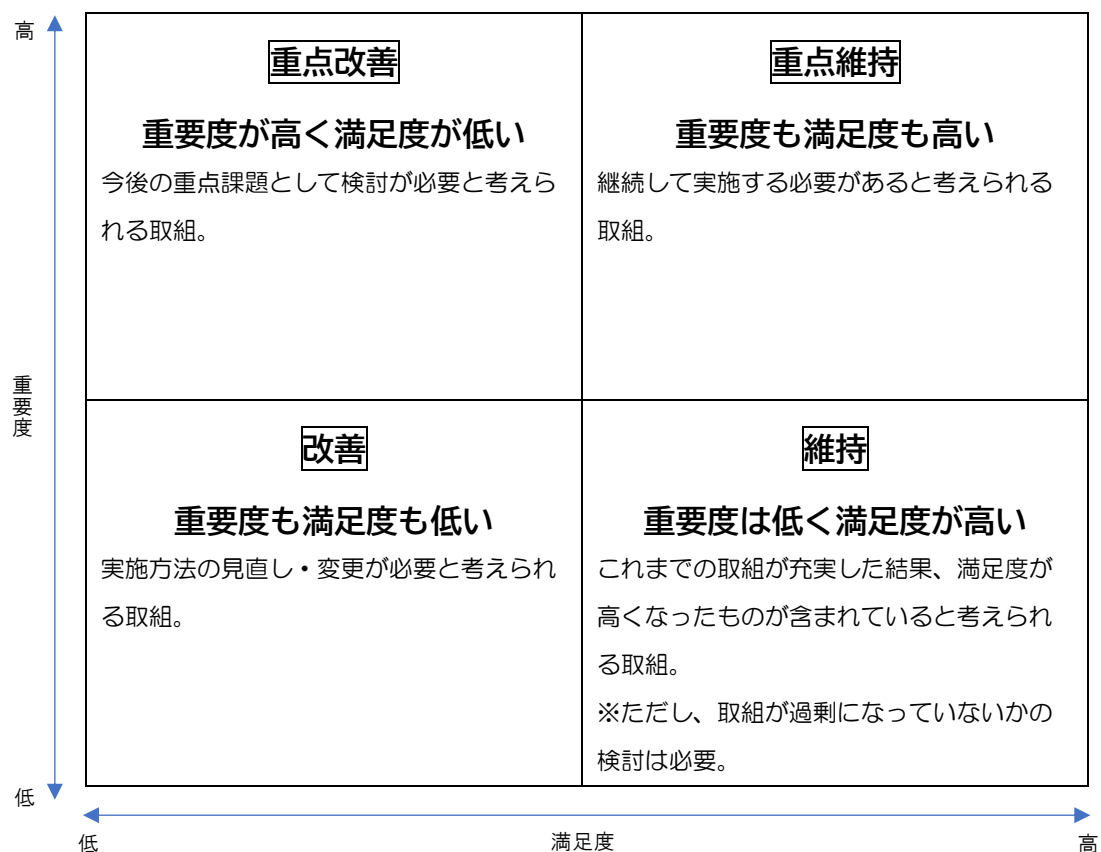
【満足度】

「満足」を2点、「まあ満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、
「やや不満」を－1点、「不満」を－2点

【重要度】

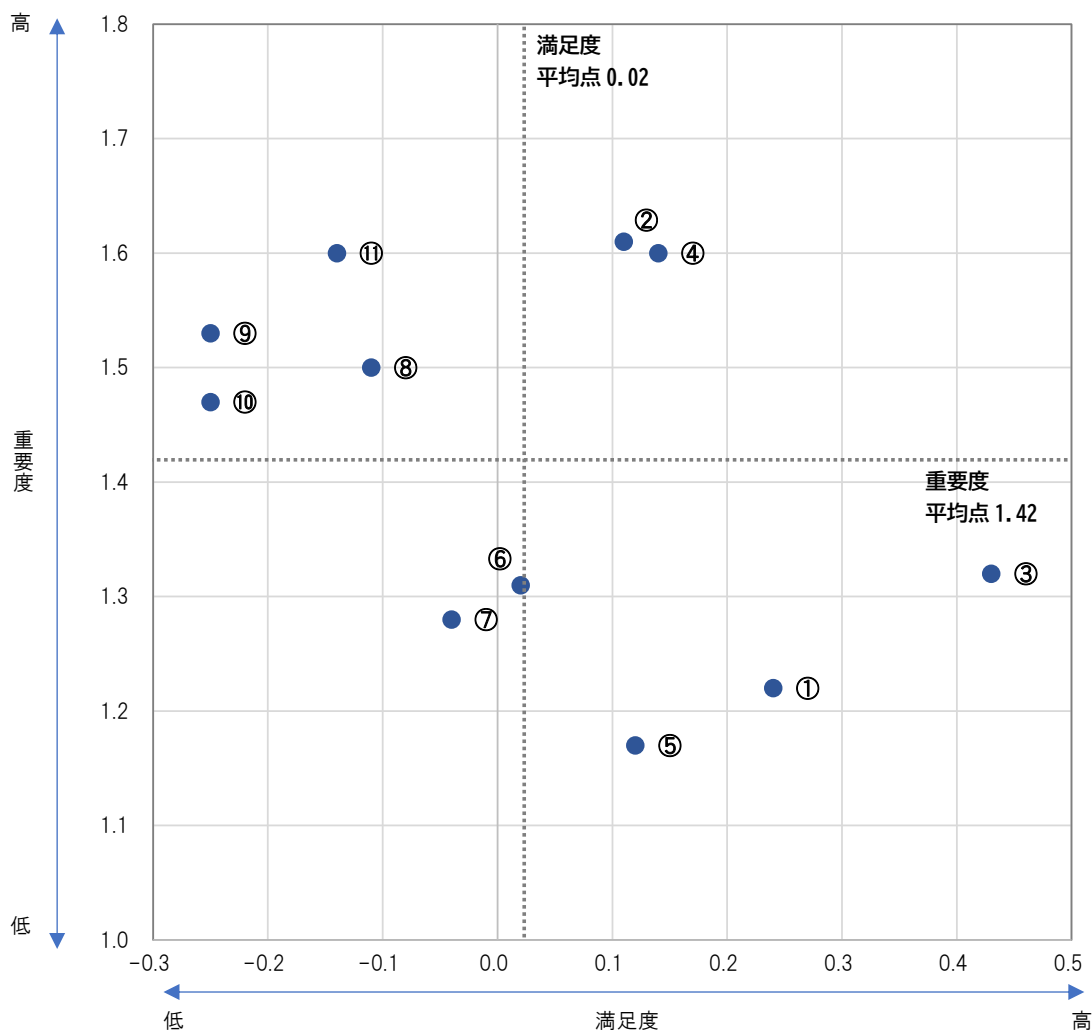
「重要」を2点、「まあ重要」を1点、「どちらともいえない」を0点、
「あまり重要でない」を－1点、「重要でない」を－2点

4象限マップのエリアはそれぞれ、下記のように定義づけられる。※以降の調査項目も同様。



① 未就学児童

- “⑧障害のある子ども・若者への支援”、“⑨いじめなどの困難を抱える子ども・若者への支援”、“⑩貧困等の困難な状況にある子どもの学習や生活支援”、“⑪児童虐待を防止するための対策や啓発”が、重要度が高い一方で満足度が低いため、今後の課題として検討が必要であると考えられる。特に、“⑪児童虐待を防止するための対策や啓発”が最重点項目となっていると考えられる。

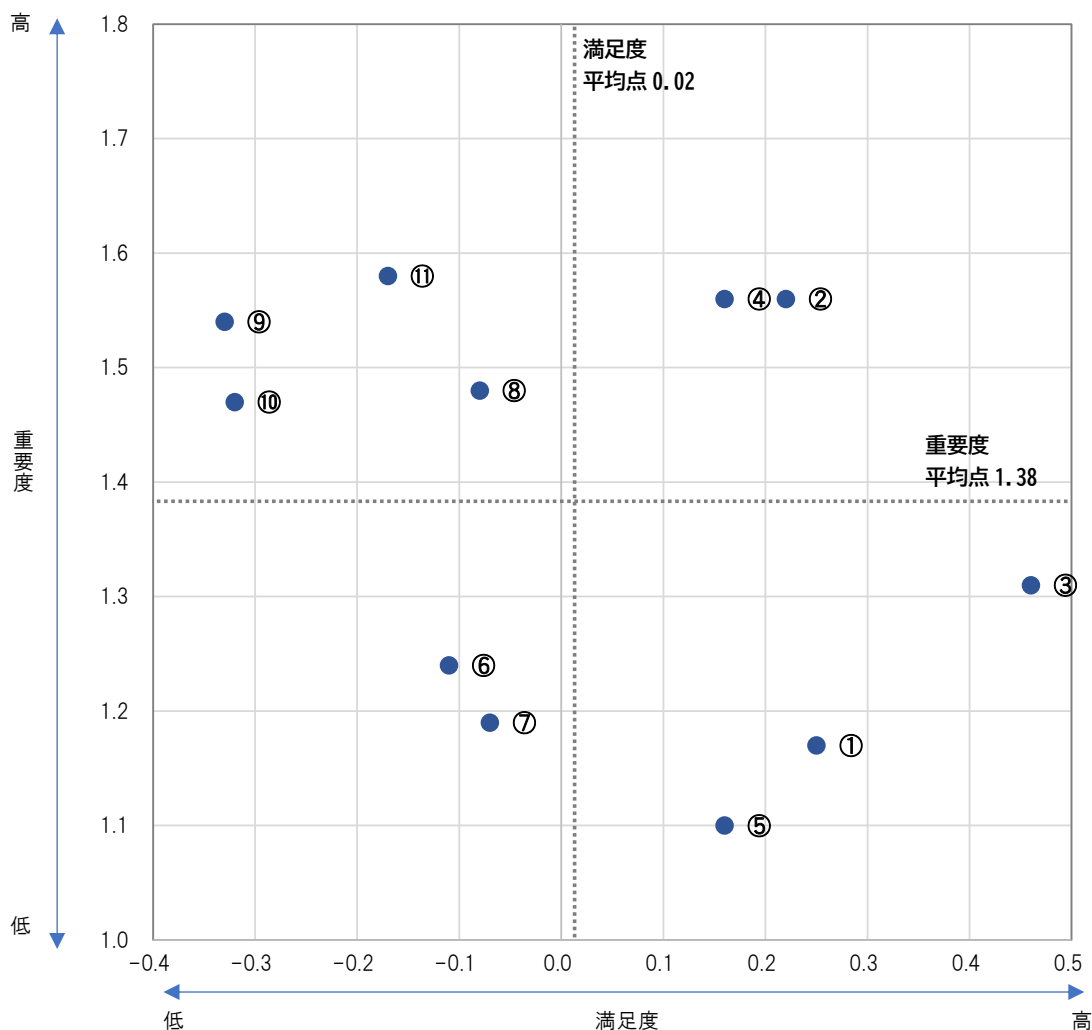


	満足度	重要度
①妊娠・出産・子育てに関する相談窓口等の体制	0.24	1.22
②就労支援としての保育園等の保育サービス環境	0.11	1.61
③幼児教育としての幼稚園の利用のしやすさ	0.43	1.32
④子どもの安心・安全を確保するための活動や環境	0.14	1.60
⑤子どもが参加しやすい多様な体験機会	0.12	1.17
⑥地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり	0.02	1.31
⑦地域で子育てを支える社会環境づくり	-0.04	1.28
⑧障害のある子ども・若者への支援	-0.11	1.50
⑨いじめなどの困難を抱える子ども・若者への支援	-0.25	1.53
⑩貧困等の困難な状況にある子どもの学習や生活支援	-0.25	1.47
⑪児童虐待を防止するための対策や啓発	-0.14	1.60

※グラフの破線は「重要度」「満足度」の各平均値を示す。表は、「重要度」「満足度」の各平均値と比較して、重要度が高く満足度が低い（今後の重点課題として検討が必要と考えられる）取組について「薄い網掛け」としている。

② 小学校低学年

○未就学児童と同様に“⑧障害のある子ども・若者への支援”、“⑨いじめなどの困難を抱える子ども・若者への支援”、“⑩貧困等の困難な状況にある子どもの学習や生活支援”、“⑪児童虐待を防止するための対策や啓発”が、重要度が高い一方で満足度が低いため、今後の課題として検討が必要であると考えられる。特に、“⑪児童虐待を防止するための対策や啓発”が最重点項目となっていると考えられる。

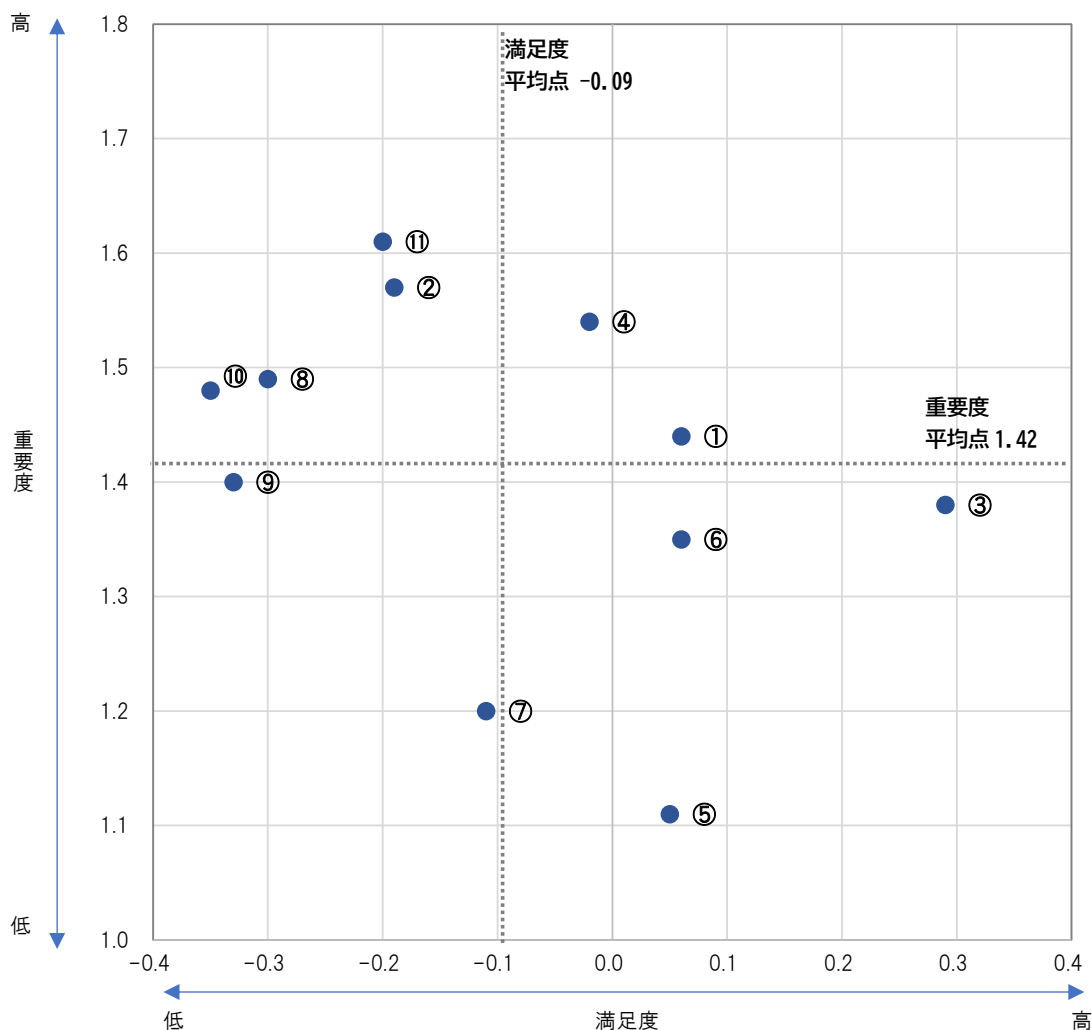


	満足度	重要度
①妊娠・出産・子育てに関する相談窓口等の体制	0.25	1.17
②就労支援としての保育園等の保育サービス環境	0.22	1.56
③幼児教育としての幼稚園の利用のしやすさ	0.46	1.31
④子どもの安心・安全を確保するための活動や環境	0.16	1.56
⑤子どもが参加しやすい多様な体験機会	0.16	1.10
⑥地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり	-0.11	1.24
⑦地域で子育てを支える社会環境づくり	-0.07	1.19
⑧障害のある子ども・若者への支援	-0.08	1.48
⑨いじめなどの困難を抱える子ども・若者への支援	-0.33	1.54
⑩貧困等の困難な状況にある子どもの学習や生活支援	-0.32	1.47
⑪児童虐待を防止するための対策や啓発	-0.17	1.58

※グラフの破線は「重要度」「満足度」の各平均値を示す。表は、「重要度」「満足度」の各平均値と比較して、重要度が高く満足度が低い（今後の重点課題として検討が必要と考えられる）取組について「薄い網掛け」としている。

③ 若者

- “②就労支援としての保育園等の保育サービス環境”、“⑧障害のある子ども・若者への支援”、“⑩貧困等の困難な状況にある子どもの学習や生活支援”、“⑪児童虐待を防止するための対策や啓発”が、重要度が高い一方で満足度が低いため、今後の課題として検討が必要であると考えられる。
- また、未就学児童・小学校低学年と比較すると、若者では“②就労支援としての保育園等の保育サービス環境”が重要改善項目として課題となっている。



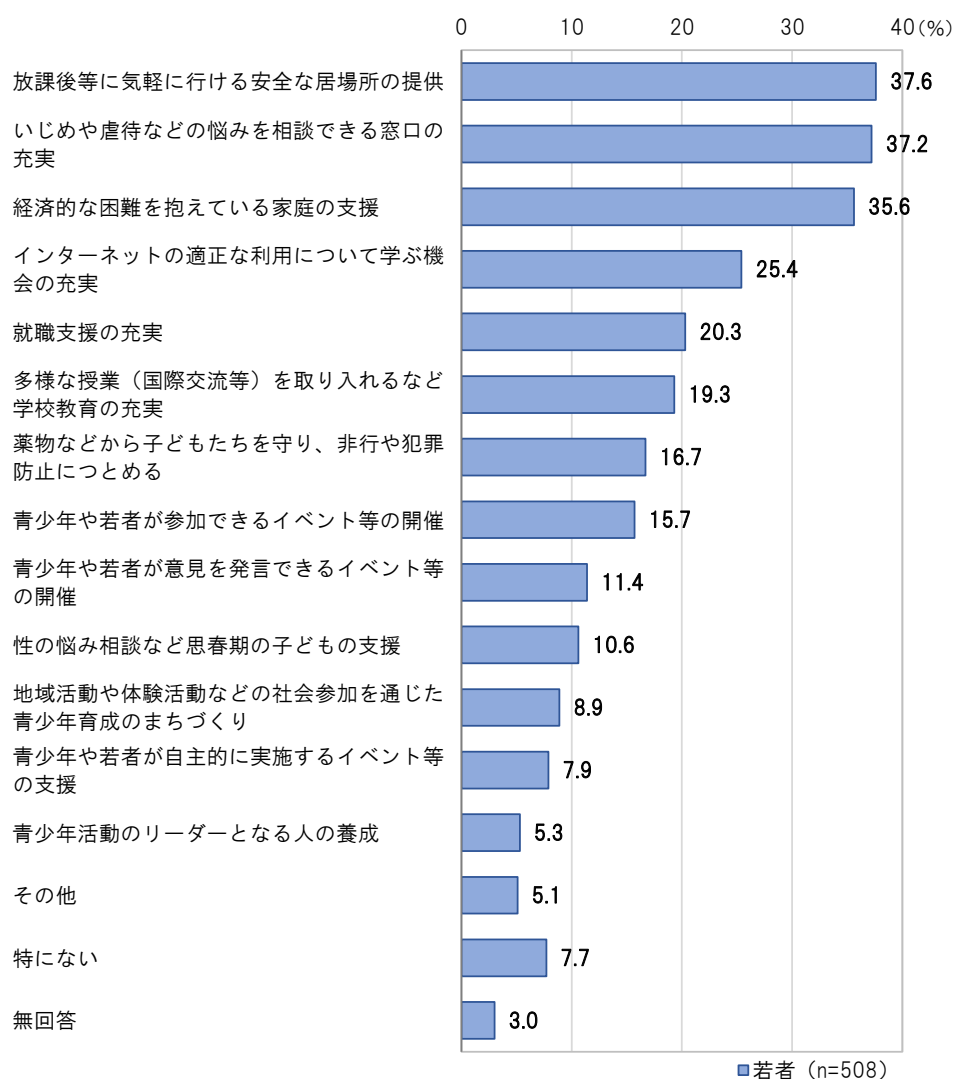
	満足度	重要度
①妊娠・出産・子育てに関する相談窓口等の体制	0.06	1.44
②就労支援としての保育園等の保育サービス環境	-0.19	1.57
③幼児教育としての幼稚園の利用のしやすさ	0.29	1.38
④子どもの安心・安全を確保するための活動や環境	-0.02	1.54
⑤子どもが参加しやすい多様な体験機会	0.05	1.11
⑥地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり	0.06	1.35
⑦地域で子育てを支える社会環境づくり	-0.11	1.20
⑧障害のある子ども・若者への支援	-0.30	1.49
⑨いじめなどの困難を抱える子ども・若者への支援	-0.33	1.40
⑩貧困等の困難な状況にある子どもの学習や生活支援	-0.35	1.48
⑪児童虐待を防止するための対策や啓発	-0.20	1.61

※グラフの破線は「重要度」「満足度」の各平均値を示す。表は、「重要度」「満足度」の各平均値と比較して、重要度が高く満足度が低い（今後の重点課題として検討が必要と考えられる）取組について「薄い網掛け」としている。

(4) 特に望む子ども・若者施策【若者／問 27 複数回答】

○特に望む子ども・若者施策は、「放課後等に気軽に行ける安全な居場所の提供」が 37.6%と最も高く、次いで「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口の充実」(37.2%)、「経済的な困難を抱えている家庭の支援」(35.6%)となっている。

○その他の意見では、「税金やお金に関する教育」や「マナー教育」「家庭へのサポート（保護者のケア）」などの回答がみられた。



《年代別・ひきこもり傾向別比較》

○年代別にみると、年代が上がるにつれて「放課後などに気軽に行ける安全な居場所の提供」や「多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育の充実」、年代が下がるにつれて「青少年や若者が意見を発言できるイベント等の開催」が高くなる傾向がみられる。また、[25～29 歳]では「経済的な困難を抱えている家庭の支援」や「薬物などから子どもたちを守り、非行や犯罪防止につとめる」で、その他の年代に比べて高くなっている。

○ひきこもり傾向別にみると、[ひきこもり傾向群]では「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口の充実」や「経済的な困難を抱えている家庭の支援」、「就職支援の充実」、「地域活動や体験活動などの社会参加を通じた青少年育成のまちづくり」で、[一般群]に比べて高くなっている。

(%)

		回答者数（人）	放課後などに気軽に行ける安全な居場所の提供	いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口の充実	経済的な困難を抱えている家庭の支援	インターネットの適正な利用について学ぶ機会の充実	就職支援の充実	多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育の充実	薬物などから子どもたちを守り、非行や犯罪防止につとめる	青少年や若者が参加できるイベント等の開催
年代別	15～19歳	78	26.9	41.0	30.8	24.4	16.7	10.3	15.4	20.5
	20～24歳	68	29.4	35.3	35.3	23.5	19.1	14.7	13.2	17.6
	25～29歳	66	37.9	39.4	47.0	28.8	24.2	16.7	24.2	10.6
	30～34歳	116	41.4	39.7	31.0	28.4	22.4	19.8	16.4	13.8
	35～39歳	178	43.3	34.3	36.5	23.0	19.1	25.3	15.7	16.3
ひきこもり	ひきこもり傾向群	59	35.6	44.1	50.8	22.0	23.7	6.8	11.9	13.6
	一般群	443	37.5	36.1	33.6	26.2	19.9	20.8	17.6	16.0

	(つづき)	回答者数（人）	青少年や若者が意見を発言できるイベント等の開催	性の悩み相談など思春期の子どもへの支援	地域活動や体験活動など社会参加を通じた青少年育成のまちづくり	青少年や若者が自主的に実施するイベント等の支援	青少年活動のリーダーとなる人の養成	その他	特にない	無回答
年代別	15～19歳	78	17.9	5.1	5.1	9.0	3.8	-	12.8	2.6
	20～24歳	68	11.8	13.2	11.8	7.4	1.5	-	10.3	7.4
	25～29歳	66	10.6	12.1	7.6	4.5	4.5	4.5	3.0	1.5
	30～34歳	116	10.3	10.3	9.5	6.9	6.9	4.3	9.5	-
	35～39歳	178	9.6	11.8	9.6	9.6	6.7	10.1	5.1	3.9
ひきこもり	ひきこもり傾向群	59	10.2	10.2	11.9	3.4	5.1	6.8	6.8	-
	一般群	443	11.5	10.6	8.6	8.6	5.2	5.0	7.9	3.4

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

VI 調査結果⑤《自由記載》

1. 未就学児童保護者用調査

分類	主な意見・要望	件数
(1) 教育・保育施設（保育園、認定こども園、幼稚園）		
保育園	入所・入園に関すること （希望する施設への入所、きょうだいで同じ園への入所の配慮、求職活動中の入所、年度途中でも入りやすい配慮など）	92
	保育費等の費用負担 （保育料の減額、多子世帯への援助など）	61
	施設・事業の運営内容の充実 （病児保育の充実、就労日以外の施設利用、教育内容の充実など）	38
	保育士や教諭の対応、研修、処遇 （保育士が働きやすい環境づくり、保育士の質の向上、人員の確保、処遇改善、「誰でも通園制度」開始による保育士への負担増の懸念など）	34
	施設の新設・拡充 （施設の増設、老朽化施設の修繕など）	15
認定こども園	施設の新設・拡充 （施設の増設、身近な場所で施設利用ができるような設置など）	10
	施設・事業の運営内容の充実 （利用時間の拡大、給食の提供など）	7
	入園・入所に関すること （定員数の拡大、待機児童の解消、入所条件の緩和など）	5
	保育費等の費用負担（給食費補助、保育料の減額など）	2
幼稚園	施設・事業の運営内容の充実 （預かり保育の延長、給食の提供、送迎サービスの充実など）	79
	施設の新設・拡充 （施設の増設、専用駐車場の設置・拡大、施設・園庭の拡大など）	16
	保育士や教諭の対応、研修、処遇 （保育士が働きやすい環境、保育士の人数確保など）	11
	入園・入所に関すること （定員数の拡大、求職活動中の入所、2歳からの入所など）	6
	保育費等の費用負担 （保育料の減額、預かり保育の減額、給食費補助など）	6
(2) 子育て支援サービス		
子育てに関する経済的負担 （児童手当の増額、医療費助成の拡大、所得制限の見直し・撤廃、高校（公立・私立）の無償化、多子世帯への経済的援助、給食費の無償化、通学・通院等にかかる交通費に対する援助など）		205
各種子育て支援サービス	地域子育て支援拠点 （施設老朽化の修繕、駐車料金の無償化、子ども連れに優しい施設・設備の充実、小学生までの利用可能年齢の拡大など）	64
	一時預かりの充実 （休日保育の充実、リフレッシュ目的での利用の充実、一時保育施設の充実など）	38

分類	主な意見・要望	件数
各種子育て支援サービス	小規模保育や家庭的保育等、その他の事業の充実 (ファミリーサポートセンターの利便性の拡大・学区制限の撤廃、乳幼児の預かりサービスの充実など)	25
	病児・病後保育の充実 (病児保育の充実、病児保育利用率の拡大など)	7
子育てに関する情報 (わかりやすい情報発信、子育てアプリの掲示板の復活、子ども向けイベント情報の一元化など)		41
子育てに関する相談 (相談窓口の対応日時の拡大、身近な場所での相談体制の充実、子育てに関する相談窓口の一本化、気軽に相談できる場の充実など)		27
放課後児童クラブ	施設の新設・拡充 (施設の増設、利用人数に合わせた施設の拡大、老朽化施設の修繕など)	22
	施設・事業の運営内容の充実 (長期休暇中のイベントの実施、求職の提供、送迎サービスの実施など)	17
	入所に関すること (入所条件の緩和、定員枠の拡大、民間学童の誘致など)	13
	費用負担 (利用料金の負担軽減、無償化、日割り計算での利用料の負担など)	8
	職員の対応、研修、処遇 (指導員・支援員の人員確保・拡充、質の向上など)	7
ひとり親家庭支援 (ひとり親家庭への施策の充実、養育費の取り立てに関する支援、経済的支援など)		12
障害児支援	子育て支援サービス (放課後等デイサービスの拡充、医療ケア児に対するサービスの充実など)	12
	学校における支援、進学・進路相談 (巡回相談の実施、グレーゾーンの子どもに関する相談の充実、専門的な相談の充実、学習障害への支援など)	12
	発達支援 (加配保育士の充実、きょうだい児が障害を持つ場合のサポートの充実、グレーゾーンの子どもの早期療育など)	11
児童虐待(夜中に無料で駆け込める施設など)		2
(3) 学校・教育(小学校、中学校、高校等)		
学校施設・設備の充実 (老朽化した校舎の修繕、トイレ設備の改善、セキュリティの強化、学校給食の充実など)		25
授業・指導内容 (夏休みの短縮、授業時間の確保、校外学習の拡充、少人数学級の実施など)		10
教職員の対応、研修、処遇 (教師の処遇改善、教育の質の向上、人員確保による負担の軽減など)		8
学力の向上 (英語教育の充実、タブレット学習の廃止、レベルに合わせた教育の実施など)		7
いじめ、不登校問題 (いじめられた側だけでなくいじめた側へのフォローの実施、不登校の子どもを預けられる場の充実、セーフティネットの充実など)		7
PTA活動、保護者の関わり (役員の負担の軽減、PTAの廃止など)		6

分類	主な意見・要望	件数
(4) 子育て環境		
子どもの遊び場、居場所 (公園の充実、公園の設備・遊具の充実、ボール遊びのできる公園の充実、徒歩圏内の公園の充実、公園の衛生管理など)	133	
医療体制 (小児科の充実、小児救急の充実、妊婦健診費用の無償化、不妊治療費用の助成、健診枠の拡大、集団健診の実施、健診日時の拡大、わかりやすい健診のお知らせなど)	78	
公共施設整備 (図書館の充実、公共施設のトイレの美化、駐車場の設置、子育て家庭に優しい施設の設置など)	46	
道路や交通の安全 (歩道の整備・修繕、草刈り、通学路付近の街灯の設置、通学路を走る車のマナーの改善など)	38	
防犯・防災 (防犯カメラの増設、登下校時の見守り・パトロールの強化、各種施設のセキュリティ強化など)	10	
地域とのかかわり(地域福祉) (地域での行事の充実、親子で参加しやすいイベントの充実、親子で学べる機会の確保など)	10	
(5) 仕事と子育ての両立		
多様な働き方の推進 (多様な働き方に対する企業の理解、隙間時間にできる在宅ワークの紹介など)	23	
職場環境の改善 (育児休業・休暇取得に対する職場の理解、男性の育児休業に対する偏見の改善、就労時間・時間外労働の削減など)	23	
保護者の就労支援 (復職に向けた資格取得支援、子育てしながら働きやすい仕事の紹介など)	5	
男女共同参画の推進 (父親の育児・家事への参加促進のための啓発など)	3	
(6) まちづくり全体		
政策への意見 (子どもを産み育てるまちとしての魅力ある取り組みの実施、保護者目線に立った施策の充実、大津テラスの活用、イベントの充実など)	53	
職員の対応 (人員の拡充、相談への対応の改善、育児初心者に寄り添った対応など)	29	
都市計画等の整備 (過疎地域への交通整備、交通面での環境整備、鉄道駅の改修など)	8	
相談窓口、広報等の諸業務 (市の取り組みについての周知・広報、SNSでの情報発信など)	7	
(7) その他		
アンケートについて (アンケート結果の施策への反映、アンケート分量の削減など)	31	
その他 (各種支援やサービス等への感謝、子育ての現状など)	141	

2. 小学生児童保護者用調査

分類	主な意見・要望	件数
(1) 教育・保育施設（保育園、認定こども園、幼稚園）		
保育園	入所・入園に関すること （定員数の拡大、待機児童の解消、きょうだいと同じ園への入所の配慮、求職活動中の入所など）	19
	保育士や教諭の対応、研修、処遇 （保育士の人数確保・処遇改善、人員不足の解消、質の向上、障害への理解など）	13
	施設・事業の運営内容の充実 （延長保育の充実、休日保育の充実、一時保育の利用のしやすさの向上、虐待防止のためのカメラの設置など）	10
	保育費等の費用負担 （保育料の減額、多子世帯への援助など）	8
	施設の新設・拡充 （施設の増設、受け入れ人数に合わせたスペースの確保、老朽化施設の修繕など）	5
幼稚園	施設・事業の運営内容の充実 （利用児童増のための対策、給食の提供（日数の拡大）、給食費の無償化など）	9
	施設の新設・拡充（幼稚園の増設、防犯対策の充実など）	3
	保育費等の費用負担（安価での預かり保育の実施に対する感謝など）	1
	保育士や教諭の対応、研修、処遇（保育士の処遇改善など）	1
(2) 子育て支援サービス		
子育てに関する経済的負担 （高校生までの医療費助成、高校の無償化、塾などの習い事の費用への助成、市外・県外の学校に通う児童への支援の充実、学用品・制服などの費用への助成など）		138
放課後児童クラブ	施設・事業の運営内容の充実 （長期休暇中の給食の提供、時間の延長、学校の短縮期間の対応など）	32
	施設の新設・拡充 （学区内での新設、施設・敷地の拡大、老朽化施設の修繕、トイレの改善など）	24
	職員の対応、研修、処遇 （職員の人員確保、質の改善、職員の定着のための支援など）	19
	費用負担 （児童クラブの無償化、間食費用の軽減、延長料金の後払い制の導入など）	12
	入所に関すること （利用のための就労条件の緩和、民間学童への資金援助など）	11
各種子育て支援サービス	地域子育て支援拠点 （身近な地域での施設の充実、小学校低学年までの利用年齢の拡大など）	14
	小規模保育や家庭的保育等、その他の事業の充実 （長期休暇中の子どもの預かりの場の確保、ファミリーサポートセンターの利便性の向上など）	12
	一時預かりの充実 （一時的に預けられる場の確保、保護者のリフレッシュのために預ける場所の確保、予約のオンライン化、学級閉鎖になった時のサポートなど）	11
	病児保育の充実 （病児保育施設の増加、病児保育の利用のしやすさの向上など）	6

分類	主な意見・要望	件数
子育てに関する情報 (支援に関する情報提供の充実、わかりやすい方法での情報提供、子育てに関する情報が入ってくるような環境づくりなど)		22
障害児支援	学校における支援、進学・進路相談 (不登校になった児童への支援、巡回相談の充実など)	13
	発達支援 (発達障害に対する理解や支援の拡大、専門的なアプローチ、関連機関と連携した長期的な取組みの実施など)	11
	子育て支援サービス (放課後等デイサービスの充実、施設・サポート体制の充実など)	10
子育てに関する相談 (発達障害に関する相談先の充実、子育てに関する窓口の一本化、不登校などの子ども自身が相談できる窓口の充実、身近な場所での相談窓口の充実など)		9
ひとり親家庭支援 (ひとり親家庭への施策の充実、経済的負担の軽減、学習支援など)		4
児童虐待 (LINE など気軽に相談できる場の設置など)		2
(3) 学校・教育 (小学校、中学校、高校等)		
学校施設・設備の充実 (トイレ設備の修繕、老朽化施設の修繕、冷暖房の完備、製水器の設置など)		49
教職員の対応、研修、処遇 (教職員の人員不足の解消、負担の軽減、先生のサポート体制の充実、授業の分かりやすさについての先生によるバラツキの解消など)		39
授業・指導内容 (少人数学級の実施、宿題の量の見直し、多様性を大事にした教育の実施など)		26
学力の向上 (補習授業の実施、学習支援の充実、地域格差の解消など)		17
いじめ、不登校問題 (タブレット学習の充実、いじめについての相談窓口の設置など)		13
PTA活動、保護者の関わり (役員の負担の軽減、強制加入の撤廃、PTA廃止など)		9
(4) 子育て環境		
子どもの遊び場、居場所 (ボール遊びのできる公園の充実、公園設備・遊具の充実、自然のある公園の充実など)		104
道路や交通の安全 (通学路の整備、歩道の整備、街灯の設置など)		23
公共施設整備 (児童館の充実、図書館の充実、利用予約のオンライン化、交通利便性の良い施設の充実など)		22
地域とのかかわり (地域福祉) (地域行事の充実・情報提供、イベントの充実、地域の子育て世代がつながる仕組みづくり、地域食堂の実施、自治会・子ども会の役員の負担軽減など)		13
医療体制 (小児科の充実、小児救急センターの設置、クリニック併設の病児保育の充実、健診の受診予約の簡素化など)		11
防犯・防災 (防犯カメラの設置、GPSの配布、登下校の見守りの充実、不審者・変質者への対応など)		6

分類	主な意見・要望	件数
(5) 仕事と子育ての両立		
職場環境の改善 (育児休業・休暇取得への周囲の理解、子どもを持つ人が働きやすい環境づくりなど)		13
保護者の就労支援(復職者へのサポートなど)		7
多様な働き方の推進 (テレワークについての啓発、就労時間の長短に関係なく利用できるサービスの充実など)		4
男女共同参画の推進 (男性への育児や介護等への参加の啓発、女性のキャリア継続のための支援など)		3
(6) まちづくり全体		
政策への意見 (若い世代に寄り添った施策の実施、積極的な教育・保育環境の充実、子どもも親もどちらも心豊かに生活できるまちづくりなど)		61
都市計画等の整備 (学校や園等の設置状況に合わせた住宅開発、バス停の増設など)		14
職員の対応 (正規職員の増員、子どもの虐待や貧困家庭支援のための部署の充実など)		4
相談窓口、広報等の諸業務 (各種支援の情報提供、誰にでもわかりやすい情報提供の実施など)		3
(7) その他		
アンケートについて (アンケート結果の施策への反映、アンケートの質問量の削減など)		19
その他(各種支援やサービス等への感謝など)		17

3. 若者用調査

分類	主な意見・要望	件数
(1) 生活環境		
外出環境（車がないと移動ができないなど）		1
(2) 若者支援		
就労支援 （就業支援、ＩＴや先端技術に関わる職種への就職あっせん、障害のある人への就労支援など）		4
(3) 教育・保育施設、子育て支援サービス		
子育てに関する経済的負担の軽減 （所得制限の見直し・撤廃、保育園の無償化、給食費の無償化、教育費の無償化など）		39
各種子育て支援サービス （子どもを気軽に預けられる場の拡大、支援サービスの利用予約の簡素化、支援やサービスの地域格差の解消、離乳食教室の充実など）		7
保育園 （保育士不足解消のための処遇改善、新興住宅地の保育園の増設など）		2
子育てに関する情報（メール等による情報発信など）		1
障害児支援（発達障害児への支援など）		1
(4) 学校・教育		
いじめ、不登校、非行問題 （いじめのない学校づくり、いじめ・不登校に対する調査の徹底、相談窓口の充実など）		5
スポーツ支援 （部活動時間の拡大、指導者の指導力不足、クラブチームの発足など）		4
授業・指導内容 （環境問題についての学習の充実、自分の好きなことや得意なことを見つける教育の実施、未就学児からの性教育の実施など）		3
教職員の対応、研修、処遇 （教職員の人材育成、人材の確保、教職員の労働改善など）		3
学校施設・設備の充実（学校給食の充実、子どもが安心して勉強ができる環境の整備など）		2
学力の向上（学力向上に向けた対策の実施など）		1
(5) 子育て環境		
子どもの遊び場、居場所 （屋内で遊べる場所の充実、家庭以外で勉強できる場の確保、既存施設のイベントの充実など）		14
公共施設整備（図書館の充実、商店・飲食店等の施設の充実、駐車場の充実など）		5
道路や交通の安全（バス停の増設など）		1
地域との関わり（障害のある子どもへの地域の人の理解など）		1
(6) まちづくり全体		
政策への意見 （子どもを増やす環境づくり、障害のある人に対する配慮、ベーシックインカム制度の導入など）		19
相談窓口、広報等の諸業務 （各種支援や制度についての周知・啓発の充実、わかりやすい情報発信、メールなどでの情報発信、情報社会を活用した情報発信や情報収集など）		6
都市計画等の整備（空き地等の活用による散歩に出かけたくなるまちづくりなど）		1

分類	主な意見・要望	件数
(7) その他		
	アンケートについて（調査結果のまちづくりへの反映など）	2
	その他（自転車乗車時のヘルメット購入補助金、外国人差別の解消など）	5

Ⅶ 調査結果のまとめと考察

1. 共働き家庭の更なる増加を踏まえた仕事と子育ての両立支援ニーズ

就学前から就学後に至るまで、今後も保育ニーズが一層高まる見込み

未就学児童及び小学校低学年の母親の就労状況をみると、前々回調査、前回調査から「専業主婦」の割合が低下し、就労する母親の割合が大きく上昇しており、特に、フルタイムでの就労者が増加している（P10）。また、1年後の希望においても就労を望む母親が多い（P11）ことから、今後も出産や育児に関わらず就業を継続する人が増加し、保育ニーズがさらに高まっていくことが想定される。

また、母親の就労が継続し、就学期を迎えた場合、放課後児童クラブに対するニーズへの高まりも予想される。放課後の預かり事業の利用意向は前回調査に比べて高く（P81）、年齢や学年が下がるほどその意向が高い傾向がみられる（P82）。未就学児童の子どもの就学で不安なことでも「放課後の居場所の確保」が小学校低学年に比べて高く（P39）、母親の就労率の上昇傾向を踏まえると、放課後児童クラブに対するニーズの一層の高まりが見込まれる。

企業や事業所における子育てと仕事の両立支援に対する理解が必ずしも十分でない状況

父親の就労状況と組み合わせた家庭類型を見ると、フルタイム勤務同士の共働き家庭が未就学児童・小学校低学年ともに前回調査から大幅に増加している（P13）。

未就学児童の母親の育児休業の取得状況をみると、「取得後、職場に復帰した」割合は約4割で、前々回調査（17.7%）、前回調査（29.3%）から大きく上昇している。また、父親の取得状況は「取得後、職場に復帰した」割合は14.5%と、前回調査（3.0%）から比較すると大きく上昇しているものの、母親に比べると依然低くなっている（P159）。育児休業の実際の取得期間と希望の取得期間の差をみると、「実際の取得期間が希望より短い」人が父親・母親ともに半数以上を占めている。母親は6割が1年以上、父親は3割が半年以上の取得を希望するのに対し、実際には母親では1年以内の復帰が半数以上、父親では半年以内の復帰は8割以上を占めている（P161）。

その理由として、「経済的な理由によるもの」のほか、母親では「希望する保育園に子どもを入れるため」が、父親では「人事異動等、職場の事情に合わせたため」が上位となっている（P163）。また、仕事と子育てを両立するために企業に期待することでは「子どもが病気やけがの時に、休暇が取りやすい職場環境をつくる」「育児休業制度が取得しやすい職場環境・雰囲気づくりを行う」等が上位項目となっており（P164）、収入面での問題に加え、子育てと仕事の両立支援に対する職場の理解が必ずしも十分でない状況がうかがえる。

2. 子どもを産み育てることに対する支援ニーズ

経済的支援や子育てにやさしい社会環境づくりの促進が求められている

子どもを持つことの希望についてみると、子どもがいない若者の約半数が「子どもを持ちたいと思う」と回答しており(P165)、その理由はすでに子どもをもつ未就学児童、小学生保護者の回答と同じ傾向であったが(P166)、理想としている子どもの人数は平均 2.39 人と未就学児童保護者、小学生保護者と比較して最も少なく、予定している子どもの人数とのギャップは最も大きかった(P167)。ギャップ解消のために必要なこととして、「子育てや教育の経済的支援の充実」はもとより、「子育てにやさしい社会環境づくり」、「保育サービスの提供体制の確保」が求められている(P168)。

子どもを産み育てる若者や多子世帯に向けた子育てや教育の経済的な負担感の軽減が必要

子育てに対して感じていることの経済的な負担感では、子どもの人数が増えるほど負担感を感じている人が多く(P36)、理想とする子どもの人数と予定している人数を近づけるために必要な環境として「子育てや教育の経済的支援の充実」が最も高くなっており(P168)、子どもを産み育てるにあたっては経済面が課題となっている人も少なくない。

また、日常的に困っていることでは、本市が実施した「子どもの生活実態調査」(令和5年9月実施)の調査結果も踏まえると、子どもの年代が高くなるにつれて「子どもの教育費」が高くなっており、経済的な負担の中でも特に、勉強や進学などの費用に困っている世帯が多くなっている。(P37, 38)

また、若者調査においては、子どもを持ちたいと思うための条件では「子どもを育てる経済力があれば」が最も高く(P165)、子育てにはお金がかかるというイメージを持っている若者が多いことがうかがえる。

3. 就学前教育・保育施設利用の潜在的なニーズ

保育施設等の利用の低年齢化、長時間利用への要望が高まっている

定期的な教育・保育事業の利用状況をみると、0歳で4割弱、1歳で6割超、2歳で7割超が「利用している」と回答し、前回調査に比べて低年齢層で大きく増加している(P47)。母親の半数以上が育児休業から1年以内に復帰しており(P161)、予定より早期に復帰した理由として、「希望する保育園に子どもを入れるため」が最も多い(P163)。また、前述のとおり、未就学児童保護者において、フルタイム勤務同士の共働き家庭が前回調査から大幅に増加しており、将来的な就労希望も高いことから、低年齢の利用及び長時間利用のニーズ増大傾向は今後も進むと推察される。

潜在的な保育ニーズが高まっていることについての考慮が必要

平日に教育・保育事業を利用していない理由についてみると、家庭類型別では「ひとり親家庭」

〔フルタイム×パート（長時間）〕で、教育・保育提供区域別では〔志賀〕、〔中北部〕、〔中部〕、〔中南部〕で「利用したいが、幼稚園や保育所、認定こども園などに空きがない」と回答している割合が比較的多い（P55）。また、希望する教育・保育事業について、現在利用している教育・保育事業別にみると、〔地域型保育施設〕、〔企業主導型保育施設〕を現在利用している場合は〔認可保育所〕を希望する割合が高い（P58）。

これらのことから、待機児童数には表れていないが、希望する施設を利用できていないケース、認可保育所や認定こども園が利用できずに地域型保育施設等の別の施設を利用しているケース等潜在的なニーズは一定あることが推察される。

4. 地域における子育て支援サービスのニーズ

家庭保育を望む保護者が一定数いる中で、近所づきあいは希薄化している

世帯構成は9割以上が親子2世代であり、3世代同居の割合は前回調査と比べて減少し、核家族化が進行している（P9）。

平日に定期的に教育・保育事業を利用していない理由について、〔フルタイム×パート（短時間）〕や〔専業主婦・主夫家庭〕では「子どもが3歳になれば幼稚園の利用を考えている」の回答が多くなっており（P55）、3歳までは施設やサービスを利用せず、家庭保育を望む家庭が一定数みられる。

地域子育て支援拠点施設の利用状況は、0歳で約半数、1～2歳では4割未満の利用率となっている（P90）。今後の利用意向では、〔（教育・保育施設を）利用していない〕かつ〔0～1歳〕は「利用していないが、今後利用したい」が3割近く、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が3割超となっており（P93）、今後の利用増加が見込まれる。その一方で、同数程度で利用を希望していない状況である（P92）。

また、近所づきあいの程度をみると、未就学児童・小学校低学年ともに、「暮らしの面でさまざまな助け合いをしている」や「困りごとや悩みごとを相談し合っている」が低くなっている状況がみられる（P88）。また、地域の子どもたちに関わる活動や保護者同士の交流への参加状況では、小学校低学年に比べて未就学児童の保護者の参加が少なく、地域で子どもを持つ保護者同士で情報交換をしている割合は4割程度となっている（P89）。

5. 相談窓口や情報提供のニーズ

相談窓口や場の周知だけではなく、必要な人に必要な情報が届き、活用できる仕組みづくりが求められている

子育てをする上で気軽に相談できる人や場所は、未就学児童・小学校低学年ともに「配偶者（パートナー）」や「自分または配偶者（パートナー）の両親、兄弟姉妹」、「友人や知人」が上位項目となっており、身近な家族や友人に相談する人が多い傾向となっている（P41）。

大津市の子ども・若者支援施策の満足度について、「妊娠・出産・子育てに関する相談窓口等の体

制”に対し「満足度が高い」（「満足」と「まあ満足」の各割合の合計）は未就学児童・小学校低学年ともに3割程度となっており、「どちらともいえない」が3割程度、「わからない」が2割以上を占めている（P169, 170）。相談先がない（相談しない）理由では、「誰に相談していいのかわからないから」が未就学児童・小学校低学年ともに4割を超えており（P43）、あればよいと思う相談先に「子育てをする上で気軽に相談できる施設」があげられていることから、相談窓口や場の周知だけでなく、相談事業を含めた支援制度の情報が、必要な人に確実に届き、活用してもらう仕組みについて検討、改善していく必要があることがうかがえる。

また、若者調査において、相談窓口や支援の情報が届いていると思うかについて、「思わない」と回答したのは5割弱であり、特に困難に直面した経験のある若者において「思わない」と回答したのは5割超であることから、周知が必要な人に届いていない現状がある（P141）。

6. ひきこもりなどの困難な経験を乗り越えるための支援ニーズ

ひきこもり傾向群は増加し、子どものころの不登校が影響している可能性もある

若者に対する調査結果では、外出頻度が少ない（「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」）人の割合は1割近くとなっており、前回調査に比べてやや高くなっている（P103）。また、その期間をみると、『6か月以上』となる人が7割以上を占めている（P104）。

内閣府が実施した「こども・若者の意識と生活に関する調査」（令和5年3月）を参考としたひきこもりの区分をみると、前回調査に比べて「ひきこもり傾向群」が大きく増加しており、何かのきっかけでひきこもりになる可能性のある人が多いことが推察される。（P107）

外出頻度が少ない理由では、「乳幼児の子育てをしている」や「在宅勤務等、就労形態が変わった」などが多い一方で、「人間関係がうまくいかなかった」や「就職活動がうまくいかなかった」「職場になじめなかった」などの回答も多くなっている。（P105）

さらに、外出頻度が少ない状態になってからの期間が「15年以上」と回答した方もおり、理由の中には「学校になじめなかった」「不登校」があり（P104, 105）、子どもの頃の不登校が影響している可能性も考えられる。

ひきこもりを含む困難の相談相手づくりのきっかけとなる居場所づくりが求められている

小中学生の頃の経験について、一般群に比べてひきこもり傾向群は、我慢することや親子関係に困難を抱えていた傾向があることに加え（P111）、「近所に遊んだり相談できる友人がいた」と回答した人が少ない傾向がみられた（P112）。また、困難を乗り越えるために必要な支援としては、「家族や友人・知人への相談」が一般群でもひきこもり傾向群でも6割弱を占め、次いで「困難とは関係のない仲間や居場所での時間」があがった（P140）。

また、特に望む子ども・若者支援について、経済的な支援や相談窓口の充実のほかに「放課後等に気軽に行ける安全な居場所の提供」と回答した人が多かった（P179）。

これらのことから、子どものころから相談できる友人・知人が身近にいる環境が望ましく、そういった友人・知人づくりのきっかけともなる子ども・若者が過ごせる居場所が求められていると推察される。

7. 「こどもまんなか社会」実現に向けた子ども・若者の意見反映ニーズ

子ども・若者の意見を聴取していくための方法や場所の確保と、意見がどのように活かされたのかの「見える化」が望まれている

国では、すべての子ども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現に向けて、子ども・若者の意見を聴き政策に反映する取り組みが推進されている。

アンケート調査では、若者の4割以上が国や市に対して自分の意見を伝えたいと回答している一方で、ほぼ同数が伝えたいとは思わないと回答している(P147)。その理由として、「国や自治体に意見を伝えても変わらないと思うから」や「国や自治体は何をしているのか分からないから」「どのように意見を伝えれば良いか分からないから」が上位項目となっており(P149)、意見を伝える方法や伝えた意見がどのように反映しているかが見えないことが、無関心層を生む原因となっていることが推察される。

意見が伝えやすいと思う方法では、「自分の顔や名前を明かさずに参加できる」や「伝えた意見がどのように反映されるのかわかる」「意見を伝えられる場が用意されている」が上位項目となっており(P150)、小学校低学年の保護者においても「友だちや保護者など、子どもが信頼できる人がそばにいること」や「意見を伝えられる場所や方法が複数用意されていること」「施策等について子どもたちが興味・関心を持つ機会を市が提供すること」が高い割合となっている(P144)。なお、意見を伝える場として、オンライン上の場やテーマに関する意見募集の形式が多く望まれている(P151)。

1. 調査票

(1) 未就学児童保護者用調査

未就学児童用調査票

あて名のお子さんご家族のことについて

問1 お住まいの学区(小学校区)はどこですか。(○は1つ)

1 小松	2 木戸	3 和邇	4 小野	5 葛川
6 伊香立	7 真野	8 真野北	9 堅田	10 仰木
11 仰木の里	12 仰木の里東	13 雄琴	14 日吉台	15 坂本
16 下阪本	17 唐崎	18 滋賀	19 山中比叡平	20 藤尾
21 長等	22 達坂	23 中央	24 平野	25 膳所
26 富士見	27 晴嵐	28 石山	29 南郷	30 大石
31 田上	32 上田上	33 青山	34 瀬田	35 瀬田南
36 瀬田東	37 瀬田北	38 わからない(町名:)		

問2 お子さんの生年月、きょうだいのことについてお答えください。

(それぞれ()内に数字を記入)

①きょうだいの人数 ※あて名のお子さんを含む人数	() 人
②あて名のお子さんの生年月	平成・令和()年()月生まれ
③あて名のお子さん以外の、 きょうだいの生年月 ※(令和5年4月1日時点で同居している、年齢の低い順から、最大5名まで)	1人目: 平成・令和()年()月生まれ 2人目: 平成・令和()年()月生まれ 3人目: 平成・令和()年()月生まれ 4人目: 平成・令和()年()月生まれ 5人目: 平成・令和()年()月生まれ

問3 ご回答いただく方は、お子さんからみてどなたですか。(○は1つ)

1 母親	2 父親	3 その他(続柄等:)
------	------	--------------

問4 ご回答いただく方の年齢をお答えください。(令和5年4月1日現在)(○は1つ)

1 20歳未満	2 20～24歳	3 25～29歳
4 30～34歳	5 35～39歳	6 40～44歳
7 45～49歳	8 50歳以上	

問5 ご回答いただく方の配偶関係についてお答えください。(○は1つ)

1 配偶者(パートナー)がいる	2 配偶者(パートナー)はいない
-----------------	------------------

1

未就学児童用調査票

次期大津市子ども・若者支援計画策定のためのアンケート調査
(未就学児童保護者様用)

* * * 調査へのご協力をお願い * * *

日頃より、本市市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

大津市では、市民のみならず、子育て支援の充実を図るための具体的な計画である「大津市子ども・若者支援計画」に基づき、さまざまな施策を進めています。

今回のアンケート調査は、現在子育て中のみなさまの子育て支援サービスの利用状況や希望、ご意見等をうかがい、今後の子育て支援施策を進める上での参考資料とすることを目的に行います。

ご回答いただいた内容は、調査目的以外に利用することは一切ありません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和5年11月

大津市長 佐藤 健司

* * * アンケートの回答にあたって * * *

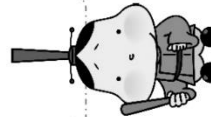
- この調査は、インターネットでの回答(回答にかかる通信費はご自身の負担になります)も可能です。
下記のURLもしくは右の二次元コードからアクセスしていただき、アンケートフォームに直接回答を入力してください。
<URL> <https://src.webcas.net/form/pub/src2/252018j>
- このアンケートの所要時間は20～30分程度です。
- このアンケート内において、「あなた」はご回答いただく方のことです。
また「お子さん」は封筒のあて名のお子さんのことです。
- ご回答は、回答欄のあてはまる番号を○で囲んでください。
ご回答が「その他」の場合は、番号に○をつけ、()内に具体的に記入してください。
- をつける数は、設問ごとに示してありますので、○をつける数にご注意ください。
(例:「○は1つ」、「あてはまるすべてに○」など)

ご記入いただいた調査票は、令和5年12月15日(金)までに、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずにご返送ください。

インターネットで回答いただいた場合は、調査票のご返送は不要です。

* * * 調査についてのお問い合わせ * * *

大津市役所福祉部子ども未来局子ども・若者政策課

TEL: 077-528-2917 E-mail: otsu1488@city.otsu.lg.jp

問6 ご回答いただく方の世帯構成は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- 1 二世代 (親、子) 2 三世代 (祖父母、親、子)
3 その他 (具体的に: _____)

問7 お子さんの保護者の就労状況 (自営業、家族従事者含む) について、現在の状況と1年後の希望 (実現見込みがある) をお答えください。(それぞれ○は1つずつ)

※従前産後休暇、育児休業、介護休業等に入られている方は、休業に入る前の状況についてお答えください。
※ひとり親家庭の方は、該当する部分のみをお答えください。

(1) 母親

	現在の状況	1年後の希望
1	フルタイム【週5日・1日8時間程度】	1 フルタイム【週5日・1日8時間程度】
2	パート・アルバイト【月64時間以上】	2 パート・アルバイト【月64時間以上】
3	パート・アルバイト【月64時間未満】	3 パート・アルバイト【月64時間未満】
4	専業主婦	4 専業主婦

(2) 父親

	現在の状況	1年後の希望
1	フルタイム【週5日・1日8時間程度】	1 フルタイム【週5日・1日8時間程度】
2	パート・アルバイト【月64時間以上】	2 パート・アルバイト【月64時間以上】
3	パート・アルバイト【月64時間未満】	3 パート・アルバイト【月64時間未満】
4	専業主夫	4 専業主夫

問8 直近 (令和4年)のあなたの世帯で働いている方全員のおよその年間総収入はいくらですか。
(○は1つ)

※税金等を天引きされる前の金額で、年金や児童手当などの社会保険給付は除きます。

- 1 収入はなかった 2 300万円未満
3 300万円以上500万円未満 4 500万円以上700万円未満
5 700万円以上900万円未満 6 900万円以上
7 わからない

問9 あなたの世帯の現在の経済的な暮らし向きについて、どう感じていますか。(○は1つ)

- 1 大変苦しい 2 やや苦しい
3 普通 4 ややゆとりがある
5 大変ゆとりがある

あて名のお子さんが3歳以上 (令和5年4月1日時点) の方に
お子さんのふだんの様子について

3歳未満の方は問13 (次ページ)へ

問10 お子さんのふだん (平日) の食事や睡眠の時間についてお答えください。
(それぞれ () 内に数字を記入)

※24時間制で、30分単位で記入してください。

①お子さんは朝、何時ごろに起きますか	(:) ごろ
②お子さんは朝食を何時ごろに食べますか	1 食べる ⇒ (:) ごろ 2 食べないことが多い
③お子さんは夕食を何時ごろに食べますか	1 食べる ⇒ (:) ごろ 2 食べないことが多い
④お子さんは夜、何時ごろに寝ますか	(:) ごろ

問11 お子さんのふだんの生活習慣で気になっていることはありますか。(あてはまるすべてに○)

- 1 目覚めや寝つきが悪い
2 昼間眠そうにしている
3 好き嫌いが多い
4 偏食で栄養バランスが気になる
5 体を動かす機会が少ない
6 長時間テレビを見たりインターネット・ゲーム等をしている
7 歯磨きをしない日がある
8 その他 (具体的に: _____)
9 気になることは特にない

問12 お子さんは、現在、習い事等をしていますか。(○は1つ)

※習い事とは、水泳などのスポーツ、英会話などの勉強、音楽などの芸術を学ぶことを言います。教室に通うほか、通信教育等自宅で行うものも含みます。

- 1 はい 2 いいえ

子育てに対する考え方や悩みなどについて

問13 あなたは、特にどのようなことを大切にしてお子さんを育てていますか。
(あてはまる3つまでに○)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 基本的な生活習慣を身につけること | 2 身体を丈夫にすること |
| 3 他者への思いやりを持つこと | 4 社会的ルールや規範意識を守ること |
| 5 自分の気持ちを表現し伝えること | 6 家族で過ごす時間や会話をもちこと |
| 7 本物にふれ、体験する機会をもつこと | 8 興味や関心を広げること |
| 9 子ども同士で一緒に遊ぶこと | 10 数字や文字等を学ぶこと |
| 11 その他 (具体的に：_____) | |
| 12 特にない | |

問14 あなた自身は日頃、子育てをどのように感じていますか。(それぞれ○は1つずつ)

	いつも感じる	ときどき感じる	あまり感じない	まったく感じない
① 子どもと過ごす楽しさや幸福感	1	2	3	4
② 子どもの成長や接し方の不安感	1	2	3	4
③ 体力的な負担感	1	2	3	4
④ 精神的な負担感	1	2	3	4
⑤ 経済的な負担感	1	2	3	4

問15 あなたが日常的に困っていることはどんなことですか。(あてはまるすべてに○)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 生活費 | 2 子どもの教育費 |
| 3 子どもの健康 | 4 子どもの友だち関係 |
| 5 子どもの障害・発達 | 6 家族・親戚の関係 |
| 7 仕事が見つからないこと | 8 仕事がつきついこと |
| 9 あなたの人間関係 | 10 あなたの健康 |
| 11 近所づきあい | 12 家が狭いこと |
| 13 頼れる人がいないこと | 14 時間のゆとりがないこと |
| 15 その他 (具体的に：_____) | |
| 16 特にない | |

問16 子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所がありますか。(○は1つ)

- | | |
|---------|----------|
| 1 いる/ある | 2 いない/ない |
|---------|----------|
- 問16で「1 いる/ある」と回答した方に
問16-1 相談先をお答えください。
(あてはまるすべてに○)

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------|
| 1 配偶者 (パートナー) | 2 自分または配偶者 (パートナー) の両親、兄弟姉妹 |
| 3 友人や知人 | 4 インターネット、SNS上の友人や知人 |
| 5 地域子育て支援拠点施設の職員 (ゆめっこ、つどいの広場、児童館) | 6 地域のすこやか相談所 |
| 7 保育園や幼稚園等の先生 | 8 地域の民生委員児童委員 |
| 9 かかりつけの医師 | 10 自治体の子ども・子育て関連担当窓口 |
| 11 その他 (具体的に：_____) | |
- 問16で「2 いない/ない」と回答した方に
問16-2 相談先がない (相談しない) のはなぜですか。(あてはまるすべてに○)

- | | |
|--|---------------------|
| 1 人づきあいが苦手だから | 2 外に出るのが好きではないから |
| 3 他人に子どものことをあれこれ言われたくないから | 4 誰に相談していいのかわからないから |
| 5 自分または配偶者 (パートナー) の両親、兄弟姉妹とあまりつきあいがいいから | 6 その他 (具体的に：_____) |

問17 あなたは、子育てで不安や悩みを感じたときに、どのような相談先があればよい、または、よかったと思いますか。(あてはまるすべてに○)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 身近で気軽に相談できる施設 | 2 子育て中の保護者同士で気軽に話せる場 |
| 3 匿名で相談できる専用電話 | 4 匿名で相談できるメールやLINE相談 |
| 5 子育て経験者による子育て相談 | 6 専門的な相談ができる相談窓口 |
| 7 家庭に訪問して行う相談 | 8 その他 (具体的に：_____) |
| 9 特に必要ない | |

あて名のお子さんの平日の定期的な教育・保育施設等の利用状況について

問18 お子さんは現在、平日に教育・保育施設等（幼稚園、保育園等）を定期的にご利用していますか。（○は1つ）

- 1 利用している 2 利用していない ⇒ 問18-3（次ページ）へ

問18で「1 利用している」と回答した方に

→問18-1 平日に定期的に利用している教育・保育施設等はどれですか。

また、1週あたりの利用日数・1日あたりの利用時間をお答えください。

（あてはまるすべてに○、（ ）内に数字を記入）※24時間制で記入してください。

	施設名・事業名	1週あたりの 利用日数	1日あたりの利用時間
1	認可保育所	() 日 () 時間	【 時～ 時】
2	幼稚園	() 日 () 時間	【 時～ 時】
3	幼稚園の預かり保育	() 日 () 時間	【 時～ 時】
4	認定こども園	() 日 () 時間	【 時～ 時】
5	地域型保育施設（小規模保育・家庭的保育）	() 日 () 時間	【 時～ 時】
6	企業主導型保育施設	() 日 () 時間	【 時～ 時】
7	企業主導型保育施設以外の認可外保育施設	() 日 () 時間	【 時～ 時】
8	その他の施設（施設名： ）	() 日 () 時間	【 時～ 時】
9	ファミリーサポートセンター	() 日 () 時間	【 時～ 時】

施設・事業の内容

【認可保育所】
0歳～小学校就学前の子どもの対象に、保護者が就労等の理由で家庭保育ができない場合に保育を行う施設。
【幼稚園】
3歳～小学校就学前までの子どもを対象とした、遊びや学習を通じて発達を支援する教育施設。
【幼稚園の預かり保育】
幼稚園の在園児を対象に、子育てや就労している家庭を支援するために時間を延長して一時的に併合する事業。
【認定こども園】
保育所と幼稚園の機能を併せ持つ施設。
【地域型保育施設】
0～2歳児対象の少人数の保育施設。定員が5名までの家庭的保育施設、19名までの小規模保育施設がある。
【企業主導型保育施設】
企業が従業員向けに事業所内や周辺施設に設置する保育施設。従業員の子ども以外も地域内で受け入れている。
【認可外保育施設】
乳幼児を保育することを目的とした施設であり、保育所や幼稚園、認定こども園の認可を受けていない施設。
【ファミリーサポートセンター】
子どもが預かりや送迎の援助を受けたい人で行いたい人が会員となり、育児の相互援助を行う会員組織。

問18で「1 利用している」と回答した方に

→問18-2 平日、お子さんが主に利用している施設等がある学区はどこですか。（○は1つ）

- 1 お住まいの学区内 2 お住まいの学区外で市内（学区名： ）
3 市外 4 わからない

問18で「2 利用していない」と回答した方に

→問18-3 平日に定期的に教育・保育施設等を利用していない理由は何ですか。

（あてはまるすべてに○）

- 1 利用する必要がない（子どもの教育や発達のため、母親が父親が働いていないなどの理由で）
2 子どもの祖父母や親戚の人がみている
3 近所の人や父母の友人・知人がみている
4 子どもがまだ小さいため
5 子どもが3歳になれば幼稚園の利用を考えている
6 利用したいが、保育園等の施設に空きがなく利用できない
7 利用したいが、経済的な理由で利用できない
8 利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない
9 利用したいが、教育・保育の質や場所等、納得できる施設等がない
10 その他（具体的に： ）

あて名のお子さんの平日の定期的な教育・保育施設等の利用希望について

問19 平日に定期的に利用したい、利用を継続したい教育・保育施設等（保育園、幼稚園等）をお答えください。

また、希望する利用年齢（4月1日時点を基準とした5歳までの年齢）をお答えください。

（あてはまるすべてに○、（ ）内に数字を記入）

※施設・事業の内容は6ページを参照してください。

	施設名・事業名	希望する利用年齢
1	認可保育所	() 歳から () 歳まで
2	幼稚園	() 歳から () 歳まで
3	幼稚園の預かり保育	() 歳から () 歳まで
4	認定こども園	() 歳から () 歳まで
5	地域型保育施設（小規模保育・家庭的保育）	() 歳から () 歳まで
6	企業主導型保育施設	() 歳から () 歳まで
7	企業主導型保育施設以外の認可外保育施設	() 歳から () 歳まで
8	その他の施設（施設名： ）	() 歳から () 歳まで
9	ファミリーサポートセンター	() 歳から () 歳まで

問19-1 問19で利用する施設等を選択する際に、重視する点はどのようなことですか。
(あてはまるすべてに○)

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1 自宅の近くにある | 2 子どもが将来通う小学校区にある |
| 3 職場の近くにある | 4 バス等の送迎サービスがある |
| 5 駐車場がある | 6 きょうだいが通っている |
| 7 保育時間が希望どおりである | 8 施設・設備が充実している |
| 9 安全・危機管理が徹底されている | 10 教育・保育の内容がよい |
| 11 給食を提供している | 12 行事が充実している |
| 13 地域の評判がよい | 14 費用負担が少ない |
| 15 園長・スタッフの対応や印象がよい | 16 英語や体操等、特色ある教育プログラムの提供がある |
| 17 夜間や休日保育、延長保育に対応している | |
| 18 その他 (具体的に: _____) | |

問19-2 問19で今後利用(継続)したい施設等はどの学区にありますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|----------------------------|
| 1 お住まいの学区内 | 2 お住まいの学区外で市内 (学区名: _____) |
| 3 市外 | 4 わからない |

問19で「2 幼稚園」「3 幼稚園の預かり保育」を含む複数の施設・事業を回答した方に

問20 幼稚園 (幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む) の利用希望の度合をお答えください。(○は1つ)

- | |
|-------------------------|
| 1 幼稚園の利用を強く希望する |
| 2 幼稚園の利用を希望するが、強い希望ではない |
| 3 わからない |



あて名のお子さんの土曜や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について

問21 お子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、教育・保育施設等 (幼稚園、保育園等) を定期的に利用する希望はありますか。(それぞれ○は1つ)

土曜日	日曜日・祝日
1 利用する必要はない	1 利用する必要はない
2 ほぼ毎週利用したい	2 ほぼ毎週利用したい
3 月に1~2回は利用したい	3 月に1~2回は利用したい

問21で「3 月に1~2回は利用したい」と回答した方に
問21-1 毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。(あてはまるすべてに○)

- | |
|----------------------------|
| 1 月に数回仕事が入るため |
| 2 平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため |
| 3 親族の介護や手伝いが必要なため |
| 4 私用 (買物、習い事等)、リフレッシュ目的のため |
| 5 その他 (具体的に: _____) |

問19で「2 幼稚園」と回答した方に

問22 お子さんの夏休み・冬休み等、長期の休暇期間中に施設や事業の利用を希望しますか。また、利用を希望する場合は、利用したい時間帯を記入してください。
(○は1つ、() 内に数字を記入) ※24 時間制で記入してください。

- | |
|--------------------|
| 1 利用する必要はない |
| 2 休みの期間中、ほぼ毎日利用したい |
| 3 休みの期間中、週に数日利用したい |
- } () 時から () 時まで

問22で「3 休みの期間中、週に数日利用したい」と回答した方に

問22-1 毎日ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。(あてはまるすべてに○)

- | |
|----------------------------|
| 1 月に数回仕事が入るため |
| 2 平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため |
| 3 親族の介護や手伝いが必要なため |
| 4 私用 (買物、習い事等)、リフレッシュ目的のため |
| 5 その他 (具体的に: _____) |

あて名のお子さんの病気の対応について (平日に幼稚園、保育園等を定期的に利用している方のみ)

問18で「1 利用している」と回答した方に

問23 この1年間に、お子さんが病気やけがで、ふだん利用している施設等について通常の利用ができなかったことはありますか。(〇は1つ)

※新型コロナウイルス感染症の影響による休園等は除きます。

1 あった 2 なかった ⇒ 問24(次ページ)へ

問23で「1 あった」と回答した方に

問23-1 お子さんが病気やけがでふだん利用している施設等が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法はどれですか。また、年間の対処日数についてもお答えください。
(あてはまるすべてに〇、()内に数字を記入)

対処方法	年間の利用日数
1 就労している保護者が休んで子どもをみた	年 () 日
2 就労していない保護者が子どもをみた	年 () 日
3 親戚(同居者を含む)・知人に子どもをみてもらった	年 () 日
4 病児保育を利用した	年 () 日
5 ベビーシッターを利用した	年 () 日
6 ファミリーサポートセンターを利用した	年 () 日
7 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	年 () 日
8 その他(具体的に: _____)	年 () 日

問23-1で「1 就労している保護者が休んで子どもをみた」と回答した方に

問23-2 病児保育を利用することについてどう思いますか。また、利用を希望する場合、利用希望日数をお答えください。(〇は1つ、()内に数字を記入)

1 であれば利用したい ⇒ 年間の利用希望日数 年 () 日
2 利用したいとは思わない

問23-2で「2 利用したいとは思わない」と回答した方に

問23-3 そう思われる理由についてお答えください。(あてはまるすべてに〇)

- 1 病気の子どもの他人に看てもらうのは不安だから 2 保育の質に不安があるから
3 利便性(立地や利用可能時間・日数等)がよくないから 4 利用料がかかる・高いから
5 保護者が仕事を休んで対応するから 6 子どもが嫌がるから
7 その他(具体的に: _____)

あて名のお子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

問24 お子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業とその年間の利用日数をお答えください。

(あてはまるすべてに〇、()内に数字を記入)

事業名	年間の利用日数
1 一時預かり	年 () 日
2 幼稚園の預かり保育	年 () 日
3 ファミリーサポートセンター	年 () 日
4 トワイライトステイ	年 () 日
5 ベビーシッター	年 () 日
6 その他(具体的に: _____)	年 () 日
7 利用していない	

事業の内容

【一時預かり】

家庭で保育する乳幼児を対象に、不定期な家庭の事情やリフレッシュ目的で、保育所等で一時的に預かる事業。

【幼稚園の預かり保育】

幼稚園の幼稚園児を対象に、子育てや就労している家庭を支えるために時間を延長して一時的に預かる事業。

【トワイライトステイ】

10歳未満の子どもの対象とした、夜間に一時的に家庭での養育が困難になった時に、施設等で子どもを預かる事業。

【ファミリーサポートセンター】

子どもの預かりや送迎の援助を受けたい人で行いたい人が会員となり、育児の相互援助を行う会員組織。

問25 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、お子さんを預かる事業を利用したいですか。
(〇は1つ)

1 利用したい

2 利用する必要はない ⇒ 問26(次ページ)へ

問25で「1 利用したい」と回答した方に

問25-1 利用する目的と希望する年間の利用日数をお答えください。
(あてはまるすべてに〇、()内に数字を記入)

利用目的	年間の利用日数
1 私用(買物、習い事等)、リフレッシュ目的	年 () 日
2 冠婚葬祭、子どもや親の通院	年 () 日
3 不定期の就労	年 () 日
4 その他(具体的に: _____)	年 () 日

問26 お子さんについて、保護者の事情（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、短期入所生活援助事業（ショートステイ）を利用する必要があると思いますか。（○は1つ）

1 ある 2 ない ⇒ 問27へ

事業の内容

【ショートステイ】

18歳未満の子どもの対象に、一時的に家庭での養育が困難になった時に、施設等で子どもを預かる事業。宿泊も可能。

問26で「1 ある」と回答した方に

問26-1 ショートステイの利用目的と希望する年間の利用日数（泊数）をお答えください。
（あてはまるすべてに○、（ ）内に数字を記入）

利用する目的	年間の利用日数（泊数）
1 冠婚葬祭	年（ ）泊
2 保護者や家族の育児疲れ・不安	年（ ）泊
3 保護者や家族の病気	年（ ）泊
4 その他（具体的に：_____）	年（ ）泊

あて名のお子さんが3歳以上（令和5年4月1日時点）の方に
就学後の放課後等の預かり事業の利用について

3歳未満の方は問31（14ページ）へ

問27 将来、お子さんの就学について、不安なことはありますか。（あてはまるすべてに○）

- 1 起床・就寝時間 2 勉強
3 給食（偏食、小食、アレルギー等） 4 授業に集中していただけるか
5 学校のきまりを守れるか 6 集団への適応
7 子どもと先生との関係 8 友だちとの関係
9 登下校の安全 10 学校の防犯・防災対策
11 放課後の居場所の確保 12 長期休暇中の過ごし方
13 保護者の就労・働き方の調整

14 その他（具体的に：_____）
15 特になし



問28 お子さんが小学校に入学期以降、放課後（平日の授業終了後）の預かり事業を利用する見込みはありますか。（○は1つ）

1 利用する見込みがある 2 利用する見込みはない ⇒ 問29へ

問28で「1 利用する見込みがある」と回答した方に

問28-1 利用を希望する事業と希望する日数と期間についてお答えください。
（あてはまるすべてに○、（ ）内に数字を記入）

利用したい事業	利用希望日数・期間
1 放課後児童クラブ（学童保育）	⇒週（ ）日程度 小学校（ ）年生まで利用したい
2 ファミリーサポートセンター	⇒週（ ）日程度 小学校（ ）年生まで利用したい
3 その他（事業名：_____）	⇒週（ ）日程度 小学校（ ）年生まで利用したい

事業の内容

【放課後児童クラブ】

【ファミリーサポートセンター】
小学生を対象に、保護者が就労等で昼間家庭にいない場合、子どもを預け、放課後に適切な遊びと生活の場を提供する施設。会員となり、育児の相互援助を行う会員組織。

問29 土曜日と日曜日・祝日、長期休暇中に放課後児童クラブの利用が必要ですか。また、必要な場合は希望する期間と利用時間帯をお答えください。
（それぞれ○は1つずつ、（ ）内に数字を記入）

①土曜日	1 必要 ⇒ 利用時間帯：（午前・午後・1日） 利用期間：小学校（ ）年生まで利用したい	2 不要
②日曜日・祝日	1 必要 ⇒ 利用時間帯：（午前・午後・1日） 利用期間：小学校（ ）年生まで利用したい	2 不要
③夏休み等長期休暇中	1 必要 ⇒ 利用時間帯：（午前・午後・1日） 利用期間：小学校（ ）年生まで利用したい	2 不要

問30 保護者の就労の有無にかかわらず、放課後等にすべての子ども（小学生）が参加できる子どもの居場所（放課後子ども教室）があれば利用したいと思いますか。（1つに○）

- 1 利用したいと思う
2 プログラムの内容次第では利用したいと思う
3 利用したいと思わない

事業の内容

【放課後子ども教室】

小学生を対象に、保護者の就労の有無にかかわらず、放課後や休日に小学校の施設を活用し、学習や体験活動を通じて、児童の安心・安全な居場所を提供する事業。※大津市では現在実施していません。

育児休業や職場の両立支援制度について

問31～問32-3については、ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。

問31 現在、お子さんと一緒に過ごす時間は1日平均（平日）どのくらいですか。
また、その時間は十分だと思いますか。（それぞれ（ ）内に数字を記入、○は1つずつ）

（1）子どもと一緒に過ごす時間（就寝時を除く）

①母親	②父親
1日平均（ ）時間くらい	1日平均（ ）時間くらい

（2）子どもと一緒に過ごす時間の充足度

①母親	②父親
1 十分だと思う 2 まあまあ十分だと思う 3 あまり十分だと思わない 4 不十分だと思う 5 わからない	1 十分だと思う 2 まあまあ十分だと思う 3 あまり十分だと思わない 4 不十分だと思う 5 わからない

問32 お子さんの出生時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。
（それぞれ○は1つずつ）

①母親	②父親
1 現在、育児休業中である または、今後取得予定である 2 取得後、職場に復帰した 3 育児休業中に離職した 4 当時、働いていなかった 5 取得していない または、取得する予定がない	1 現在、育児休業中である または、今後取得予定である 2 取得後、職場に復帰した 3 育児休業中に離職した 4 当時、働いていなかった 5 取得していない または、取得する予定がない

問32で「1 現在、育児休業中である または、今後取得予定である」と回答した方に
→問32-1 職場復帰の希望時期に必ずお子さんを預けることができれば、職場復帰を希望される時期はいつですか。（それぞれ（ ）内に数字を記入）

①母親	②父親
職場復帰希望時期 令和（ ）年（ ）月 あて名のお子さんが （ ）歳（ ）か月ごろ	職場復帰希望時期 令和（ ）年（ ）月 あて名のお子さんが （ ）歳（ ）か月ごろ

問32で「2 取得後、職場に復帰した」と回答した方に

問32-2 育児休業の実際の取得期間と希望の取得期間についてお答えください。

（それぞれ（ ）内に数字を記入）

①母親	②父親
実際に取得した期間 （ ）歳（ ）か月まで 希望として取得したかった期間 （ ）歳（ ）か月まで	実際に取得した期間 （ ）歳（ ）か月まで 希望として取得したかった期間 （ ）歳（ ）か月まで

問32-2で「実際に取得した期間」と「希望として取得したかった期間」が異なる回答をした方に

問32-3 その理由は何か。（それぞれあてはまるすべてに○）

①母親	②父親
1 希望する保育園に子どもを入れるため 2 家族の希望によるもの 3 経済的な理由によるもの 4 人事異動等、職場の事情に合わせたため 5 自分や子どもの体調が思わしくなかったから 6 希望する保育園に入れなかったため 7 その他 （具体的に： ）	1 希望する保育園に子どもを入れるため 2 家族の希望によるもの 3 経済的な理由によるもの 4 人事異動等、職場の事情に合わせたため 5 自分や子どもの体調が思わしくなかったから 6 希望する保育園に入れなかったため 7 その他 （具体的に： ）

問33 働く保護者が仕事と子育てを両立するために、あなたが企業に期待することは何ですか。
（あてはまるすべてに○）

- 1 子どもが病気やけがの時に、休暇が取りやすい職場環境をつくる
- 2 育児休業中の経済的な支援を行う
- 3 育児休業制度が取得しやすい職場環境・雰囲気づくりを行う
- 4 育児休業制度をさらに充実させる
- 5 フレックスタイム制、自宅での就労等、多様な働き方を認める
- 6 若い世代が正規職員等、安定した職に就けるようにする
- 7 事業所内に保育施設等をつくるなど仕事と子育ての両立を支援する
- 8 完全週休二日制の定着や労働時間の短縮を行う
- 9 出産・子育て期には柔軟に対応できる就業時間の運用を行う
- 10 出産や育児による退職後の再雇用制度、再就職支援を充実させる
- 11 昇進や昇給等での男女平等を推進し進める
- 12 その他（具体的に： ）

地域における子育て支援について

問34 あなたの家族の近所づきあいは、どの程度ですか。(○は1つ)

- 1 暮らしの面でさまざまな助け合いをしている
- 2 困りごとや悩みごとを相談し合っている
- 3 一緒に外出したりするが、助け合ったり
- 4 家の前や公園等で世間話をするが、暮らしの困りごとを相談したりする間柄ではない
- 5 あいさつをする程度
- 6 まったくつきあっていない
- 7 その他 (具体的に: _____)

問35 あなたは、地域の子どもたちに関わる活動や保護者同士の交流に参加していますか。(それぞれ○は1つずつ)

	積極的にしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない
① 子ども会活動、保護者会 (PTA 等) 活動に参加する	1	2	3	4
② 地域の子どもたちのスポーツ・文化活動等に参加する	1	2	3	4
③ 地域の祭りやイベントに親子で参加する	1	2	3	4
④ 子育てサークルや悩み相談グループ等の活動に参加する	1	2	3	4
⑤ 地域で子どもを持つ保護者同士で情報交換する	1	2	3	4
⑥ 上記以外の活動 (具体的に: _____)	1	2	3	4

問36 お子さんは、現在、子育て総合支援センターゆめっこ、つどいの広場、児童館といった地域子育て支援拠点施設を利用していますか。(あてはまるすべてに○、() 内に数字を記入)

- 1 子育て総合支援センター ゆめっこ
⇒ 1ヶ月あたり () 回程度
- 2 つどいの広場
⇒ 1ヶ月あたり () 回程度
- 3 大津市立児童館
⇒ 1ヶ月あたり () 回程度
- 4 利用していない

【地域子育て支援拠点】
子育て中の親子が気軽に、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場。

問37 問36のような地域子育て支援拠点について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。(○は1つ、() 内に数字を記入)

- 1 利用していないが、今後利用したい
- 2 すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい
- 3 新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない

子どもを持つことについて

問38 あなたが子どもを持つ理由は何ですか。(あてはまるすべてに○)

- 1 結婚して子どもを持つことは自然なことだから
- 2 子どもを持つことで周囲から認められるから
- 3 子どもがいと生活が楽しく心が豊かになれるから
- 4 子どもは老後を支えてくれるから
- 5 子どもは将来の社会を支えてくれるから
- 6 子どもは夫婦関係を安定させるから
- 7 好きな人の子どもを持ちたいから
- 8 パートナーや親など周囲が望むから
- 9 その他 (具体的に: _____)

問39 あなたの①理想とする子どもの人数と②予定している子どもの人数はそれぞれ何人ですか。(それぞれ○は1つずつ)

①理想とする人数	1 1人	2 2人	3 3人
	4 4人	5 5人以上	
②予定している人数	1 1人	2 2人	3 3人
	4 4人	5 5人以上	

問39 で理想とする人数より予定している人数が少ない方に

問39-1 あなたが理想とする子どもの人数と予定している人数とを近づけるために必要だと思う施策は何ですか。(あてはまるすべてに○)

- 1 子育てや教育の経済的支援の充実
- 2 子育て世帯の住宅取得やリフォームに対する助成
- 3 企業が従業員の育児休業や時短勤務の取得を促進するための整備を推進する取組
- 4 保育サービスの提供体制の確保
- 5 子どもの安全、安心を確保する生活環境の整備
- 6 子育ての心理的負担を軽減するための相談支援の充実
- 7 子育てに優しい社会環境づくり
- 8 妊娠・出産に関する健康相談の充実
- 9 配偶者 (パートナー) の家事・育児への積極的な関わりを促す機運の醸成
- 10 その他 (具体的に: _____)

大津市子ども・若者支援施策について

問40 あなたは、大津市が取り組む次の子ども・若者支援に関する施策について、「満足度」、「重要度」をどれくらい感じていますか。（それぞれ〇は1つずつ）

	満足度					重要度				
	満足	まあ満足	どちらでもない	やや不満	不満	わからない	重要	まあ重要	どちらでもない	あまり重要でない
① 妊娠・出産・子育てに関する相談窓口等の体制	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
② 就労支援としての保育園等の保育サービス環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
③ 幼児教育としての幼稚園の利用のしやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
④ 子どもの安心・安全を確保するための活動や環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑤ 子どもが参加しやすい多様な体験機会	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑥ 地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑦ 地域で子育てを支える社会環境づくり	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑧ 障害のある子ども・若者への支援	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑨ いじめや引きこもりなどの困難を抱える子ども・若者への支援	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑩ 貧困等の困難な状況にある子どもの学習や生活支援	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑪ 児童虐待を防止するための対策や啓発	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4



大津市が取り組む子ども・若者支援や子育て支援について、詳しく知りたい方は二次元コードから「大津市子ども・若者支援計画」をご覧ください！



最後に、教育・保育環境の充実や子育てのサポート等、大津市子ども・子育て支援施策に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

アンケートは以上です。
同封の返信用封筒に入れ、12月15日（金）までにご投函ください。

いただきましてご意見をもとに、
今後も「みんながつながり、ともに育ち合うまち 大津」の実現のため、
努力してまいります。
ご協力ありがとうございました。



次期大津市子ども・若者支援計画策定のためのアンケート調査
(小学生児童保護者様用)

＊ ＊ ＊ 調査へのご協力をお願い ＊ ＊ ＊

日頃より、本市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
大津市では、市民のみなさまのご理解とご協力を得ながら、子育て支援の充実を図るための
具体的な計画である「大津市子ども・若者支援計画」に基づき、さまざまな施策を進めていま
す。

今回のアンケート調査は、現在子育て中のみなさまの子育て支援サービスの利用状況や希望、
ご意見等をおうかがいし、今後の子育て支援施策を進める上での参考資料とすることを目的に
行います。

ご回答いただいた内容は、調査目的以外に利用することは一切ありません。調査の趣旨をご
理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和5年11月

大津市長 佐藤 健司

＊ ＊ ＊ アンケートの回答にあたって ＊ ＊ ＊

- この調査は、インターネットでの回答（回答にかかる通信費はご自
身の負担になります）も可能です。
下記のURLもしくは右の二次元コードからアクセスしていただ
き、アンケートフォームに直接回答を入力してください。
<URL> <https://src.webeas.net/form/pub/src2/252018s>
- このアンケートの所要時間は20～30分程度です。
- このアンケート内において、「あなた」はご回答いただく方のことです。
また「お子さん」は封筒のあて名のお子さんのことです。
- ご回答は、回答欄のあてはまる番号を○で囲んでください。
ご回答が「その他」の場合は、番号に○をつけ、()内に具体的にご記入ください。
- をつける数は、設問ごとに示してありますので、○をつける数にご注意ください。
(例：「○は1つ」、「あてはまるすべてに○」など)

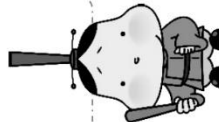
ご記入いただいた調査票は、**令和5年12月15日（金）**までに、
同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずにご返送ください。

インターネットで回答いただいた場合は、調査票のご返送は不要です。

＊ ＊ ＊ 調査についてのお問い合わせ ＊ ＊ ＊

大津市役所福祉部子ども未来局子ども・若者政策課

TEL：077-528-2917 E-mail：otsu1488@city.otsu.lg.jp



あて名のお子さんご家族のことについて

問1 お住まいの学区（小学校区）はどこですか。（○は1つ）

1 小松	2 木戸	3 和通	4 小野	5 葛川
6 伊香立	7 真野	8 真野北	9 堅田	10 仰木
11 仰木の里	12 仰木の里東	13 雄琴	14 日吉台	15 坂本
16 下阪本	17 唐崎	18 滋賀	19 山中比叡平	20 藤尾
21 長等	22 逢坂	23 中央	24 平野	25 膳所
26 富士見	27 晴嵐	28 石山	29 南郷	30 大石
31 田上	32 上田上	33 青山	34 瀬田	35 瀬田南
36 瀬田東	37 瀬田北	38 わからない（町名： ）		

問2 お子さんの学年、きょうだいのことについてお答えください。
(それぞれ () 内に数字を記入)

①きょうだいの人数 ※あて名のお子さんを記入人数	() 人
②あて名のお子さんの学年	小学校 () 年生
③あて名のお子さん以外の、 きょうだいの生年月 ※（令和5年4月1日時点で同居してい る、年齢の低い順から、最大5名まで）	1 人目：平成・令和 () 年 () 月生まれ 2 人目：平成・令和 () 年 () 月生まれ 3 人目：平成・令和 () 年 () 月生まれ 4 人目：平成・令和 () 年 () 月生まれ 5 人目：平成・令和 () 年 () 月生まれ

問3 ご回答いただく方は、お子さんからみてどなたですか。（○は1つ）

1 母親	2 父親	3 その他（縁組等： ）
------	------	--------------

問4 ご回答いただく方の年齢をお答えください。（令和5年4月1日現在）（○は1つ）

1 20歳未満	2 20～24歳	3 25～29歳
4 30～34歳	5 35～39歳	6 40～44歳
7 45～49歳	8 50歳以上	

問5 ご回答いただく方の配偶関係についてお答えください。（○は1つ）

1 配偶者（パートナー）がいる	2 配偶者（パートナー）はいない
-----------------	------------------

問6 ご回答いただく方の世帯構成は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- 1 二世代(親、子) 2 三世代(祖父母、親、子)
3 その他(具体的に: _____)

問7 お子さんの保護者の就労状況(自営業、家族従事者含む)について、現在の状況と1年後の希望(実現見込みがある)をお答えください。(それぞれ○は1つずつ)

※産前産後休暇、育児休業、介護休業等に入られている方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

※ひとり親家庭の方は、該当する部分のみをお答えください。

(1) 母親

	現在の状況	1年後の希望
1	フルタイム【週5日・1日8時間程度】	1 フルタイム【週5日・1日8時間程度】
2	パート・アルバイト【月64時間以上】	2 パート・アルバイト【月64時間以上】
3	パート・アルバイト【月64時間未満】	3 パート・アルバイト【月64時間未満】
4	専業主婦	4 専業主婦

(2) 父親

	現在の状況	1年後の希望
1	フルタイム【週5日・1日8時間程度】	1 フルタイム【週5日・1日8時間程度】
2	パート・アルバイト【月64時間以上】	2 パート・アルバイト【月64時間以上】
3	パート・アルバイト【月64時間未満】	3 パート・アルバイト【月64時間未満】
4	専業主夫	4 専業主夫

問8 直近(令和4年)のあなたの世帯で働いている方全員のおよその年間総収入はいくらですか。
(○は1つ)

※税金等を天引きされる前の金額で、年金や児童手当などの社会保険給付は除きます。

- 1 収入はなかった 2 300万円未満
3 300万円以上500万円未満 4 500万円以上700万円未満
5 700万円以上900万円未満 6 900万円以上
7 わからない

問9 あなたの世帯の現在の経済的な暮らし向きについて、どう感じていますか。(○は1つ)

- 1 大変苦しい 2 やや苦しい
3 普通 4 ややゆとりがある
5 大変ゆとりがある

あて名のお子さんのふだんの様子について

問10 お子さんのふだん(平日)の食事や睡眠の時間についてお答えください。

(それぞれ()内に数字を記入)

※24時間制で、30分単位で記入してください。

①お子さんは朝、何時ごろに起きますか	(:) ごろ
1 食べる ⇒ (:) ごろ	
2 食べないことが多い	
②お子さんは朝食を何時ごろに食べますか	
1 食べる ⇒ (:) ごろ	
2 食べないことが多い	
③お子さんは夕食を何時ごろに食べますか	
1 食べる ⇒ (:) ごろ	
2 食べないことが多い	
④お子さんは夜、何時ごろに寝ますか	(:) ごろ

問11 お子さんのふだんの生活習慣で気になっていることはありますか。(あてはまるすべてに○)

- 1 目覚めや寝つきが悪い
2 昼間眠そうにしている
3 好き嫌いが多い
4 偏食で栄養バランスが気になる
5 体を動かす機会が少ない
6 長時間テレビを見たりインターネット・ゲーム等をしている
7 歯磨きをしない日がある
8 その他(具体的に: _____)
9 気になることは特にない

問12 お子さんは、現在、習い事等をしてしていますか。(あてはまるすべてに○)

- 1 学習塾・進学塾 2 通信教育
3 水泳・体操等のスポーツの習い事 4 英会話・そろばん等の勉強の習い事
5 音楽・習字等の芸術の習い事 6 プログラミング等のIT系の習い事
7 その他(具体的に: _____)
8 習い事はしていない

問13 お子さんが放課後や休日に好きでよくしている遊びは何ですか。(それぞれ○は1つずつ)

	好きでよく している	よく している	たまに している	あまり していない
① 公園や広場で友達やきょうだいで外遊びをする	1	2	3	4
② 友だちの家や自宅やきょうだいで室内遊びをする	1	2	3	4
③ 一人で自宅周辺や公園等で外遊びをする	1	2	3	4
④ 一人で読書やゲーム等の室内遊びをする	1	2	3	4

問14 お子さんは、過去1年間に学校以外でどのような体験をしましたか。
(あてはまるすべてに○)

- 1 キャンプ・登山・海水浴・ウインタースポーツなどの自然体験
- 2 農業体験や職業体験・ボランティアなどの社会体験
- 3 動物園・水族館・博物館・美術館に行く
- 4 スポーツの観戦や体験をする
- 5 宿泊で旅行に行く
- 6 地域の行事・お祭り・イベントに参加する
- 7 その他 (具体的に: _____)
- 8 上記のような体験はしていない

子育てに対する考え方や悩みなどについて

問15 あなたは、特にどのようなことを大切にしてお子さんを育てていますか。
(あてはまる3つまでに○)

- 1 基本的な生活習慣を身につけること
- 2 身体を丈夫にすること
- 3 他者への思いやりを持つこと
- 4 社会的ルールや規範意識を守ること
- 5 自分の気持ちを表現し伝えること
- 6 家族で過ごす時間や会話をもつこと
- 7 本物にふれ、体験する機会をもつこと
- 8 興味や関心を広げること
- 9 子ども同士で一緒に遊ぶこと
- 10 勉強に関すること
- 11 その他 (具体的に: _____)
- 12 特にない

問16 あなた自身は日頃、子育てをどのように感じていますか。(それぞれ○は1つずつ)

	いつも 感じる	ときどき 感じる	あまり 感じない	まったく 感じない
① 子どもと過ごす楽しさや幸福感	1	2	3	4
② 子どもの成長や接し方の不安感	1	2	3	4
③ 体力的な負担感	1	2	3	4
④ 精神的な負担感	1	2	3	4
⑤ 経済的な負担感	1	2	3	4

問17 あなたが日常的に困っていることはどんなことですか。(あてはまるすべてに○)

- 1 生活費
- 2 子どもの教育費
- 3 子どもの健康
- 4 子どもの友だち関係
- 5 子どもの障害・発達
- 6 家族・親戚の関係
- 7 仕事が見つからないこと
- 8 仕事が好きくないこと
- 9 あなたの人間関係
- 10 あなたの健康
- 11 近所づきあい
- 12 家が狭いこと
- 13 頼れる人がいないこと
- 14 時間のゆとりがないこと
- 15 その他 (具体的に: _____)
- 16 特にない

問18 お子さんの就学後の生活で、お子さん自身や保護者の通学・対応が難しかったこと、不安だったことはありますか。(あてはまるすべてに○)

- 1 起床・就寝時間
- 2 勉強
- 3 給食 (朝食、小食、アレルギー等)
- 4 授業に集中していただけるか
- 5 学校のきまりを守れるか
- 6 集団への適応
- 7 子どもと先生との関係
- 8 友だちとの関係
- 9 登下校の安全
- 10 学校の防犯・防災対策
- 11 放課後の居場所の確保
- 12 長期休暇中の過ごし方
- 13 保護者の就労・働き方の調整
- 14 その他 (具体的に: _____)
- 15 特にない

問19 子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所はありますか。(○は1つ)

1 いる／ある

2 いない／ない

問19で「1 いる／ある」と回答した方に
問19-1 相談先をお答えください。
(あてはまるすべてに○)

問19で「2 いない／ない」と回答した方に
問19-2 相談先がない(相談しない)のはなぜですか。(あてはまるすべてに○)

- 1 配偶者(パートナー)
- 2 自分または配偶者(パートナー)の両親、兄弟姉妹
- 3 友人や知人
- 4 インターネット、SNS上の友人や知人
- 5 地域のすこやか相談所
- 6 学校の先生
- 7 放課後児童クラブの職員
- 8 地域の民生委員児童委員
- 9 かかりつけの医師
- 10 自治体の子ども・子育て関連担当窓口
- 11 その他(具体的に: _____)

- 1 人づきあいが苦手だから
- 2 外に出るのが好きではないから
- 3 他人に子どものことをあれこれ言われたくないから
- 4 誰に相談していいのかわからないから
- 5 自分または配偶者(パートナー)の両親、兄弟姉妹とあまりつきあいがいいから
- 6 その他(具体的に: _____)

問20 あなたは、子育てで不安や悩みを感じたときに、どのような相談先があればよい、または、よかったと思いますか。(あてはまるすべてに○)

- 1 身近で気軽に相談できる施設
- 2 子育て中の保護者同士で気軽に話せる場
- 3 匿名で相談できる専用電話
- 4 匿名で相談できるメールやLINE相談
- 5 子育て経験者による子育て相談
- 6 専門的な相談ができる相談窓口
- 7 家庭に訪問して行う相談
- 8 その他(具体的に: _____)
- 9 特に必要ない

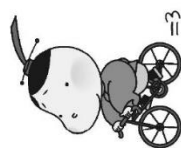
子どもの意見を尊重することについて

問21 家庭や学校において、お子さんの考えや思っていることを表す機会が確保されていると思いますか。(○は1つ)

- 1 思う
- 2 思わない
- 3 わからない

問22 大津市が取り組む子ども・子育て施策について、子どもが意見を表明しやすくなるために有効だと思うことは何ですか。(あてはまるすべてに○)

- 1 意見を伝えられる場所や方法が複数用意されていること
(例: 対面形式で行われる意見交換会や子どもの意見箱の設置等)
- 2 事業や施策について子どもたちが興味・関心を持つ機会を市が提供すること
- 3 子どもの意見を身近な大人が代弁すること
- 4 子どもの意見が事業や施策にどのように反映されるのかわかるようにすること
- 5 自分の顔や名前を明かさずに意見表明ができること
- 6 伝えた内容が公開されないこと
- 7 友だちや保護者など、子どもが信頼できる人がそばにいること
- 8 その他(具体的に: _____)
- 9 有効だと思うことはない



あて名のお子さんの放課後等の預かり事業の利用について

問23 放課後（平日の授業終了後）に、預かり事業を利用していますか。（○は1つ）

- 1 利用している 2 利用していない

問23で「1 利用している」と回答した方に

問23-1 どのようなサービスを利用していますか。また、利用日数をお答えください。

（あてはまるすべてに○、（ ）内に数字を記入）

- 1 放課後児童クラブ（学童保育） ⇒ 週（ ）日くらい
2 ファミリーサポートセンター ⇒ 週（ ）日くらい
3 その他（事業名： ） ⇒ 週（ ）日くらい

事業の内容

【放課後児童クラブ】 【ファミリーサポートセンター】

小学生を対象に、保護者が就労等で昼間家庭にいない場合 子どもの預かりや送迎の援助を受けたい人で行くたい人などが、放課後に適切な遊びと生活の場を提供する施設。 会員となり、育児の相互援助を行う会員組織。

問23で「1 利用している」と回答した方に

問23-2 放課後児童クラブやファミリーサポートセンターを利用している理由は何ですか。

（あてはまるすべてに○）

- 1 就労している 2 妊娠中または出産して間がない
3 病気や障害がある 4 同居の家族・親戚を常時介護している
5 学生である 6 その他（具体的に： ）

問24 今後、放課後に、預かりサービスを利用（継続）したいと思いますか。（○は1つ）

- 1 利用したい 2 利用する必要はない ⇒ 問25(次ページ)へ

問24で「1 利用したい」と回答した方に

問24-1 利用を希望する事業と希望する日数と期間についてお答えください。

（あてはまるすべてに○、（ ）内に数字を記入）

利用したい事業	利用希望日数・期間
1 放課後児童クラブ（学童保育）	⇒ 週（ ）日程度 小学校（ ）年生まで利用したい
2 ファミリーサポートセンター	⇒ 週（ ）日程度 小学校（ ）年生まで利用したい
3 その他（事業名： ）	⇒ 週（ ）日程度 小学校（ ）年生まで利用したい

⇒ 問24-2(次ページ)へ

問24で「1 利用したい」と回答した方に

問24-2 放課後児童クラブを利用したい理由は何ですか。（○は1つ）

- 1 就労している 2 そのうち就労したいと考えている
3 家族・親戚等を介護しなければならぬ 4 病気や障害がある
5 学生である／就学したい
6 その他（具体的に： ）

問25 土曜日と日曜日・祝日、長期休暇中に放課後児童クラブの利用が必要ですか。

また、必要な場合は希望する期間と利用時間帯をお答えください。

（それぞれ○は1つずつ、（ ）内に数字を記入）

①土曜日	1 必要 ⇒ 利用時間帯：（午前・午後・1日） 2 不要 利用期間：小学校（ ）年生まで利用したい
②日曜日・祝日	1 必要 ⇒ 利用時間帯：（午前・午後・1日） 2 不要 利用期間：小学校（ ）年生まで利用したい
③夏休み等長期休暇中	1 必要 ⇒ 利用時間帯：（午前・午後・1日） 2 不要 利用期間：小学校（ ）年生まで利用したい

問26 放課後児童クラブに求めることは何ですか。（あてはまるすべてに○）

- 1 延長保育の実施
2 土曜日・長期休暇中の昼食の提供
3 安心・安全に放課後を過ごせる環境
4 快適に放課後を過ごせる環境
5 その他（具体的に： ）

問27 保護者の就労の有無にかかわらず、放課後等にすべての子ども（小学生）が参加できる子どもの居場所（放課後子ども教室）があれば利用したいと思いますか。（○は1つ）

- 1 利用したいと思う
2 プログラムの内容次第では利用したいと思う
3 利用したいと思わない

事業の内容

【放課後子ども教室】

小学生を対象に、保護者の就労の有無に関わらず、放課後や休日に小学校の施設を活用し、学習や体験活動を通じて、児童の安心・安全な居場所を提供する事業。※大津市では現在実施していません。

問28 この1年間に、お子さんが病氣やけがで登校できなかったことはありますか。(○は1つ)
※新型コロナウイルス感染症の影響による休校は除きます。

1 あった 2 なかった ⇒ 問29(次ページ)へ

問28で「1 あった」と回答した方に
問28-1 お子さんが病氣やけがでふだん利用している施設等が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法はどれですか。(あてはまるすべてに○)
また、年間の対処日数についてもお答えください。(() 内に数字を記入)

対処方法	年間の利用日数
1 就労している保護者が休んで子どもをみた	年 () 日
2 就労していない保護者が子どもをみた	年 () 日
3 親戚(同居者を含む)・知人に子どもをみてもらった	年 () 日
4 病児保育を利用した	年 () 日
5 ベビーシッターを利用した	年 () 日
6 ファミリーサポートセンターを利用した	年 () 日
7 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	年 () 日
8 その他(具体的に: _____)	年 () 日

問28-1で「1 就労している保護者が休んで子どもをみた」と回答した方に
問28-2 病児保育を利用することについてどう思いますか。(○は1つ)
また、利用を希望する場合、利用希望日数をお答えください。(() 内に数字を記入)

1 であれば利用したい ⇒ 年間の利用希望日数 年 () 日
2 利用したいとは思わない

問28-2で「2 利用したいとは思わない」と回答した方に
問28-3 そう思われる理由についてお答えください。(あてはまるすべてに○)

1 病氣の子どもを他人に看てもらうのは不安だから 2 保育の質に不安があるから
3 利便性(立地や利用可能時間・日数等)がよくないから 4 利用料がかかる・高いから
5 保護者が仕事を休んで対応するから 6 子どもが嫌がるから
7 その他(具体的に: _____)

子どもと過ごす時間や職場の両立支援制度について

問29 現在、おさんと一緒に過ごす時間は1日平均(平日)どのくらいですか。
また、その時間は十分だと思いますか。(それぞれ○は1つずつ)
※ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。

(1) 子どもと一緒に過ごす時間(就寝時を除く)

①母親	②父親
1日平均 () 時間くらい	1日平均 () 時間くらい

(2) 子どもと一緒に過ごす時間の充足度

①母親	②父親
1 十分だと思う	1 十分だと思う
2 まあまあ十分だと思う	2 まあまあ十分だと思う
3 あまり十分だと思わない	3 あまり十分だと思わない
4 不十分だと思う	4 不十分だと思う
5 わからない	5 わからない

問30 働く保護者が仕事と子育てを両立するために、あなたが企業に期待することは何ですか。
(あてはまるすべてに○)

1 子どもが病氣やけがの時に、休暇が取りやすい職場環境をつくる
2 育児休業中の経済的な支援を行う
3 育児休業制度が取得しやすい職場環境・雰囲気づくりを行う
4 育児休業制度をさらに充実させる
5 フレックスタイム制、自宅での就労等、多様な働き方を認める
6 若い世代が正規職員等、安定した職に就けるようにする
7 事業所内に保育施設等をつくるなど仕事と子育ての両立を支援する
8 完全週休二日制の定着や労働時間の短縮を行う
9 出産・子育て期には柔軟に対応できる就業時間の運用を行う
10 出産や育児による退職後の再雇用制度、再就職支援を充実させる
11 昇進や昇給等での男女平等を推し進める
12 その他(具体的に: _____)



地域との関わりについて

問31 あなたの家族の近所づきあいは、どの程度ですか。(○は1つ)

- 1 暮らしの面でさまざまな助け合いをしている
- 2 困りごとや悩みごとを相談合っている
- 3 一緒に外出したりするが、助け合ったり困りごとを相談したりする間隔ではない
- 4 家の前や公園等で世間話をするが、暮らしの中に入り込んだつきあいはない
- 5 あいさつをする程度
- 6 その他 (具体的に：_____)
- 7 まったくつきあっていない

問32 あなたは、地域の子どもたちに関わる活動や保護者同士の交流に参加していますか。(それぞれ○は1つずつ)

	積極的に している	ときどき している	あまり していない	まったく していない
① 子ども会活動、保護者会 (PTA 等) 活動に参加する	1	2	3	4
② 地域の子どもたちのスポーツ・文化活動等に参加する	1	2	3	4
③ 地域の祭りやイベントに親子で参加する	1	2	3	4
④ 子育てサークルや悩み相談グループ等の活動に参加する	1	2	3	4
⑤ 地域で子どもを持つ保護者同士で情報交換する	1	2	3	4
⑥ 上記以外の活動 (具体的に：_____)	1	2	3	4

子どもを持つことについて

問33 あなたが子どもを持つ理由は何ですか。(あてはまるすべてに○)

- 1 結婚して子どもを持つことは自然なことだから
- 2 子どもを持つことで周囲から認められるから
- 3 子どもがいて生活が楽しく心が豊かになれるから
- 4 子どもは老後を支えてくれるから
- 5 子どもは将来の社会を支えてくれるから
- 6 子どもは夫婦関係を安定させるから
- 7 好きな人の子どもを持ちたいから
- 8 パートナーや親など周囲が望むから
- 9 その他 (具体的に：_____)

問34 あなたの①理想とする子どもの人数と②予定している子どもの人数はそれぞれ何人ですか。(それぞれ○は1つずつ)

①理想とする人数	1 1人	2 2人	3 3人
	4 4人	5 5人以上	
②予定している人数	1 1人	2 2人	3 3人
	4 4人	5 5人以上	

問34で理想とする人数より予定している人数が少ない方に

問34-1 あなたが理想とする子どもの人数と予定している人数とを近づけるために必要だと思う施策は何ですか。(あてはまるすべてに○)

- 1 子育てや教育の経済的支援の充実
- 2 子育て世帯の住宅取得やリフォームに対する助成
- 3 企業が従業員の育児休業や時短勤務の取得を促進するための整備を推進する取組
- 4 保育サービスの提供体制の確保
- 5 子どもの安全、安心を確保する生活環境の整備
- 6 子育ての心理的負担を軽減するための相談支援の充実
- 7 子育てに優しい社会環境づくり
- 8 妊娠・出産に関する健康相談の充実
- 9 配偶者 (パートナー) の家事・育児への積極的な関わりを促す機運の醸成
- 10 その他 (具体的に：_____)

大津市の子ども・若者支援施策について

問35 あなたは、大津市が取り組む次の子ども・若者支援に関する施策について、「満足度」・「重要度」をどれくらい感じていますか。(それぞれ○は1つずつ)

	満足度					重要度				
	満足	まあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	わからない	重要	まあ重要	どちらともいえない	あまり重要でない
① 妊娠・出産・子育てに関する相談窓口等の体制	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
② 就労支援としての保育園等の保育サービス環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
③ 幼児教育としての幼稚園の利用のしやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
④ 子どもの安心・安全を確保するための活動や環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑤ 子どもが参加しやすい多様な体験機会	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑥ 地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑦ 地域で子育てを支える社会環境づくり	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑧ 障害のある子ども・若者への支援	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑨ いじめや引きこもりなどの困難を抱える子ども・若者への支援	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑩ 貧困等の困難な状況にある子どもの学習や生活支援	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
⑪ 児童虐待を防止するための対策や啓発	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4

大津市が取り組む子ども・若者支援や子育て支援について、詳しく知りたい方は二次元コードから「大津市子ども・若者支援計画」をご覧ください！



最後に、教育・保育環境の充実や子育てのサポート等、大津市の子ども・子育て支援施策に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

アンケートは以上です。
同封の返信用封筒に入れ、12月15日（金）までにご投函ください。

いただきましてご意見をもとに、
今後も「みんながつながり、ともに育ち合うまち 大津」の実現のため、
努力してまいります。
ご協力ありがとうございました。



(3) 若者用調査

若者用調査票

あなたやご家族のことについて

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ) *あなたの自認する性をご回答ください。

1 男性 2 女性 3 その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)

問2 あなたの年齢をお答えください。(令和5年4月1日現在)(○は1つ)

1 15～19歳 2 20～24歳 3 25～29歳
4 30～34歳 5 35～39歳

問3 お住まいの学区(小学校区)はどこですか。(○は1つ)

1 小松	2 木戸	3 和邇	4 小野	5 葛川
6 伊香立	7 真野	8 真野北	9 堅田	10 仰木
11 仰木の里	12 仰木の里東	13 雄琴	14 日吉台	15 坂本
16 下坂本	17 唐崎	18 滋賀	19 山中比叡平	20 藤尾
21 長等	22 達坂	23 中央	24 平野	25 膳所
26 富士見	27 晴嵐	28 石山	29 南郷	30 大石
31 田上	32 上田上	33 青山	34 瀬田	35 瀬田南
36 瀬田東	37 瀬田北	38 わからない(町名:)		

問4 現在、あなたと同居している方を教えてください。(あてはまるすべてに○)

1 父親 2 母親
3 配偶者・パートナー(事実婚を含む) 4 ご自身の子ども(未就学児)
5 ご自身の子ども(小学生) 6 ご自身の子ども(中学生以上)
7 祖父母 8 きょうだい
9 その他の同居者(具体的に:)
10 同居している人はいない(1人暮らし)

1

若者用調査票

次期大津市子ども・若者支援計画策定のためのアンケート調査

* * * 調査へのご協力をお願い * * *

日頃より、本市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
大津市では、市民のみならず、市民の健康や福祉の向上、子ども・若者の健全育成や社会的自立を支援するための具体的な計画である「大津市子ども・若者支援計画」に基づき、さまざまな施策を進めています。

今回のアンケート調査は、市内の若者が日頃、どのような生活を営み、どのような意識をもっているかを把握することで、今後の子ども・若者支援施策を進める上での参考資料とすることを目的に行います。

ご回答いただいた内容は、調査目的以外に利用することは一切ありません。調査の趣旨を理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和5年11月

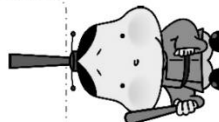
大津市長 佐藤 健司

* * * アンケートの回答にあたって * * *

- この調査は、インターネットでの回答(回答にかかる通信費はご自身の負担になります)も可能です。
下記のURLもしくは右の二次元コードからアクセスしていただき、アンケートフォームに直接回答を入力してください。
<URL> <https://src.webeas.net/form/pub/src2/252018w>
- このアンケートの所要時間は20～30分程度です。
- この調査には、封筒宛名のご本人さまがご回答ください。
- ご回答は、回答欄のあてはまる番号を○で囲んでください。
ご回答が「その他」の場合は、番号に○をつけ、()内に具体的に記入してください。
- をつける数は、設問ごとに示す○の数に○をつける数にご注意ください。
「○は1つ」「あてはまるすべてに○」などの○をつける数にご注意ください。

ご記入いただいた調査票は、**令和5年12月15日(金)**までに、同封の封筒に入れて、切手を貼らずにご返送ください。

インターネットで回答いただいた場合は、調査票のご返送は不要です。



* * * 調査についてのお問い合わせ * * *

大津市役所福祉部子ども未来局子ども・若者政策課
TEL: 077-528-2917 E-mail: otsu1488@city.otsu.lg.jp

あなたのふだんの生活について

問5 あなたの平均的な就寝時間と起床時間を教えてください。(○は1つ)

※時間は24時間制で記入ください。

- 1 おおむね規則的 ⇒ 就寝 (:) 頃 起床 (:) 頃
2 不規則

問6 あなたの生活習慣について教えてください。(あてはまるすべてに○)

- <睡眠について>
1 よく眠れる 2 寝つきが悪い
3 睡眠が浅い
- <食事について>
4 三食規則的に食べることが多い 5 不規則だが食べたい時に食べる
6 朝食は抜くことが多い 7 好き嫌いは多い方である
8 外食が多い 9 お菓子だけで食事を済ませることがよくある
- <運動について>
10 よく運動している 11 とくどき運動する
12 階段を使ったり、近いところなら歩く 13 あまり運動はしない
- <自宅でよくしていること>
14 テレビをみる 15 スマホ等でSNSや動画等をみる
16 ラジオを聴く 17 本を読む
18 新聞を読む 19 ゲームをする
20 インターネットをしている 21 仕事をしている
22 家事・育児をしている 23 勉強をしている
24 介護をしている
25 その他 (具体的に:)

問7 あなたは普段、悩み事を誰に相談しますか。(あてはまるすべてに○)

- 1 親 2 きょうだい
3 友人・知人 4 配偶者・パートナー
5 祖父母 6 学校の先生
7 職場の同僚・上司 8 カウンセラー・精神科医
9 県・市などの専門機関の人 10 地域・近所の人
11 インターネット上の知り合い
12 その他 (具体的に:)
13 相談したいが、相談先がわからない 14 誰にも相談しない

問8 あなたは、普段どのくらい外出しますか。(○は1つ)

- 1 仕事や学校で平日は毎日外出する
2 仕事や学校で週に3～4日外出する
3 遊び等で頻繁に外出する
4 人づきあいのためにときどき外出する
- 5 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
6 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
7 自室からは出るが、家からは出ない
8 自室からほとんど出ない

▶問8で「5」～「8」のいずれかに回答した方に

問8-1 外出状況が現在の状態となつて、どのくらい続きますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| 1 6か月未満 | 2 6か月～1年未満 | 3 1年～3年未満 |
| 4 3年～5年未満 | 5 5年～7年未満 | 6 7年～9年未満 |
| 7 9年～15年未満 | 8 15年以上 | |

▶問8で「5」～「8」のいずれかに回答した方に

問8-2 そのような外出状況になつたきっかけは何ですか。(あてはまるすべてに○)

- 1 在宅勤務等、就労形態が変わった 2 専業主婦・主夫になった
3 妊娠した 4 乳幼児の子育てをしている
5 病気 (病名:) 6 学校になじめなかった
7 人間関係がうまくいかなかった 8 不登校 (小学校・中学校・高校)
9 受験に失敗した (高校・大学) 10 就職活動がうまくいかなかった
11 職場になじめなかった
12 その他 (具体的に:)

あなたのこれまでの経験や考え方について

問9 あなたが小学生や中学生の頃に、よくしていたことは何ですか。
(①～⑤について、○はそれぞれ1つずつ)

	好きでよくしていた	よくしていた	たまにしていた	あまりしていません
① 友人と話したり遊んだりする	1	2	3	4
② 親やきょうだいで話したり遊んだりする	1	2	3	4
③ 一人で遊ぶ	1	2	3	4
④ 塾へ行く、勉強をする	1	2	3	4
⑤ スポーツや音楽等の習い事へ行く	1	2	3	4

問10 あなたが小学生や中学生の頃に、次のようなことを経験したことがありますか。
(あてはまるすべてに○)

- 1 親とは何でもよく話した
- 2 親に相談することが多かった
- 3 親からよくほめられた
- 4 親はしつこく厳しかった
- 5 親は過保護、過干渉だった
- 6 親は学校の成績を重視していた
- 7 親との関係はよくなかった
- 8 両親の両方とも関係がよかった
- 9 両親が離婚した
- 10 親と死別した
- 11 引っ越しや転校など大きく環境が変わった
- 12 大きな怪我や病気をした
- 13 我慢することが多かった
- 14 あてはまるものはない



問11 あなたが小学生や中学生の頃に、地域で次のようなことを経験したことがありますか。
(あてはまるすべてに○)

- 1 子ども会などの活動に参加した
- 2 地域の祭りやイベントに参加した
- 3 近所に遊んだり、相談できる友人がいた
- 4 近所に話したり、相談できる大人がいた
- 5 近所のひとあそびついでに話したりした
- 6 あてはまるものはない

問12 あなた自身について、次のことがらはどのくらいあてはまりますか。
(①～④について、○はそれぞれ1つずつ)

	あてはまる	あてはまるくらい	あてはまるくらい	あてはまらない
① 自分に自信がある	1	2	3	4
② いろいろなことに積極的に挑戦することができる	1	2	3	4
③ 家や自室に閉じこもって外に出ない人たちの気持ちがわかる	1	2	3	4
④ 自分のことが好き	1	2	3	4
⑤ 大事なことを自分ひとりで決めるのは苦手だ	1	2	3	4
⑥ 家や自室に閉じこもりたいと思うことがある	1	2	3	4
⑦ 将来の夢を叶えたいと思っている	1	2	3	4
⑧ 人とのつきあひ方がうまくいなくて悩むことがある	1	2	3	4
⑨ 自分の感情を表に出すのが苦手だ	1	2	3	4
⑩ 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる	1	2	3	4
⑪ 周りの人ともめごとが起ったとき、どうやって解決したらいいかわからない	1	2	3	4
⑫ 自分に親の関心が向くことをうれしく思う	1	2	3	4
⑬ 自分の生活のことで人から干渉されたくない	1	2	3	4
⑭ 理由があるなら家や自室に閉じこもるのは仕方がないと思う	1	2	3	4

就労について

問13 あなたは現在、働いていますか。(○は1つ)

- 1 働いている (正社員) ⇒ 問14(次ページ)へ
- 2 働いている (契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト (学生のアルバイトは除く))
- 3 自営業
- 4 自由業
- 5 学生 ⇒ あてはまるものに○ (高校生 / 大学・専門学校生等) ⇒ 問14(次ページ)へ
- 6 その他 (具体的に: _____) ⇒ 問14(次ページ)へ
- 7 専業主婦・主夫又は家事手伝い
- 8 派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない ⇒ 問13-4・問13-5(次ページ)へ
- 9 無職

問13-1 あなたは現在の雇用形態についてどう考えていますか。

(あてはまるすべてに○)

- 1 立場が不安定
- 2 収入が少ない
- 3 スキルアップが困難
- 4 金融機関等の信用を受けにくい
- 5 周りからの評価や視線が厳しい
- 6 時間的に負担が大きい
- 7 その他 (具体的に: _____)
- 8 このままでよい ⇒ 「1」～「7」を回答した方は問14(次ページ)へ

- 1 自分の能力を活かせる仕事に就きたい
- 2 社会に役立つ仕事に就きたい
- 3 収入のよい仕事に就きたい
- 4 安定している企業で仕事をしたい
- 5 自分のやりたい仕事をしたい
- 6 就労できれば、労働条件や企業・職場にはこだわらない
- 7 スキルや知識の面で就職することが難しいと思う
- 8 職場に適応できると思えない
- 9 就職したいと思わない
- 10 わからない ⇒ 問14(次ページ)へ

問13-1で「8」と回答した方に

問13-2 あなたが、現在の雇用形態のままでよいと考える理由は何か。(あてはまるすべてに○)

- 1 時間の融通がきくから
- 2 好きな仕事ができるから
- 3 仕事以外にやりたいことがあるから
- 4 あまり責任を感じずに済むから
- 5 定職にしたいと思う仕事がないから
- 6 今のままでも十分に収入があるから
- 7 主に家事や育児をしているから
- 8 その他 (具体的に: _____) ⇒ 問14(次ページ)へ

問13で「7」～「9」のいずれかに回答した方に

問13-4 あなたが働いていない理由は何ですか。(あてはまるすべてに○)

- 1 病気で
- 2 子育て
- 3 介護
- 4 配偶者・パートナーの転勤等の影響
- 5 働く必要がない
- 6 働きたいが仕事が見つからない
- 7 働く自信がない
- 8 やりたい仕事がない、わからない
- 9 その他 (具体的に: _____)

問13-5 どのような状況になれば働こうと思いますか。(あてはまるすべてに○)

- 1 家族やまわりの人たちの支援・理解
- 2 技能・スキルが習得できる機会
- 3 リモートで働けるなら
- 4 育児・介護が両立できる職場
- 5 生活していくことができなくなったら
- 6 自分のやりがい・やりたい仕事が見つかったら
- 7 その他 (具体的に: _____)
- 8 わからない

あなたの家族や周囲との関わりについて

問14 あなたにとって家庭はどのような意味をもっていますか。(あてはまるすべてに○)

- 1 家族だんらんの場合
- 2 子どもを生き、育てる場
- 3 子どもをしつける場
- 4 親の世話をする場
- 5 夫婦の愛情をはぐくむ場
- 6 休息・やすらぎの場
- 7 親子がともに成長する場
- 8 家族の絆を強める場
- 9 その他 (具体的に: _____)
- 10 わからない

問15 あなたは、親友と呼べる友人がいますか。(○は1つ)

- 1 いる ⇒ 何人いますか () 人
2 いない ⇒ 問16へ

→問15で「1 いる」と回答した方に

問15-1 その人はどのような人ですか。(あてはまるすべてに○)

- 1 学生のときに知り合った友人
2 職場で知り合った友人
3 趣味など、学校や職場以外で知り合った友人
4 幼なじみ
5 インターネット上で知り合った友人
6 その他(具体的に:)

問16 あなたの近所の人との関わりを教えてください。(○は1つ)

- 1 暮らしの面で助け合う人がある
2 困り事や悩み事を相談し合っている
3 いざという時には助け合える関係だと思う
4 子どものことで地域と関わることが多い
5 あいさつをする程度
6 その他(具体的に:)
7 地域的な関わりは、あまり持たたくない

問17 あなたは現在、地域活動(自治会活動、ボランティア活動等)に参加をしていますか。(○は1つ)

- 1 現在活動に参加している
2 過去に活動に参加したことがあるが、現在は活動に参加していない
3 興味はあるが、活動に参加したことはない
4 活動に参加することがない

問18 あなたは今後、地域活動(自治会活動、ボランティア活動等)に参加したいと思いますか。(○は1つ)

- 1 参加したい
2 参加したくない

若者の意見反映・社会参画について

問19 あなたは、ふだん国や大津市の制度や政策について、どのように情報を得ていますか。(あてはまるすべてに○)

- 1 テレビ(インターネットテレビを含む)
2 新聞(オンライン版を含む)
3 ラジオ
4 本、雑誌
5 ニュースサイト、ニュースアプリ
6 5以外のウェブサイトやアプリ
7 国や自治体からのメールマガジンやダイレクトメール
8 国や自治体以外のメールマガジンやダイレクトメール
9 国や自治体からの広報紙
10 国や自治体以外の広報紙
11 LINE
12 X(旧 Twitter)
13 Facebook
14 Instagram
15 YouTube
16 学校や職場で知る
17 家族や知り合い等から聞く
18 その他(具体的に:)
19 情報は得ていない

問20 あなたは、国や大津市に対して自分の意見を伝えたいと思いますか。(○は1つ)

- 1 そう思う
2 ややそう思う
3 あまりそう思わない
4 そう思わない ⇒ 問20-2へ
5 わからない ⇒ 問21へ

→問20で「1」または「2」と回答した方に

問20-1 国や大津市に対して自分の意見を伝えたいと思うのはどうですか。(あてはまるすべてに○)

- 1 伝えたい、聴いてほしいことがあるから
2 重要または貴重な意見だから
3 意見を伝えることが好きだから
4 意見を伝えることに慣れている／得意だから
5 伝えなければ相手が分からないと思うから
6 困っている人があるから
7 意見を伝えれば反映されると思うから
8 伝えることで利益が得られると思うから
9 その他(具体的に:)

問 20 で「3 あまりそう思わない」または「4 そう思わない」と回答した方に
 問 20-2 国や大津市に対して自分の意見を伝えたいと思わないのはどうですか。
 (あてはまるすべてに○)

- 1 国や自治体が何をしているのか分からないから
- 2 どのように意見を伝えれば良いか分からないから
- 3 国や自治体に意見を伝えようと嫌目に見えちゃうから
- 4 自分の意見に自信がないから
- 5 意見を伝えるのは恥ずかしいから
- 6 意見を伝えるのは面倒だから
- 7 国や自治体に意見を伝えるほどの余裕がないから
- 8 意見をどう扱われるのか分からないから
- 9 国や自治体に意見を伝えても変わらないと思うから
- 10 その他 (具体的に: _____)
- 11 伝えたい意見はないから

問 21 国や大津市に対して、どのような方法であれば意見が伝えやすいと思いますか。
 (あてはまるすべてに○)

- 1 意見を伝えられる場が用意されている
- 2 事業や施策について事前に学ぶ機会がある
- 3 他の人の意見も知ることができる
- 4 伝えたい意見がどのように反映されるのかわかる
- 5 自分の顔や名前を明かさずに参加できる
- 6 伝えたい内容が公開されない
- 7 友人などと一緒に参加して考えることができる
- 8 その他 (具体的に: _____)
- 9 伝えたい意見はない

→問 21 で「1」と回答した方に
 問 21-1 意見を伝えられる場はどのような形がいいですか。(あてはまるすべてに○)

- 1 意見交換会のような参加できる会
- 2 オンライン上での場
- 3 テーマに関する意見募集
- 4 その他 (具体的に: _____)



あなたの困難に直面した経験と支援について

問 22 あなたはこれまでに困難に直面したことはありますか。または現在困難に直面していますか。
 (○は1つ)

- 1 これまでにあった (現在ある)
 - 2 どちらかといえばあった (どちらかといえばある)
 - 3 どちらかといえばなかった (どちらかといえは少ない)
 - 4 なかった (ない)
 - 5 わからない
- ⇒ 問 23(次ページ)へ
 ⇒ 問 23(次ページ)へ
 ⇒ 問 23(次ページ)へ

→問 22 で「1」または「2」と回答した方に

問 22-1 その困難とはどんなことですか。(あてはまるすべてに○)

- 1 不登校
- 2 ひきこもり
- 3 生活困窮
- 4 虐待
- 5 いじめ
- 6 友人との関係
- 7 家族との関係
- 8 家族の介護等の理由で学校へ行けない、好きなことができない
- 9 その他 (具体的に: _____)

問 22-2 その困難があったのはいつ頃のことですか。(あてはまる年代に○)

- 1 小・中学校の頃
- 2 高校、大学、専門学校等の頃
- 3 10代 (学生ではない)
- 4 20代 (学生ではない)
- 5 30代 (学生ではない)

問 22-3 その困難は今の生活に影響していると思いますか。(○は1つ)

- 1 思う
- 2 思わない
- 3 わからない
- 4 困難は今も続いている

問 22-4 困難を乗り越えた方は、どういうことが役に立ちましたか。また、困難がまだ続いている方は、どのような支援があればよいと思われますか。(あてはまるすべてに○)

- 1 家族や友人・知人への相談
- 2 市役所や民間機関の相談窓口での支援
- 3 金銭的な支援制度
- 4 同じような境遇の人同士で交流できる場所
- 5 困難とは関係のない仲間、居場所での時間
- 6 家に来てもらっての相談
- 7 必要なことが勉強できる、訓練できる場所
- 8 住むところを探す支援
- 9 仕事に就くための支援
- 10 市役所への申請の同行
- 11 相談機関や病院などへの同行
- 12 その他 (具体的に: _____)

すべての方にお聞きします。

問23 相談窓口や支援の情報はみなさんに届いていると思いますか。(○は1つ)

- 1 思う 2 思わない 3 わからない

子どもを持つことについて

問24 あなたの現在の婚姻状況をお答えください。なお、「配偶者」には、事実婚の状態にある方を含みます。(○は1つ)

- 1 未婚 2 配偶者がいる
3 配偶者と死別している 4 配偶者と離別（離婚）している

問25 あなたには、子どもがいますか。(同居・別居は問いません) (○は1つ)

- 1 いる ⇒ 問25-2へ
2 いない ⇒ 問25-1へ

→問25で「2 いない」と回答した方に

問25-1 将来、子どもを持ちたいと思いますか。(○は1つ)

- 1 思う ⇒ 問25-2へ
2 思わない 3 わからない ⇒ 問25-5(次ページ)へ

→問25で「1 いる」または、問25-1で「1 思う」と回答した方に

問25-2 あなたが子どもを持つ、または持ちたいと思う理由は何ですか。
(あてはまるすべてに○)

- 1 結婚して子どもを持つことは自然なことだから
2 子どもを持つことで周囲から認められるから
3 子どもがいると生活が楽しく心が豊かになれるから
4 子どもは老後を支えてくれるから
5 子どもは将来の社会を支えてくれるから
6 子どもは夫婦関係を安定させるから
7 好きな人の子どもの持ちたいから
8 パートナーや親など周囲が望むから
9 その他(具体的に：_____)

問25-3 あなたの①理想とする子どもの人数と②予定している子どもの人数はそれぞれ何人ですか。(①、②それぞれ1つに○) ※独身で予定している人数がわからない方は①理想とする人数のみ○

①理想とする人数	1 1人	2 2人	3 3人
	4 4人	5 5人以上	
②予定している人数	1 0人(子どもを持ちたいが、持てない)	2 1人	3 2人
	4 4人	5 5人以上	6 6人以上

問25-3で理想としている人数より予定している人数が少ない方に

問25-4 あなたが理想とする子どもの人数と予定している子どもの人数とを近づけるために必要だと思う施策は何ですか(あてはまるすべてに○)

- 1 子育てや教育の経済的支援の充実
2 子育て世帯の住宅取得やリフォームに対する助成
3 企業が従業員の育児休暇や時短勤務の取得を促進するための整備を推進する取組
4 保育サービスの提供体制の確保
5 子どもの安全、安心を確保する生活環境の整備
6 子育ての心理的負担を軽減するための相談支援の充実
7 子育てに優しい社会環境づくり
8 妊娠・出産に関する健康相談の充実
9 配偶者(パートナー)の家事・育児への積極的な関わりを促す機運の醸成
10 その他(具体的に：_____)

問25-1で「2」または「3」と回答した方に

問25-5 どういう状況になれば子どもを持ちたいと思いますか。(あてはまるすべてに○)

- 1 子どもを育てる自信がつけば
2 子どもを育てる経済力があれば
3 子育てにかかる教育費が安くなれば
4 社会の情勢が子育てに向いたものになれば
5 育児休業などの制度が十分にあれば
6 その他(具体的に：_____)
7 子どもを持つつもりはない

大津市の子ども・若者支援施策について

問26 あなたは、大津市が取り組む次の子ども・若者支援に関する施策について、「満足度」「重要度」をどれくらい感じていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	満足度				重要度			
	満足	まあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	わからない	重要	まあ重要
① 妊娠・出産・子育てに関する相談窓口等の体制	1	2	3	4	5	6	1	2
② 就労支援としての保育園等の保育サービス環境	1	2	3	4	5	6	1	2
③ 幼児教育としての幼稚園の利用のしやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2
④ 子どもの安心・安全を確保するための活動や環境	1	2	3	4	5	6	1	2
⑤ 子どもが参加しやすい多様な体験機会	1	2	3	4	5	6	1	2
⑥ 地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり	1	2	3	4	5	6	1	2
⑦ 地域で子育てを支える社会環境づくり	1	2	3	4	5	6	1	2
⑧ 障害のある子ども・若者への支援	1	2	3	4	5	6	1	2
⑨ いじめや引きこもりなどの困難を抱える子ども・若者への支援	1	2	3	4	5	6	1	2
⑩ 貧困等の困難な状況にある子どもの学習や生活支援	1	2	3	4	5	6	1	2
⑪ 児童虐待を防止するための対策や啓発	1	2	3	4	5	6	1	2



大津市が取り組む子ども・若者支援や子育て支援について、詳しく知りたい方は二次元コードから「大津市子ども・若者支援計画」をご覧ください！



問27 大津市が取り組む子ども・若者の施策の中で、特にどのような事業を望みますか。(あてはまる3つまでに○)

- 1 青少年や若者が参加できるイベント等の開催
- 2 青少年や若者が意見を発言できるイベント等の開催
- 3 青少年や若者が自主的に実施するイベント等の支援
- 4 青少年活動のリーダーとなる人の養成
- 5 経済的な困難を抱えている家庭の支援
- 6 いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口の充実
- 7 放課後などに気軽に活動できる安全な居場所の提供
- 8 多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育の充実
- 9 薬物などから子どもたちを守り、非行や犯罪防止につとめる
- 10 インターネットの適正な利用について学ぶ機会の充実
- 11 就職支援の充実
- 12 地域活動や体験活動などの社会参加を通じた青少年育成のまちづくり
- 13 性の悩み相談など思春期の子どもへの支援
- 14 その他（具体的に：_____）
- 15 特になし

最後に、大津市の子ども・若者支援施策に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

アンケートは以上です。同封の返信用封筒に入れ、12月15日（金）までにご投函ください。

「みんながつながり、ともに育ち合うまち大津」の実現のため、
努力してまいります。ご協力ありがとうございます。



2. 用語集

用 語		解 説
あ行	育児休業	原則1歳未満のこどもを養育するための休業で、育児・介護休業法に定められている。
	一時預かり	家庭で保育する乳幼児を対象に、不定期な家庭の事情やリフレッシュ目的で、保育所等で一時的に預かる事業。
	延長保育	通常の保育時間を延長して行う保育。
か行	完全週休二日制	年間を通して毎週必ず2回休みがあること。土日に限らず、曜日が固定されていない場合も完全週休2日制に該当する。
	企業主導型保育施設	企業が従業員向けに事業所内や周辺施設に設置する保育施設。従業員の子ども以外も地域枠で受け入れている。
	子ども会	子どもが仲間と過ごし健全に育つことを目的とした地域の組織。
さ行	ショートステイ	18歳未満の子どもを対象に、一時的に家庭での養育が困難になった時に、施設等で子どもを預かる事業。宿泊も可能。
た行	地域型保育施設	0～2歳児対象の少人数の保育施設。定員が5名までの家庭的保育施設、19名までの小規模保育施設がある。
	地域子育て支援拠点	子育て中の親子が気軽につどい、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場。
	トワイライトステイ	18歳未満の子どもを対象とした、夜間に一時的に家庭での養育が困難になった時に、施設等で子どもを預かる事業。
な行	認可外保育施設	乳幼児を保育することを目的とした施設であり、保育所や幼稚園、認定こども園の認可を受けていない施設。
	認可保育所	0歳～小学校就学前の子どもを対象に、保護者が就労等の理由で家庭保育ができない場合に保育を行う施設。
	認定こども園	保育所と幼稚園の機能を併せ持つ施設。
は行	病児保育	病気になった子どもを保護者の代わりに一時的に預かって、看護師や保育士が保育や看護を行うこと。
	ファミリーサポートセンター	子どもの預かりや送迎の援助を受けたい人で行いたい人が会員となり、育児の相互援助を行う会員組織。
	フレックスタイム制	労働者が日々の始業・終業時刻、労働時間を自ら決めることによって、生活と業務との調和を図りながら効率的に働くことができる制度。
	ベビーシッター	保護者がさまざまな事情で子どもを保育できない際に、保護者の代わりになって子どもを預かり、面倒を見てくれるサービス。
	放課後子ども教室	小学生を対象に、保護者の就労の有無に関わらず、放課後や休日に小学校の施設を活用し、学習や体験活動を通じて、児童の安心・安全な居場所を提供する事業。※大津市では現在実施していない。
	放課後児童クラブ	小学生を対象に、保護者が就労等で昼間家庭にいない場合などに、放課後に適切な遊びと生活の場を提供する施設。
や行	幼稚園	満3歳～小学校就学前までの子どもを対象とした、遊びや学習を通じて発達を支援する教育施設。
	幼稚園の預かり保育	幼稚園の在園児を対象に、子育てや就労している家庭を支援するために時間を延長して一時的に預かる事業。

用 語		解 説
A-Z	Facebook	無料で利用できるSNSの一つ。世界最大の実名登録制SNSで、友人やグループとのコミュニケーションができるサービス。
	Instagram	無料で利用できるSNSの一つで、写真や動画の投稿に特化している。
	SNS	「Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）」の略称で、登録した利用者同士が交流できるオンラインの会員制サービスのこと。
	X（旧 Twitter）	無料で利用できるSNSの一つ。文字や写真を投稿、それに対して閲覧やコメント、いいねなどのやり取りをしてコミュニケーションがとれる。
	YouTube	Google が運営している動画配信サービスで、無料で視聴することができる。

次期大津市子ども・若者支援計画策定のためのアンケート調査
結果報告書

（令和6年3月）

大津市福祉部子ども未来局子ども・若者政策課

〒520-8575 大津市御陵町3番1号

Tel 077-528-2917

Fax 077-528-2792

Mail otsul488@city.otsu.lg.jp

